

岐阜県文化財保護センター

調査報告書 第162集

岐阜県古代・中世寺院跡総合調査報告書
第4分冊
(東濃圏域)

2023

岐阜県文化財保護センター

ぎ ふ けん こ だい ちゅう せい じ いん あと そう ごう ちょう さ ほう こく しょ
岐阜県古代・中世寺院跡総合調査報告書

第 4 分 冊
(東濃圏域)

2023

岐阜県文化財保護センター

第 4 分 冊 目 次

第5章 東濃圏域の寺院

第1節 東濃圏域の概要	1
第2節 寺院一覧表	3
第3節 寺院地形観察図、遺構図	25
参考文献	
第4節 寺院分布図	89
第5節 東濃圏域のまとめ	148

挿図目次

図 1 東濃圏城市区域図	1	地形観察図 (2)	66
図 2 虎渓山永保寺（永保寺寺院跡） 地形観察図（1）	27	図 26 明覚山大円寺（大円寺跡） 地形観察図（3）	67
図 3 虎渓山永保寺（永保寺寺院跡） 地形観察図（2）	28	図 27 大船寺旧境内（大船寺跡）地形観察図	69
図 4 虎渓山永保寺（永保寺寺院跡） 地形観察図（3）	29	図 28 松王寺（寺屋敷跡）地形観察図	71
図 5 宗泉寺旧境内 地形観察図	31	図 29 白雲寺遺跡 地形観察図	73
図 6 智源山広恵寺 地形観察図	33	図 30 規定寺遺跡 堂宇跡及び参道	75
図 7 龍溪寺跡 地形観察図	35	図 31 手向魔寺跡 遺跡位置図	77
図 8 金耀山金巖寺龍王院 地形観察図	37	図 33 手向魔寺跡 発掘区全体図	77
図 9 大山遺跡 地形観察図	39	図 34 遺跡と武並神社の位置関係	79
図 10 増福寺旧境内 地形観察図（1）	41	図 35 武並神社神供寺 土壘・礎石建物、基壇	79
図 11 増福寺旧境内 地形観察図（2）	42	図 36 正家魔寺跡	81
図 12 増福寺旧境内 地形観察図（3）	43	図 37 光雲山崇禪寺 地形観察図	83
図 13 佛日山明白寺 地形観察図	45	図 38 分布図（I9 宮地）	90・91
図 14 巍谷山清来寺 地形観察図	47	図 39 分布図（I10 滝越）	92・93
図 15 瑞櫻山法妙寺（桜堂遺跡、帷山遺跡、 桜堂薬師遺跡）地形観察図	49	図 40 分布図（J9 小和知）	94・95
図 16 伝 心宗寺跡 地形観察図	51	図 41 分布図（J10 加子母）	96・97
図 17 伝 桜堂薬師奥之院 地形観察図	53	図 42 分布図（J11 奥三界岳）	98・99
図 18 小里新城跡 地形観察図	55	図 43 分布図（K10 付知）	100・101
図 19 東光院旧境内 地形観察図	57	図 44 分布図（K11 三留野）	102・103
図 20 飯高山萬勝寺（満昌寺跡） 地形観察図（1）	59	図 45 分布図（L9 切井）	104・105
図 21 飯高山萬勝寺（満昌寺跡） 地形観察図（2）	60	図 46 分布図（L10 美濃福岡）	106・107
図 22 飯高山萬勝寺（満昌寺跡） 地形観察図（3）	61	図 47 分布図（L11 妻籠）	108・109
図 23 医王山林昌寺（瑠璃光寺跡） 地形観察図	63	図 48 分布図（L12 元岳）	110・111
図 24 明覚山大円寺（大円寺跡） 地形観察図（1）	65	図 49 分布図（M8 御嵩）	112・113
図 25 明覚山大円寺（大円寺跡）		図 50 分布図（M9 武並）	114・115
		図 51 分布図（M10 恵那）	116・117
		図 52 分布図（M11 中津川）	118・119
		図 53 分布図（M12 伊那駒場）	120・121
		図 54 分布図（N7 小泉）	122・123
		図 55 分布図（N8 土岐）	124・125
		図 56 分布図（N9 瑞浪）	126・127
		図 57 分布図（N10 岩村）	128・129

図 58	分布図 (N11 美濃焼山)	130・131	図 67	東濃圏域地形断面図 (1)	157
図 59	分布図 (N12 滝合)	132・133	図 68	東濃圏域地形断面図 (2)	158
図 60	分布図 (07 高藏寺)	134・135	図 69	東濃圏域の主な古代寺院分布図	159
図 61	分布図 (08 多治見)	136・137	図 70	東濃圏域の中世建立寺院分布図	160
図 62	分布図 (09 猿爪)	138・139	図 71	東濃圏域の主な中世寺院分布図	161
図 63	分布図 (010 明智)	140・141	図 72	東濃圏域 地形観察図模式図 (1)	162
図 64	分布図 (011 横道)	142・143	図 73	東濃圏域 地形観察図模式図 (2)	163
図 65	分布図 (P8 猿投山)	144・145	図 74	東濃圏域 地形観察図模式図 (3)	164
図 66	分布図 (P10 川ヶ瀬)	146・147			

表目次

表 1	多治見市寺院一覧表 (1)	4	表 17	瑞浪市参考寺院一覧表 (3)	15
表 2	多治見市寺院一覧表 (2)	5	表 18	恵那市寺院一覧表 (1)	15
表 3	多治見市参考寺院一覧表 (1)	5	表 19	恵那市寺院一覧表 (2)	16
表 4	多治見市参考寺院一覧表 (2)	6	表 20	恵那市寺院一覧表 (3)	17
表 5	中津川市寺院一覧表 (1)	6	表 21	恵那市寺院一覧表 (4)	18
表 6	中津川市寺院一覧表 (2)	7	表 22	恵那市寺院一覧表 (5)	19
表 7	中津川市寺院一覧表 (3)	8	表 23	恵那市参考寺院一覧表 (1)	20
表 8	中津川市寺院一覧表 (4)	9	表 24	恵那市参考寺院一覧表 (2)	21
表 9	中津川市参考寺院一覧表 (1)	9	表 25	恵那市参考寺院一覧表 (3)	22
表 10	中津川市参考寺院一覧表 (2)	10	表 26	土岐市寺院一覧表 (1)	22
表 11	中津川市参考寺院一覧表 (3)	11	表 27	土岐市寺院一覧表 (2)	23
表 12	瑞浪市寺院一覧表 (1)	11	表 28	土岐市参考寺院一覧表 (1)	23
表 13	瑞浪市寺院一覧表 (2)	12	表 29	土岐市参考寺院一覧表 (2)	24
表 14	瑞浪市寺院一覧表 (3)	13	表 30	寺院の成立状況	156
表 15	瑞浪市参考寺院一覧表 (1)	13	表 31	時期別の成立数等	156
表 16	瑞浪市参考寺院一覧表 (2)	14	表 32	時期別の立地数	157

第5章 東濃圏域の寺院

第1節 東濃圏域の概要

東濃圏域は岐阜県の南東部、美濃地方の東部に位置し長野県・愛知県に接する。東濃圏域は多治見市・中津川市・瑞浪市・恵那市・土岐市の5市で構成される。その面積は1,562.82 km²であり、これは岐阜県全体の14.71%を占める。

東濃圏域には、標高1,000m以下の低山性の美濃高原が展開し、その南部では屏風山断層崖を境として三河高原に接している。東部は阿寺断層崖を介して阿寺山地となっている。木曽川・土岐川・矢作川水系の河川によって形成された盆地が多く、盆地を中心に寺院が展開している。また、古代・中世には東山道、近世には中山道が東西に通過し、その沿道に多くの寺院が展開している。古代の寺院は少ないが、中世には、美濃国守護の土岐氏によって多くの禅宗寺院が成立した地域である。

今回の調査では、東濃圏域において436か寺の寺院を調査対象とし、そのうち171か寺の古代・中世寺院を確認した。

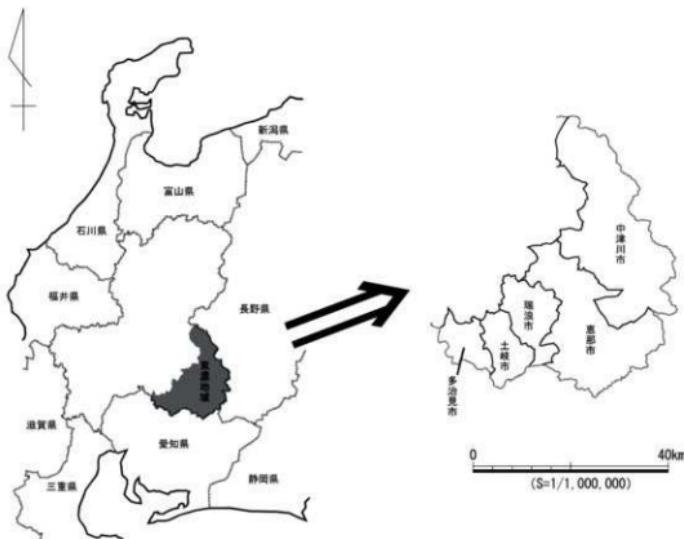


図1 東濃圏域区域図

第 2 節 寺 院 一 覧 表

4 第5章 東濃囲城の寺院

表1 多治見市寺院一覧表(1)

番号	寺院番号	史跡	山(里)号	所在地名(旧郡名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構	調査結果	分布図
1	04001	圓融山 心性寺		笠原町 (土岐郡)	不明	天台宗	若宮八幡神社の下寺。万治年間(1658~61)に現在地に建立されたといふ伝承があるが、大藏寺開山の円融和尚は心性寺に残る宝鏡院塔から見ては日本世上最古である可能性がある。	H, G		
2	04001b	心性寺旧境内 (心性寺跡)		笠原町 (土岐郡)	中世		心性寺は現在も残せず、現在地への移転時期不明。		08	
3	04002	青龍山 長福寺		曾田町 (土岐郡)	伝安土桃山 時代	真言宗	寺伝によると元弘年間(1331~34)、長瀬郷領主源頼氏(沙弥道良)が大瀬川宝鏡院の住人へ供給し、始めは現在地より南の土岐山に建立され、後は現在地に移転。傳とされる宝鏡院の開基は、この頃とされる。	H, G		
4	04002b	長福寺旧境内		曾田町 (土岐郡)	元弘年間		大瀬川に大瀬川が開削され、その後に土岐守本多親神が創立として、本多守の西に再建。今では「平安土岐山」現地に大瀬川の信海上人により中瀬開山。延宝8(1678)年、和州細井小池坊の信海上人により中瀬開山。上野山であったが、江戸時代に青龍山に変更。		88	
5	04009	東雲山 東明寺		大森町 (土岐郡)	昭和38年	臨済宗	寺伝によれば東雲山(東福寺亥の御詠無孔笛)に明応5(1496)年東田畠の織田信玄の開拓作養を行ったという記録有りとする慶寺を、慶長(1596~1615)のじめに開創寺と號する。山容が大瀬川の瀬波家に因んで東雲寺と名づけられたといふ。以前は東雲寺であつて、江戸時代に東雲寺小学校の位置に、昭和30(1955)年小学校建築の際に現在地に移転。	G		
6	04011	高社山 元昌寺		根本町 (可児郡)	天文12年	臨済宗	天文正12(1543)年越前開山。根本城主である若尾元昌開基により成立。開基をもって寺号とした。寺伝によると、昔高社山の下に修行したためと思われる建廟があったといい、天台宗系としては真言宗であった可能性があるといふ。		87	
7	04013	東雲峰 続芳院		虎渕山町 (土岐郡)	14世紀頃か	臨済宗	五霊正統(1584)年越前開山。根本城主である若尾元昌開基により成立。開基をもって寺号とした。寺伝によると、昔高社山の下に修行したためと思われる建廟があったといい、天台宗系としては真言宗であった可能性があるといふ。			
8	04014	慈眼山 普門寺		大針町 (可児郡)	天文13年	臨済宗	天文13(1544)年、崇成開基。「Eへんに源氏員、松堂院と中興開基」と是る(1520年の「山林書事」)。慈眼山が山名に冠してと思われる輿言などこのまゝに再建。山号等を付けて改称。その体裁を整えたものと推定される。いはゞこの再建が、松堂による可能性もある。明治25(1892)年に永保寺の本堂を譲り受けて再建、規模には成10(1998)年に再建されたもの。	H, G		87
9	04016	慈雲峰 慈林院		虎渕山町 (土岐郡)	15世紀頃か	臨済宗	開基は慈眼正統の慈眼天童圓(1582年)で、はじめ慈林庵と称す。山内のほかの慈眼院とともにC602保永寺の輪番を務めた。嘉永4(1851)年の火災により焼失したが、明治9(1876)年再興。		88	
10	04019	豎眉福 保永院		虎渕山町 (土岐郡)	嘉永4年	臨済宗	寛応4(1341)年、栗山正統によって成立。04020保永寺の慈眼寺のうちは最も古く江戸時代も廃しては、再創されたという。		88	
11	04020	虎渕山 永保寺 (永保寺寺院跡)		虎渕山町 (土岐郡)	正和2年	臨済宗	本文参照	本文参照	26	88
12	04021	龜頂山 覺藏寺		上野町 (土岐郡)	14世紀頃か	臨済宗	永保寺2世宝月院(1358院)開基。正平13(1358)年成立とも。寺伝によれば、04020永保寺の奥の院として建立されたという。	本文参照	26	88
13	04025	香積山 法音寺		喜多町 (土岐郡)	貞治2年	曹洞宗	寺伝によれば貞治2(1363)年、前田豊太守源宗が大蔵越となつて高寺殿明香比尼に帰して建替。中庭における歴史は不明で、江戸時代初期に別院室宗美(1667年没)が再興。	H, G		87
14	04026	神明山 大龍寺		曾原町 (可児郡)	永禄2年	曹洞宗	寺伝によれば永禄2(1559)年、永祿開基により成立するが、その後の寺名は不詳。明和元(1764)年に名古屋市光音寺3重の椎白を勧請開山とす。名古屋市光音寺。		07	
15	04027	石堂山 永泉寺		鳴田町 (土岐郡)	寛永年間	華嚴宗→ 真言宗→ 曹洞宗	光明皇后の願い、聖武天皇の勅命により、打合が池田の地を訪れ、「山西か寺石動築明闕宇」、地蔵院・祇園院・佐光寺・蓮華寺を開き、可見道尊開成。池田五山と称される。みな慈宗院であったが、蓮華院は元は吉宗院(1620)、寛永年間(1624~44)蓮華院の住持が住む神社としてあった蓮華院(04027)を現在地に移転と算轉し、複号寺を称した。開院には慈雲が邊られ、曹洞宗に伝宗。	H, G		
16	04027b	永泉寺旧境内		鳴田町 (土岐郡)	8世紀前半		蓮田五山(04027b古奉事院)の一か寺。文永年間(1293~99)宗鑑が制作された十二丈経像が、天正年間(1575~1592)初めに諸種越の授業により、高麗寺に移されている。この経像は「文安元年甲子十二月十三日蓮田永泉寺地蔵院」とある。建寺時には眞言宗に転向。その地蔵院は眞言院と合併し04049明圓寺となる。		07	
17	04040	石動山 明圓寺		鳴田町 (土岐郡)	古代	華嚴宗→ 真言宗	蓮田五山(04027古奉事院)の一か寺。眞言宗には眞言宗に転向。江戸時代に04045光院と合併して光山巖寺とし、永泉寺の末寺となつたが、明治年間(1871)に永泉寺(1632)年京都醍醐寺文安院に転向。その地蔵院は眞言院と合併し04049明圓寺となる。		07	
18	04041	地藏院		鳴田町 (土岐郡)	古代	華嚴宗→ 真言宗	蓮田五山(04027古奉事院)の一か寺。眞言宗には眞言宗に転向。江戸時代に04045光院と合併して光山巖寺とし、永泉寺の末寺となつたが、明治年間(1871)に永泉寺(1632)年京都醍醐寺文安院に転向。その地蔵院は眞言院と合併し04049明圓寺となる。		07	
19	04042	羅音院		鳴田町 (土岐郡)	古代	華嚴宗→ 真言宗	蓮田五山(04027古奉事院)の一か寺。羅音院時代には眞言宗に転向。江戸時代に04045光院と合併して光山巖寺とし、永泉寺の末寺となつたが、明治年間(1871)に永泉寺(1632)年京都醍醐寺文安院に転向。その地蔵院は眞言院と合併し04049明圓寺となる。		07	

表2 多治見市寺院一覧表(2)

番号	寺院番号	史跡	山(里)号	寺院名	所在地(山都名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構	調査結果	分布図
20	04043	仏光院	高田町 (土岐郡)		古代		真言宗→ 真言宗	奥田五山(04027名前参照)の一か寺。鎌倉時代には真言宗に属し、江戸時代に04042觀音院と合併して仏光山觀音寺として永泉寺の末寺となつた。		07	
21	04044	大智山 日光寺 (日光寺跡)	笠置町 (土岐郡)		永正年間		真言宗	京都の圓融寺三宝院末寺。「今岐明細帳」によると、永正年間(1504~1521)に成立し、開山は葛原上人または永正(1511)年から住職となる。十一世の住持教の代、明治元(1868)年に神仏分离の令を受けたが、現在周囲は宅地で、日光寺跡は空き地。		08	
22	04047	金剛山 瑞應寺	曾根町 (土岐郡)		不明		真言宗	現在順徳寺のあたりに往々金剛山瑞應寺という七覺院の跡を備えた巨刹があったが、戦国時代の時兵火にからつて鳥居に帰したという。寛延1年(1751)に順應寺跡に04022瑞應寺の寺号が承認され、現在順應寺に移転したといふ。			

表3 多治見市参考寺院一覧表(1)

番号	寺院番号	史跡	山(里)号	寺院名	所在地(山都名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構
1	04005	鳳凰山 永明寺	市之倉町 (土岐郡)		明治13年		臨済宗	後醍醐天皇の御誕生院により、武蔵國の荒川村に成立。もと總持寺と号した。明治24(1891)年の大火で焼失し、武蔵郡吉川村に移転。寺跡及び鐘塔など残っていないところ、池田屋の藤原方角が大正(1916)年寺跡・建堂費を寄進して、現在寺跡に移転する。自分を名前を冠し、萬歳山大慈院寺としむ。	H
2	04007	萬歳山 大仙寺	池田町 (可児郡)		大正5年		臨済宗	泰秦寺(1010)年の創建山号により。武蔵國の荒川村に成立。もと總持寺と号した。明治24(1891)年の大火で焼失し、武蔵郡吉川村に移転。寺跡及び鐘塔など残っていないところ、池田屋の藤原方角が大正(1916)年寺跡・建堂費を寄進して、現在寺跡に移転する。自分を名前を冠し、萬歳山大慈院寺としむ。	
3	04008	綿嶺山 深溪寺	笠置町(茶屋) (土岐郡)		承応2年		臨済宗	明治43(1910)年の「寺籍調査表」によると、土岐郡笠置町茶屋村に元三姓鳳乗寺の御堂が有り、土岐2(1010)年創建寺号三世本山和名が御堂院に銘記し、承応2(1653)年寺跡へ移転して一ヶを建立したのが其寺であるといふ。	
4	04010	小堀山 龍光寺	北小野町 (可児郡)		江戸時代か		臨済宗	信詔懇心の座禅院。萬歳院跡園山にあり成立。伝承では、慶安(1648~52)以前の底定となるともいいう。住職の道もしくは沿革の詳細不明であるといふ。	B, G
5	04012	白雲山 昌昌寺	笠置町 (土岐郡)		不明		臨済宗	成立時期は、寛文(1666)年、天和元(1681)年と諸説ある。三代の北堀は昌尊寺六世であり、本山制度の際に勅請院山としたほか、釋迦院門があり、明治43(1910)年に崇禪寺(1910)年付で提出した「寺籍調査表」によると、土岐郡笠置町茶屋村平岡に成立時期不明の正統(1446)の寺とあるが、北堀が天和元(1681)年付下士・勝利再興し、白雲院昌昌寺と改称したといふ。	G
6	04012b	昌昌寺旧境内	笠置町 (土岐郡)		不明				
7	04015	大慈山 二福寺	平和町 (土岐郡)		貞享2年		臨済宗	貞享2(1655)年、04019忍辱院の(11)と(6)の世羅郡南保が協立した村民の熱心な研究を受けて開創。開創の門内別院の寺刹則は保存書が有つた。享保4(1719)年から福寺と改め行はるようになつた。	
8	04018	巨政山 寿教寺	宝町 (可児郡)		寛文12年		臨済宗	寺伝によると寛文12(1672)年に成立。04020水舟寺・翠林風雲庵の御持院が本住仕し、現在寺内宝町丁付近にあった光明庵を受取合併し現在寺内寿教寺と改め、白雲院昌昌寺と改称したといふ。	B, G
9	04022	萬年山 福寿寺	山下町 (土岐郡)		明治6年		曹洞宗	寛文年間(1661)~73)、元禄19世顯徳院の存開園山に上り成立。明鏡の慶祝院により移転され、萬年山福寿院と改められたが、住職の大藏和尚が笠置町茶屋寺の大藏玄道と相談し、玄道師がその御願文を引き継ぎた。後悔び遠遁し、熱田郡赤井八尾垂參院が相続して心なしとなり経営を挽回した。瑞應寺(半原より明治6(1873)年火災により失失したが、昭和9(1934)年再建)。	G
10	04023	寂光山 安養寺	白山町 (土岐郡)		不明		真言宗→ 曹洞宗	寺伝によれば園基山郡公源が、唐木の植林作業中に死んでしまったので、その命を安養寺の白山神社に祀られた。安政6(1849)年土木社神造替の様子に「安養寺六百石」の記載有り。移転時期不明。	G
11	04024	象王山 普賢寺	大原町 (可児郡)		不明		曹洞宗	寺伝によれば寛文(1672)年笠置本二度全久保10世の玄空和尚山。和尚は秀勇音達(1578年)の開基の最初期で、元は笠置山神社の御堂寺と相談し、玄道師がその御願文を引き継ぎた。後悔び遠遁し、熱田郡赤井八尾垂參院が相続して心なしとなり経営を挽回した。瑞應寺(半原より明治6(1873)年火災により失失したが、昭和9(1934)年再建)。	G
12	04030	澤山不動圓照院	笠置町(羽羽) (土岐郡)		不明		天台宗	成立時期未詳。位置不詳。心性の住職によると、所蔵文書には天台宗とあり、昭和17(1942)年の記載であるといふ。	
13	04031	安樂寺	船町 (可児郡)		不明		真宗	成立時期未詳。淨土真宗大谷派である。	
14	04032	光明寺	船町 (可児郡)		不明		單立	成立時期未詳及び沿革不明。	
15	04034	是休庵	長瀬 (土岐郡)		寛保3年以前		真言宗	現在順徳寺のあたりに真言宗の古刹04047瑞應寺があつて、その跡を04002長瀬寺の開創地とし、阿門是休園山に上りは休館が開かれた。寛保4(1751)年成立と/orが、寛延3(1743)年には長瀬寺は笠置奉行所へ上記の旨の願書を出している。明治初年に廢寺。	
16	04035	地藏庵	根本 (可児郡)		不明		臨済宗	明治12(1879)年の「大蘇山明細帳」に「可尼吉昌齋村分寺寺當村山伏大蘇院」とある。天保6(1835)年の発願届によれば、寺としての什物を備え、寺院を構えて定住していたと思われるが、位置不明。	
17	04036	大泉院	大瀬 (可児郡)		不明		修驗道	天台宗の寺名であり。元昌寺の近くにあったという。享保年間(1716~36)に成立か。位置不明。	
18	04037	水泉寺	小名川 (土岐郡)		不明		天台宗	寺名標識は天台宗の記載があるが、昭和元(1966)年の「小名川村明細帳」には諸寺として記載あり、「尼寺水泉寺水泉寺無野院」とある。もとは尼ヶ屋にあったが、寛永18(1641)同村水山に移転。位置不明。	

6 第5章 東濃圏域の寺院

表4 多治見市参考寺院一覧表(2)

番号	寺院番号	史跡	山(里)号	所在地(田郡名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構
19	04038	白雲山 報恩寺	多治見 (土岐郡)	多治見 (土岐郡)	不明	臨済宗	0402永保寺末寺。永保寺所蔵の文政11(1828)年及び天保11(1840)年の「七年日人別改帳」に「僧化人 衙老人 多治見報恩寺」とある。現在の真正小学校へ行く前の側を「堂報恩寺」と称し、そこに報恩寺があったといい。白雲山(慈雲山とも)とし、多治見國民の普選権であったことを伝わる。位置不明。	
20	04039	巖王山 靈瑞寺		多治見 (土岐郡)	不明	臨済宗	0402永保寺末寺。永保寺所蔵の文政11(1828)年及び天保11(1840)年の「七年日人別改帳」によれば、いざれも、「当院無住ノ院靈瑞寺」とあり、「当院仮法筵」に「下ノ堂巖王山靈瑞寺山福勝院」中興・基安和尚向、二世大機正林音庵」と記されている。中興・巖寿栄は慈林院七世で寛文3(1663)年に没す。位置不明。	
21	04045	龜山 圓福寺		笠原町 (土岐郡)	元禄3年頃	真言宗	京都極樂寺三宝院本寺。大持院親鸞開山で、元禄3(1690)年から営めているとされる。明治5(1872)年廢寺。寺跡は現在盆地で、無縫塔6基、三三所羅音の石仏などが残る。	
22	04046	円寺		小木 (可児郡)	不明	不明	円寺と称するところが小木邑落西方面にあり、ここは祖先の塗をまつた寺があつたというが、いつしか魔寺となつたといい。位置不明。	

表5 中津川市寺院一覧表(1)

番号	寺院番号	史跡	山(里)号	所在地(田郡名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構	調査票	分布図	
1	06001	大通山 長榮寺	阿木 (恵那郡)	弘仁年間	天台宗	愛精を門山として弘仁年間(110~120)に愛精により成立。後に12の坊を有した。中興開山は天文2(1533)年觀音院功かに転住した毘盧坊行藏慧慈院。天正の兵乱で武田軍の兵火で焼けた。慶長2(1597)年武田功成斎が再興。慶長4(1604)年に再興寺となつたが、昭和17(1942)年教説休法顕院にあたり復興。近世作「阿木風神社祭礼之図」木版では、風神社は鬼火院。			N10		
2	06002	常楽寺	福合 (恵那郡)	不明	天台宗	古刹の詳細不明、便地は更地であり。近年廢寺となつた模様。					
3	06004	大木山 實心寺	付知町寺山 (恵那郡)	昭和26年	真言宗	今ではこれが大木寺と號するが、元は圓鏡寺(1596~1615)以前に寺号であったと伝わる。しかし此を見度すと、その後元の人々が本山に遷きかけ、昭和26(1951)年に現在地に再建。前身は空庭山中腹にあったとされ、寺廟と呼べられる山道跡には石垣や中水を確認できる。現規模の宝篋印塔は寺山道跡にあつた。			K10		
4	06004b	(寺山道跡)	付知町寺山 (恵那郡)	不明	不明						
5	06007	中道山 大泉寺	北野町 (恵那郡)	明治6年			天正4(1576)年安藤忠昌により成立。始め付知町北面にあり、福合寺の跡に建立したといい(06007)。半ばは(1733)年の遷去前には、「室町太祖、恵の下に堂宇を定め、福合寺より移した。幾つか経つてときこの寺を西善寺と改められた。天正4(1576)年移転は信濃交通の実業團に附して時の大泉の中心本町(京町)へ移された。」旨の記有。その後、文久2(1862)年落成で焼失、明治6(1873)年現在地へ移転。瑞光寺跡と大泉寺旧境内は、ほぼ同所にと思われる。				
6	06007b	大泉寺旧境内	本町 (恵那郡)	天正4年	淨土宗						
7	06007c	大泉寺旧境内	横町蓋元 (恵那郡)	不明							
8	06008	櫻満山 医王寺	福合 (恵那郡)	古代	天台宗→ 淨土宗	成立時期不明。もと天台宗で、裏裏は伝行作業。參拜(傳元平元後、文安元年の兵火、1185年頃)により焼失し廢寺になっていたものを玉三(1543)年正月在僧が修理し淨土宗に転化した。					
9	06009	中央山 福延寺	福合 (恵那郡)	天文12年以 前	淨土宗	「福延家文書」内に理る福延寺に関する記述のうち最確できる最も古の時期は天文12(1543)年である。円登開山、市岡善平次基園により成立。					
10	06010	寂光山 西生寺	本町 (恵那郡)	不明	真宗	天文12年(1543~92)若しくは元和元(1615)年以前前輪倉家・門四郎開基により、清水姓と號する。正徳9(1719)年寺号許可。それ以前は西林寺と号す。移転時期不明。					
11	06011	清徳山 来迎寺	千丘林 (恵那郡)	昭和19年	真宗	慶長11(1606)年、佐々木宗義開基により大坂東区に成立。慶長14(1609)年、寺号許可。明治40(1907)年移転の許可を得て導市車之町に、昭和19(1944)年に現在地に移転。					
12	06013	廣福山 天祐寺	神坂 (恵那郡)	嘉永2年	臨済宗	慶長5(1600)年、澤堂智圓山にあり馬鹿糰町に成立。承応2(1653)年@06023光秀天祐寺の開基が再建し、中興の祖となる。天保14(1813)年に焼く、嘉永2(1849)年に現在地に再建。					
13	06014	禪慈山 宗教寺	付知町 (恵那郡)	寛文6年	臨済宗	慶長年間(1586~1615)、愛雲山蓮闇により下付知虚空山薦、中興開山門山圓照院(1606)。圓照院の後醍醐天皇の御法輪出立を受ける。圓照院が持主し、慶安1(1648)年、@06014に改めて法輪が持主となり、圓照院。寛文2(1662)年、06014圓照院の繼承者圓照院が寺号を改めた眞山山古寺の名の再建を進めた。難波は「アズ」、那の田畠村(福原町)に06014圓照院を建立し、他那ではある付知町にも積極的に呼びかけ、由緒ある丸県山(愛文10(1653)年成)の池に寛文6(1666)年御創建。空寂院の寺号を残し、禪慈山宗教寺が成立した。					
14	06014b	宗教寺旧境内 (今須蓮院)	付知町 (恵那郡)	慶長年間	淨土宗						
15	06015	西藻山 永昌寺	馬鹿 (恵那郡)	永祿元年	臨済宗	永祿元(1558)年、愛雲山圓照院七郎左衛門圓基により成立。寛文5(1665)年@06015永昌寺の寺号となつたことがわかる。貢田哲仁が中興法輪出立。					
16	06016	良雪山 法界寺	下野 (恵那郡)	元禄年間	淨土宗→ 臨済宗	慶長6(1601)年良雪開創。明天開山により寺号@06016として成立。当院は木曽の西古道・諏訪街道にあつた。臨済宗奉者群の昌谷山主通山法界の宗教統領上より、元禄元(1681)年に臨済法輪一軒治。元禄(1688)~1704)初の領。度々の地に移転したと伝わる。					
17	06016b	法界寺旧境内 (今須蓮院)	付知町 (恵那郡)	慶長6年	臨済宗						
18	06017	寶林山 高德寺	鶴川黒鹿 (恵那郡)	天文15年	臨済宗	天文13(1584)年木曾川の大洪水に際して辯才天寺舟形御供の旗旗がある者が難波に漂着し、同14年(1585)義仲の舟形御供をもつた普門院が開院。その後普門院は兵火により失火(時刻不明)。延宝2(1674)年寺堂が再建。慶長4(1686)年の魔除駆除で焼寺となるも、明治12(1879)年再建され、高徳寺として発足。					

表6 中津川市寺院一覧表(2)

番号	寺院 番号	史 跡	山(里)号 寺院名	所有地 (山林名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構	調査 結果	分布図	
19	06022	善勇山 善昌寺	萬合 (恵那郡)	明治24年	曹洞宗	慶長5(1600年)(慶長5年以前既設も)伽藍百軒創建により成立。延宝(1673～81)の頃須坂寺二十世萬山正顕を開山として守継。明治24(1891)が山口側改修工事に際し、現在地に移転。			I		
20	06024	寿福山 東円寺	東宮町 (恵那郡)	不明	曹洞宗	春翁祖廟開基。苗裔秀播開基により成立。本尊「東方三世世間陀羅密光如來坐像」は、嵯峨天皇の私心(5(8)4年)が大師作の作承があり、私仏の御影があつたため、元和8(1622)年に東円寺が從川町の所に再建されたが、現在は大型施設設が立ち滅失。現在地への移転時期不詳。			I		
21	06024b	東円寺旧境内	從川町 (恵那郡)	元和8年	曹洞宗				MII		
22	06027	瑞松山 大林寺	千日林 (恵那郡)	大正14年	曹洞宗	天正8(1580)年山中縣清光の所産が叛乱を避けて坂本八幡神社の宮寺に入り、その車の前には摩羅迦羅を作ったことに始まる。慶長13(1608)年に坂本庵入した他外は、同15(1610)年に京都、更に龜山・桑名など各地で布教を続け、元和8(1622)年当地に瑞松院を開基して佛門と改称。寺が手前になり、寛永10(1633)年村長林常義開基より堀川町の地に瑞松院寺の大林寺建立。元禄10(1697)年の大火により、諸堂大破し、享和12(1727)年七世立定が古山地を南側の山台に移した。大正14(1925)年に落雷で伽藍焼失し、現在地に移転。				MIO	
23	06032	大石山 宗泉寺	中津川 (恵那郡)	元和初年	曹洞宗						
24	06032b	宗泉寺旧境内	中津町字 正ヶ根 (恵那郡)	天正2年以 前	曹洞宗		本文参照	本文参照	30	MII	
25	06034	瑞雲山 禪林寺	飯沼 (恵那郡)	不明	曹洞宗	往古は櫟ヶ根の山林辺に小庵があり、何宗ともなく仏事を行つたが、元亀・天文(1570～92)の頃小寺の如くしつらい仏事菩提をやうこそ70余年と伝わるこの頃天台宗であったともいいう。寛永11(1634)年龜山開基により一寺を建立した。この他に慶安2(1649)年釋尊寺をつくるとある古文書や、600年以前に七重宝篋印塔をえたという伝承有。弘化初期(1844～48)規模縮小のため現在の寺が再建。釋尊の歴史は不明。			II, G		
26	06035	東光山 福昌寺	野場 (恵那郡)	中世	曹洞宗	もと現應寺と称す。興福寺の山神社のあたりに「げんのう」という地名があることなど、付近から山神社など出土した伝承があり説明不明。慶長3(1598)年開基敷地有和尚承記の記録があり、成立は慶長以前か。開基は木曾の豪族。千村平右衛門良重(1566～1630)である。			MIO		
27	06040	金龍山 三井寺	坂下 (恵那郡)	中世か	高野山 真言宗	過去帳名によると、成立は元和9(1623)年から慶安4(1651)年の間に徳川家光の時代で、開基住持は金龍院とある。但し、本尊は高野山金剛院の御本尊である。開基後は本尊は高野山金剛院の御本尊となり、徳川40年代(1614)に寺の本尊那麻呂菩薩丈六の手によって解体され、次品の品当舟が当寺が南北朝時代ごろに保存していたか、坂下の折衝面の役を担い、坂下護神社の別當を務めた。			II, G	LII	
28	06043	(推定法名寺 跡)	馬籠 (恵那郡)	鎌倉時代後 期～室町時 代後期	不明	江戸時代から比丘尼寺と呼ばれる土地で、かつて美濃国通山庄(通山寺)の別院である。但し、本尊は高野山金剛院の御本尊である。開基は不明。昭和46(1971)年の歴史調査では、鎌倉時代後期から室町時代後期の遺物と、2基の柱穴や礎等が確認された。	G、灰陶陶器、 山茶樹、 瓦礫、 瓦器、 木製品、 御製品、 瓦通宝		LII		
29	06044	(寺守敷跡)	村知町 (恵那郡)	中世か	不明	二子山山麓に所在。かなり広い跡があるとのことだったが、小規模な平面を確認したのみ。石碑の跡や、多くの人の參拝跡とあると思われる小石碑を見られる。ここにあった山神社と金龍寺は、山神の神使を務めている。中世に今頃が存在した可能性がある。			LII		
30	06045	市 金剛山 金林寺 (金剛山 金林寺寺跡)	輕川今ノ瀬 (恵那郡)	南北朝時代 か	不明	概般足系によると、「後醍醐天皇の御子孫・舟見親王の足見親王は、岐阜の金剛山に開基した」とある。但し、本尊は高野山金剛院の御本尊である。開基は不明だが、古廟戸の御耳垂や板、志磐が多数出土し、鎌倉時代かそれ以前に天台宗系の寺として創立されたのではないかと考えられる。			I		
31	06047	(成道寺跡)	苦木 (恵那郡)	中世	不明	現在寺前、方丈廬、坊、後組内、板組内、大門などの地名が周囲に残っており、相当の寺宇があったことが想察できる。江戸時代までかは寺の地に遺迹と說んでいた。山茶園の被冠が採取できるという。	G、山茶園		LII		
32	06050	高倉山 西方寺 (西方寺跡)	坂下 (恵那郡)	中世	真言宗	真言宗京都派三院院末寺、西高寺とも。「信州八景記」に「高倉山西方寺」とある。昭和56、57(1981、82)年の農業構造改善事業の際に発見。字名方寺地内の木曾川と中央幹線の間に位置し、木曾川左岸に位置する。開基は不明だが、古廟戸の御耳垂や板、志磐が多数出土し、鎌倉時代かそれ以前に天台宗系の寺として創立されたのではないかと考えられる。	II, G、 古廟戸		LII		
33	06051	(大正寺跡)	中津川 (恵那郡)	不明	不明	北野中津川神社の附近にあったといい。宝鏡山腰や五輪塔、古井戸があつたといふが現存していない。中津川社通體に佐佐良がある。中津川寺跡として登録。			LII		
34	06052	(龍泉寺跡)	阿木 (恵那郡)	不明	不明	伝承によると大規模な寺院であったといふが、遺構や遺物は確認されていない。古廟戸を小石臼形が遺存らしくて立てられていている。現在龍泉寺と云われる。龍泉は別地名として切り売りされている。中津川寺跡として登録。			MII		
35	06053	(玄巖寺跡)	野場 (恵那郡)	不明	不明	尾崎町にあり、段丘上の最も近くに中津川の南側の木戸山といわれている。周辺の頃から山茶園片が採集されたという。此の段丘の下の宝鏡山腰(2分目を「落」とする)に燃れることを禁忌としているというが、現在は確認できない。	山茶園		MIO		

8 第5章 東濃圏域の寺院

表7 中津川市寺院一覧表(3)

番号	寺院名	史跡	山(里)号	寺院名	所在地(市郡名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構	調査結果	分布図
36	06054	(滋賀寺跡)	駒場 (忠源郡)	不明	不明	現在は薬師如来像を安置。周辺からは白安系陶器片や、五輪塔部材、宝鏡印塔の平盤品が、木田の墳墓工事の際に出土したといい、石塔類は青木不動で移動している。慶長年間(1596~1615)に廃寺になったとする説もあるが、御厨村の大火注進跡(宝暦7(1757)年の被雷者伏見御厨文書などにその跡跡はない)。	H.G. 山茶碗		M10		
37	06055	(大京寺跡)	駒場 (忠源郡)	不明	不明	西小学校付近に五輪塔と宝鏡印塔があり、羽林と伝わる。これらの石塔類は古木本福前に移されているという。中世社寺跡として登載。	H.G		M10		
38	06056	大智山 觀成寺 (觀成寺跡)	千住林 (忠源郡)	中世	天台宗	もとは八幡神社別当寺で天台宗に属し、天文2(1573)年阿寺城主の元良親が創建して祀られた。その後、觀心院と改め、觀心院の別院である保佐院・神光院と並んで、觀心院と神光院の二体とも認める。別院に六臂の觀成寺立どり像、寶永年間(1624)大蔵院造と傳わる住職、社領として仲井村を支配す。治承6(1187)年廢寺。』と記載にある。この他に、『御厨記』には周辺に諸坊が立ったと記載。また付近には白安系陶器片が採集され、五輪塔や宝鏡印塔も各所に見られる。	H.G. 山茶碗		M10		
39	06057	(危藏坊跡)	駒場 (忠源郡)	不明	真言宗	高野山常慶院の末寺で古寺と伝わる。付近の山林内には五輪塔が散在していたというが、所在不明。山林には市営住宅が建設された。中世社寺跡として登載。	G		M10		
40	06058	(長基寺跡)	蘿子川 (忠源郡)	天文10年	不明	長蓮寺(天文10(1582)年森彌丸により成立し、その後5~6年後に兵藤のため焼失したという。また現在の裏参道は江戸初期に建立したと伝えられる。	H.G		M10		
41	06059	(法泉寺跡)	福岡町高森 (忠源郡)	伝15世紀中 頃	不明	伝承によればかつて南濃湖に瀕する天の島(おとねじま)の子伊良氏の住民でできたある一族の人々が、宮の御舟を用いて建てたたのであるという。昭和59(1984)年に寺跡に整備されたが、山中には、往時宮を守って戦死したという六勇士の五輪塔が存在し、寺額数の名をとでめている。	G		L10		
42	06060	市 碧源山 圓通寺 (武奈寺跡)	福岡町植苗 木 (忠源郡) と異称一冊	伝鑑心元年	不明	本文参照	本文参照	32	L10		
43	06062	市 (圓通寺跡)	苗木 (忠源郡)	中世~近世	不明	本文参照	本文参照	34	L10		
44	06064	普門院	千住林 (忠源郡)	文明15以 前	天台宗か	「赤堀御厨記」には、千手林八幡神社の持寺である大曾山圓成院(山城屋)のことであったときと、人に大曾坊、玉房坊などと號していなかったと記されている。06056御厨寺同様、天文12(1564)年に寺額縛縛とともに焦土上に化した。			M10		
45	06065	(宝積寺跡)	中村実戸 (忠源郡)	伝大永2年	真言宗	大永2(1522)年市国憲が寄贈のために殿舎を建て、真言の實七堂院を建立したと伝えられ、宝積寺(現役は法尊寺)という寺名が存続。御厨院門の馬頭は石燈籠で確認。	H.G		M11		
46	10044b	東洋寺跡附内 (東洋寺跡)	広久手 (忠源郡)	不明	東洋寺は1944年に東洋寺の前身。現在の照ヶ手の墓地付近にあつたという。中世社寺跡として登載。			M10			
47	06069	吉祥院	神坂 (忠源郡)	天文年中頃	不明	坂谷氏の系譜には、(瀬戸町吉田郡角戸村、古賀院坂)とあり、萬永(天文15(1587)年)とある。享保13(1728)年の「諸院表(見金帳正目)」に坂谷により建立とあり。時期は系譜鑑定によるうえに天文(1573~1592)頃と想えられる。現地には戦国時代末年に建立された蓬莱閣が建つ。			L11		
48	06071	北野白山神社	高合 (忠源郡)	中世	不明	白山大権現を中心、熊野御祖、富士浅間と松尾殿とする。また黒野田、松尾延峰、寺跡、比丘尼院などの地名を残し、天文(1573~92)の頃に寺のあったことが推測されている。	G, 山茶碗		L11		
49	06072	圓通寺	手加野 (忠源郡)	中世	不明	伝承によると、(則方方面的寺)が創建していたが、天文年間(1573~92)の戦により焼失したという。寺域を推定された地区的(木田や周囲の田畠)は、白安系陶器片が採取された。圓通寺廃寺の中心は、手加野公会堂付近だといわれているが、不明。	山茶碗				
50	06073	光明山 靈台寺	福岡町 (忠源郡)	寛永年間	真言宗	寛永年間(1624~44)に山伏院を合して泰勝院山により成立。牛頭天王(現金剛山神社)の別当寺。苗木蓬山(主)が創始、苗木下庭主(主)を本山とした真言宗新義派。慶応4(1868)年神仏分離令発布により廢寺となる。位置未明。					
51	06081	田生山 子安寺	飯沼 (忠源郡)	正和年中以 前	天台宗	成立時期不詳だが、飯沼印記によると正和年間(1312~17)に当地を支配した源山某公によって再構されたといい、その後天文11(1470)年達山數豈が再建されたとも伝わる。現在地は寛文11(1671)年吉村村の手によって再建され。それ以前は別の攝所にあったというが不明。					
52	06085	光輪山 金鑑寺 經王院	轟戸真地 (忠源郡)	中世~近世 か	真言宗	京都御院官署下懸院の配下に属した。06085御院同様達山の祈願として、寛永元(1624)年九月造(?)より真言院にて定納高二石(2斗)の奉助と届出地(東西六丈、南北八尺)坪数二町が与えられ永代免免になっていたといい。位置不明。	本文参照	36	L10		
53	06096	古江山 天王院 松嶽寺	轟戸真地 (忠源郡)	不明	天台宗	方尺寺等も、木曾谷古跡と考えらるる古道の一部が、伝法軒寺跡らしい遺構の近くを走っていると考えられる。難易水道の跡地跡の跡の跡、自然石の礎石らしいもののや・瓶子の完形品多件出しし、確認できる礎石は14世紀代のものであったという。位置不明。	礎石、 中世陶器				
54	06088	法駅寺	坂下町 (忠源郡)	不明	不明						

表8 中津川市寺院一覧表(4)

番号	寺院名	史跡	山(里)号	所在地(里番名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構	調査 担当	分布図
55	06091	東山向光寺		坂下町 (恵那郡)	不明	真言宗	坂地内に光宗寺と呼ぶ場所があるが位置不明。成立時期不明だが、般若堂堂額の石碑群中に慶長元(1596)年東山向光寺松栄印の名前みられる。当地にはそらく被教関係(真言宗系何か)の寺として存在していたようである。			
56	06096	(大山遺跡)		加下母 (恵那郡)	中世	不明	本文参照		本文参照	J10
57	06103	道原坊		加下母 (恵那郡)	不明	天台宗	当初天台成就寺の末寺であったが、成徳寺の魔寺とともに末寺道原坊も衰退。佛母は「道原坊」の名を翼て布教に務め、道原坊を復興するため、字白谷に06102本義寺を創建。位置不明。			
58	06104	福泉庵		福岡町中郷 (恵那郡)	中世か	不明	成立時期不確不明。道原37号塚古引山古より福泉庵の建立跡地とされるところがあり、杉、松の大木の倒木があつたと伝えられるらしいである。(「高木伝記」)には、この草庵は秦御庵が安置されていたとあり、中世における庶民信仰の寺であつたと位置づけられる。			
59	06106	多聞坊		加下母小郷 (恵那郡)	中世	天台宗	成徳寺の附屬であつて、12坊のうちの東坊。文永11人は多聞坊で入籍されたと伝わる。成徳寺の法燈は絶えるとともに、多聞坊も廃寺となつた。			19
60	06107	福興光院		柳川中切 (恵那郡)	不明	不明	村社安弘院と神社に御厨御來院合祀させていて、源清光院跡を參道の東側に確認。飛佐段跡の跡に定めて安置され、成立時期等不明。			19
61	06109	下野坂中寺		下野 (恵那郡)	中世か	不明	縁起によると本尊中尊天(別称青面金剛童子)は行基とも。鐵倉時代の坂、文永11人が坂行脚の道中に安置したともいう。当地は中世御坂街道の道筋にあたり、交通の要所を占めた場所と想われる。			K10
62	06110	比丘尼祖敷		福岡町 (恵那郡)	伝14世紀後 平坂	不明	西組羅引の南方にあり、尹良觀王(1364~1420)の紀の御近として奉仕した近習者が尼寺を建て、紀の冥福を祈った場所と伝わる。位置不明。			
63	06118	正覺院		柳川田原 (恵那郡)	不明	不明	成立時期不明。田原神社の前から坂の上へ100mほどの所で道が分かれ、分岐点近くの山門の「正覺院」と記した碑があったという。田原村の周辺には「石者海戸」や「法印顯敷」という地名があり遺跡があつたか。			
64	06120	広濟院跡		神坂 (恵那郡)	伝9世紀	天台宗	弘仁6(815)年、最澄は山道によって東国巡礼を行つたため、近江より美濃に入り金本駒を立てて神坂を越え、信濃阿寺駅にて東国に向かった。最澄は、旅人の困苦を救おうと、終の西美濃圓に広濟院を、東京圓に弘福院の2院を設けて旅人の休泊所にあつたと伝わる。この寺院の位置は不明。昭和63(1988)年、總本山天台宗常葉院は広濟院跡地を決議し、神坂村の協力を得て幕ヶ原の中央古道沿いに般若碑を建設。			

表9 中津川市参考寺院一覧表(1)

番号	寺院名	史跡	山(里)号	所在地(里番名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構
1	06003	実利教会		坂下 (恵那郡)	江戸時代	基督教 新基督	天保9(1838)年に生まれた実利行者(林喜代八)は全国の名山遍拝し、苦行で積み重ね川宮よし大峯山二代行者、實利の号を賜つた。その霊を仰ぐ者講じてつくりを續いている。	
2	06006	寺居山 露盡教會		梅子川 (恵那郡)	寛政10年	真言宗	寛政10(1798)年4月建立許可。寛政11(1799)年4月2日に開創。露盡像30体、他の仏像4体の開闘供養が行われた。	
3	06019	柳江寺 南林寺		中津川 (恵那郡)	1640年頃	臨済宗	今林和尚開創。清賀寺の開創主大姫姫貞請開山とし、美濃市立花に成立(1640年頃)。開創以来約270年前歴経した後、明治41(1908)年に中津川市在住の織田重蔵が丘比庭庄に宇を建てて移転し、開廟となる。同43(1910)年に織田重蔵南林寺と改められ、大正元(1912)年官幣美濃市立花から移転。	
4	06020	円通院 鮎原寺		手賀原 (恵那郡)	寛永3年	臨済宗	寛永元(1624)年栗原作左兵衛一成開基。社號は請開山より鷹場に成立。寛永3(1626)年に現境内に移転。現在の鷹場に寺名が字名が残る。寛永4(1627)年大火により伽藍・宝寺・古文書等一切を焼失。安政2(1855)年12世忠山代により再建。	
5	06021	寶雲山 露盡寺		阿木 (恵那郡)	元和年間	曹洞宗	元和年間(1615~20)露盡院公首座開基により成立するも、その後荒蕪真だしく詳辭は不明。慶永3(1650)年に天王山に開創。	
6	06023	光西寺		山口 (恵那郡)	不明	曹洞宗	詳細な歴史不明。明治5(1872)年5月17日の災禍で諸堂を消失し、明治8~33(1875~1900)年に伽藍を再建。	G, II
7	06028	久留山 龍安寺		藤子川 (恵那郡)	寛永2年	曹洞宗	寛永2(1625)年、鹿屋町10036長岡寺3号室に寶雲露盡院に上り成立。現在残されているものは元和年間(1688~1704)三世寶蓋露盡院代に跡のものであるから、元禄に入ってはじめて墨面なども整つたと思われる。	
8	06029	大慈山 淨光寺		川上 (恵那郡)	寛文7年	曹洞宗	川上地域に元龜(1579~73)から天正(1573~92)の兵乱の戰火により、寺のほとんどが焼失。寛文5(1665)年宗門改めの開創改正に際し、阿弥陀堂を整備して同7(1667)年、龍安寺に改称する。長昌寺跡屋大慈院により淨光寺改称。	
9	06033	黒櫻山 法華寺		加子母上桑原 (恵那郡)	江戸時代	曹洞宗	始め成徳寺の本棟跡があつたが、天正13(1585)年成徳寺廢滅に伴い貢滅し、草庵のみとなる。寛文3(1663)年法華院舟が、跡の中谷寺を勧請開山とし、万賀(舟あたたり)に法華寺を開創。後に、権美寺跡が一村信仰の中心として最も多くある。法華寺に移して万灯山法華寺と改称。この歴史を以て、法華寺は開創寺末寺と称す。	
10	06038	正善院		愛町 (恵那郡)	嘉永3年以前	法華宗	年次のあら資料としては寛文3(1663)年の過去帳の記載が最も古い。日進・日宗両院により成立し、明治19(1886)年寺号公稱。公稱以前は現正善院の地で信仰活動をした。	
11	06041	開弘院		山口 (恵那郡)	不明	真言宗	成立時期及び沿革不明。山口に所在したというが位置不明。縣道256号から山口地域に入る道筋に惠城を確認するが、当院との關係不明。	

10 第5章 東濃圏域の寺院

表10 中津川市参考寺院一覧表(2)

番号	寺院 番号	史跡	山(里)号 寺院名	所在地 (旧郷名)	建立時刻	宗派	沿革等	遺物、遺構
12	06046	(内藤寺延暦寺)	中切 (忠原郷)	不明	不明	成立時期不明。「内藤寺」は林藤市方の屋号であり、06045宝林寺過去帳に元禄5(1692)年の記録がある。内藤家の名残として五輪塔があったというが確認できなかった。		
13	06048	(伝尼寺跡)	坂下 (忠原郷)	不明	不明	革白不明。現在は貯木施設がある。		
14	06049	万歳山 昌昌寺 (長昌寺跡)	坂下町坂下 (忠原郷)	江戸時代	臨済宗	元坂下ニ延の普慶寺。寺跡は新町竹尾から入る道路に沿って山門より左に天神堂。本堂は間口六間、奥行五間、こけらぶで阿弥陀三尊及び諸大師像を安置。明治3(1870)年木幡奉による移仏毀釈で焼失。初代は開闢龍泰寺の森繁大院が造られた。元禄元(1688)年に当社で入寂した。現在は貯木場が残る。	H	
15	06061	市 (穴觀寺)	苗木 (忠原郷)	近世	不明	近世の市木顕面における民衆信仰の場。魔仏駆除の後に現在の状況となる。仏像の頭部が出土したといふ。	H	
16	06063	吉祥山 大禪寺	阿木 (忠原郷)	不明	臨済宗	峰嶽開基五ヶ所、石碑の詳細不明。又飯沼の06034雲山禪林寺跡もとも臨済の禪刹であり、その領域は大禪寺の领域かとも疑われる。武儀郡富野村にあったといふ説もある。		
17	06067	シンク寺	小野川 (忠原郷)	不明	不明	成立時期不明。種々な仮の名にあった今までには地名だけが残る。魔寺となつたのは魔仏毀釈の前であり、その理由は不明。現在は宅地。昔のあたりに地蔵堂があつたといふ。		
18	06074	えんこう庵跡	駒場 (忠原郷)	不明	不明	06035笠置寺と同様段面に取り替えたところがえんこう庵跡といわれ、現在は水田。昭和10(1935)年の調査では五輪塔の存在が記録されているが現存しない。	G	
19	06077	おれん坊	かやの木町 (忠原郷)	不明	不明	延喜寺跡には「中川義の家」傍に木戸口と称するところ」とあるが不明。中川義の家下流約500mの段丘上に五輪塔があり、うめ派附近をおれん坊跡とするのが適当と考えられている。		
20	06079	風雲庵	舟子川 (忠原郷)	不明	不明	1604佐久藤寺跡といわれる地点と隣接しているというが、詳細な位置不明。		
21	06080	明光坊	舟子川 (忠原郷)	不明	不明	成立時期及び泊茶不明。宇明光保付近は現在水田及び宅地が広がる。坂本觀音像を確認したが、明光坊との關係不明。		
22	06082	天竜山 宝林寺 (宝林寺跡)	苗木 (忠原郷)	慶長19年	臨済宗	前木城山腹にあり、豪農(1616)年代友成政により普慶寺として成立。明治3(1870)年に延喜寺跡は焼却となり、周囲の墓塚のみが昔の面影を残している。		
23	06083	壽昌院	苗木 (忠原郷)	17世紀前半 か	臨済宗	邊山氏二代秀友の宝源院・長政・大姫のために建られたものと云わるが成立時期不明。出大船使したので雲林寺内へ移り、何年頃廢院となつたか不明。		
24	06084	正中山 妙好寺 (佛好寺跡)	苗木新谷 (忠原郷)	寛文6年以 後	法華宗	通山氏三代在室の寺の位跡ととして成立。友貞の奥室は久世大守・守広之の息女で、寛文6(1666)年死去。久世家は法華宗であった。明治3(1870)年に魔仏毀釈が実行された際廃寺となつた。		
25	06087	鬼門寺	廟戸真地 (忠原郷)	不明	天台宗	鬼門寺か。一代限りで魔寺となり。石碑や寺跡が残る。		
26	06089	善慈寺	坂下町 (忠原郷)	不明	不明	成立時期及び泊茶、位置不明。		
27	06090	魔王山 東光寺	坂下町 (忠原郷)	不明	不明	既重文財の碑の跡が出来ては第二次世界大戦時に昭和の解体跡がなされ、台座に北側の年号が刻まれていたといふ。今後の成立時期や沿革、位置不明。		
28	06092	仏妙寺	苗木 (忠原郷)	寛文6年以 降か	法華宗	成立時期及び泊茶不明。明治3(1870)年に苗木にて魔仏毀釈が実行された際廃寺となつたといつ。06061延喜寺跡と同寺である可能性が高い。		
29	06093	長尚寺	坂下 (忠原郷)	江戸時代	臨済宗	成立時期及び泊茶不明。明治3(1870)年に苗木にて魔仏毀釈が実行された際廃寺となつたといつ。06045長昌寺と同寺である可能性が高い。		
30	06094	福岡山 片岡寺 (片岡寺跡)	福岡 (忠原郷)	慶安3年	不明	慶安3(1650)年に木幡林寺の一・二番頭は、藤原家・藤原九郎・藤原朝衡によつて忠臣と改名して作成した。明治3(1870)年に苗木にて魔仏毀釈が実行された計15か所(境内内外)のうちの1つ。現化・植木苗・片岡寺・延喜寺跡には、土塁及び礎の一部が残る。		
31	06095	高峰觀音堂	坂下 (忠原郷)	19世紀初期 頃か	不明	苗木1代目山友ゆきの父奥の発願により高峰山山頂に成立。病弱だった異方は毎年彼の御縁に御参りして、懇意とともに病氣散を願った。		
32	06097	延寺	付知町寺山 (忠原郷)	不明	不明	寺院名の草字不明。此の跡に寺山(06044寺山跡)があり、更に西方の寺山(寺山)系帯に寺山寺がある。あれどこの寺山寺か。今訪問中に出し火し、この寺は既焼滅したといつ。付知町寺山。		
33	06098	虚空藏社	付知町 (忠原郷)	不明	不明	萬永2(1625)年に創立のあら、付知町吉の仏事跡を持つ仏堂。山腹の南は今寺、今朝殿、東寺と寺の名が残る。神仏分離令により、明治3(1870)年に本尊が何時か移され、「虚空藏社」から「国造社」と改称したといふ。		
34	06099	鳥居脇庚申堂	付知町 (忠原郷)	不明	不明	往古下付知の青木本にあった正面金剛界塔は元禄4(1681)年にここに移し、庚申堂の本地堂として祀つた。青木の前の旧堂跡は壇となり、壇が一本立つたので坂井と呼ばれていたといふ。		
35	06101	桃岳山 曹源寺	明瀬 (忠原郷)	17世紀頃	臨済宗	鶴海宗源により成立。最初に上田瀬(上の瀬)という庄屋地に建てられたが、水の便が悪く、寛文9(1669)年には同じ上田瀬の妙雲庵(妙障院)へ移転。元禄9(1706)年頃焼失。		
36	06102	白谷山 永養寺	加下母 (忠原郷)	不明	真宗	20013龜山市街寺の賃相済数は加下母に06103「道照院」の別名を起して本教に移り、元禄12(1699)年道照院復興のため白谷に淨土真言宗永養寺を成立。宝治12(1762)年に宇井氏に移転。8世住職今井惟秀の死後廢寺。位置不明。		
37	06105	比丘尼尼僧	加下母下桑 (忠原郷)	不明	不明	南桑原の山林の中にある一級の僧院。伝承もなく、成立時期や沿革不明。		
38	06108	(仮)一寺	鶴川一色 (忠原郷)	不明	不明	成立時期及び泊茶不明。一色の奥に「古寺」という地名が今も残る。新道崎の手前から、林道を登った村有林の中に古寺の跡がある。そのすぐ下を木曾古道が通っていた。昭和66(1971)年に林道が整され、構造の詳細不明。		

表11 中津川市参考寺院一覧表(3)

番号	寺院番号	史跡	山(里)号	寺院名	所在地(山林名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構
39	06111	大円坊		福岡町高山 (恵那郡)		不明	不明	福岡町高山西端地区の広域農道沿いの上部を越する用水線上に大円坊と呼ばれる七堂伽藍を備えた寺があったことが伝えられている。その後開闢の戦で焼失したとも言われ、今は何一つの遺跡も見ることが出来ない。白峰によれば、この大円坊は平安・中世の木曾南古道筋にあたり、寺跡から山系の坂井が十数段出土したといふ。	山系坂井
40	06112	市	高尾山	別松寺 (岩寺寺社)	福岡町高山 (恵那郡)	貞享2年以前	臨済宗	近世の高尾山に澤井の臨済宗として開創された畠山雲林寺の末寺であった。明治初年の高尾山澤井による廢仏毀釈によって廢寺となり、岩松の延命寺と別名高尾の墓を残すのみとなった。雲林寺 - 延18ヶ年の末寺として、06094片岡寺開創後に、雲林大師組(延享2(1685)年役)により成立したと考えられている。	
41	06113		山口	賢願寺		延宝9年以降	不明	寛保年間(1741~44)に作成された山村給園に、小学校のあるこの辺り一帯を「賢願大原」の地名で記載。把頭に刻まれた役年帳真印法印が万治3(1660)年、妙宗院定是が宝治9(1681)年で、延宝9年以降に2人の道御供養したと記されている。現在の所在不明。	
42	06115	市	隨龍寺	芭蕉堂 (隨龍寺)	福岡町高山 (恵那郡)	不明	不明	十一面觀音を祀る芭蕉堂があり、天保6(1835)年の鐘札が残る。寺跡に高遠から石工さんによって十三羅漢を作らされたといふ。	
43	06117		不動庵	付知町 (恵那郡)		不明	不明	この不動庵は真言向かって位置していることから、要教修驗者の淨戒として尊ばれた。この不動庵かではないが、紀州の行者がこの庵を見つけ不動明王を祀ったといふ。かつての修行者の移転場。	
44	06122		正岳院	苗木(恵那郡)	佐川江戸時代	臨済宗		06082正岳院寺碑文によると、正岳院は天正15(1587)年に由良義光によって成立しと伝え。役寺として造営し、山門・要教寺の通称で、要教寺より正岳院寺額等の墨蹟・応持も同院の役所であった。現在は苗木通の歴史資料館が建つ。	
45	06124		長老寺	柳川今御 (恵那郡)		不明	不明	「長老寺今御ぼ」という地名があり、「長老寺」の寺額であった田を意味するか、石碑及び成立時期不明。	
46	06125		じょうしん寺	柳川今御 (恵那郡)		不明	不明	小高い丘を中心とした辺りを「じょうしん」と呼び、昔の近くに「じょうしん寺」という寺があるといった伝承ある。丘上には數十基の墓石が確認できるといふが位置不明。	
47	06126		安弘見神社	柳川中切 (恵那郡)		不明	不明	成立時期不明だが、かつては天王寺と呼ばれた。本木古道記には「柳川村。牛頭天王古道と謂ふ木多の大木也と幽鬼屋、死屋屋、上の坂。下の功、古跡ノ一」とあり、古くから大きな神社であり、宿泊として栄えた。境内に06107鹿苑寺瓦有。	
48	06127		尼寺	柳川町切 (恵那郡)		不明	不明	柳川町切の坂地に尼寺があった。坂地からこの辺に下く道が急坂であったことから、「尼坂」と呼んでいた。成立時期や沿革不明。	
49	06128		淨心寺	柳川町切 (恵那郡)		不明	不明	町切の農耕手筋に古い丘があり、背後心地があったと伝わる。柳川櫛山には「桔之山」という字名があり、淨心寺の坊が前にある。成立時期及び沿革不明。	
50	06130		羅闍寺	柳川下沢 (恵那郡)		不明	不明	江戸時代の末期まで苗木澤領下八ヶ所巡りの札所で、三十三番の種閑寺といった。現在、千人坐供養堂など残る。	

表12 瑞浪市寺院一覧表(1)

番号	寺院番号	史跡	山(里)号	寺院名	所在地(山林名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構	調査指標	分布図
1	08001	旭曜山清光院	一色町 (土岐郡)		至徳2年	真言宗		平治2(1195)年成立。天正3(1575)年武田軍の兵火で焼失か。寛文年間(1661~73)再興。天和3(1683)年快舟中興により西再興。		S8	
2	08003	惠照山正宗寺	北小田町 (土岐郡)		永享年間	臨済宗		本平年間(1429~41)、中野源として成立。天正8(1580)年西再興し、正宗改め。寛文7(1667)年、雲海和尚が正宗寺を勅請圓山とし、電舟院圓寺院として西ノ丸。五輪塔は06056道常寺が焼失した際に移入されたといふ。	H, G	S8	
3	08006	定林山光春院	笠置町公次 内(土岐郡)		慶長年間	臨済宗		延長年間(1598~1615)、藤原朝林の笠置西院により建立。延宝年間(1673~81)に無住となり。元禄5(1692)年08003(天敵寺)と合併して令堂院。	H, G	S9	
4	08007	足羽山普濟寺	柳原町麻原 (土岐郡)		伝正保3年	臨済宗		龜3(1382)年、足羽源頼宣(萩原源氏)に寺地を建立(08007)と伝わる。興滅に遭り、正保3(1565)年に現寺地に再興しと伝わる。興滅を察するため、本堂の裏面に御室、文政年間(1861~64)に08007主境と合併。伝阿源度寺跡からは、少量の中世遺構が発掘されている。		S9	
5	08007b	曾根寺内(伝河原魔守 跡)	柳原町萩原 (土岐郡)		伝承応3年	臨済宗		大延喜寺と云われ、古くより豪族の寺に大延喜と呼す寺號である。源頼宣(1565)年に寺地を購入して、源頼宣の子源頼朝(1568~70)より寺号も授けられ、曾根寺(大延喜寺)と改められた。元和3(1617)年、大仙寺(寺院番号不明)九世法空法弟聖源が曾根山開山。聖源門徒大仙寺の法孫による初代を推し、以前は無本寺。		S9	
6	08009	天照山大通寺	土岐町益見 (土岐郡)		永禄年間以前	臨済宗		天照寺曾根上に云ふ古くより豪族の寺に大通寺と呼す寺號である。源頼宣(1565)年に寺地を購入して、源頼宣の子源頼朝(1568~70)より寺号も授けられ、曾根寺(大通寺)と改められた。元和3(1617)年、大仙寺(寺院番号不明)九世法空法弟聖源が曾根山開山。聖源門徒大仙寺の法孫による初代を推し、以前は無本寺。	G	S9	
7	08012	須彌山神社	陶町大川 (恵那郡)		延徳2年	臨済宗		延徳2(1490)年、東濃安濃郡須彌山により成立。安政年間(1854~60)焼失して文政年間(1861~63)に再興。	G	09	
8	08013	長富山延喜寺	山田町下山 (土岐郡)		永正4年	臨済宗		かつて延喜寺と云ふ跡地があり、永正4(1507)年、難波が短玉堂として創建。現の延喜寺は隣接する山田寺跡で御志寺、反輪寺が統合されており、古寺堂宇の可能性も考えられる。	H, G, I	S8	
9	08017	大慈山通願寺	西小田町 (土岐郡)		明和5年	臨済宗		永正14(1513)年、足羽国正善が「万願」に住持(住御堂風呂)を詔給。正保3(1565)年に通願院創立し、延喜寺と合併。明和5(1768)年鑿願院が本地に再興。移転元は伏見。			
10	08018	繼善山信光寺	土岐町木暮 (土岐郡)		慶長12年	臨済宗		永正14(1513)年、足羽国正善が「万願」に住持(住御堂風呂)を詔給。正保3(1565)年に通願院創立し、延喜寺と合併。明和5(1768)年鑿願院が本地に再興。通願院元は伏見。	H, G		
11	08019	金源山興地寺(大雄寺跡)	稻泽町小里 (土岐郡)		元和9年	臨済宗		慶長6(1601)年、小里光明の普度寺として小里光親開基。当林開基(1601)年、城主の小里忠政により銭出し、前身である大雄寺(現在の寺)に再興。通願院元は伏見。	H, G	S9	

12 第5章 東濃圏域の寺院

表13 瑞浪市寺院一覧表(2)

番号	寺院番号	史跡	山(里)号	所在地 (山都名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構	調査 結果	分布図
12	08023	慶風山開元院		日吉町 (土岐郡)	不明	曹洞宗	鎌倉朝土岐氏にかかる古廟を前身と伝わるが詳細不明。嘉吉3(1443)年土岐頼元開基、月泉圓山により成立。本尊は土岐市21006定林寺から移されたとの伝承あり。また創建当時は現在より北方に所在(位置不明)し、天正年間(1573~92)の火災後に現在地に再建。	G		NB
13	08024	増福寺旧境内		日吉町 (土岐郡)	中世か	青龍宗	本文参照	本文参照	40	NB
14	08026	佛日山明白寺		明野町山野内 (土岐郡)	永禄年間以 前	臨済宗→ 黄檗宗	本文参照	本文参照	44	NB
15	08030	藤谷山續宗寺		明野町芦村 (土岐郡)	明治14年	?	天台宗	本文参照	46	NB
16	08031	光善寺(土岐頼貞墓)		土岐町中島 (土岐郡)	13世紀初頃 か	?	臨済宗	土岐光衡開基。建武の頃、頼貞により臨済系寺院として改宗再開山し東界寺に改称。開山は仏光または夢想國師。頼貞とその祖先・土岐氏累代の菩提寺。後失傳時期不明。頼貞の宝篋印塔には、應永2(1395)年の刻印ある。	IL, G	NB
17	08033	瑞櫻山妙寺(慶安裏面造 繕)		土岐町 (土岐郡)	寛文7年	天台宗→ 臨済宗	創建以前に小堂があり。三郎一人が死んだ(812)年に瑞櫻山能妙寺として創建。元和2(1616)年、範丈大に他失したが、森浜可と土岐信友によって再建。賢哥が寛文7(1667)年に現本堂の再建。明治10(1877)年に信光寺の受け持ちとなる。	本文参照	48	NB
18	08033b	(櫻寺造跡)		土岐町 (土岐郡)	弘化3年					NB
19	08034	円通寺觀音院		日吉町 (土岐郡)	伝室町時代	不明	室町時代の寺院と伝わるが、詳細不明。円通寺。円通寺などと呼び、地名残る。現在は、小堂や塀のみ。	IL, G	NB	
20	08036	天德山靈峰寺		土岐町天徳 (土岐郡)	不明	不明	室町時代の寺院と伝わるが、詳細不明。圓徳寺。圓徳寺などと考へられているが、位置不明。			
21	08037	台宗寺		土岐町益見 (土岐郡)	不明	不明	文宗寺とも。室町時代の寺院と伝わるが、詳細不明。市原氏までは土原氏と阅读あるか。位置不明。	G		
22	08038	信久庵		土岐町安原 (土岐郡)	不明	不明	室町時代の寺院と伝わるが、詳細不明。正中の庵(1324年)の板竹十郎作信久を守った庵という。位置不明。			
23	08040	名庵寺		土岐町鶴城 跡地 (土岐郡)	不明	不明	室町時代の寺院と伝わるが、詳細不明。平原口にあり、寺跡と伝わるが詳細不明。			
24	08041	高松山慈雲寺		小田町 (土岐郡)	弘安3年	不明	鶴野圓照山から削り分けられた慈明尼といふ人が、弘安3(1280)年に此の山の山頂(高松山)に慈雲院を建立。高松山慈雲寺。現在は行持たことうと稱め、その後、時差座すとも嘉慶3(1389)年に三条中村が再建。現は高松山慈雲寺が建つ。	G		NB
25	08042	大法寺		小田町上小 田(土岐郡)	不明	不明	室町時代の寺院と伝わるが、詳細不明。大法庭という地名が残る。位置不明。			
26	08044	阿賀院寺		巣戸町上平 坂(土岐郡)	不明	不明	室町時代の寺院と伝え、土岐頼明(貞和4・正平3(1310)年没)の菩提寺であるとの説はあるが詳細不明。貞和4(1348)年刻印數の頼明と篆印數有るというが、位置不明。	IL, G		
27	08045	大仙寺		巣戸町 (土岐郡)	不明	不明	室町時代の寺院と伝わるが、詳細不明。巣百田の山中にあったというが詳細不明。かつて山中に五輪塔があつたという。百田墓地から岩屋古墳の範囲を踏査したが、遺構は確認できない。百田墓地に無縫塔。五輪塔を確認したが、伝承の中寺寺院との関係不明。	IL, G		
29	08048	比丘尼寺		日吉町 (土岐郡)	不明	不明	室町時代の寺院と伝わる。「美濃御脚記」に記載の比丘尼寺の地名であり、五輪塔があつたというが位置不明。	G		
30	08071	鶴淵山顯光寺		巣戸町輪柄 (土岐郡)	天保11年	不明	輪柄新境地の北の方の山に室町時代中期頃創建され、江戸時代の中興頃廢寺となつた。現在の觀音堂は、廢寺を惜しうだ当時の庄屋が、天保11(1840)年に建てたといふ。旧跡の位置不明。			
31	08085	代官寺		稻津町 (土岐郡)	伝中世	臨済宗	夢窓国師の創建の小堂が代官寺となるも廃絶。元禄16(1703)年に足利義教が創建するも天保年間(1830~44)に跡無往。明治に廃絶し、08007賈齊寺に合併。旧跡は大牧地区的墓地。			
32	08087	(伝)心宗寺		稻津町萩原 (土岐郡)	伝正和3年	不明	本文参照	本文参照	50	NB
33	08097	天德寺		土岐町一日 市郷 (土岐郡)	不明	臨済宗	土岐先祖の土岐頼貞開基と、神子の北の外邊寺。治承4(1170)年に河内守に付与されるが発見し、斎藤氏が寺領を山中の岩窟に移したのが8000石の岩窟寺の起源と推測されるが伝わる。また08011正徳寺の前身とも伝わるが不詳。位置不明。			
34	08107	優慈羅見寺		土岐町下長 (土岐郡)	不明	不明	08102下沢弘法堂付近には「優慈羅見」との地名(字名)が残り、優慈羅見寺なる寺院が所在したと伝わる。08033般若堂が森長可によって作られた時、当寺も焼かれたといい。詳細位置不明。			
35	08108	(伝)種室裏院 (奥之院)		土岐町 (土岐郡)	中世	不明	本文参照	本文参照	52	NB

表14 瑞浪市寺院一覧表(3)

番号	寺院番号	史跡	山(里)号	寺院名	所在地(市町名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構	調査時期	分布図
36	08109	(八幡ヶ峯遺跡)	土岐町・福井町小里(土岐郷)	9~10世紀	不明	過去に近鉄で工事が実施された際に多くは瓶の他石器の遺物が出土したといわれることから、9~10世紀頃の古代の寺院跡の可能性を考えられる。遺跡範囲中央に広い平坦面を確認。	瓶類、瓦陶器、織錦陶器		N9		
37	08111	(小畠新城跡)	福津町小里(土岐郷)	中世	不明	本文参照		本文参照	S4	N9	

表15 瑞浪市参考寺院一覧表(1)

番号	寺院番号	史跡	山(里)号	寺院名	所在地(市町名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構
1	08004	延喜山天祖寺	益田町町原(土岐郷)	延宝8年	臨済宗	元和2(1616)年、馬場半左衛門昌次が小庵を中切地区の八幡神社に併設した。延宝3(1680)年、馬場利尚が父親を引摺て天祖寺とし、現在地に移転。寺伝では、馬場半左衛門昌次が父親の喪撫として元和2(1616)年に建立したという。馬場氏の天祖寺。	G		
2	08005	雲松山大光寺	明里町月吉(土岐郷)	不明	臨済宗	往古は月吉の神宮寺として成立と伝え。また慶長年間(159~1615)再建といいうも詳細不明。明暦3(1657)現在地に再建。文化5(1808)年に倒れ、仙蹟によつて中興。	B, G		
3	08010	繼靈山宝珠寺	益田町萩之島(土岐郷)	不明	臨済宗	龍門寺源丈船寺光孝寺系下の前身があるが、成立時期不明。延宝4年妙心寺派に転訛。元禄5(1692)年に08006大歎寺西園大堂の要請により天祖寺末寺として中興。無外一有形物。	B, G		
4	08011	天徳山正原寺	士崎町一日市場(土岐郷)	承応2年/明暦2年	臨済宗	古くは08007天徳寺の延命地内になり、中度天徳寺に開闢ありと伝わるも詳細は不明。承応2(1653)年若しくは明暦2(1656)年、馬場組益の開山。			
5	08014	東玉山豪松寺	明里町戸狩(土岐郷)	不明	臨済宗	寛永3(1626)年成立。真享3(1680)年高畠組西院。かつて、近には「豪松院前御堂」と「花園」の地名が残つていたが区画整理で消失。位置不明。			
6	08015	楓恩山禪体寺	上野町市原(土岐郷)	不明	天台宗→臨済宗	08023日妙寺系下の天台宗寺院として成立説承すると伝わるが詳細不明。正徳3(1713)年出山組西院。安政2(1855)年本堂再建。			
7	08016	阿泉山宝昌寺	陶町麻爪(恵那郡)	寛永13年	臨済宗	寛永13(1636)年、國豊聖公圓山により成立。前身については不詳であるが、町前半壁建立と思われる宝徳院跡に基がある。	H		
8	08020	勝願山長見寺	山田町(土岐郷)	寛文4年	臨済宗	古くは長山勝願寺といひ長山是見寺といひ、前身あるも詳細不明。現存直棟と俗名同一か、寛文元(1661)年佐藤氏が前身に入り、同4(1665)年移じられ現在地に智勝院長見寺として再興。延宝7(1679)年(-)淀川明和6(1769)年とも)宗闇院跡至延應として再興。			
9	08020b	佛勝山至重寺	山田町(土岐郷)	不明					
10	08021	慈日山慈照寺	日吉町(土岐郷)	不明	曹洞宗	古くは日吉宮の神宮寺とも西院神社別当寺とも伝えられるも詳細は不明。寛文7(1667)年御井外敷、別院・内院。			
11	08022	樂王山宝林寺	官前町(土岐郷)	不明	曹洞宗	寛安4(1651)年井伊牛飼諸連山により成立だが、寛永5(1628)年の頃あり。また、宝林寺由来あると豪爽を記した小庵が前身として存在。宝永元(1704)年、御井重山中興。			
12	08025	正法寺	湯野水上(郡部)	不明	曹洞宗	貞享2(1685)年、繼靈真徹高山により舟円寺として成立というが、寛永・正徳(1648~54)の帳あり。前身して地蔵院があつたというが、詳細不明。			
13	08028	土岐教会	土岐町(土岐郷)	不明	日蓮宗	自治体史等に記載なし。現存は廃寺で空地。			
14	08029	日蓮宗善戸信友教会	善戸町(土岐郷)	不明	日蓮宗	自治体史等に記載なし。寺があったと考えられる場所に「社宮跡跡」の碑を確認。			
15	08032	名越龜音堂	土岐町(土岐郷)	不明	不明	成立時期及び沿革不明。小堂が建つ。	H		
16	08039	帝觀寺	土岐町市原(土岐郷)	不明	不明	市原に地名のみ残る。成立時期及び位置不明。			
17	08043	神智寺	山田町下山田(土岐郷)	不明	真言宗	栗町時代の寺院と伝わるが、寛永15(1638)年或いは寛永年間(1624~44)創建ともい。明治初めまで八幡神社に併設。近世には真言宗高野山巣栗庵院末寺。			
18	08047	香代山延壽寺	日吉町(土岐郷)	不明	不明	成立時期及び延寿寺明。かつて尼寺が存在したと伝わる。	G		
19	08049	高光庵	寺戸町戸野(土岐郷)	不明	曹洞宗	近世寺院。08022宝林寺末寺。寺戸戸にあったというが位置不明。明治廢寺。			
20	08050	淨庵庵	寺戸町戸野(土岐郷)	不明	曹洞宗	近世寺院。08022宝林寺末寺。寺戸戸にあったというが位置不明。明治廢寺。			
21	08051	通照山天日寺	東原(土岐郷)	不明	不明	近世寺院。東原にあったというが、位置不明。明治廢寺。			
22	08052	更治山延久寺	山田町(土岐郷)	不明	不明	近世寺院。宝源(1751~64)出名。山田にあったというが、位置不明。			
23	08053	坤宮寺	小田町(土岐郷)	不明	曹洞宗	近世寺院。小田にあったというが、位置不明。明治廢寺。			
24	08054	権善寺	小田町(土岐郷)	不明	不明	近世寺院。文政(1818~30)出名。小田にあったというが、位置不明。			
25	08055	利生院	東原(土岐郷)	不明	不明	近世寺院。享保(1716~36)出名。東原にあったというが位置不明。			
26	08056	溫常寺	小田町(土岐郷)	近世	不明	近世寺院。正宗寺西隣の「高松山開創大悲山尊勅願総起」の経蔵に「道城寺」として彌される。小田西基義あたりに所在したとされる。玉輪寺は正宗寺が引き継いだとい。			
27	08057	定光寺	土岐町市原(土岐郷)	不明	不明	近世寺院。市原にあり、地名が残るというが、位置不明。			
28	08058	快寿院	土岐町一日市場(土岐郷)	不明	不明	近世寺院。一日市場にあったというが位置不明。			

14 第5章 東濃圏域の寺院

表16 瑞浪市参考寺院一覧表(2)

番号	寺院 番号	寺 跡	山(里)号	所在地 (旧郡名)	建立時 期	宗派	沿革等	遺物、遺構
29	08059	般若寺		上野町 (土岐郡)	不明	真言宗	天保5(1834年)の棟札に「小御堂山般若寺」と記載。幕末に魔寺となり近隣の大通寺の管理となる。山号は現在、込辻山と記されるが、もとは小御堂山であったと考えられる。上平藏合堂は後承。現在は築云所に改築されている。	B, G
30	08060	圓麻庵		土岐町大草 (土岐郡)	近世	真言宗	近世寺院。天和二年(681～670)出名。08018併光寺木。大草。定光寺(圓麻庵)の神室帳に「大通魔寺」の記載があり、当寺の源記とも考えられるが不詳。現在、薬師堂が建つ。	
31	08061	賢能寺		土岐町鶴城 (土岐郡)	不明	不明	近世寺院。棟札に善上。鶴城段傍りにあったというが、位置不明。	
32	08062	寶宝院		土岐町益見 (土岐郡)	不明	不明	近世寺院。寛文(1661～73)出名。益見にあったというが、位置不明。	
33	08063	常闇院		土岐町益見 (土岐郡)	不明	不明	近世寺院。文政(1818～30)出名。益見にあったというが、位置不明。	
34	08064	王藏院		土岐町桜堂 (土岐郡)	不明	不明	近世寺院。桜堂にあったというが、位置不明。	
35	08065	持法院		土岐町桜堂 (土岐郡)	不明	不明	近世寺院。桜堂にあったというが、位置不明。	
36	08066	大桑院		土岐町桜堂 (土岐郡)	不明	不明	近世寺院。桜堂にあったというが、位置不明。	
37	08067	地福院		土岐町桜堂 (土岐郡)	不明	不明	近世寺院。桜堂にあったというが、位置不明。	
38	08068	鏡明院		土岐町桜堂 (土岐郡)	不明	不明	近世寺院。桜堂にあったというが、位置不明。	
39	08069	羽尾山 極楽寺		並戸町中切 (土岐郡)	不明	不明	寛永6(1629年)には焼失しており、正保3(1646年)に再建礼直により再興。中切地に或いは府治前に所在したといわれ。08046(B)宿石田魔寺・08099百田島地が当寺に開闢するとも考えられるが不詳。	
40	08070	梅敷庵		並戸町中切 (土岐郡)	不明	不明	近世寺院。中切にあったというが、位置不明。明治廢寺。	
41	08072	日光山 福寿寺		日吉町平原 (土岐郡)	不明	不明	近世寺院。平原にあったというが、位置不明。明治4(1871)年廃寺。	
42	08073	田代山 松光寺		日吉町原 (土岐郡)	不明	不明	近世寺院。原庭にあったといい、寺跡や五輪塔が残るというが位置不明。明治4(1871)年廃寺。	G
43	08074	永法寺		日吉町深沢 (土岐郡)	不明	不明	近世寺院。深沢にあったというが、位置不明。	
44	08075	東寺		日吉町白倉 (土岐郡)	不明	不明	近世寺院。白倉にあったというが、位置不明。	
45	08076	幽藏院		日吉町袖久 手(土岐郡)	不明	真言宗	中山溫綱丸手府の南端に位置し、真言宗に属して当主は代々修驗者であったが、明治維新により廢寺。位置不明。	
46	08077	実相院		日吉町宿 (土岐郡)	不明	不明	近世寺院。宿にあったというが、位置不明。明治廢寺。	
47	08078	明宝院		日吉町宿 (土岐郡)	不明	不明	近世寺院。宿にあったというが、位置不明。	
48	08079	宝相院		日吉町宿 (土岐郡)	不明	不明	近世寺院。宿にあったというが、位置不明。	
49	08080	進宝院		日吉町宿 (土岐郡)	不明	不明	近世寺院。宿にあったというが、位置不明。	
50	08081	大桑院		明世町月吉 (土岐郡)	不明	不明	近世寺院。正徳(1711～16)出名。月吉にあったというが、位置不明。	
51	08082	大慈庵		明世町山野 内(土岐郡)	不明	不明	近世寺院。元禄8(1695)年、土岐頼礼集出名。山野内にあったというが、位置不明。	
52	08083	福向寺		福津町小堀 第之宮 (土岐郡)	近世	臨済宗か の石柱	近世寺院。享保(1716～30)出名。08019興徳寺本。大洞造跡南側の高地上に「福向寺跡」の石柱。玉輪塔が残る。福光寺ともいう。	G
53	08084	長慶寺 (長慶寺道跡)		福津町小堀 利広 (土岐郡)	近世	不明	近世寺院。宝永(1704～12)出名。定光寺(福井市)所蔵の「洞空帳」に「長慶寺」の記載があり当寺のこととも考えられるが詳細不明。	
54	08088	神光寺		福津町萩原 小井戸 (土岐郡)	享保3年	不明	寛保3(1718)年、多治見(1410)二門寺の末寺として金毛、江嶽らによって成立。明治7(1874)年廢寺。現小井戸靈園。	B, G
55	08089	福光寺		福津町萩原 (土岐郡)	不明	不明	近世寺院。萩原大削にあったというが、位置不明。明治廢寺。	

表17 瑞浪市参考寺院一覧表(3)

番号	寺院番号	史跡	山(里)号 寺院名	所在地 (里地名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構
56	08090		真珠庵	船津町 (土岐郡)	不明	不明	近世寺院というが、08087心宗寺の跡地であった可能性があるという。位置不明。明治廃寺。	
57	08092	広徳庵		船津町小里 羽庄 (土岐郡)	不明	臨済宗	近世寺院。08019徳庵寺。羽庄にあったというが、位置不明。明治廃寺。	
58	08093	仙寿院		船津町小里 (土岐郡)	不明	不明	近世寺院。天和(1681~84)出名。八幡神社社僧で小里にあったというが、位置不明。明治廃寺。	
59	08094	円福寺		船津町小里 (土岐郡)	不明	不明	近世寺院。享保(1716~36)出名。八幡神社社僧で小里にあったというが、位置不明。	
60	08095	永泉寺		船津町小里 (土岐郡)	不明	不明	近世寺院。享保(1716~36)出名。08019徳庵寺。小里にあったというが、位置不明。明治廃寺。	
61	08096	大應院		土岐町 (土岐郡)	不明	不明	近世寺院。安政(1854~60)出名。小里にあったというが、位置不明。明治廃寺。	
62	08102	下沢弘法堂		土岐町下沢 (土岐郡)	天明年間	不明	天明年間(1781~89)に龍音寺建立。大正9年弘法大师を迎え、さらに大正15(1926)年に弘法堂を建立。	II, G
63	08103	名尾弘法堂		土岐町名尾 (土岐郡)	不明	不明	弘法堂不詳。弘法堂と五輪塔の跡材が残る。	G
64	08104	奥名弘法堂		土岐町奥名 (土岐郡)	不明	不明	舟革不詳。山中に弘法堂と、宝鏡印塔、五輪塔が残る。弘法堂周辺にいくつか平塚があるが、寺に関する遺構が不詳。	II, G
65	08105	羽庄觀音堂		船津町小里 羽庄 (土岐郡)	不明	不明	弘法大师を祀る觀音堂が建つ。傍らには石仏、五輪塔が残る。	G
66	08106	宿弘法堂		吉日町前 (土岐郡)	不明	不明	弘法堂はかつて約200m北側の山腹に所在したと伝う。五輪塔が残るが、それに伴い移動している可能性がある。	G
67	08110	龜応禪寺		美戸町 (土岐郡)	不明	不明	峯戸に所在した尊応寺とを考えられるが、成立時期や位置不明。	

表18 忠那市寺院一覧表(1)

番号	寺院番号	史跡	山(里)号 寺院名	所在地 (里地名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構	調査 結果	分布図	
1	10001		延寿院	大井町 (忠那郡)	天文年間	真言宗	天文年間(1532~55)、内林妙開祖により成立。本尊の薬師如来像は行基作と伝わる。横渠御教會とも。		III		
2	10003		瑞雲山 樂宗院	蔚村町 (忠那郡)	慶応年間	淨土宗	慶長6(1601)年、岩谷城主松平家業の普提寺として龍藏寺成立。寛永15(1638)年龍藏寺が廢止し、その旧院に丹羽氏の普提寺守護官である松平守義が改めて樂宗院と名づけた。現在の本堂は江戸時代のもの。昭和3(1928)年、松平乗舟(ゆきよ)に上りこの庵を一帯と改め、隠居夫人の謡号により瑞雲山樂宗院と名づけた。昭和年間(1965~68)に寺域を取払い、大通寺瑞雲院常に移転。成立時の位置不明。				
3	10005		瑞照山 淨光寺	蔚村町 (忠那郡)	慶安2年	真言	三河の内藤泰太郎(信三)開創。天文年間(1532~55)篠田昌長が石山本願寺を攻めた時、牛久城主に仕えていた内田繁右衛門筋の子孫たが、後継者を求めて上河内郡に下り、一寺を開創して瑞光寺となる。後継主(松平家業)が蔚村へ国領となり、祐正も蔚村に移り、初めは瑞照山開創寺を領を承認。慶安2(1649)年熊野の地が争奪に不穏があったため、現在地へ移転。		II		
4	10006		久遠山 靈仙寺	中野町 (加茂郡)	明治13年	真宗	靈仙寺、規定寺という1005年心願の末寺であったが、この立場は長禄二年(1657~87)の切絶え、今は地名が残る。明治の頃は久遠寺と書く。久遠寺はもと1005年に靈仙寺に、明治13(1880)年鳴井磨合令が久遠山靈仙寺を創設。		II, G		
5	10007		上平山 玄義寺	引智町 (忠那郡)	慶長年間	真言	慶長年間(1596~1615)宝地院によって創設。江戸木期頃に施設、沿革の詳細は不明。		III		
6	10008		懶妙山 普通寺	長島町中野 (忠那郡)	昭和38年	真宗	永正3(1506)年、近江國甲斐佐兵衛の勅願基が天台法相に請し成立。永正15(1564~21)の末、淨土真宗に転宗。大正9(1920)年に近江国から長島町中野に移転し、昭和37(1962)年に現在地に移転。				
7	10010		久昌山 安住寺	明智町杉野 (忠那郡)	永禄4年	伝香齋宗 →臨濟宗	永禄4(1561)年、小庵の跡に、遠山景行公の室である安住尼が開創として創設。元龜3(1572)年、景行が上合戦役に敗れて自害し、その遺体をひそかに安住寺山中に埋葬した。寺伝では、尊崇院光国尊玉の初期開基として建立され、六代目から臨濟宗に転宗したと伝わる。		II		III
8	10011		松林山 靈祥寺	明智町吉良 見 (忠那郡)	天文年中頃	臨濟宗	昔小寺があつたのを、霊祥寺見(明知道山成二代丸英の室)開基により成立。天文年間(1573~82)。遠山利長が霊祥の跡なり。この小寺に比叡院殿(兼行)の行持が安置してあるのをみて、山林九町歩を寄進したという。靈祥寺中興開山である板室を勘証し。当寺の開基としている。		II, G		IV

表19 恵那市寺院一覧表(2)

番号	寺院番号	寺跡	山(里)名	所在地(旧郡名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構	調査略歴	分布図
9	10012	天祐山 寛光院		岩村町富田 (恵那郡)	不明		本文参照			
10	10012b	東光院(城内)		岩村町富田 (恵那郡)	天文元年以前	臨済宗		本文参照	56	N10
11	10014	福山 円通寺		山岡町上手 向(恵那郡)	中世	臨済宗	1005円門寺の題記に通玄院(円通院とも)があったが、円門寺の後失して浮舟の寺となっていたのを、上手向西尾氏らの願によって上手向八つ印へ移し。元龜3(1572)年頃に柱堂音闇開山とし福山円通寺と名付けた。元和2(1616)年再興。			N10
12	10015	飯高山 萬勝寺		山岡町馬場 山田(恵那郡)	天文安2年	天台宗→ 臨済宗	本文参照	本文参照	58	N10
13	10017	白峯山 成代寺		三郷町野井 (恵那郡)	天文2年以降	臨済宗	慶長4(1599)年、安室公義が野井島因房に小庵を創立。行基作と伝わる一丈圓音像を小庵に安置し、のち法輪寺を創立。天正2(1574)年、太田勝頼と東畠攻城による兵火に遭い法輪寺全焼。元和2(1616)年、威代親の一族三公は審泰によって圓音像のあるところを知り、これを迎えて堂を建立し、円通山大悲寺(1009円松林寺)と名付けたという。また臨済宗深谷門臨済祖の記した圓音師傳記によれば、明暦2(1606)年に40余年ぶりで圓音像が上手より曳き出されたので圓内昌昌を勧め、飯山萬勝山再現寺(萬勝寺)を建立したともある。	H, G		M10
14	10019	天祐山 全雄寺		明智町東方 (恵那郡)	大永年間	臨済宗	人水元(1521)年、とうせんぼう(應仙坊)にて、釋迦院があり、柏庭として西院の廟として。天保元(1680)年半沢から高瀬に移転(寺伝では、庵を移したのは天正2(1574)年)。寛文10(1670)年に本山の直承。			010
15	10020	大明山 龍藏寺		明智町 (恵那郡)	慶長元年	臨済宗	大永元(1521)年、とうせんぼう(應仙坊)にて、釋迦院があり、柏庭と西院の廟として。天保元(1680)年、道山利景は、明知義之北に淨蓮道を遷じて淨蓮院を建立。龍藏院を龍藏寺に改称。この時の龍藏院は、中央部の堂宇を以東龍藏寺は、代々道山氏の菩提寺となり、御嶽山の下屋である水田家も、長良家もこの寺を菩提寺とすることを許された。	H		010
16	10021	龍道山 常久寺		三郷町佐々 木村(恵那郡)	元和元年	臨済宗	文龜・永正15(1512)～15(1513)年の頃。僧仰月源が佐々良木森ノ洞に庵を建て龍道山常久寺と名付けた(1602年)。文龜元(1611)年、月光開創、寛永(1625)年、慈眼院と改称。この中の慈眼院の名が慈眼院(慈眼)・(慈眼院御懶の上)と建立。乳頭禪院を開山とし、慈眼院開光と結請請願して。元和元(1615)年、足立庄右衛門が現在の境内寺内を寄贈。現在も主堂。元禄15(1702)年に昌沢山と改称。旧常久寺には、山体内に參道と思われる道を認める。	H, G		
17	10021b	常久時泊境内 (註常久寺跡)		三郷町佐々 木村(恵那郡)	不明					89
18	10024	繼松山 靈現寺		武豊町竹折 (恵那郡)	嘉吉2年	曹洞宗	嘉吉2(1442)年、真言津源によって平野が現在の靈現寺にて寺を創建。寛永1(1624)年失火で全焼したが、同治16(1861)年玄秀和尚再建。その後、中津川市06207大林寺三世徳友支派和尚が開山として再度開創。	I		89
19	10026	東巖山 盛久寺		山岡町馬場 山田(恵那郡)	不明	曹洞宗	慶長2(1597)年頃。諸国福島中の三河宝飯郡の伊勢石宿敷が白雲庵を移す。戰山と大山の者が他失したと、豪農後藤藤右衛門が新設山とし白雲庵を引き受けるよう願い出。白雲庵は、部の休憩所を設けて開創したとし。白雲庵は東巖山盛久寺と生れおそれ変わった。残れりもはと源井の高台西側にあったが、大火にあって現地へ移転したという伝承あるが、移転時期不明。			
20	10027	圓王山 林昌寺		山岡町原 (恵那郡)	J戸時代	天台宗→ 曹洞宗	本文参照	本文参照	62	N10
21	10033	興因山 廣乗寺		岩村町 (恵那郡)	明治以降	?	圓峰院の裏見弘開創。正元(1299)年佐良職開山。もと圓峰山開基寺と称した。始めは城山圓峰の古老庵に臨む地点にあつたという。慶安年間(1646～52)妙仙寺子代斧崎守綱中房、妙仙寺末となり、城下町上町屋の木戸の門に移転。後、曹洞宗に転向。明治以后山4才の為寺領削減し、再度移転。上町より以前に大路にあったことが知られるが位置不明。			
22	10033b	廣乗院(城内)		岩村町 (恵那郡)	慶安年間					
23	10034	久昌山 盛藏寺		岩村町 (恵那郡)	寛永15年	曹洞宗	天正18(1590)年、上州郡若原(上野原)にて松平家業が父親の為に建立。圓峰山圓峰院。慶長6(1601)年、松平家業が岩村城主となり当寺を岩村城に移転。寛永15(1638)年松平氏が苗村に移封となり、当寺も苗村に移転。現在の盛藏寺はこの時に有力町人が創立に住持を迎ひ復興。			N10
24	10035	法昌山 長榮寺		長島町中野 (恵那郡)	天和元年	曹洞宗	慶長5(1600)年、圓峰町1006大聖山圓峰寺から正應院全が來り、大崎に宝福庵を建立。寛文元(1661)年、法昌山長榮寺と改稱。天和元(1681)年、中尾山威成院跡地に移転。宝福庵の位置不明。			

表20 恵那市寺院一覧表(3)

番号	寺院名	史跡	山(里)名	所在地(旧郡名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構	調査結果	分布図
25	10036 福薙山長圓寺			大井町(恵那郡)	慶長2年	天台宗→律宗→臨濟宗→曹洞宗	慶長19(1614)年にまとめられた再興縁起は、「大宝2(702)年行基が草創し、自ら名んだ福薙菩薩像を安置した」と極肯定的と記載される。天保朝の御家寺として、天保17(1816)年に御家寺に承認され、小太鼓を奉たれた。文政3(1816)年、御札として大況によって火除を許している近くの大慈山長谷寺の延慶を行き、大慈の山證と向こさせ、寺を福薙山長圓寺と改めた。永正元(1511)年、近郷の神社仏堂は兵火のためにごとく焼かれてしまったことと伝える。慶長元(1596)年に徳源和尚が招かれ、慶長2(1597)年寺号を福薙山長圓寺とし、再建した。			W10
26	10036 長圓寺内(旧長圓寺跡)			大井町(恵那郡)	伝大宝2年					W10
27	10038 不老峰御廟		武蔵町藤原	延宝4年	青柳宗	文明左間(1469~87)に尾張國大草野の城主西尾式部道木が刈安山に塔頭を構え、延宝3(1611)年に刈安城の城門に面する藤原里。木曾川に面して丘陵地に寺院を建設し、道木の臣割地大草の延慶寺三世御庵を招き住持とした。延宝4(1676)年、陽山が旧境内地より約3丁程西の西山の丘陵地に移転。		H, G		
28	10038b 興善院(旧境院跡)		武蔵町藤原(旧境院跡)	(恵那郡)	延慶3年					W9
29	10039 龍雲山普門寺		山岡町下手向(恵那郡)	中世	曹洞宗	今伝によると初代の田前守吉貞は延長10(1665)年没す。墓石については他社あり、10026盛久寺の史傳「太鼓・築木」に、「盛久寺・石笠室御僧が寛永16年(1639)～4年(1643)に龍雲山普門寺を創立し、寺門を開山門と称す。自らを開山と称し、寺門は普門二世に執らせた」という。		H, G	S10	
30	10041 円通寺		良島町正家(恵那郡)	元龜3年以前	タ→曹洞宗	元龜3(1572)年の武田勝利岩村攻めにて、円通寺の前身と考えられる龍雲山の青松山龍雲寺という寺が、他の寺院同様滅失。また、慶長元(1596)年、正家家臣、直瀬重矩が親宣面にしたといいう延慶寺しが記されており。円通寺の前身として寺か龍雲寺があつたと思われる。正保4(1647)年、中津川市60027林寺の境外立派地を始祖とし、曹洞宗として開闢。		H, G	W10	
31	10047 乾壽山妙法寺		岩村町殿(恵那郡)	承応年間	日蓮宗	承応年間(1652~55)草村城主伊丹氏定開基。九州玉祖妙法華寺と七歌に表し、上人開祖により成立。初の経王山と称したが、數年で難にて定寺草し、興昌院開基聖宗尊仁助王と稱したのでその号によって乾壽山と改めた。				
32	10051 (西善寺跡)		三郷町柳原(恵那郡)	中世	不明	譽峰城主(道山右衛門安政)の菩提寺。天正3(1575)年2月武田勢乱入の折損。三輪塔は城主のものと伝わる。		H, G	N9	
33	10053 (極楽寺跡)		岩村町飯沼根森寺(恵那郡)	平安時代末期	不明	後革不明だが、遺物の年代から平安末期頃から東山初期頃まで存在したと考えられる。出土品等はくじ相當な民衆寺であつたことが想像される。経石には土主三郎屋が自然に篆めて一面に書いたものが多數あり、土主家の寺であることが知られる。土主相は背骨として使用されたと思われる棟、瓦類が多数出土した。		G、須磨器、灰釉陶器、山系鏡、中世陶磁器(古窯戸・唐物)、経石、宋鉢、經綱		N10
34	10054 中野方山心穂寺		中野方町(加茂郡)	宝曆4年	不明	「安弘見伝記」によると、花山天皇の謀団逃走の際、寛弘3(1006)年に心穂寺をついたという記載有。八町四面の寺を勅定した。元治2年(1859)に本堂を新築するのを機会で誠ひ北条仲時修理見付かり、其を机地に成る。元治2年(1859)に新築の本堂により再興するも既而廢。近世初期、京都妙心寺の清覺院元により「ホリ」の地に中力山心穂寺を再興。万治2(1659)年「ホリ」の地から八幡(八幡神社・1005b)の地に元、元禄7(1694)年山岡町地(通称「心穂寺下ノ子」・10054c)に移転し、宝曆4(1754)年10000靈仙寺の位置(10054)に移転。旧跡の「ホリ」の地の地名は現存しないが、字や十日の方位に「ホリ」と称する地がある。「心穂寺下ノ子」の通例には「大門」の地名有。明治初期の新築敷設により廃。明治13(1880)年に心穂寺境内に10000靈仙寺成立。靈仙寺には心穂寺の座替りが残る。				
35	10054b 心穂寺		中野方町(加茂郡)	元禄7年						
36	10054c (心穂寺道跡)		中野方町(加茂郡)	万治2年						
37	10055 (鐵定寺道跡)		中野方町龍定寺(加茂郡)	伝承暦年間	不明	本文参照		T4	L9	
38	10056 (正願寺跡)		東野小野川(恵那郡)	中世か	臨済宗	成立時期及び沿革不明。道跡東側から通路が続き、途中、屋敷跡の石積みを伴う平坦面、房店と小社、墓地を通る。現地には谷川を挟んで両岸に平坦面がある。				W10
39	10057 明照山大円寺(大円寺跡)		岩村町富田(恵那郡)	建武年間	臨済宗	本文参照		本文参照	64	S10
40	10058 長榮寺		山岡町上手向(恵那郡)	中世か	不明	上手向地内に長榮寺という字名が残る。手向鎌今及び上手向に続く台地の東部にあつたといへ。現在この地に阿弥陀堂堂宇があるが關係不明。天正年間(1573~92)の兵火により焼失したと伝わる。		H, G(阿弥陀堂境内)		S10
41	10059 円融寺(円融寺經編)		山岡町下手向(恵那郡)	中世以前	不明	下手向地内に円融寺社の西、町内蔵の常夜灯があった辺りを「円融寺」といへ。円融寺跡からは古代でも中世ともいいう御製金鏡の基盤が出土した。經融圓通には平坂地が広がる。天正年間(1573~92)の兵火により焼失したと伝わる。		H, G、經鏡、經屏		N9
42	10060 (手向魔寺跡)		山岡町下手向(恵那郡)	奈良時代中頃以降	不明	本文参照		本文参照	76	S10

表21 恵那市寺院一覧表(4)

番号	寺院 番号	史跡	山(院)号 山名	所在地 (山地名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構	調査 略歴	分布図
43	10061	武並神社(供 寺(恵那神社 遺跡))	大井町神籠 (恵那郡)	永禄7年	不明	本文参照		本文参照	78	M10
44	10062	(圓通寺跡)	三郷町柳美 (恵那郡)	中世か	不明	成立時期及び沿革不明。谷地形に平坦面が2箇ある。圓通寺跡の南東に小田沢中世墓がある。			89	
45	10064	(比丘尼寺跡)	三郷町柳美 (恵那郡)	中世	不明	成立時期及び沿革不明。谷地形となっている。谷に平坦面が数段あり、基壇状の高まりが見られる。東には比丘尼のようなものも残る。奈良文化財研究所が遺跡データベースには「山茶園出土」とある。		山茶園	89	
46	10067	(聚光院跡)	三郷町佐々 木村 (恵那郡)	中世	不明	成立時期及び沿革。遺跡周辺は西に向かって傾くなるように平坦面が連続する。玉輪塔・宝鏡印塔が散在している。	II, G		89	
47	10068	南陽山 神籠寺 (神籠寺跡)	三郷町佐々 木村 (恵那郡)	中世か	真言宗	成立時期不明。南陽山神籠寺の南側斜面のあったとい う。明治3(1870)年、明治維新的な寺廢寺。享和元(1716)年大 原寺・新義寺・舟形寺の普請による大原若狭600箱入十六羅刹の懸物一 軒があり、隨寺・比丘尼・足利に送されたが、數々復興1002年久に苦 難されぬ。			89	
48	10071	(法仙寺跡)	三郷町野井 (恵那郡)	中世以前か	不明	成立時期不明だが、武田勢が押せた折廃失し廃寺といふ伝承 あり、今名が地名として残る。野井川左岸に平坦地があり低い 石垣が見られる。			810	
49	10075	大円坊教寺 (大円坊道跡)	武並町竹折 (恵那郡)	元亀3年以 前	臨済宗か	大円坊の小字地名は野井川沿いに細長く野井坂までの地形で、 奥山道と思われる河岸が野井坂をたつたのが、野井坂「大上(御上)」 と呼ばれる。元亀3年以前の「大上(御上)か」、臨済宗(照祖寺)の位 置は、大円坊が造られたところと見て地名として伝わる。今名 及び岩村街道に近い位置にあるところから、10057大円寺と隣 關係があつた寺か。元亀3(1572)年に秋山信友により大円寺 が焼かれた際、末寺であつたと思われる当寺も焼失したものと 考えらるる。			90	
50	10077	(東作中世墓)	長島町久須 見山中東作 (恵那郡)	中世	不明	かつては2基の五輪塔があり、平頭にならされたような跡が見 られた。奈良文化財研究所が遺跡データベースには、尼寺伝承地 として登録。	II		89	
51	10080	市 北松山 飛龍寺 (都路遺跡) (飛龍寺跡の 宝鏡印塔)	芦曽町阿合 (加茂郡)		臨済宗	寺の前身は下記にあつたといい。沖津(万治元(1658)年没) により香林院の般舟寺が成立。慶長元(1606)年成立とも右む る。その後、中村市555558菅林和尚の弟子久松左昌が般舟 院をまつて般舟庵を開創。久松以降、雲林寺衆となり、臨済宗 に転宗。寺号も北山院能叟院に改称。慶安3(1650)年、木曾川 の大洪水で流失。寺の位置を坂上に移して再建がはかられ。天 和3(1683)年、郷土古跡藤原九郎により再建。三世玄叟開山。 明治3(1870)年の慶仏寺制により住職は選俗、荒巻寺圓山の本 像や歴代住持等は10009長美寺に安置。	II			
52	10085	勝崩山 大船寺	上矢作町樋 道字竹ノ上 元屋敷 (恵那郡)	寛文11年	真言宗	本文参照				
53	10085b	大船寺旧境内 (大船寺跡)	上矢作町字 高井戸 (恵那郡)	伝天平宝 字・天平神 護年間	伝天平宝 字・天平神 護年間			本文参照	68	011
54	10086	(正家庵寺跡)	長島町正家 (恵那郡)	8世紀中頃	真言宗	本文参照		本文参照	80	M10
55	10087	船岡山 長興院寺 (長興寺跡)	大井町神籠 (恵那郡)	伝7世紀	天台宗→ 律宗	稚古天台(約6~62年)のとき、聖闘太子作の絵み縁書き大井の 三郎がみつけ、東野へ背負ひてきて一室を建て安置したことにはじまる。元慶3(881)年、天台宗の覺圓が堂宇を西興、船岡 山長興院寺と称した。永享8(1436)年の「西大寺大寺」寄宿末 寺帳には「天井井上・長興寺」とあり、西大寺末の悟空系寺 院である。後醍醐天皇の御詔勅から寺號を守り、寺號を倉持間に悟空に転写したも のである可能性がある。また、別の縁書きは、文政元(1818)年 ~707)や御詔明の御大丈人経書の般舟長子がこの縁書きに別紙し て得たという。延祐時期は不明。	G			M10
56	10088	阿弥陀堂 (阿弥陀ヶ根 遺跡)	東野 (恵那郡)	不明	不明	建保2(1212)年、西行建立。その後荒廃するが、家町後際に木像を祭祀。しかし失せてしまつた。元禄2(1689)年山越鋪ある地阿弥陀根であるため、人々が石仏(高さ5尺)を奉納。現在は木阿弥陀ダムのすぐ下側にあるが、移転前の位置は不明。	II			

表22 恵那市寺院一覧表(5)

番号	寺院 番号	史 跡	山(里)号 寺院名	所在地 (山地名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構	調査 時期	分布図
57	10090	阿弥陀堂 (桑戸半牛堂)	東野桑戸 (恵那郡)		不明	不明	阿彌陀堂の成立時期不明だが、慶元5年(1195)年「東野村寺社新築記」に「三月廿日吉旦地内桑戸山間に二間堂を造 候ハ御半牛堂ニ御作候」とある。所持の御開山印伝には多くの遺物があり、桑戸五輪塔と長慶寺境内で見られた大木の輪塔の輪形台座より、伊勢系五輪塔と位置づけられている。10987長慶寺(長興寺)の奥の院と想定されている。	H, G		M10
58	10092	圓生山 法主寺	長島町久須 木通(恵那郡)		不明	不明	成立時期は応永年間(1394~1428)若しくは永享3(1431)年とい われる。久須村の地名。今井右衛門開基。現在は圓生堂が建 つのみ。元は現在圓生のすぐ北側のやや高いところにあったとい うが、明瞭な平地面は確認できない。現在地への再建時期不明。	H, G		
59	10093	円通閣 若林庵 (若林藏音堂 舎)	武芸町藤田 若林(恵那郡)		伝15世紀	不明	寛安觀音を10038倒葬院開基の西尾道木が迎えたと伝わることか ら10世紀頃成立したか。堂口には圓通閣若林庵とあり、通称 若林觀音。延宝6(1678)年、新堂を建てて圓生音菩薩を祭った。 境内には石塔や石仏が多くある。	H, G		M9
60	10095	市 松林庵 (伝西行院跡 (松林庵))	三郷町野井 松林各(恵那郡)		伝平安時代 末期	不明	大井町近辺には、西行が住んでいたと伝えられる竹林跡があり、松 林庵(まつりんあん)、梅庵(ばいあん)、柳庵(りゅうあん)など庵が残 る。現在梅庵跡を示す標柱が建ち、木田や山林が広がる。 10073感應寺觀音堂は、明治3(1870)年に松林庵から移築したもの。	H, G		M10
61	10096	市 松林庵 (伝西行院跡 (竹林庵))	東野町向島 (恵那郡)		伝平安時代 末期	不明	10095松林庵公園。山腹に小堂が建つであろう10m四方程度ある 広さの平地面があり、石碑が設置されている。			M10
62	10097	市 梅園寺 (伝西行院跡 (梅園寺))	長島町永田 (恵那郡)		伝平安時代 末期	不明	10095松林庵公園。方形の平地面が遺存。現在は梅園庵公園と なっている。			M10
63	10100	赤堀院	岩村町上町 大戸外(恵那郡)		貞享3年	不明	赤堀院を祀った修驗道で奉仕したと民間信仰の通場で、祠とその 礎石が現存する。参道、本堂、中門、庫門、本堂裏門、本堂裏門脇門等 が残る。この丘陵の地形からみると、坐長院、感應院等の修驗院者が いたことと記録にあると、もと10057大元寺(1666)年創立にあたったのを主張。 1666(元和2)年に現在地に移転。城下町方の山の腰の意味があり、 明治創設まで存続。嵯峨御園地(昭和29(1964)年竣工)北側 の斜面に小平地面を確認でき、墓石が散在。寺跡は水没してい る可能性がある。	中世陶器片		S10
64	10101	松王寺 (今尼敷跡)	笠置町蛭栗 (加茂郡)		伝室町時代	不明	本文参照		本文参照	70 M9
65	10102	(白雲寺遺 跡)	笠置町蛭栗 (加茂郡)		伝鎌倉時代	不明	本文参照		本文参照	72 L9
66	10103	(伝金昌寺跡)	笠置町蛭栗 市本(加茂郡)		中世か	不明	代官屋敷の南西の小高い丘を「キンショウケイ」と呼ぶ。金昌寺 は当て字であるが、この呼び名は寺院の名号ではないと思われる。 この丘陵の地形からみると、寺跡といいよりは廃跡にみえ、切り切りや丘頂には10ha程の平坦地になっている。現在は 墓地と頼る。			M9
67	10104	生瀬神社奥社	中野方町 (加茂郡)		寛和2年	不明	寛和2(996)年成立。笠木山大葬視は、笠置山の山上に本社があり、麓の鳥居前平野借合があった。麓の御供社には當(山 代)がいて祭事を行った。神仏習合の影響に伴い、境内には鐘楼 があった。天文11(1542)年または21(1552)年延喜延長が 笠木大權院に梵天寺と寄進。別当は僧院といい近世を経て世襲。 御供社は現在、新瀬神社と笠置神社の前社となっているが、そ の境内のすぐ西に笠置堂がある。			L9
68	10108	中山觀音	串原中山 (恵那郡)		天正2年以 前	不明	中山神社と串原企全の總氏神。成化の由緒書不詳。大和古野郡 金峯神社の分社。串原は遠山氏の荘園所。天正2(1574)年、 武田信頼により串原通氏が滅ぼして以来、村民の手で祭 祀を継承してきた。元禄16(1703)年、御守材山田氏は「鑑 玉堂(二間)御守材山田氏(御守材山田氏)」と記載。本堂若狭 音菩薩(三間)御守材山田氏(後碑)九尺四寸)とある。明治創設の神 分離改修によって、「中山觀音」は「中山神社」といふ改め、 祀られてあった仏像に改め。柄燈籠音堂の御供像は、中山から引 取り奈良へしてきた。			O10
69	10111	龜宝山 円満寺	山岡町久保 西洞前柏崎(恵那郡)		建久年間	不明	本尊薦葉の家臣安佐右エ門鶴巣が、元治元(1864)年大坪村 の後流没して、建久年間(1190~99)西洞に居住。安佐代々 修験宗寺を毎日開くと称し、慶安8(1665)年大坂山から龜宝山円 満寺と允許を受けた。明治初期、新政府の神仏分離の政策で廢 寺。本尊勅動明王1210027林昌寺に預けられ、残っていた本堂も 戦時中火災焼失。位置不明。	礎石、塗		
70	10113	ビクニン寺 (上の御中世 廟)	武芸町藤上 (恵那郡)		中世	不明	上の御中世廟西方の山上にあり。一時期平和公園として整備され たが現在は荒蕪。藤上山頂では、石積と基壇面の小規模な平地 面を確認した。宝蓋印塔3基があつたといい、いずれも15世紀 後葉に北上。	H		M9

表23 恵那市参考寺院一覧表(1)

番号	寺院番号	史跡	山(里)号	所在(地)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構
1	10002	成田山 明智大教会	明智町 (恵那郡)	不明	真言宗	成立時刻及び沿革不明。皆山派。		
2	10009	雲霧山 長榮寺	笠置町船葉 (加茂郡)	明治14年	臨済宗	寛永に、真文2(1662)年06062雲霧寺草井外別院の雲霧山(安善山とも)長霧(弓削)山号があつたが、明和3(1876)年の應昌院開敷で移し、長霧(安善山)の施作は1且是院と長造と名をもが、同22(1877)年に再び船舟院となり、長榮寺の西側に開設する。上手くいきらず、明村村に移設し寺号のみであつた長榮寺を、同14(1881)年伊藤長霧寺に寺号を移し、同17(1884)年妙心寺の直末に属す。長榮寺は、達山九郎豈豈園、10029龍藏寺2世豈豈園。		
3	10013	瑞鳳山 德祥寺	岩村町飯羽 原(恵那郡)	享保元年	臨済宗	元和年間(1615~24)に美濃加茂市1013瑞鳳寺七世空巣源によって上因幡屋に創建。同寺の末寺となり徳祥寺といつた。享保元(1716)年頃、火災により焼失したので現在地へ再建し、寺名も徳祥寺と改稱。明治5(1872)年頃一世石體志所のとき妙心寺領に属す。		
4	10016	慈眼山 圓通寺	山岡町原 (恵那郡)	不明	臨済宗	慈眼の寺相不明。		
5	10018	觀音寺	明智町 (恵那郡)	慶長17年	臨済宗	慶長17(1612)年、10029龍藏寺第1世覺治開基。正報音理像は、もと10015萬勝寺に安置してたどり出たもので、利根公が萬勝寺に開創以来奉供してゐる。B, G		
6	10022	祖廣山 自法寺	飯田町字美 坂(加茂郡)	明治39年	曹洞宗	寛文年間(1661~73)、雲霧山御象寺をして成立。中津川市06082雲霧寺末、明治3(1870)年、萬勝院跡に移り開き。同39(1906)年、高安寺木村松潤和院が来て、静岡県藤田郡の自法寺の寺号を移し、06022大林寺(中津川市)末寺として再興。現在は自法寺。自法寺は、大正元(1912)年高安寺木村松潤圓山。		
7	10023	參養山 高安寺	長島町水田 (恵那郡)	慶長19年/ 寛永20年	曹洞宗	御邑府院には慶長19(1614)年草創したが、寺伝では木村村民の要請を受け、義化院を開いていたものとあるが、御邑府院は開いていたものとされる。G		
8	10025	巨福山 長勝寺	長島町久保 兄弟新田 (恵那郡)	寛安元年	曹洞宗	寛安元年(1648)年、中津川市06027大林寺三世徳外友左衛門尚とを迎え開山。平成19(2007)年、久保兄弟新田から庵地に移転。		
9	10028	宝珠山 愛菊寺	山岡町原 (恵那郡)	不明	曹洞宗	前の蓮華寺は成立初期不明だが古くからの寺で、もとここに寺があつたが武田勢によつて焼き討ちのため、火災で逃れた蓮華寺を小笠に祀つたといつた。貞享元(1654)年に蓮華寺として再興され、病魔を払うと言われる背面金剛と両像一堂となつた。	B, G	
10	10029	香林山 眞梅院	中原 (恵那郡)	寛永9年	曹洞宗	寛永9(1632)年3月に盛岡寺の僧宝山丈顕が地蔵松平和守寧の許を、往年の寺地にて寺号眞梅院があるのを利用して開基。寺号の眞梅院の名は規視の90mほど衝天柱にあつた以前の寺地の名を利用したものと伝わる。		
11	10030	經洞山 玉泉寺	上矢作町下 (恵那郡)	不明	曹洞宗	慶長12(1607)年、下・猪坂・小畠の三村が、字谷下寺院を建立、京都を引き連れて山長松寺をしたが、宗實が近畿四國五寺の御靈寺へ移り廃寺。同15年、猪坂が引き同16(1614)年に谷下寺より唐船寺へ移転。經洞山玉泉寺と改称。延宝7(1679)年兵庫で焼失。次第51003盛岡今之代在天を祀き、初代開闢山として自ら2代を立てる。一説には、届内南東寺にあった長松院のお官印下付の二ノ綱が合祀され熊野神社になったといつた。熊野神社内の御堂は近年解体された。	B, G	
12	10031	宝林山 円頂寺	上矢作町 (恵那郡)	江戸時代	曹洞宗	寛永年間(1624~44)、地応(島)により方舟山圓頂寺成立。始め圓頂院内東の川向うの寺原町にあり、「寺原口」という地名を残す。明暦年間(1655~56)、10030經洞寺の天変開山。その後、肥辻は、明暦元(1655)年通州寶林山圓光寺へ移り住むが確実でも、寛文8(1668)年春大火で焼失。伏信は忠志郡圓山の山腹の盛久寺へ移り、武儀郡神領の圓門寺から圓洲が来て、圓門寺に代海盤を圓山とする。	B, G	
13	10032	圓水山 圓光寺	上矢作町 (恵那郡)	寛永年間	曹洞宗	寛永年間(1624~44)、10034圓鏡寺五代全體を破損、肥後圓風により正信寺成立。承応年間(1652~55)に萬光寺へ改称。天文年間(1731~89)尾張国春日井郡今村身の浮舟が来て、圓鏡寺に代海盤を圓山とする。		
14	10037	地久山 天長寺	三郷町野井 (恵那郡)	寛永15年	曹洞宗	寛永15(1638)年、岩村城主井羽氏信の三男權衡氏奉圓風。丹羽家菩提寺大師山圓妙寺の第一世木曾義香を譲り開山。田羽は井光山坂本寺といつた。	B, G	
15	10040	万松山 宗久寺	東野 (恵那郡)	不明	曹洞宗	元和2(1616)年、岩村松平扇守宗田。代官崎木主馬入道宗久が村人達の願いにより廟宇寺を建立。10036長慶寺二世伊集丈圓安開山。(不明)→松浦原懸・東野駅東の庄次坊→寺(坊主墓)→現在地に移転。	G	
16	10046	宗久寺境内 (田代久寺跡)	東野 (恵那郡)	江戸時代		延宝元(1673)年、通州寶圓風。尾張忠良から荒庭していいた寺を当地へ移し新興寺を再興。京都延宝今之代第三代慈林の弟子石澤圓山。大正3(1914)年、九代圓山により、後田から現在地に移転。前院内院には現行惠那東中学校。通字寺は以前の東洋寺への夢道であった。本尊の十一面觀音菩薩は平安中~末期の作ともいわれ武能神社の本地仏と伝わる。		
17	10044	壁日山 聖淨寺	大井町 (恵那郡)	大正3年	黃檗宗	延宝元(1673)年、通州寶圓風。尾張忠良から荒庭していいた寺を当地へ移し新興寺を再興。京都延宝今之代第三代慈林の弟子石澤圓山。大正3(1914)年、九代圓山により、後田から現在地に移転。前院内院には現行惠那東中学校。通字寺は以前の東洋寺への夢道であった。本尊の十一面觀音菩薩は平安中~末期の作ともいわれ武能神社の本地仏と伝わる。		
18	10045	日蓮宗妙寿教 会	大井町 (恵那郡)	不明	日蓮宗	成立時刻及び沿革不明。		

表24 恵那市参考寺院一覧表(2)

番号	寺院 番号	史跡	山(里)号 寺院名	所在地 (郡町名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構
19	10050	松石山 乗政寺	羽村町西郷 (恵那郡)	江戸時代	9→ 曹洞宗	丹羽氏が尾張守兼郡御城主となった時、香樹寺として開創宗妙仙寺成立。丹羽氏は羽村姓主となると、妙仙寺も羽村に移転。天祐堂堂宇の時、丹羽氏が外朝守駿騎姓主として越後に国替され、更に藤川三兵衛に移されたので、妙仙寺も同様に移転。松石山乗政寺は、石川乗政が初めて小笠城主となつて翌年に同地に創立したので、二代松平乗政が岩村に移る時、乗政はも小笠を引き払い羽村に移転。建物は妙仙寺堂宇をそのまま利用。波雲閣。当地は松平家乗政(長徳9(1610))の隠れ菩提寺が普段寺として建てた龍巣寺跡で龍巣寺(大経松平)→妙仙寺(丹羽)→乗政寺(羽村(大経松平))と変遷。	G	
20	10052	天澤成田山 不動堂	羽村町高松 (恵那郡)	18世紀	不明	古くから民間信仰の山で、瀬主松(重慶(1716~83))が成田山から本尊を勧請し不動堂を再建。而今この祈禱の神には庄屋へ參詣を指示する題状が記か発せられた。この山の麓には上の二ヶ瀬があり修業行の水行の場となっている。創始は不明であるが、延享3(1766)年齋叢の縁不動堂再建期というのがある。	石仏	
21	10063	祇音堂 (恵那庚申堂跡)	三郷町桜実 (恵那郡)	享保8年	不明	極楽には祇音堂、庚申堂、地蔵堂があり。明治維新にあたり庚申堂は壊され祇音堂に改め。明和3(1767)年に再建。本尊は享保8(1723)年、彦左衛門と志村氏が主となって開闢した。堂宇には弘化3(1846)年書籍があり、この時に現在の堂が建築したが、		
22	10065	(兼友廬堂 兵木廬堂 (恵那郡))	三郷町佐々 木人形堂 (恵那郡)	近世か	不明	成立時期及び沿革不明。三間四方程度の基壇状の高まりを確認でき、寺に開かる施設があったと思われる。周囲は木垣がある。		
23	10070	成徳院	長島町中野 (恵那郡)	天保年間	天台宗	天保年間(1830~40)作の中野村跡園に、十王堂、十二社宮、感應院の記載有。成徳院は參道御坂、寛文11(1671)年頃學笠装版圖に補記される。現在は1905年長徳寺跡。		
24	10072	(長福寺跡)	三郷町野井 (恵那郡)	近世	不明	近世の社跡跡、現在には壁上に継ぎかな傾斜のある規模平面。道祖神圓界北東の谷地形のコ字に開んだ多積みと複屢座の造り立ちが確認したが守綱の確証はない。近年まで存続しており施主(尼僧)がいた。	石瓶	
25	10073	(集玉寺跡)	三郷町野井 (恵那郡)	近世	不明	近世の社跡跡、舊俗寺があり、その参道脇に小さな平画面が2~3か所確認できる。		
26	10074	(中の庵寺 跡)	東野町中島 (恵那郡)	不明	不明	成立時期不明。もと尼寺跡で、地元では「あんぐら」と呼んでいる。内陣には享保(1716~36)の印、若狭守村と山口守の時の庄屋役であった安田善左衛門の位牌、境内には多くの墓石、供養塔あり。		
27	10076	(了本寺跡)	武並町竹筋 (恵那郡)	近世か	不明	成立時期及び沿革不明。現存は寺号が墨書きとして残るのみ。了本寺のものと伝わる宝蓋印塔が石碑が中央が動車道建設により滅失し、現在は路盤に移してある(位牌不明)。	H	
28	10078	舟宝院 (恵那山道跡)	長島町久賀 見本郷ヒノ 洞(恵那郡)	不明	不明	成立時期及び舟宝院跡。現存の上の本堂より洞の水田に存在し、享保年間(1716~36)に尼僧が居住し、当地区には「大門坂」・「寺尾」といった地名が今でも残り、近くに阿彌陀堂や軋輪堂などがある。かつて多賀の蘇東庵が住む事が出土。		
29	10079	(大通寺跡)	豊瀬町毛呂 原(恵那郡)	不明	不明	成立時期及び沿革不明。寺跡へ至る道路の工事により立ち入りできず、現状不明。		
30	10081	(幸徳寺跡)	苦瀬町糸原 (加茂郡)	寛文2年	不明	寛文2(1662)年頃成立。田澤川に架せられた幸徳橋から糸原の上流に、字幸徳があり幸徳寺跡がある。往昔長勝寺(1000年長寺寺跡)が開基された場、木曾の幸徳村へ移転。平画面や石積みが残るが、幸徳寺に開闢する構造か不明。		
31	10082	(三ツ石遺跡)	武並町膳山 足三ツ石 (恵那郡)	不明	不明	成立時期及び沿革不明。奈良文化財研究所遺跡データベースには尼寺跡と登載。宝蓋印塔が遺跡ともあるが、確認できず。		
32	10083	見瀬觀音堂 (見瀬遺跡)	豊瀬町糸原 (加茂郡)	不明	不明	成立時期及び沿革不明。見瀬山南麓の高台地にある。高台地はかつては見瀬の跡といわれ旧加茂郡と恵那郡の都城。上方に見瀬神社と推定される礎石が残る平塀跡があり、下方に見瀬觀音堂と推定される礎石が残る平坦地があると報告されているが、礎石を見戻すのと同時に建つ平画面を一面のみ確認した。地元の方によると礎石位置は移動しているという。	礎石	
33	10091	合山 長福寺	東野小野川 (恵那郡)	正保3年	不明	元は合山長福寺といい、正保3(1646)年成立。現在は小野川長福堂が建つのみ。享和17(1732)年及び寛政3(1791)年再建。堂、境内とともに1660年承久寺の支配であった。		
34	10094	大越山 長福寺	武並町竹筋 上野(恵那郡)	江戸時代末 期	不明	堂は大越山長福寺といい、元は寺領(今須造跡)にあったものを江戸時代末頃に現在地に移したもの。境内には宝蓋(1716)年の石碑がある。近世の年号をもつ石造物がある。守護遺跡は、現在田畠が広がる。		
35	10094b	長福寺印籠内 (今須造跡)	武並町 (恵那郡)	不明				
36	10098	市	忠山 五仏寺 (大持町)	羽村町新市 大持町 (恵那郡)	17世紀中葉	大持陣跡の跡が今境内にあった。天正3(1575)年、織田家の兵の為に敗れた大持山長福寺とその裏(裏長の板倉)、大森、荒光寺等5人の首領を守る為に建立。松平氏が小笠城からこの間に国替になつたら当寺に遷せられ。本尊は神村松平に覆面され、上野長福寺の跡となつた。大持寺は5人の遺骸を祀ったので、その後の代に廟を祀める忠山五仏寺を建立。天台僧を以て奉祀させた。丹羽氏の伯父、母堂香樹院の食卓も朝鮮にてこの住職になつたが、松平氏の代になり廢寺(元禄15(1702)年)。廟のみ残り、かつては宝蓋印塔があつたとい。	H	

表25 恵那市参考寺院一覧表(3)

番号	寺院番号	史跡	山(里)号	所在地(旧郡名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構
37	10105	(瑞光院経年跡)		岩村町飯羽間(恵那郡)	承応3年	不明	丹羽氏によつて築かれた経年跡で、道路の左に1号・2号、右に3号・4号の4基の五輪塔からなる。1～3号には大型の五輪塔が置かれている。最初に築かれたとみられる五輪塔は元定の子孫である飯羽間の五輪塔である。承応3(1654)年に母方丹羽氏の家臣である伊藤氏の子孫である伊藤重義が3号・4号の五輪塔を土蔵で囲繞している。4号はマウンドのみで五輪塔等の上部構造物はない。	瓦礫、土蔵、G
38	10109	光山寺		明智町常磐町(恵那郡)	不明	不明	成立時期及び沿革等詳細不明。常磐坂が身につけていた如来像を祀り、かつては五輪塔が出土する五輪塔に接する大寺であったといふ。現在は集会所。	H, G
39	10110	大光坊		明智町地頭町(恵那郡)	不明	不明	長閑斎の墓蔵のこととされるが、古車等の詳細は不明。石仏及び石碑が祀らる。小規模な平面圖がある。	
40	10112	平正寺		飯田町沢尻(加茂郡)	不明	不明	成立時期及び沿革不明。1080年墓道跡の入り口に伝内正寺の位置が記載。平正寺跡とは別に同じ位置にあり。円正寺と平正寺は同一の寺を指すか。石積みが散見される。	
41	10114	市(城内六幡宮跡)		岩村町城山(恵那郡)	16世紀初期頃	不明	八幡神・火除神などとされるが、通山岩村氏の氏神として祀る。社地は岩村城の一角にあり、岩村城の裏門に接する可能性もある。近隣には、岩村城・入鹿曲輪の最高所に木戸と御門があり、一段低い場所に神宮寺があり、護摩堂と宝鏡院があった。神宮寺は18世紀以前に豪農寺と呼ばれていたが、これは松平忠興が元治6(1873)年の蓮池遷座には、赤井社(文政6(1823)年造立)の明勅を本殿とし、境内の建造物は破却。本殿跡には元治後醍醐天皇が建立。	基壇
42	10116	山王院		岩村町飯羽間(恵那郡)	不明	天台宗か	寛永20(1643)年延喜寺神社が廃座、延宝5(1677)年に山王大権現が廃座。明治初期に野村神社・山王神社となる。境内參道脇には、日枝神社・白山社・山三神社・熊野神社・阿弥陀堂がある。	
43	10117	西湖山福性院		岩村町飯羽間(恵那郡)	江戸時代か	真言宗	成立時期不明。高野山常寂光院・西洞窟山福性院はともに1099年天台宗に属したが、近年に至り其の色彩衣装をして脚で天王院の右に坐した。寺跡の西湖山に伝説の墓があり。五輪塔、石仏、無縫塔がある。その奥蔵も吉之助が享保3(1718)年。	G
44	10118	顯松山再現寺		三郷町野井(恵那郡)	明暦2年	不明	明暦2(1656)年に40余年ぶりに十一面觀音が出土しより発見されたので境内整備を通じて歌手を建立したという機縁がある。明治初め、神仏分離により八幡神神として祀る。	
45	10119	月光山報本寺(報本寺跡)		三郷町野井(恵那郡)	元禄年間以前	不明	1003年天長年間内の復興堂は、もとは天長にあって「明治初年に移築されたもので、旧日は月光山本寺といった。元禄16(1733)年(並出年)」には、「三間に二間のお堂で、堂宇修理が付属しており段段の下階三段は附段と記される。元禄16年(1688～1704)かそく以前の建」。	
46	10120	小舟山和合院		長島町久須見本郷(恵那郡)	慶長19年	不明	慶長19(1614)年、伏見が小舟山に至り、元の山美神の御鎮の宮殿の地に山舟寺となり。伏見の御所兼御所を小舟山の寺院と称した。元禄12(1699)年宗教活動が盛んだったが、昭和39(1964)年火災で全焼。本尊の不動明王が焼失を免れ、現在は1025年長舟寺に安置。久須見武田氏の別荘ともいふことができる。	
47	10121	金龍院		明智町大原(恵那郡)	不明	不明	江戸時代に長舟寺小屋(明智町大原)に所在した修驗道當山派の寺院で、法印には成立。明治5(1872)年の修駿道廢止令により廃絶。最後の法印である照海も豊年死んだ。位置不明。	

表26 太岐市寺院一覧表(1)

番号	寺院番号	史跡	山(里)号	所在地(旧郡名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構	調査略歴	分布図
1	12966	瑞雲山定林寺(定林寺跡)		東町定林寺(土岐郡)	正和2以前もしくは建武年間	臨済宗	成立時期不明であるが、「土岐觀音公記」には正和2(1313)年以前、「美濃善兵氏」には建武年間(1334～36)とされている。土岐觀音が高宗願日付と継続してこれを祀めて、下戸井村(東象林寺跡)に瑞雲山定林寺を立てて成寺。開応3(1340)年、觀音の死後は父の善兵に十刹院と定められた。永祿(1558～70)のはじめ、武田信玄の家臣により放逐され消滅。現在は観音堂は江戸時代に復興されたもの。	G 山茶園 漆器製品		S8
2	12969	吟鶴山永松寺		肥田町浅野(土岐郡)	万治2年	臨済宗	土岐光氏の普選寺として、境現内から西北の永野の飯野鶴跡付近に成立した。何時か時代かの戦火で消失したらしい。万治2(1659)年延寶園圓園山より現在地に再興。幕末の頃、12008鳴香寺の寺領と、永松寺の祖庭堂を取次り持たせた。	H, G, 石仏		
3	12910	妙光山慈徳院		上坡津町高山(土岐郡)	江戸時代	臨済宗	天文13(1544)年しくは万治2(1659)年、松浦により。21012圓寧寺の跡地と、永松寺の祖庭堂を取り替えた。	H, G, 石仏		
4	12912	光雲山慈雲寺		喜木町(土岐郡)	天文29年	臨済宗	本文参照	本文参照	S2	08
5	12913	天童山弘久寺		駄知町(土岐郡)	文明2年	臨済宗	文明2(1470)年、闍室伝子真光圓山により成立。	H, G, 石仏		08
6	12916	正覚山天福寺		肥田町肥田(土岐郡)	江戸時代	守伝では、尾州長島山惠妙院禪寺の末寺として、天福元年(1233)からある。山内には天福平より東方約100mで100m余に広がっている広大な山腹で、大門には千手観音などの地名が残る。山中軍に施されて廃寺となり、徳川時代に現在地に再興。	H, 石仏			
7	12916b	(天福寺跡)		肥田町肥田(土岐郡)	天福元年	臨済宗	守伝では、尾州長島山惠妙院禪寺の末寺として、天福元年(1233)からある。山内には天福平より東方約100mで100m余に広がっている広大な山腹で、大門には千手観音などの地名が残る。山中軍に施されて廃寺となり、徳川時代に現在地に再興。	山茶園		S8
8	12917	寿林山延養寺		泉町久尻(土岐郡)	応永18年	臨済宗	応永18(1411)年正住延養山。寛文4(1664)年法輪相開基により成立。	H, G, 石仏		08
9	12918	高光山廣安寺		泉町久尻(土岐郡)	天正8年	曹洞宗	今仮名によると、天正8(1580)年、加藤豊延陽基。延養宗廣安山により成立。文禄3(1594)年、基天麻連基の親もある。			S8

表27 土岐市寺院一覧表(2)

番号	寺院番号	史跡	山(里)号	所在地	所在郡(田原名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構	調査結果	分布図
10	12920		寶樹山	鶴見町植野 (土岐郡)		明暦3年	曹洞宗	天正9(1581)年、長政大安圓山により解ヶ洞に雲龍山大安寺成立。明暦2(1656)年、西後久臣中慶が現在地に移し、神清山在慶寺に改め、寺号に上ると解ヶ洞から北にある神社境内に移り、神社の御令で現在地へ移転したが、神清寺から寶樹山に変わった。		H	
11	12930		東柏寺	肥田町中肥	田修美 (土岐郡)	不明	不明	南北朝時代後醍醐には存在していたと考えられている。三軒平と称する現在の街の西側の浅野井川と下肥田井水路の間に古道があり、さざなぎとされ、この付近が北朝の勢力範囲である「宇とうく」の地名が難読される。文書や文献年代の勘定にて「鬼とほん寺、うとうん」記され、電気寺と呼ばれていた。		H	
12	12931		明樂寺	土岐津町 (土岐郡)		承久3年	不明	伝承では、承久3(1221)年高山秀頼によって成立し、秀豊寺があつたとい。安治・高山時代まであつたが、高山城主が関係し火災にあつたとのこと。	H, G, R	R	
13	12932		(名浦寺跡)	肥田町肥田	西吉瀬道 (土岐郡)	不明	不明	成立時期及び跡地不明。肥田村跡地にて「名浦寺」とあるが何時しか?「(名浦みょうひじ)」と表記された代に至る。肥田郡御殿跡と表記しては現地史面では確認できない。中後・近後の社寺跡として登載。		土器類、 須恵器、 山茶碗、 大甕、 大甕製品、 陶房製品	S8
14	12934		(典山寺遺跡)	喜多町字典山	寺(土岐郡)	不明	天台宗	成立時期は不明、八王子白山神社附僧であった。北の山中に八王子神社があり、北側の北ノ坂觀音堂があつて、香椎が山頂上。また、道場門付近の古木本路跡時に宝鏡印塔が発見し、道場門前の川筋の平面圖に宝鏡印塔があつたとのこと。中後・近後の社寺跡として登載。		H, G, 山茶碗、 古鏡、 天保製陶磁器	OB
15	12935		(但唱寺跡)	喜多町字山	三、山守、 黒木(土岐郡)	中世	不明	成立時期及び跡地不明。墓地内より遺物が採集され、基壇が残存する山守付近が遺跡の範囲に指定された。		山茶碗、 陶房製品、 石積み	OB
16	12936		水晶寺	喜多町字典山	(東山寺跡)	不明	天台宗か	天台宗大龍寺末、天龍院の別当。道場跡圓東の山麓に、大光(天保:天保)神社の奥底に複数、明治維新後で堂を壊したこと。本堂跡の平坦面が残る。中世の山守跡として登載。		山茶碗、 陶房製品	OB
17	12951		繼靈山	肥田町上肥	田畠道 (土岐郡)	不明	不明	永松寺の前身は下野野村の雲龍山應龍院。万葉2年(691)に建立した永松寺は、廣に度寺となつていた雲龍山の山号を、永松寺に付したとい。又治(1185~1190)初年頃、浅野烈官代光行により成立したとい伝承有り。位置不明。			

表28 土岐市参考寺院一覧表(1)

番号	寺院番号	史跡	山(里)号	所在地	所在郡(田原名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構	
1	12904		慈光院	鳥羽河合	土岐郡	慶長17年	真宗	慶長17(1612)年、越上休門圓山により土岐郷所山(土岐村)の中にあつたという21046常樂寺跡の跡地に成立。天保9(1838)年智源により中興。江戸時代に現地へ移転。	H	
2	12905		最上寺	駿河町	(土岐郡)	不明	真宗	成立時期及び沿革不明。	石仏	
3	12908		雲龍山	鳥羽河合	(土岐郡)	慶安2年	臨濟宗	慶安2(1649)年、駿山祐圓開山。光林院公開山により成立。享保6(1721)年、了直院中圓開山。		
4	12911		神宮寺	喜多町	神宮寺 (土岐郡)	不明	臨濟宗	成立時期及び沿革不明。		
5	12914		壽門寺	土岐町	壽福寺 (土岐郡)	大正9年	臨濟宗	寛永2(1625)年、見闈により広徳寺成立。明治24(1891)年、広徳寺三世光益法師が寛永4(1627)年に成りさせた豊國山保福院を、豊門山広徳寺に合併し、豊門山広徳寺と改める。明治34(1901)年火災にて全焼し、大正9(1920)年上田に移転。	H, G, R	
6	12915		知足院	下石町	(土岐郡)	不明	臨濟宗	寛永5(1628)年、崇禪寺濟圓開山。五祖宗民少閑園により成立。始めは下石小学校の辺りにあつたが、大木で周囲に移転したとい。	H, G, R	
7	12919		昌光山	皆木町	(土岐郡)	不明	曹洞宗	寛永12(1635)年、雲龍山尼佐山、惠忍山延久寺・六世鶴請圓山により平山に遷。鶴請圓山林泉寺成立。概面に移し昌光山尼佛寺に改称。		
8	12921		円光寺	泉町久尻	(土岐郡)	不明	曹洞宗	成立時期及び沿革不明。石柱に龍蛇門尊天聖龕とある。	石仏	
9	12923		身延教會	駿知町五反	(土岐郡)	不明	日蓮宗	成立時期及び沿革不詳。		
10	12926		妙見教會	皆木町	(土岐郡)	不明	日蓮宗	成立時期及び跡地、位置不明。元地の方によると、ここ90年間この地に日蓮宗の寺を立てるといつて。		
11	12927		智德寺	泉柳／木町	(土岐郡)	不明	日蓮宗	成立時期及び沿革不明。所在地は現在空き地。		
12	12928		圓聖寺	狹山町	(土岐郡)	不明	日蓮宗	成立時期及び沿革不明。所在地に日蓮正宗の遺墨あり。		
13	12929		延王山	土岐津町土	岐口字新聞 (土岐郡)	不明	単立	成立時期及び沿革不明。所在地は現在空き地。		
14	12937		山廣寺	久寺町	(土岐郡)	不明	臨濟宗	成立時期不明。蘭室圓山。元和元(1615)年、堅室中興。寛文4(1664)年久誤で全焼。安政元(1854)年、堅房再中興。位置不明。		
15	12938		東谷山	鶴見町	細野新 (土岐郡)	JG時代	曹洞宗	寛永16(1639)年、白峰林太により成立。順治3(1648)年21039福昌寺と合寺して廢寺。21022正福寺の位置にあった。		

表29 土岐市参考寺院一覧表(2)

番号	寺院 番号	史跡	山(里)号 寺院名	所在地 (里町名)	建立時期	宗派	前革等	遺物、遺構
16	12039	繁昌山 福昌寺	越里町細野 (土岐郡)	江戸時代	曹洞宗	慶長18(1613)年、細野郷の草薙(法号延喜常林)が隠宅を設け、仏像を祀った。一代は白毫林久。はじめ八王子町にあったといふ。昭和33(1958)年2月3日正宗寺で合掌して正祖寺となる。		
17	12040	玉林山 龍泉寺	東中室町 (土岐郡)	不明	不明	大富白山神社社僧であり、白山宮別当。大富創建初代守護土岐頼貞はこの近くに住まい、氏神として高田明神(現白山神社の御神体)を信仰。永禄元(1558)年、武田軍の侵攻により焼失。江戸時代には神官寺として存む。		
18	12041	真教院	土岐津町土 岐口 (土岐郡)	不明	不明	成立時期及び沿革不明。京都修護院官末。位置不明。		
19	12042	安隣院	土岐津町土 岐口 (土岐郡)	不明	真言宗	成立時期及び沿革不明。京都三宝院官末。位置不明。		
20	12043	金龍院	肥田町丸野 (土岐郡)	不明	不明	浅野白山神社の社僧。白山社の別当。浅野白山神社がある山頂・山腹・山麓を確認したが、遺跡の痕跡を確認できず。位置不明。上ノ山の齊麗に、三葉塚がある。	H	
21	12044	円光山 大龍寺	喜木町 (土岐郡)	不明	天台宗	下郡八幡宮の別当。八幡宮はかつて八幡院といつた。鳥居北西側に大鏡寺という神官寺があり「千体三堂」「觀音堂」「編縷門」があつたが、現在は廃寺。明治初年廢寺。		
22	12045	雲法院	下石町 (土岐郡)	不明	真言宗	成立時期及び沿革不明。真言宗京都三宝院官末。八幡社別當院。位置不明。		
23	12046	覺廟寺	土岐津町高山 (土岐郡)	不明	不明	成立時期及び沿革不明。開き取りにより、土岐川の中にあつたとのこと。現在左岸に石碑が立つ。常樂寺の後に移転前の200mに移転寺があつたといふ。		
24	12047	古城山 慈光寺	土岐津町高山 (土岐郡)	元禄元年	真言宗	元禄元(1688)年、慈光院梵嚴寺として成立。二代住職が続き魔寺となるが、明治時代に古城山遍照院として再興。現在は真言宗慈光山教会。「やぐら」があり、穴仮屋とも。		
25	12048	雲霧山圓應寺	肥田町上肥 田雲霧 (土岐郡)	不明	不明	雲霧川を渡り駄知へ通ずる道を登ったあたりに基壇あり、五輪塔及び飛翔地蔵の跡がある安斎田村の残矢、山茶碗、天目茶碗、志野が転じたといふ。	H, G, 山茶碗	
26	12049	補正院	肥田町上肥 田宇敷 (土岐郡)	不明	不明	文政年間(1818年～30)の村地図に載るが資料は残存していない。中肥田村文書に八幡神社の社僧として補正院の修驗僧が延宝年間(1673～1681)に務めていたことを記載する文書が初期。位置不明。		
27	12050	善池山 遍照院	肥田町上肥 田釜池 (土岐郡)	不明	真言宗	真言宗の寺院として成立。時期不明。移転地より500～800m程南西の山腹付近に創建されたといふ伝承があり、肥田川のほとり、釜池の間に移転が建設されたといふ。位置不明。	H, G	

第3節 寺院地形観察図
遺構図

多治見市
中津川市
瑞浪市
恵那市
土岐市

[多治見市]

地区	東濃	寺院番号	04020	県遺跡番号	21204-7805	分布図番号	N8
ふりがな	こけいざんえいほじ(えいほじいんあと)			所在地		多治見市虎渓山町	
寺院名	虎渓山永保寺						
(史跡・遺跡名)	(永保寺寺院跡)						
時代区分	中世～近世			宗派		臨済宗	
立地	丘陵			現状(植生)		境内地、山林(コナラ)	
東西規模	約600m	南北規模	約640m	標高(比高差)	105m(0m)	平坦面類	A+D
沿革	多治見市教育委員会 2011によると、「夢窓国師年譜」(大本山天竜寺 1989『夢窓国師語録』所収)に鎌倉時代末期の正和2(1313)年、夢窓疎石は元徳本元(仏徳禪師)らと美濃の長瀬山に入り庵をたて古廟とした。開山の翌年には観音堂(水月場)が建てられたと伝えられる。暦応2(1339)年光明天皇の勅願寺となり、文和元(1352)年夢窓国師に帰依した足利尊氏によって開山堂が建立されたとされる。最盛期に30余坊があったとされるが、戦国時代の兵火で大部分は焼失した。元禄8(1695)年以降に再建したとされる。平成15(2003)年に本堂、庫裡等建物火災が発生し、本尊も焼失した。						
	遺構						
遺物	掘立柱建物、礎石建物、溝状遺構、基壇状遺構、本堂・大玄関棟、井戸、石列、土壙						
	土師皿、山茶碗、古漁戸、大窯製品、中国陶磁、近世漁戸・美濃窯陶磁器、近代漁戸・美濃陶磁器、礎石経、古鏡、宝鏡印塔、五輪塔						
有形文化財等	聖觀世音菩薩、彫造僧形彫刻(伝夢窓国師坐像)(以上県指定、室町)、古位牌群(市指定、鎌倉末～室町)、永保寺開山堂附宝鏡印塔(国宝、室町)、永保寺観音堂(国宝、鎌倉)、涅槃像、夢窓国師書跡「春帰家」(以上県指定、南北朝)、仏徳禪師書跡「吹毛不曾動」、仏徳禪師筆印可仏鑑、仏徳禪師筆遺偈(以上県指定、鎌倉)絹本着色十六善神像(市指定、室町)、永保寺文書(市指定、中世・近世)						
	参考文献 多治見市 1980『多治見市史』通史編 上、多治見市教育委員会 2007『永保寺庫裡跡発掘調査報告書』、多治見市教育委員会 2011『永保寺本堂跡発掘調査報告書』、多治見市教育委員会 2017『多治見の文化財』						
備考	再建工事に先立ち多治見市教育委員会により平成16・19年度に発掘調査が行われた。 多治見市教育委員会 2011は、可児市寄託文書「虎渓山永保寺絵図」について、塔頭の数や江戸時代中期以降に見られない建造物があることから、江戸時代前期の寺景を描いたものと評価している。						

調査所見 現状がどの時代の状況を示すものか判断は難しいが、可児市寄託文書「虎渓山永保寺絵図」から観音堂(水月場)、臥龍池、梵音岩、盡擁殿、開山堂(無相塔)、黒門などが江戸時代前期にはすでに現在の位置にあったことがわかっている。絵図では梵音岩と開山堂の間には大包庵、櫓待閣、褒慶閣があったとされるが、現状は東西35m×南北15mの平坦面①が残るのみである。また境内南西部には多宝塔があったとされるが、位置は不明である。絵図で境内の北側に描かれている塔頭のうち、現在残っているのは保壽院、徳林院、続芳院である。惣門は勅使門で境内の南東部、土岐川に接する位置にあったとされるが礎石などは残っていない。土岐川を挟んだ東側には瑞雲岩を確認できる。この付近から黒門にかけて独木橋が架かっていたとされる。永保寺境内の南西側には、永保寺2世の月堂宗円によって奥の院として建立された奥藏寺が現存する。

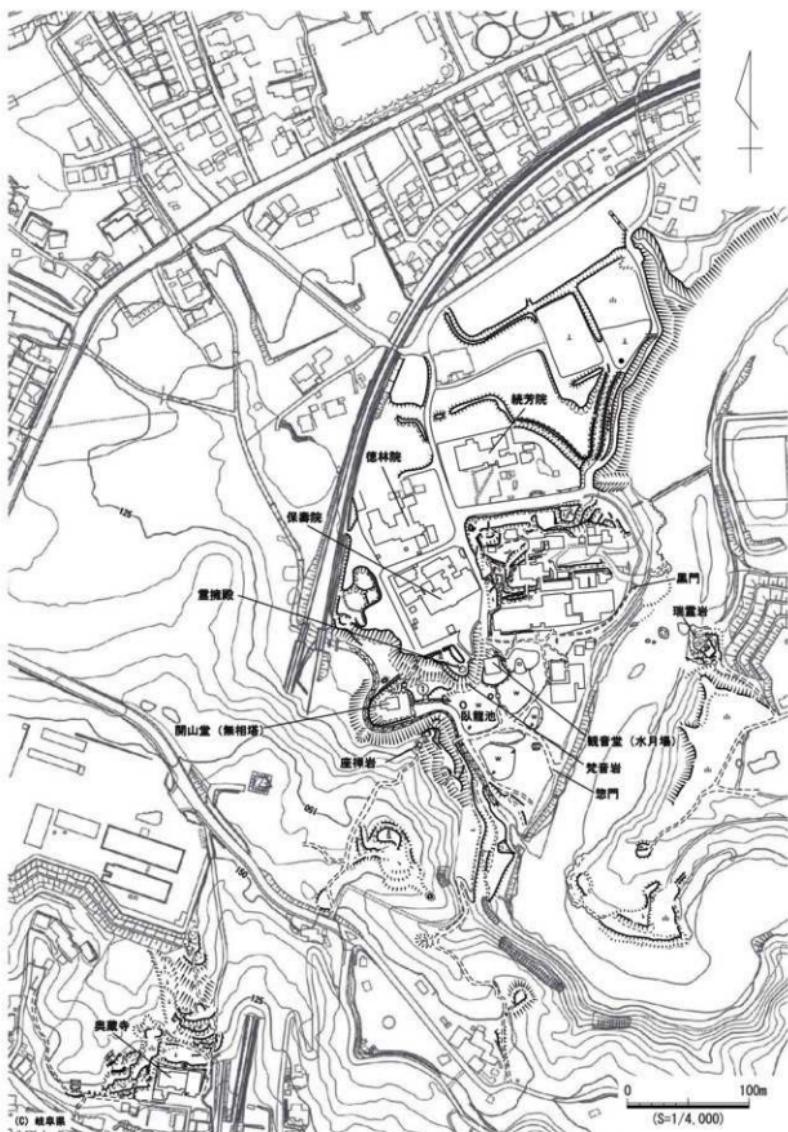


図2 虎渓山永保寺（永保寺寺院跡）地形観察図（1）

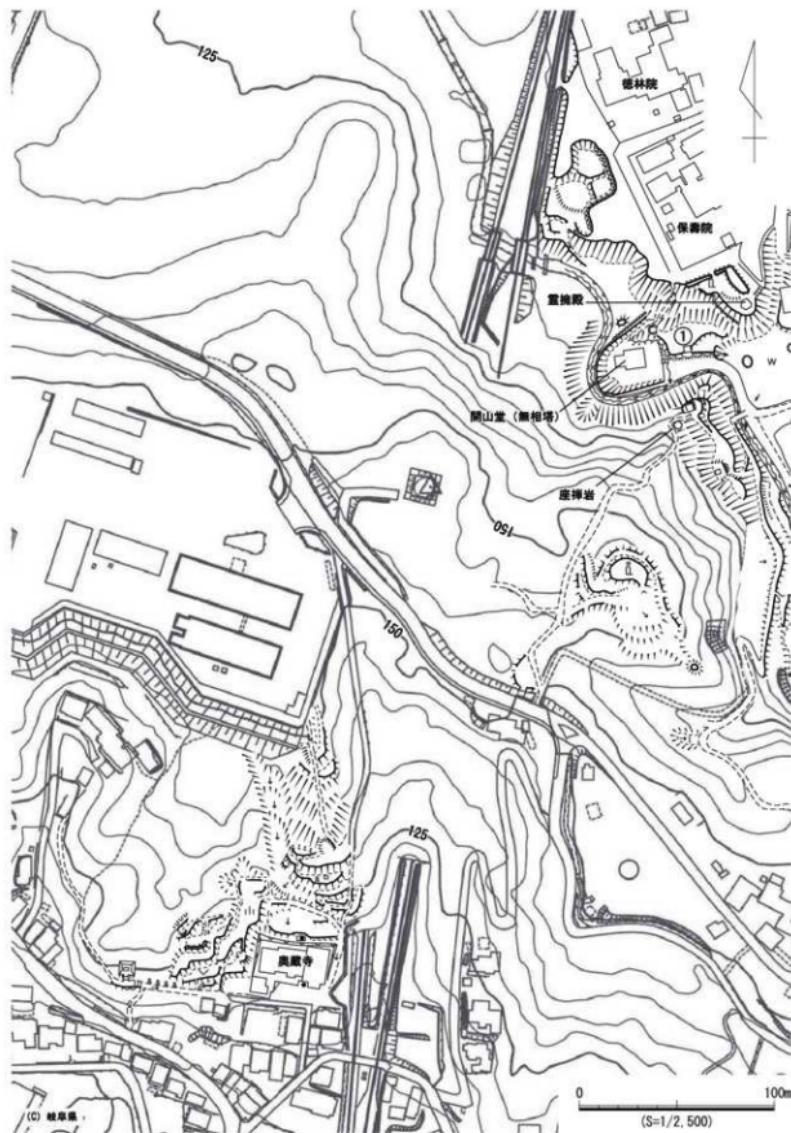


図3 虎渓山永保寺（永保寺寺院跡）地形観察図（2）



図4 虎渓山永保寺（永保寺寺院跡） 地形観察図（3）

[中津川市]

地区	東濃	寺院番号	06032b	県遺跡番号	一	分布図番号	M11
ふりがな	そうせんじきゅうけいだい			所在地	中津川市中津町字正ヶ根		
寺院名 (史跡・遺跡名)	宗泉寺旧境内						
時代区分	中世～			宗派	不明(臨済宗か)		
立地	山麓			現状(植生)	山林(コナラ)		
東西規模	200m	南北規模	180m	標高(比高差)	660m (130m)	平坦面分類	B+C2
沿革	恵那神社は、中津町字恵那山頂上鎮座としている。『中津川市史』によると、「御坂越記」に、山麓にあたる現在の前社近辺に別当寺、殿社があったが、天正2(1574)年の武田勝頼の東濃攻めにより消失した、とある。別当寺は宗泉寺が勤めていたが、元和年間(1615～24)のころ現在の中村へ移転している。字名の「寺屋敷」や「坊垣外」は、その名残である。						
遺構	池跡						
遺物	山茶碗						
有形文化財等							
参考文献	中津川市 1988『中津川市史』中巻II、中津川市 1995『中津川の中山道』						
備考	恵那神社別当寺は中世に廃絶したが、後に宗泉寺が建立され、宗泉寺の旧境内として周知されている。 神社正面の川上集落を挟んで阿木へ向かう南西の岸には、恵那神社創建の伝説に関わる旧跡血洗之池(血洗神社)があり、双方から見通しがよく位置関係である。恵那山遙拝の地か。						

調査所見

長野県の県境にある恵那山の西、中津町正ヶ根に位置し、山麓の南西向き緩斜面に立地している。恵那神社は恵那山の真西に位置し、神社本殿の北東には、恵那山山頂へ続く参道が確認できる。社務所北の平坦面に「宗泉寺跡」の石碑が残り、周辺には東西方向の平坦面が階段状に続く。そのうち、最も高い平坦面の壁面付近には、基壇状の高まりを確認できる。一段下の平坦面は、池跡と思われる窪みを確認できる。北の斜面に道や平坦面が続くが、現代墓地や水田、畑地の広い平坦面があり、近年に造成されたとみられる。恵那神社の鳥居よりも下段には水田が広がっており、現状で寺院の痕跡は確認できないが、「宗泉寺跡」の石碑がある平坦面から南西に道が続く。恵那神社への参道は聴き取りにより把握できたが、別当寺への参道は明らかにすることはできなかった。恵那神社への参道付近には「寺屋敷」の屋号をもつ住宅が現在も存在するが、別当寺との関わりは不明である。



図5 宗泉寺旧境内 地形観察図

地区	東濃	寺院番号	06060	県遺跡番号	21260-1434	分布図番号	L10
ふりがな	ちげんざんこうえじ（こうえじょうあととしゅう うへんいつい、こうえじごぼぐん）	所在地	中津川市福岡植苗木				
寺院名	智源山広恵寺						
(史跡・遺跡名)	(広恵寺城跡と周辺一帯・広恵寺古墓群)						
時代区分	中世（室町）	宗派		臨済宗			
立地	山麓	現状(植生)		山林（アカマツ）			
東西規模	約200m	南北規模	約140m	標高(比高差)	480m (80m)	平坦面分類	B-C1
沿革	『福岡町史』によれば、「苗木記」に、広恵寺の開基を觀応元（1350）年小春17日とし、応永10（1403）年に記された大般若経があった。とある。広恵寺と広恵寺城の創始については、あまり年代に相違も見られないことから、遠山氏進出と何らかの関係が介在したとも考えられるが推測の域を出ない。再び『福岡町史』によれば、「苗木伝記」に、夢窓国師が諸国行脚の途中この地に至り、唐の広恵寺に似た當壠ということで、弟子の枯木紹栄禪師をしてこの山を開かしめ、智源山広恵寺と称した。とある。そして枯木紹栄は夢窓国師が入唐の折、金山寺より携え帰ったという観音像の寄進を受け、広恵寺本尊として祀ったことを開基の縁起と伝える。その後江戸時代に後羅住職が途絶え廢寺となり、観音堂のみが残ったと伝わるが、廢仏毀釈によって観音像は某寺に移され、堂そのものも廃絶を余儀なくされた。明治中期に、旧地には地元有志によって観音堂が再建されるおよんだ。						
遺構	池跡、井戸跡、土塁						
遺物	宝鏡印塔、五輪塔						
有形文化財等	—						
参考文献	恵那郡福岡町 1986『福岡町史』通史編上巻、岐阜県教育委員会 2004『岐阜県中世城館跡総合調査報告書』第3集（可茂地区・東濃地区）						
備考	—						

調査所見 福岡地域に西に向かって伸びる城ヶ根山の尾根の先端に広恵寺城があり、城跡の南東麓の谷部に智源山広恵寺の遺構が展開する。以前から複数の平坦面があることが認識されており、広恵寺の塔頭跡や武家屋敷跡があった場所であると考えられてきた。

近年再建された観音堂の東側に明瞭な平坦面が2段（平坦面①・②）展開し、古井戸脇に出口がある。平坦面①の北部には、小島を設けた池跡がある。平坦面①から、平坦面②に上がるための通路は幅が広い。平坦面②は、寺地の中で最も広く安定しており、池を伴う寺院の中心施設が存在したと予想される。平坦面②の東側には、土手状の高まりで囲まれた湿地が広がり、寺地南側の尾根筋に沿って流れる沢まで水路がつながる。平坦面①・②東側の山裾へ山腹にかけて、幅の狭い平坦面があり、山腹の巨岩が露出する場所へ小道が続いている。平坦面①・②の南側を通る通路は、宝鏡印塔や五輪塔が並ぶ2段の小規模な平坦面③に通じるが、またいで入るよう連結しており、元は平坦面③の西側から出入りしていたと思われる。平坦面③の背後（東側）には、城ヶ根山の鞍部に至る参道らしき小路が続く以外は、自然地形の緩斜面が広がる。平坦面③は寺地の東端に当る墓域である。平坦面③の西側は、明瞭な平坦面を確認できず、更に西側は現在竹林で後世の改変を受けている。また、観音堂北東側の山裾に、地形に沿った小規模な平坦面④があり、寛政頃のある近世墓碑を確認した。

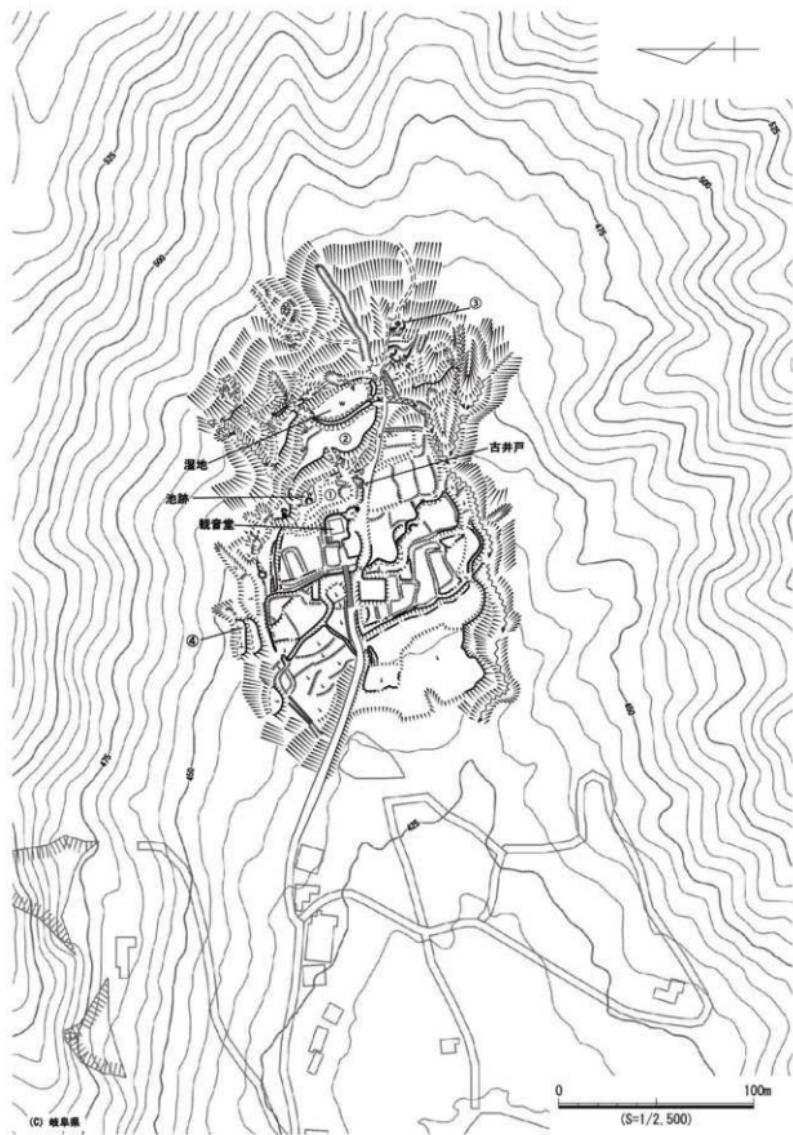


図6 智源山広恵寺 地形観察図

地区	東濃	寺院番号	06062	県遺跡番号	21206-8450	分布図番号	L10
ふりがな		(りゅうけいじあと)		所在地	中津川市苗木		
寺院名 (史跡・遺跡名)	(龍溪寺跡)						
時代区分	近世(江戸)				宗派		
立地	山地				現状(植生)		
東西規模	約190m	南北規模	約115m	標高(比高差)	378m(30m)	平坦面類	B+D
沿革	成立時期や詳細な沿革は不明である。磨崖仏下に六十六部供養碑があり、その供養碑には「生国下徳國相馬郡杉下村稻葉莊左衛門」と刻まれている。稻葉莊左衛門は、元文年間(1736~1741)の墳(『並松地誌』では天文年間(1532~1555))、型鏡音像を笠に納めて守護した人物で、龍溪寺に庵を定めて布教活動を行った人物である。その後、徳川政府の確立後に尊像の由来を知った中津妙見山、日蓮宗布教師、傍島師が、尊像を修理し、御堂を建てたという。						
遺構	礎石列、石列、土坑、整地土						
遺物	五輪塔、宝篋印塔						
有形文化財等	一						
参考文献	片山惣次郎監修・西尾錦造編 2002『並松地誌』、上・下並松区、中津川市 1988『中津川市史』中巻II						
備考	岐阜県GISには近世の寺跡として搭載されていたが、平成30年度に当センターが実施した内容確認調査の結果、中世に遡る可能性がある土坑1基を確認した(第7章第1節参照)。石壇上に残る石祠には、「明治四二年祭事主可知禮造」の刻文がある。						

調査所見 恵那峠から約3.2km北北東にある独立丘陵の南斜面に位置する。「南無阿弥陀仏」の六字名号が刻まれた巨岩を中心に、一定の空間の広がりを確認できる。巨岩の背後に当たる北側には最も広い空間が広がるが、自然地形によるものと思われる。名号のある巨岩の南側には、石壇上に小祠が建つ。内容確認調査の結果、石壇の南西側で石列を伴う整地土(①)を確認した(第6分冊第7章参照)。この①の辺りが、龍溪寺の中心域であると考えられる。名号の巨岩から南南西約55mの地点で礎石列を確認した。礎石列の周辺一帯は花崗岩と花崗岩風化土からなり、風化が激しく当時の様子を保っていない。礎石列の周辺で近世墓碑が散見されることから、礎石列は龍溪寺に関連する建物の遺構である可能性がある。名号のある巨岩の東側には尾根が伸び、尾根上及び尾根の先端には平坦面が造成され、近世以降の墓碑が並び、墓域として現在まで利用されている。尾根の南側斜面には、輪郭不明瞭な小平坦面を確認できるがいずれも緩やかな傾斜をもち、堂宇を建てられるほどには安定しておらず、墓域の一部として利用されていたかもしれない。近隣住民の方によると、かつては山の西端から入山する参道を利用して、龍溪寺に至ったといい、現在もその参道が残る。参道沿いには、巨岩前に鳥居が設けられている場所があり、さらに東へ進むと名号のある巨岩の正面に至る。

なお、石壇のある平坦面の南側斜面には巨大な露岩がいくつもある。明確な平坦面は確認できず、露岩へ至る通路が残り、露岩には矢穴が見られるものがある。矢穴の大きさや間隔から近世以降の石切場として利用されていた時期があると考えられる。山麓谷部から尾根上にかけて確認した通路の南端は幅4~6mの崖地となっており、石曳道の可能性が考えられる。

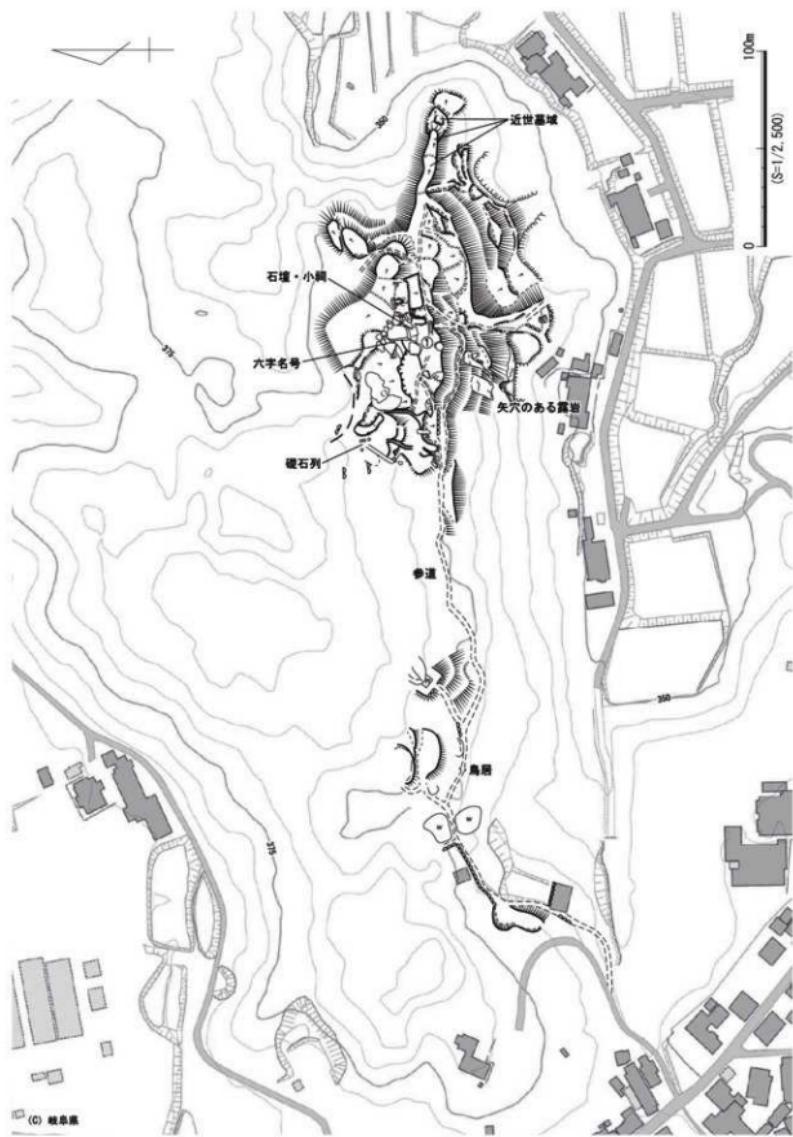


図7 龍渓寺跡 地形観察図

地区	東濃	寺院番号	06085	県遺跡番号	一	分布図番号	L10
ふりがな	こうようざんきんげんじりゅうおういん	所在地	中津川市瀬戸真地				
寺院名 (史跡・遺跡名)	光耀山金巖寺龍王院						
時代区分	中世～近世(江戸)				宗派		
立地	山麓				現状(植生)		
東西規模	約200m	南北規模	約140m	標高(比高差)	395m(50m)	平坦面面類	E
沿革	成立時期や詳細な沿革は不明である。龍王院は、苗木城の外郭にあたる風呂屋門の西の小高い所、足軽長屋の隣地にあり、遠山家の祈祷所で真言宗であった。ここは、苗木城の鎮守龍守龍王権現(高森神社)の別当が兼帶していた。毎年正月、五月、九月の16日には、曉七ツ時(午前4時)より城中で大般若經祈祷があるが、この時には龍王院、三井寺(坂下)、雲台寺(福岡)から城中の書院に出仕して転読して祈願般若会を修行した。						
遺構	石積み、井戸跡、礎石						
遺物	—						
有形文化財等	—						
参考文献	岐阜県教育委員会 2004『岐阜県中世城館跡総合調査報告書』第3集(可茂地区・東濃地区)、中津川市 1988『中津川市史』中巻II						
備考	—						

調査所見 中津川市内を東西に貫流する木曽川右岸の高森山に築かれた苗木城から、谷を挟んで北西側にある標高約410mの小高い箇所の山頂に鎮守龍守龍王権現(現高森神社)①が祀られる。高森神社と苗木城足軽長屋跡に挟まれた範囲②が龍王院跡とされている。龍王院跡は、南北に長い平坦面1面からなり、足軽長屋跡側が一段高く、中央部に石積みが残る。平坦面には礎石等は確認できないが、円形の穴が開く水盤と思われる石材が残る。高森神社①へは、龍王院跡の南側から上り、社殿はほぼ真南を向いて設置されている。高森神社周辺には巨岩の露出が多く、社殿がある高まりの北部には巨岩が組合った風穴がある。高森神社の西～南側を沿う通路を進むと、再び巨岩の露出が集中する箇所があり、巨岩前には小規模な平坦面③がある。さらに平坦面③の南側、一段下がった場所に、龍王院初代住持からの墓域(6代目以降は日比野村の他所に埋葬された)があり、無縫塔が並ぶ。墓域は、高森神社①を介して、龍王院跡②と対角線上に位置する。

龍王院がいつ成立したのかははっきりしないが、足軽長屋跡と隣接した位置にあり、苗木城を構成する施設の1つとして機能していたとみられる。建物の建つ境内地は狭いが、巨岩が露出する地点を神聖視した信仰の場であったと思われる。また近世以降には、龍王院以東に雲林寺が展開した。



図8 金耀山金巌寺龍王院 地形観察図

地区	東濃	寺院番号	06096	県遺跡番号	21260-6944	分布図番号	J10
ふりがな		(おおやまいせき)		所在地	中津川市加下母		
寺院名 (史跡・遺跡名)	(大山遺跡)						
時代区分	中世（室町）			宗派	不明		
立地	山頂			現状(植生)	山林(アカマツ)		
東西規模	約 56m	南北規模	約 130m	標高(比高差)	838m (320m)	平坦面分類	D
沿革	成立時期や詳細な沿革は不明であるが、正徳4(1714)年に06033法岸寺元住職が難病で隠居した場所が、大山神社奥社の東側に当り、住居跡と思われる前に池があったとされる。						
遺構	—						
遺物	宝篋印塔						
有形文化財等	—						
参考文献	付知町 1974『付知町史』通史編 史料編						
備考	住居跡とされる場所の近くには宝篋印塔一基がある。また、法岸寺元住職を看病した三浦一族が大山奥社周辺で五輪塔を掘り出したとされるが、その五輪塔は確認できない。法岸寺住職の住居跡と思われる場所の一角には、2×1.5mの長方形に自然石が並べられており、少なくとも3~400年以上経過しているものと推定され、もしこれが仏堂跡であれば正徳4年以前となる。五輪、宝篋印塔と関連して考察すると、中世に相当の寺院があったと想像される。						
	古老たちによれば、「お山の平らに尼寺があつたげな」「威徳寺の偉いお坊さんが住んでいた」などの風説がある。また、昭和15(1940)年頃、大山奥社下で大量の茶碗、皿のかけら(種別は不明)が掘り出されたが、土砂で埋めてしまったという。						
当遺跡の東側の山裾から集落地には、「寺の下」という地名がつく。							

調査所見 宗教寺裏の急な大山谷を上ると、付知から加下母に抜ける峠へ出る。大山遺跡は、この峠の北側に西→東の3方を尾根で囲まれた谷状部に所在する。谷状部には明瞭な平坦面を3段確認でき、東西両側には沢があり、現在も水の流れがある。上から3段目の①が最も広く、①の南部には石積みの石材を確認したことから寺域の中心部であると思われる。しかし、付知町1974にある2×1.5mの建物跡や池跡は確認できず、それらの位置は不明である。①の北部は広い湿地が広がっている。①の北側の明瞭な2段の平坦面(②)は、畑地か。上から2段目の平坦面の西側に小規模な平坦面が造成されており、宝篋印塔1基が建つ。谷状部の背後の尾根から約30m南に、正面が平滑な鏡石状の露岩③があり、岩の前面にわずかに平坦面があることや、岩の後背に小路が確認できることから、磐座や行場等の信仰に関する施設として機能していたのではないか。各平坦面は、平坦面の西側を通る通路で往来でき、①や②には明瞭な出入口を確認できる。①の正面に当る南側の緩斜面地で参道を探索したが、現林道から当遺跡へ至る道の他に道を確認することはできなかった。また、西側の尾根の最高所には、大山神社の奥社があり、大山権現白山媛命を祀る小祠がある。

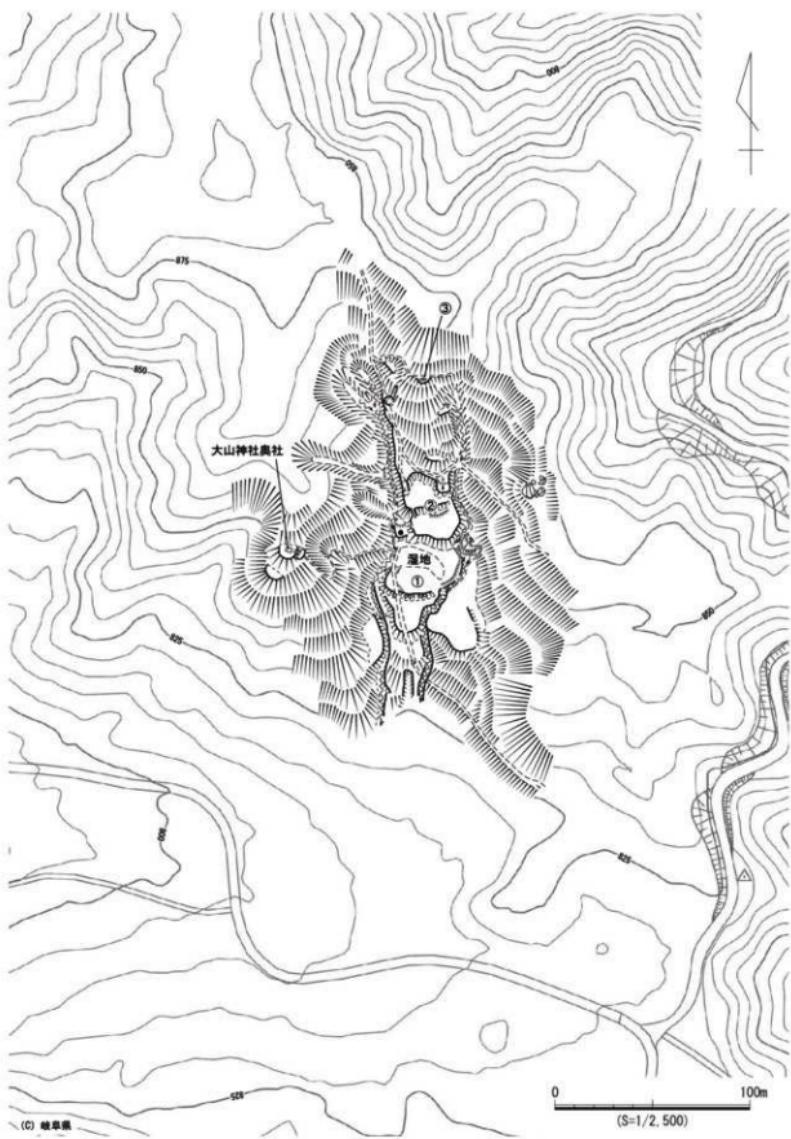


図9 大山遺跡 地形観察図

[瑞浪市]

地区	東濃	寺院番号	08024b	県遺跡番号	一	分布図番号	N8
ふりがな	ぞうふくじきゅうけいだい			所在地		瑞浪市日吉町	
寺院名 (史跡・遺跡名)	増福寺旧境内						
時代区分	中世～			宗派		真言宗→曹洞宗	
立地	山腹			現状(植生)		塊内地・山林《アカマツ・スギ・ヒノキ》	
東西規模	400m	南北規模	750m	標高(比高差)	280(30)m	平坦面面類	不明
沿革	増福寺は酒波神社神宮寺として建てられ、「一時真言の僧みだりに住す」などと伝えられるも詳細は不明。慶長5（1600）年、久々里九人衆千村助右衛門重次（増福寺殿宗無）を檀那に得て、三州藤原永沢寺系下の芳順によって再興され、寛文2（1662）年、本・末制度のことから重次の勧めにより開元院客末となり、同院領外を中興とし雄堂が再創している。寛永12（1635）年の過去帳もあり、寛文2年はあくまで本末による法系の変更年をさしているものである。寛文4（1664）年、重次の逝去により千村氏二代重伯（道止）により増福寺と称し領内菩提寺となっている。						
酒波神社の創建年代は不明であるが、『瑞浪市史』によると、平安時代（10世紀半ば）に編纂された「美濃國神名帳」の土岐郡の部に「正一位酒波大神」と記されていることから、少なくとも1,000年以上の歴史を有する神社と考えられる。							
遺構	経塚、石組						
遺物	一						
有形文化財等	一						
参考文献	瑞浪市 1974『瑞浪市史』歴史編						
備考	現増福寺境内から南に道が伸びているが、県道と交わる少し北側の地点に岩窟を確認した。岩窟の中には祠があり、岩窟の北側には石仏群がある。増福寺との関係は不明である。						

調査所見 増福寺の旧境内の位置は不明である。そのため現在の境内と酒波神社の周辺を観察し図化した。現増福寺境内にある池に流れ込む水は、北側斜面を上った谷奥が水源となっている。水源から東側の尾根には約200 m²の平坦面があり、小規模な石組を確認できた。墓又は祠の基壇であり、墓域の可能性が高いと考えられる。増福寺の東側の尾根には南北方向に林道が通っており、南と南東に分岐して山麓まで続いている。南東の道中の尾根には、堀切状の地形と尾根先端に小規模な平坦面を確認した。南側の道中には明確な平坦面はみられないが、山腹に「山神」を祀る石祠が南面して配置されている。

酒波神社本殿の東側には2階建て入母屋造りの鐘楼がある。元は現在地よりも西に建てられていたと考えられるが、詳細な位置はわからない。また、酒波神社本殿の北西には10m×20mの平坦面を確認でき、経塚がこの辺りにあったと考えられる。酒波神社の北側尾根は現代墓地となっている。墓地から北側、増福寺の北西部の尾根は林道が通っており、道の西側に広がる尾根には平坦面を複数確認できる。現代墓の西側には複数の平坦面を確認でき、一部壁面が岩窟状になっている箇所を確認できた。



図10 増福寺旧境内 地形観察図（1）

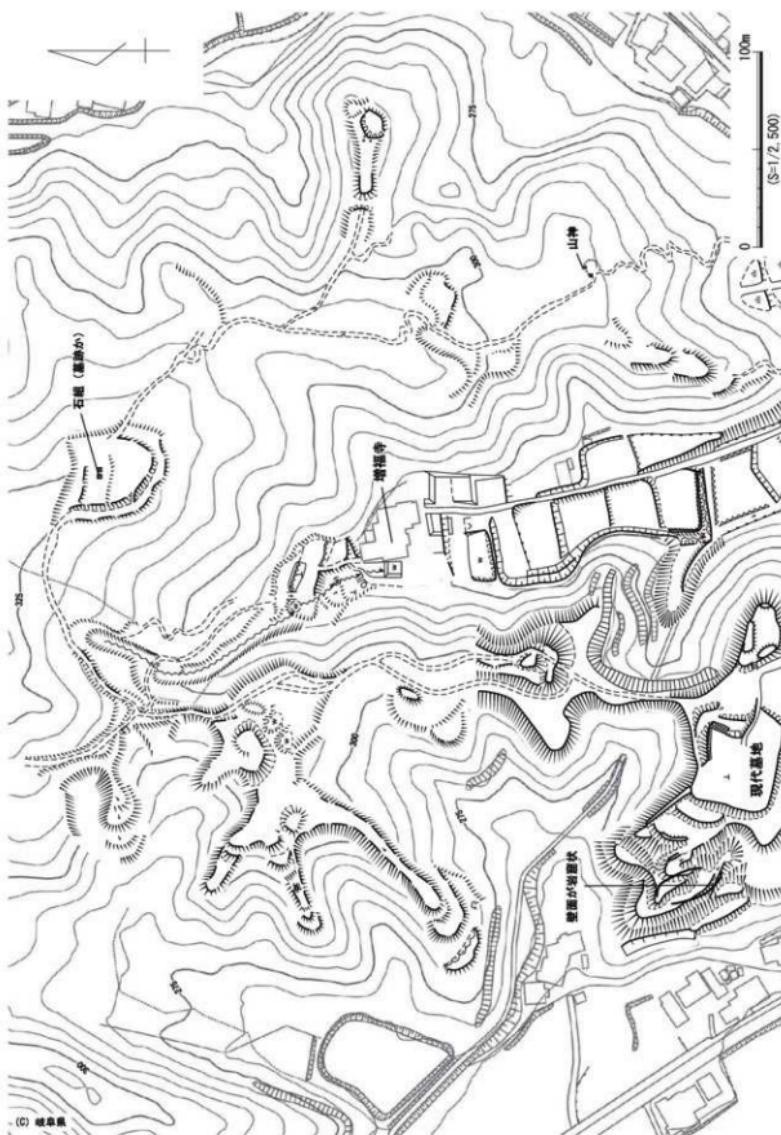


図11 増福寺旧境内 地形観察図（2）



図12 増福寺旧境内 地形観察図（3）

地区	東濃	寺院番号	08026	県遺跡番号	一	分布図番号	N8
ふりがな	ふつにちざんめいはくじ			所在地	瑞浪市明世町山野内		
寺院名 (史跡・遺跡名)	佛日山明白寺						
時代区分	中世～			宗派	臨済宗→黄檗宗		
立地	丘陵、山腹			現状(植生)	境内地・山林(コナラ)		
東西規模	230m	南北規模	350m	標高(比高差)	205(50)m	平坦面面類	不明
沿革	伝承によると前身の明白庵は夢窓国師の法嗣であった先覚周佑の開山で臨済宗の寺であったとされる。『瑞浪市史』によると、「土岐累代記」は、永禄年間(1558～70)に武田勢秋山・野村氏東濃に侵入し、二木(山中)藤九郎が明白庵を焼いた、とする。焼き討ちの時期は元亀3(1572)年7月4日であったという説もある。以降明白庵は地蔵堂として復興されたという。さらに、延宝3(1675)年、黄檗の法孫江州蒲生郡土田正宗寺梅嶺の弟子雲峰元仲村民に請じられて地蔵堂を引き、新たに同宗による明白寺として再創開山した。雲峰は武田氏の系と伝わるが詳細不詳。						
遺構	座禅岩、石列						
遺物	五輪塔、宝篋印塔(14～16世紀)						
有形文化財等	五輪塔(市指定、室町)						
参考文献	瑞浪市 1974『瑞浪市史』歴史編、瑞浪市陶磁資料館 2011『瑞浪市歴史資料集』第一集、横山住雄「臨済宗五山派・美濃如意庵寺と天福寺」『論叢』第10号、花園大学国際禅学研究所						
備考	—						

調査所見 現本堂の北側は谷川が流れ、約60m上流が水源となっている。中腹には溜め池が作られている。庫裏の北側斜面には祠跡と考えられる石組を1基確認した。林道が東西方向に通るが、周辺に明確な平坦面はみられない。現本堂の北西側は緩傾斜が広がり、地表面には西へいくほど大量の角礫が散在している。尾根上にはいくつかの小規模な平坦面があるが、角礫が集積されており、江戸期以降の墓域の整備に伴ったものであろうか。現境内より西側の尾根から山麓までの範囲については、江戸期以降現在まで墓域として使われていると考えられる。現本堂より南方150mのところに山門がある。この付近にかつての本堂等があったとされている。山門の西側には複数の平坦面が確認できるが、現状は畑地である。その平坦面の西端には座禅岩を確認することができる。座禅岩から西へ約80mのところには墓地があり、江戸時代の年号が彫られた墓石を複数確認することができた。山門の東側は斜面になっているが、その上には平坦面があり、基壇状の石列を確認することができた。旧本堂等伝承地の南側は現状では畑地となっているが、蟠龍池の梵宮を確認した。寺によるとこれは、水神を祀ったもので明白庵成立以前からあったとされる。

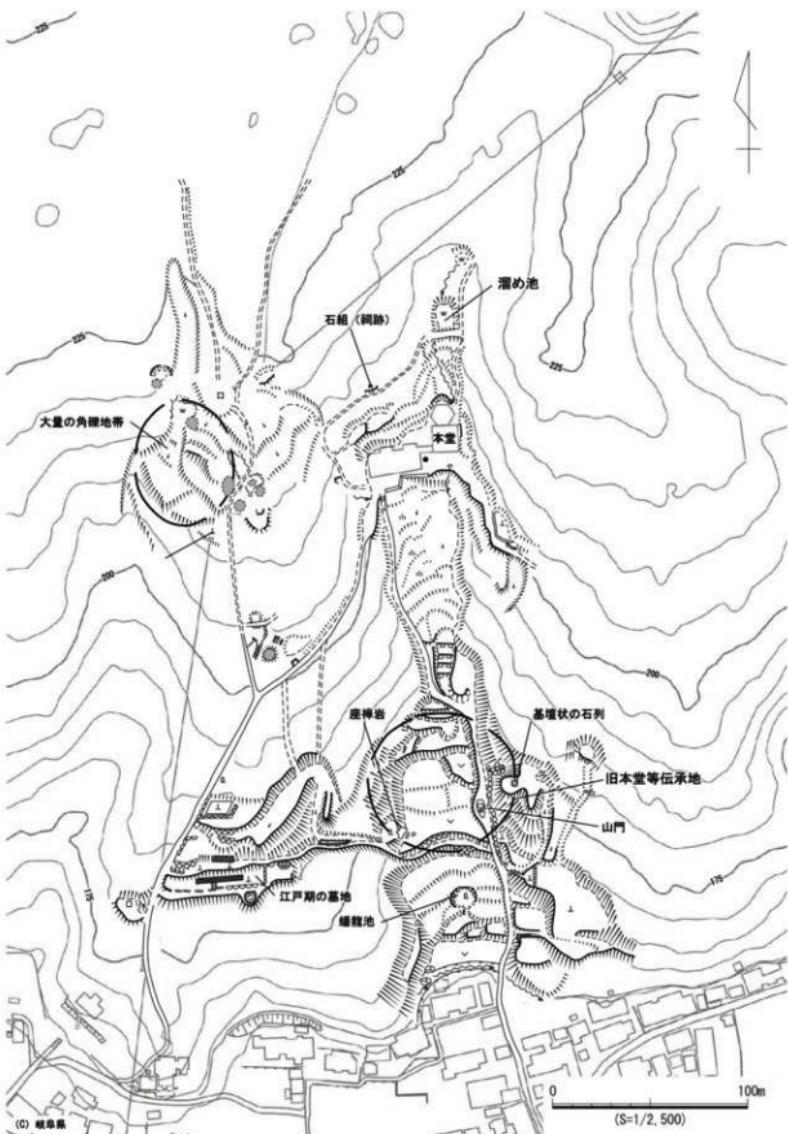


図 13 佛日山明白寺 地形観察図

地区	東濃	寺院番号	08030	県遺跡番号	一	分布図番号	N8
ふりがな	いわやさんせいらいじ			所在地	瑞浪市明世町戸狩		
寺院名 (史跡・遺跡名)	巖谷山清來寺						
時代区分	中世～			宗派	天台宗		
立地	山地 尾根上			現状(植生)	境内地、山林(コナラ)		
東西規模	400m	南北規模	500m	標高(比高差)	200(25)m	平坦面面積	B+D
沿革	古くは初期土岐氏建立による天徳寺と伝える。寺伝によると治承4(1180)年、源頼政の建立としているが、土岐光衡か頼貢が開基とする説もある。室町期に荒廃、永徳元(1381)年に南波氏によって諸仏が現在の戸狩岩窟に移された。17世紀に不動山大型寺とし円海大阿闍梨によって再興される。明治維新の際に庵寺となるが、明治14(1881)年に岐阜市厚見の仙教院を懇請して移し巖谷山清來寺となり、翌15(1882)年天台宗寺門派寺院として再々創された。昭和44(1969)年不審火により本堂が焼失する。この時焼失した前本尊不動明王には親応2(1351)年の銘文あり。天徳寺の寺伝と合致する。定光寺(瀬戸市)所蔵の「覚源禪師偈頌」に「小田山中岩屋堂安三仏」の記載があり、当寺を指すとみられている。また、江戸時代には龍性院(豊田市)の末寺となっていた。						
遺構	岩窟、柱痕跡、平坦面、石積み						
遺物	石仏、宝鏡印塔						
有形文化財等	一						
参考文献	瀬戸市2005『覚源禪師偈頌』『瀬戸市史』資料編3 原始・古代・中世、豊田市教育委員会2016『名勝龍性院庭園総合調査報告書』、瑞浪市1974『瑞浪市史』歴史編						
備考	当寺付近には「別荘」「不動洞」「不動前」「薬師堂前」の地名が残る。また正源寺の裏か八巻山辺りに雲峰寺があつたとされ、天徳寺との関係が考えられるが、詳細は不明。						

調査所見 南北方向の長い尾根上に不動堂・本堂・南端に白山神社がある。東端の岩窟下の高さ5m奥行5mの窟内に現不動堂がある。不動堂周辺の壁面には、懸造の柱痕跡が残っている。柱痕跡は角柱で0.2m角のものと、幅0.8mで長さ2m以上の痕跡のものがある。不動堂のそばには大黒天を祀る高さ2.9m×奥行1.5m×幅1.8mの部屋があり、周辺にある部屋(高さ1.7m×幅1.2m×奥行0.8m)に比べると大きいため、この部屋が中心になると考えられる。北端の窟を奥之院とし、高さ3.6m×奥行2.5m×幅1.7mの部屋に弘法大師を祀っている。尾根の東崖に、ほぼS字状に3階構造の岩窟が10基以上、岩窟内の部屋が20基以上展開し、部屋は1基を除いてほとんどが東・北東を向いている。現本堂北の岩窟は西を向き高さ3.0m×奥行2.0m×幅3.0mで、開口部西に石列と礎石が伴う。①とその周辺の平坦面は、水田として改変されたようで、水源が近いようである。境内の西側②の辺りには「別荘」の地名が残り、平坦面南端に石積みを伴う平坦面がある。また文政と刻まれた墓石を確認した。現境内の谷を挟んだ東側には墓地(天徳墓地)及び中学校がある。この辺りには字寺屋敷や不動前という地名が残り、天徳寺か雲峰寺にあつた寺があつたと考えられる。天徳墓地の北側の尾根には平坦面が複数あり、その平坦面上に江戸期の年号(宝暦・寛政・天保)が刻まれた墓石を確認した。

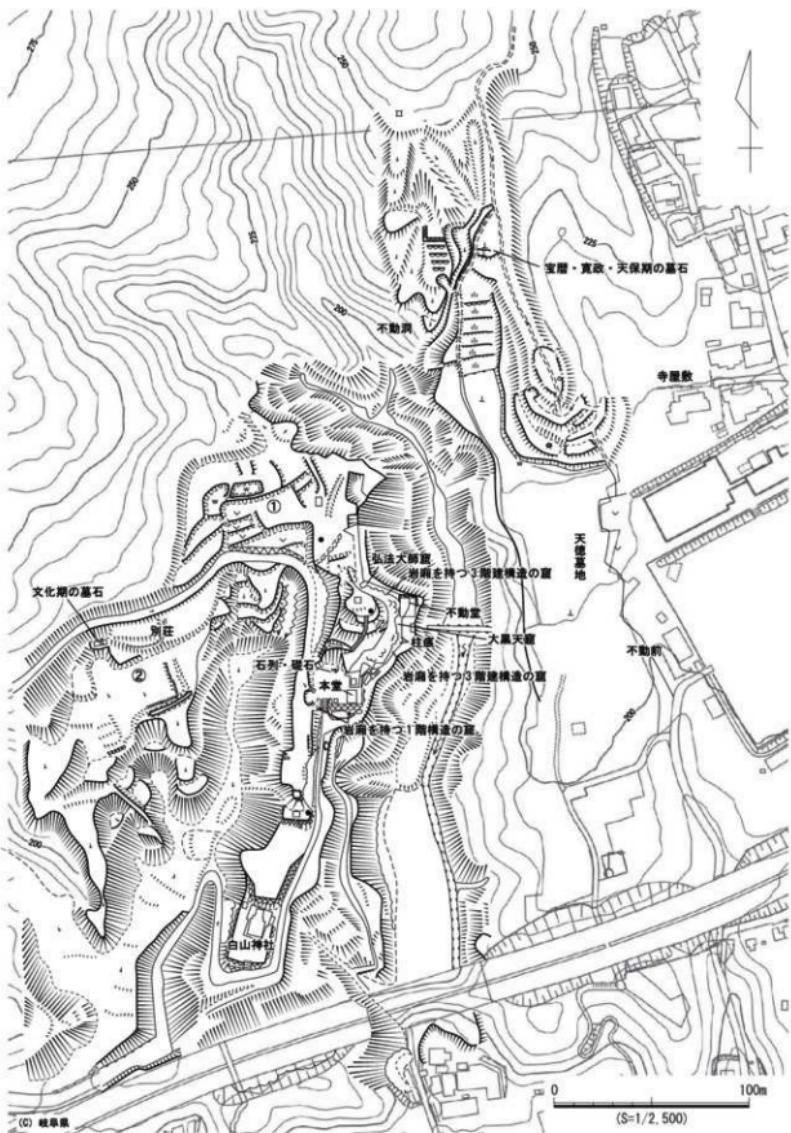


図14 巍谷山清末寺 地形観察図

地区	東濃	寺院番号	08033・08033b	県遺跡番号	一	分布図番号	N9
ふりがな	すいおうざんほうみょうじ（さくらどういせき、さやまいせき、さくらどうやくしいせき）			所在地		瑞浪市土岐町	
寺院名	瑞櫻山法妙寺						
(史跡・遺跡名)	(桜堂遺跡、笛山遺跡、桜堂薬師遺跡)						
時代区分	中世～			宗派		天台宗・臨済宗	
立地	山麓、山腹			現状(植生)		山林・境内地(アカマツ・コナラ)	
東西規模	400m	南北規模	400m	標高(比高差)	250(50) m	平坦面面類	B+C2+D
沿革	寺伝によれば桜堂薬師の創建以前に小堂が建っていたが、弘仁3(812)年に三諦上人が瑞櫻山法妙寺として創建したとされる。その後、天皇の勅願寺となり、七堂伽藍が整えられたとも伝えられる。元亀2(1571)年、織田信長の家臣森長可と土岐信友の家臣石原善四郎によって焼かれたが、森長可と土岐信友によって堂宇が再建された。万治3(1660)年に天台宗の高僧永秀が荒廃を惜しんで再興を発意、その後弟子の賀秀が寛文7(1667)年に現本堂の再建を果たした。明治元(1868)年、岩村藩から廢寺を命じられ、明治10(1878)年には臨済宗寺院の信光寺の受け持ちとなつた。						
遺構	【桜堂遺跡】柱穴(平安)、墓・柱穴・土坑・溝(以上中世)、【笛山遺跡】経塚(12~13世紀)、集石墓(13~14世紀)						
遺物	【桜堂遺跡】山茶碗、古瀬戸、常滑産陶器、中国陶磁器、層塔、五輪塔、宝塔、無縫塔【笛山遺跡】経箱紐金具、刀子、念珠玉、有筋文壺、陶製経筒外容器、和鏡、桧扇、山茶碗、古瀬戸、施釉陶器、無釉陶器、五輪塔【桜堂薬師遺跡】五輪塔、宝鏡印塔						
有形文化財等	觀世音菩薩坐像(県指定、室町)、桜堂給馬(県指定、安土桃山~江戸)、桜堂薬師舞楽面(県指定、鎌倉)、木造薬師如坐像、木造日光菩薩、月光菩薩坐像、木造四天王像・木造十二神将像(以上市指定、安土桃山~江戸)、木造金剛力士像(市指定、室町、元禄10年修復)、木造聖觀音坐像(市指定、平安~鎌倉)、木造天部形立像(市指定、室町)、寺領寄進給図(江戸)						
参考文献	瑞浪市 1974『瑞浪市史』歴史編、瑞浪市陶磁資料館 2012『特別展桜堂薬師 1200年展』、瑞浪市陶磁資料館 2011『瑞浪市歴史資料集』第一集、瑞浪市教育委員会 2014『笛山遺跡』瑞浪市埋蔵文化財調査報告書7						
備考	瑞浪市教育委員会により、笛山遺跡は平成22年度、桜堂遺跡は平成23年度に発掘調査が行われた。						

調査所見 桜堂遺跡は各平坦面から多数の遺構、遺物が確認されている。出土遺物から12世紀後半～15世紀後半にかけて坊院として機能していたと考えられる。最大の平坦面は大型の柱穴が見つかっていることや後背に中世墓群が存在することから旧本堂が建っていたと推定されている。旧本堂跡から北側の斜面には、三諦上人供養塔をはじめ、中世の石塔が散在する墓域がひな壇状に広がっている。笛山遺跡は現本堂の南方200mの丘陵に所在し、山頂の経塚群と山腹の中世墓群からなる。大正5(1916)年に地元住民によって発見され、陶製経筒外容器や和鏡、刀子、桧扇等が出土した。発掘調査では古瀬戸や山茶碗等多数の遺物が出土した。これらの遺物から山頂部の経塚群は12世紀後半から14世紀にかけて造営されたことが明らかになった。中世墓群においても14世紀から16世紀にかけて造立されたとみられる石塔が多数確認された。また、山頂部の経塚群からは全国的に珍しい11世紀製作と考えられる経箱紐金具も出土している。

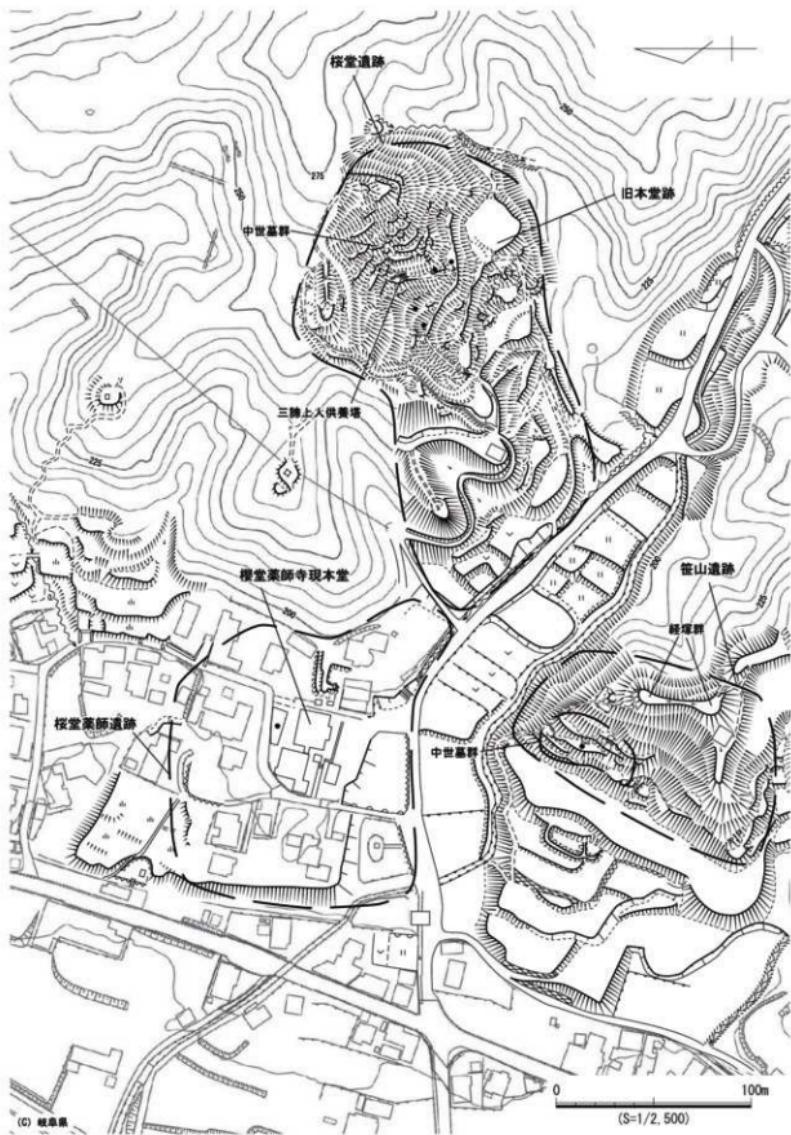


図15 瑞櫻山法妙寺（桜堂遺跡、笠山遺跡、桜堂薬師遺跡）地形観察図

地区	東濃	寺院番号	08087	県遺跡番号	21208-11383	分布図番号	N9
ふりがな	(でん しんそうじあと)			所在地	瑞浪市稻津町萩原		
寺院名 (史跡・遺跡名)	(伝 心宗寺跡)						
時代区分	中世			宗派	不明（臨済宗か）		
立地	丘陵			現状(植生)	山林（コナラ）		
東西規模	330m	南北規模	160m	標高(比高差)	426m (20m)	平坦面面類	B+D
沿革	正式名称は「鶴足山心宗陀頭禪寺」といい、夢窓国師が修行寺として正和3（1314）年に開基したと伝えられている。近年、横山住雄 2015において「如意輪寺」の跡とする考えも示されている。当該遺跡の廢絶時期は不明であるが、江戸時代には同地に「三松軒止静庵」が創建される。文久2（1862）年に焼失し、普济寺に併合された。						
遺構	土壘、池、座禅岩、枯滝、集石、石積み						
遺物	一						
有形文化財等	一						
参考文献	瑞浪市 1974『瑞浪市史』歴史編、卯月会 2007『萩原郷土誌 木穴』、横山住雄 2015『臨済宗五山派・美濃如意輪寺と天福寺』『論叢』第10号 花園大学国際禅学研究所						
備考	瑞浪市教育委員会によると 08090 真珠庵は心宗寺の塔頭であった可能性があるとされている。						

調査所見 恵那市との市境にある屏風山の西側、稻津町萩原の大牧地区に位置し、丘陵の西向き緩斜面に立地している。遺跡の西側に「心字池」と呼ばれる池がある。池の東側は緩い斜面となっており、そこを登っていくと複数の岩が散乱している。その岩の中に「座禅岩」と呼ばれる岩がある。坂を上りきると東西約 60m × 南北約 35m の平坦面が広がり、北側や西側には土壘も確認できる。修行道場であったと考えられる。遺跡の南東部には石積みや石列・土壘を伴った平坦面がある。石積みは平坦面の西側 2 ~ 3 m で確認でき、南側には約 30m の石列が並ぶ。それに接続する形で土壘が 10m 続き、さらに東に曲がって 15m 続いている。これらは本堂跡に伴う遺構と考えられるが、現段階では平坦面の大きさなど詳細は不明である。本堂跡から西側に 10m ほどのところに岩が集積している。「枯滝」と呼ばれ、夢窓国師が設計した庭園の一部だと考えられている。遺跡の北東部は、墓域の可能性がある。1 ~ 2 m の石の周りに 20 ~ 30cm の石 10 ~ 20 個が並べられた石組が点在している。1 ~ 2 m の大きな石がないものもあるが、このような石組が 10 か所以上に点在している。参道がどのように続いているのかは不明であるが、遺跡の西側には南北に「中馬中街道」が通り、本堂跡や座禅岩から西側へ参道が続いていたと推測できる。

なお、瑞浪市教育委員会より「当該地の北側に位置する大草集落の地割も当該遺跡に関連する可能性が考えられる」との御教示を受けたので大草集落も図化した。この集落を通る現道の両脇には、方形区画の平坦面が連続している。

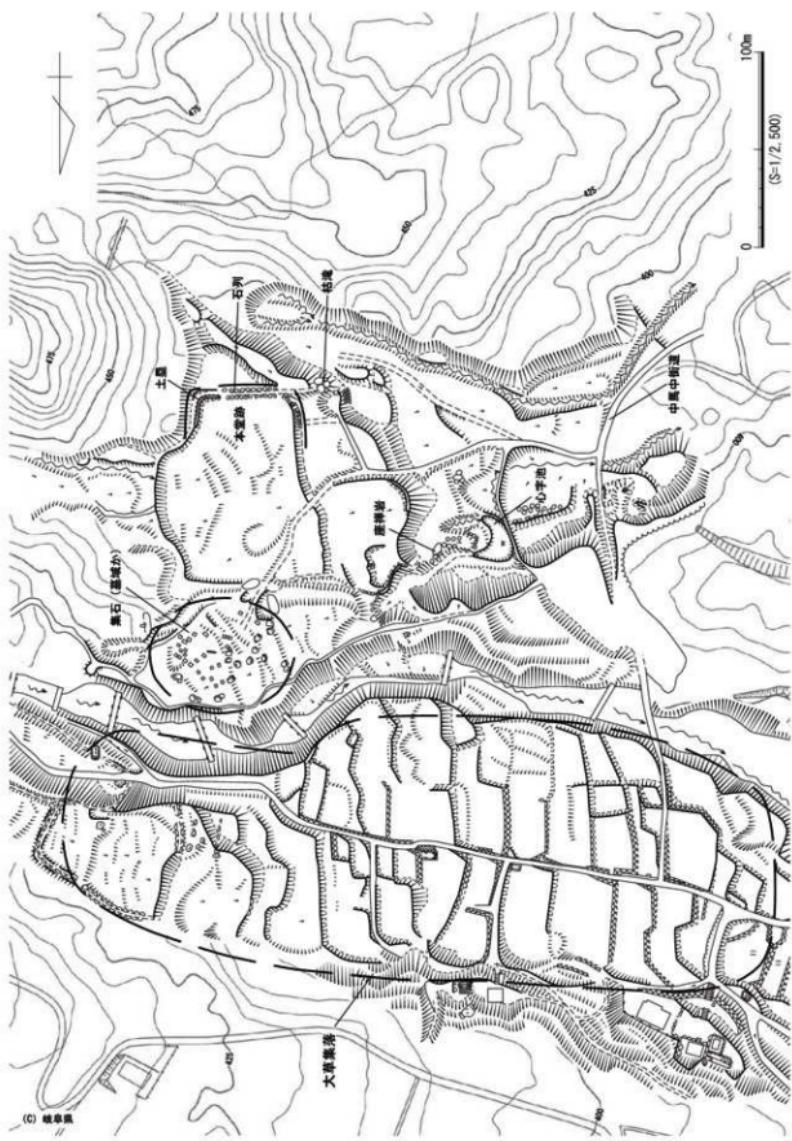


図 16 伝 心宗寺跡 地形観察図

地区	東濃	寺院番号	08108	県遺跡番号	21208-11384	分布図番号	N9
ふりがな	(でん さくらどうやくしおくのいん)	所在地		瑞浪市土岐町			
寺院名 (史跡・遺跡名)	(伝 桜堂薬師奥之院)						
時代区分	中世	宗派		不明			
立地	丘陵	現状(植生)		山林(アカマツ)			
東西規模	100m	南北規模	150m	標高(比高差)	540(40)m	平坦面面類	E
沿革	現在櫻堂薬師境内に所在する観音堂は、櫻堂薬師の東方約4kmの丘陵にかつて所在したとされる。『特別展櫻堂薬師 1200 年展』によると、櫻堂薬師に伝わる古記録に「此觀音ハ當寺ノ奥之院、昔シハ峯山ノ觀音ト申御像」、「昔峯山ニ一人ノ仙人有リ(中略) 観音ハ其仙人ノ作也」との記載が見られる、である。また観音堂が現在の境内に移された時期は、『濃州土岐櫻堂内院観音堂記』(元禄12(1699)年成立)に実相院(賀秀)が再建を果たしたと記されること、また寛文5(1665)年の『寺院寄進絵図』にその存在が描かれていることから、1660年代前半ではないかと推測できる。						
遺構	礎石、池跡						
遺物	一						
有形文化財等	聖觀音坐像(市指定、平安末)、濃州土岐櫻堂内院観音堂記(江戸)、寺領寄進絵図(江戸)						
参考文献	瑞浪市陶磁資料館 2012『特別展櫻堂薬師 1200 年展』						
備考	当該地の西方約400mの平地は通称地名で「観音ヶ平」と呼ばれ、当該遺跡と関連する可能を考えられる。当該地には八ヶ頭遺跡が所在する。						

調査所見 観音堂があったとされる平坦面の大きさは 20m×15m で複数の礎石を確認した。平坦面の南東部がやや凹んでいるため池があった可能性がある。かつては石積みも存在したとされるが現状では確認できなかった。この平坦面の周辺には複数の平坦面を確認できるがその性格は不明である。

観音堂跡の北側に道があり、東へと登っていくと大きな平坦面を確認できる。この平坦面の北西側に塚状の高まりがあり、その北側には石組が確認できるが、これらは鳥屋(小鳥狩りの際にわなを仕掛けで待つために山中や谷間に設けた小屋)の跡であり、寺の遺構ではないと考えられる。

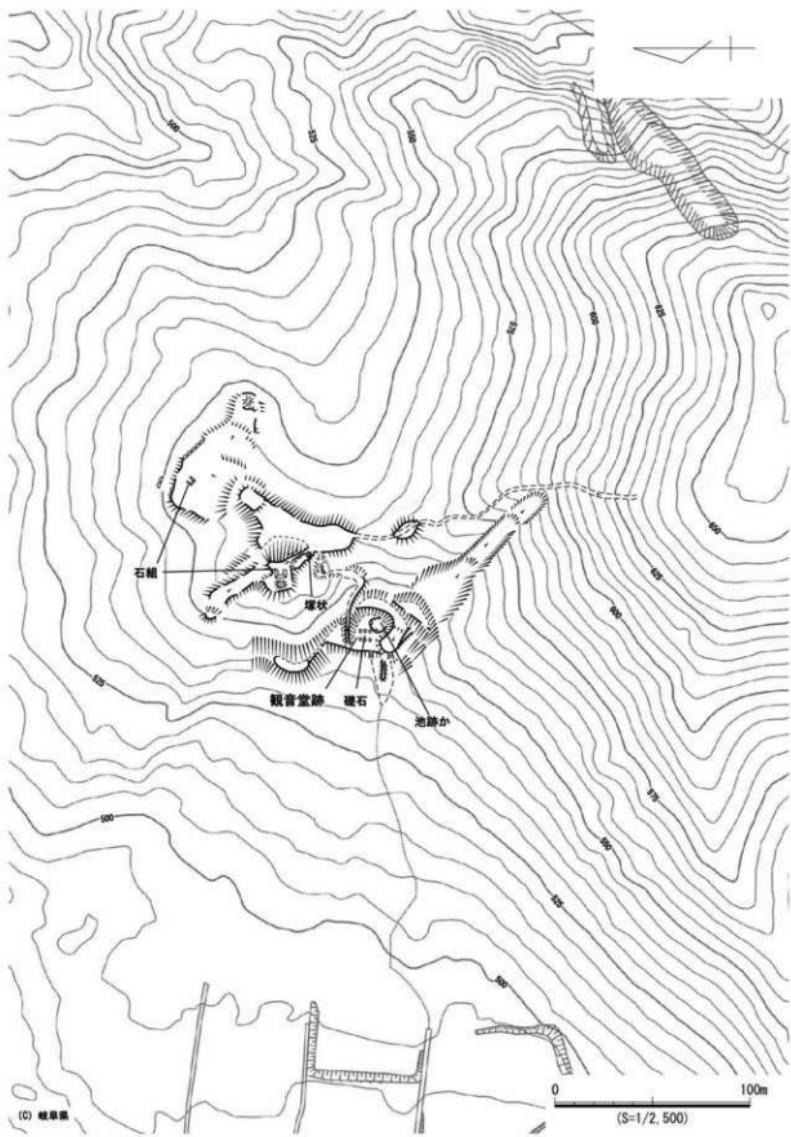


図17 伝 桜堂薬師奥之院 地形観察図

地区	東濃	寺院番号	08111	県遺跡番号	21208-10072	分布図番号	N9
ふりがな		(おりしんじょうあと)		所在地	瑞浪市福津町小里		
寺院名 (史跡・遺跡名)	(小里新城跡)						
時代区分	古代（平安）～中世			宗派	不明		
立地	丘陵			現状(植生)	山林（スギ・ヒノキ）		
東西規模	200m	南北規模	250m	標高(比高差)	235 (35) m	平坦面面類	不明
沿革	成立時期や詳細な沿革は不明である。『岐阜県中世城館跡総合調査報告書』によれば、小里国定が城主とされる城であり、小里氏菩提寺である興徳寺の裏山に、土壘で囲まれた方形区画、堀状の溝・平坦地が認められる。ただし、これらはその位置や土壘や構によって囲まれた範囲の形態・構造からみて、城館遺構に伴うものとは考え難いとされる。興徳寺は慶長6（1601）年に小里助右衛門光明の菩提寺として小里光親が開基し、当林が開山した寺である。この興徳寺の前身が大藏寺であり、現在興徳寺が建てられている場所の地名を「大藏寺」という。興徳寺が所有する普公像も元は大藏寺に奉納されたものと考えられる。「小里家譜」には「光親城ノ北西大藏寺ト云山寺ノ跡アリ、其所ニ興徳寺ヲ移シテ再興ス」の記述がある。						
遺構	土壘、石積み						
遺物	—						
有形文化財等	—						
参考文献	岐阜県教育委員会 2004『岐阜県中世城館跡総合調査報告書』第3集（可茂地区・東濃地区）。瑞浪市陶磁資料館 2020『美濃源氏 土岐一族の時代』						
備考	—						

調査所見 興徳寺の前身とされる大藏寺の位置は不明であるが、現在小里新城跡とされている位置に大藏寺があった可能性があるため、小里新城跡から現在の興徳寺にかけての範囲を調査した。

興徳寺遺跡となっている平坦面の西側山裾には、南北約50mにかけて幅約1mの溝（堀）がつくれられており、北側は西に屈曲して角を持っている。溝には土橋などの渡るための通路は設けられていないが、溝の西側に城の中心へ向かう通路があることを鑑みると、橋が掛けられていたかもしれない。塁園と溝の境には、山神の石祠が建てられている。城砦跡の石柱のある中心的な平坦面の北側の崖地に湧水点がある。水は崖みから東側へ水路が流れしており、水路の両側には複数の平坦面が階段状に確認できる。これらの平坦面は近年まで耕作地であったようである。興徳寺の方の話によると、かつては北西対岸の三角遺跡付近から現在の境内西側に橋が架けられていたらしい。また興徳寺境内の西部には矢穴の跡が残る石積みを確認でき、その石積みの西側には複数の平坦面を確認できる。塁園など改変されている部分も多いため全体像は分からぬが、小里新城が寺院跡であった可能性が考えられる。

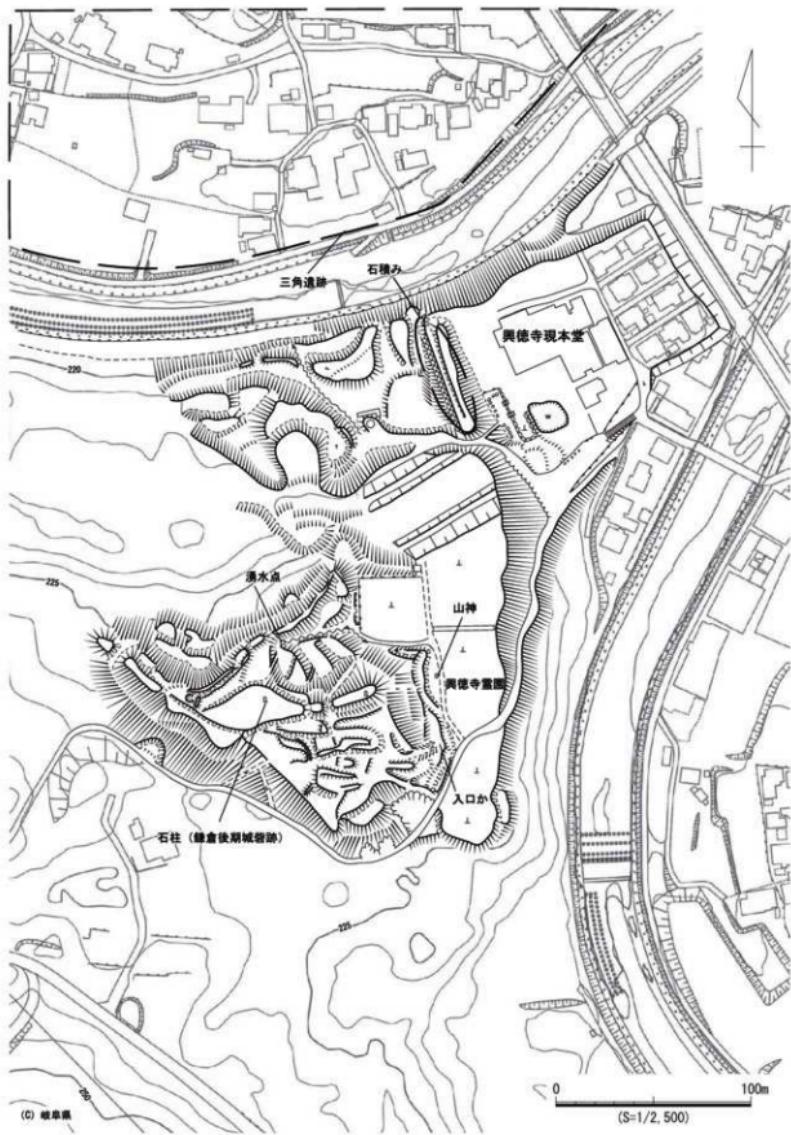


図18 小里新城跡 地形観察図

[恵那市]

地区	東濃	寺院番号	10012b	県遺跡番号	一	分布図番号	N10
ふりがな	とうこういんきゅうけいだい			所在地	恵那市岩村町富田		
寺院名 (史跡・遺跡名)	東光院旧境内						
時代区分	中世～近世			宗派	臨済宗		
立地	山麓			現状(植生)	山林・畠地(コナラ)		
東西規模	100m	南北規模	100m	標高(比高差)	525(0)m	平坦面面類	E
沿革	東光院は藤清宗で加茂郡蜂谷村瑞林寺の末寺である。瑞林寺の末寺となっているのは当地では東光院の他に飯羽間の徳祥寺、上手向の円徳寺がある。何れも瑞林寺7世竺源玄盛の開創である。東光院のもとは打杭の山麓にあり、火水觀音と称して重映著しい仏像を安置した庵寺であった。これはもと大円寺の仏像を祀り、大円寺の属寺であった。この庵寺の開基大原宇公は天正元(1573)年2月に亡くなっている。元亀3(1572)年11月大円寺は武田方の兵火で焼失したが、この庵寺は難を免れて残っていた。瑞林寺7世竺源玄盛は、遠山氏菩提寺の大円寺復興を藩主の松平氏から許されず、やむを得ずこの庵寺によって東光院を再興した。時は元和年間(1615～24)のことである。						
遺構	石組						
遺物	五輪塔						
有形文化財等	大円寺井戸囲(中世、市指定)						
参考文献	岐阜県岩村町役場 1956『岩村町史』全						
備考	—						

調査所見 旧境内は現境内から東に約500mの打杭峠の西斜面にある。寺域の北側に石組の基壇に石碑と五輪塔、社祠が安置されている。最奥の最も高い場所であるが、小庵程度の建物が建てられる程広い平坦面ではなく、当時も墓域であったかも知れない。その西側に複数の平坦面を確認することができる。①は堂宇が建立可能な南北方向に長い平坦面で北側がやや低くなっている。この平坦面の縁辺部は近年の開削がされている様子はあるものの、旧地形をある程度は保っている可能性はある。そこから西に伸びる参道の両脇に平坦面が広がるが、寺に関係する平坦面かどうかは不明である。なお、地元聴き取りによると、現境内の西に流れる富田川はかつて旧境内との間を流れていたという。また、創建当時の本寺である大円寺は、南東約1.5kmに位置している。



図19 東光院旧境内 地形観察図

地区	東濃	寺院番号	10015	県遺跡番号	21210-5611	分布図番号	N10
ふりがな	いいだかさんまんしょうじ(まんしょうじあと)	所在地	恵那市山岡町馬場山田				
寺院名	飯高山萬勝寺						
(史跡・遺跡名)	(満昌寺跡)						
時代区分	古代（平安）、中世～	宗派	天台宗→臨済宗				
立地	丘陵・山腹	現状(植生)	山林・境内地・水田・畑地・宅地(コナラ)				
東西規模	700m	南北規模	500m	標高(比高差) 580(60豪仁王 酒)m	平坦面分類	不明	
沿革	萬勝寺の開基は古く、天安2(868)年頃に比叡山延福寺の3代座主慈覺大師(円仁)といわれる。創建時の寺号は満昌寺といい天台宗であった。本尊は円仁の作で千手觀音である。その後、明智遠山氏と岩村遠山氏の庇護を受け堂々たる天台の大寺として榮え、本堂は12間四方もあって寺域も広く、12の院坊を持ち馬場まであったとされる。しかし、武田勝頼による東濃侵攻の途次、美濃の兵が隠れていると思われ、焼き討ちされて全焼した。明智城主、遠山景行の二男、利景が満昌寺の住職として自体と名乗っていたが、元亀3(1572)年遠山一門から還俗を勧められ、民部利景と名乗り、明智城を奪還し、家康から6,531石を拝領した。利景の激賞により、菩提寺である龍藏寺の住職、格室和尚が村の有力者の協力によって、満昌寺境内に新しい堂宇を建てた。戦火をまぬがれた千手觀音像を觀音堂に祀り、本堂には十一面觀音を新たに祀って臨済宗妙心寺派の萬勝寺となった。飯高萬勝寺の東南方山頂に白山神社がある。寛永年間(1624~44)の記録によれば、満昌寺の鎮守として白山大権現のあつたことを記している。						
遺構	礎石、池、基壇、経塚（市指定、縁倉）						
遺物	五輪塔、宝鏡印塔						
有形文化財等	—						
参考文献	恵那市教育委員会 2008『上矢作町史』民俗編、岐阜県恵那郡山岡町 1977『山岡町史』文化財図録編、岐阜県恵那郡山岡町 1984『山岡町史』通史編、東濃教育事務所学校教育課 1982『東濃の古寺』						
備考	飯高経塚（市指定、縁倉）、満昌寺経塚（市指定、縁倉）、瓶高觀音（S50市指定名勝）、仁王門跡、馬場桜、機子が池（弁財天池）、底なしの池、字仁王、字寺尾、字大音寺など周辺にある						

調査所見 境内は近年も改変されて中世以前の伽藍配置については伝承地名が残るのみである。現境内及び推定寺域は、周囲を小丘陵と尾根に囲まれた複雑な地形をもつ。中世の満昌寺は現在より西方にあったとされ、七堂伽藍が想定される西側の斜面には水田が広がる。伝北ノ本坊跡はこの西向き斜面の谷奥で階段状に展開する。現在の觀音堂がある場所が伝奥の院本坊跡であり、鎮守白山神社は北ノ本坊や奥の院本坊からみて北東背後の山上に位置する。現本堂の西にある飯高経塚の手前は伝仁王門跡で、礎石があったとされるが現在は確認できない。小丘陵斜面には多数の平坦面が確認でき、石塔が残る墓域周辺などは、12院あったとされる山内坊院の可能性がある。その場所からさらに西方に向かうと馬場、仁王剣と続く地名が残ることから、中心参道は西に向かうことが想起される。

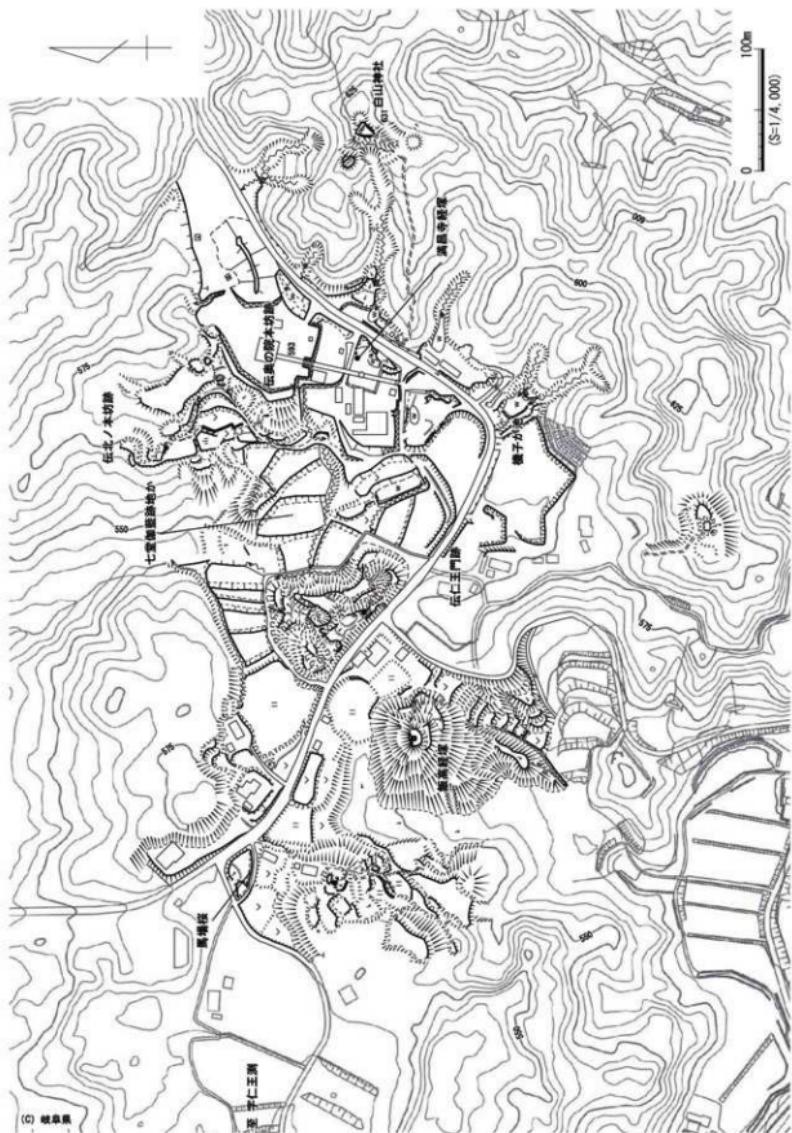


図20 飯高山萬勝寺（満昌寺跡） 地形観察図（1）



図21 飯高山萬勝寺（満昌寺跡）地形観察図（2）

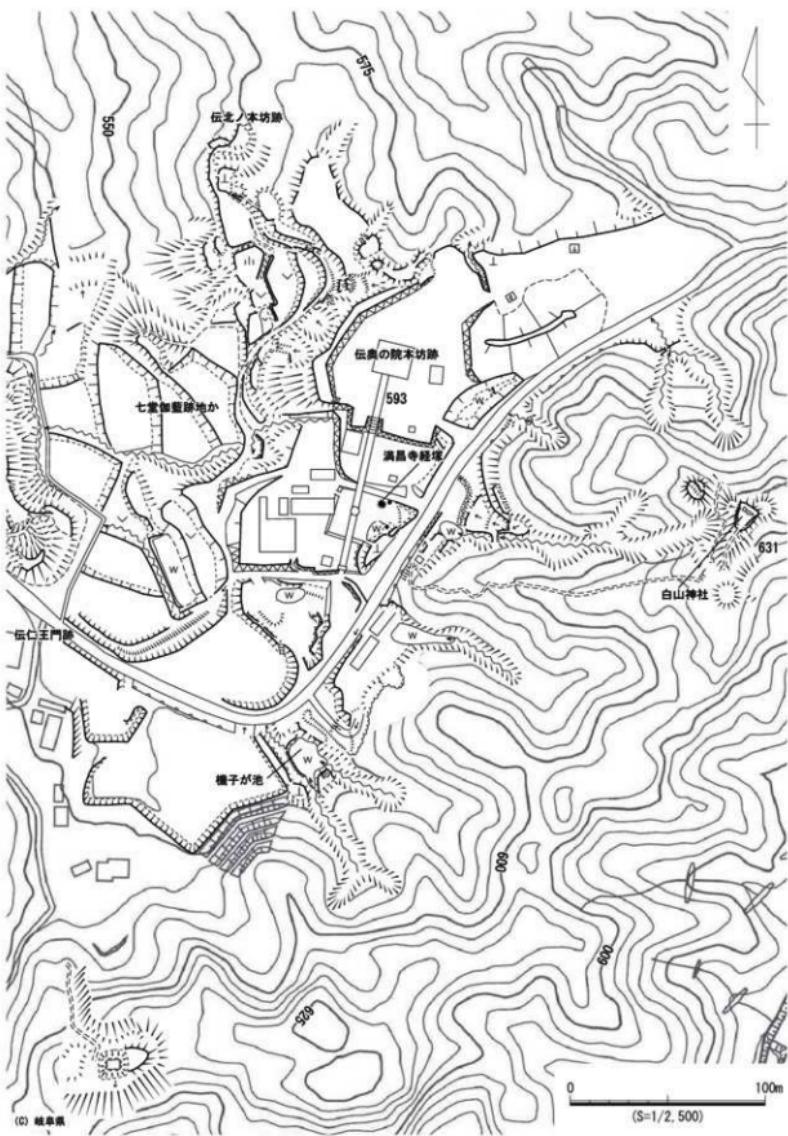


図22 飯高山萬勝寺（満昌寺跡）地形観察図（3）

地区	東濃	寺院番号	10027	県遺跡番号	21210-5604	分布図番号	N10
ふりがな	いおうざんりんしょうじ（るりこうじあと）	所在地	恵那市山岡町久保原				
寺院名 (史跡・遺跡名)	医王山林昌寺 (瑞璃光寺跡)						
時代区分	中世～			宗派	天台宗→曹洞宗		
立地	山麓			現状(植生)	境内地		
東西規模	170m	南北規模	190m	標高(比高差)	520m (15m)	平坦面分類	B+C1
沿革	伝承によれば、鎌倉末期の文保年間（1317～19）に、丹波の草柏という僧が、行基作の薬師如来像を奉持して、久保原の里へ来た。土地の百姓与作がこれに帰依して、草庵を建てて迎え入れ奉仕した。その後村人たちの努力によって、七堂伽藍の大寺を建立し、天台宗の医王山瑞璃光寺と称したと伝えられている。この付近には多くの五輪塔、宝篋印塔が残っていて、その数は現在認められるものだけでも、20基を越すものと思われる。この寺も天正年間（1573～92）の兵火で焼失してしまったが、本尊の瑞璃光薬師如来は、中西城主遠山左京進の母、宗貞尼が草堂（恵月庵）を建ててこれを守り、その後江戸時代に入つてこの地に曹洞宗の医王山林昌寺が建立されると、この薬師如来はこの寺の本尊として迎え入れられた。と伝えている。盛久寺の三世竜山長運は、寛永2（1625）年瑞璃光寺の跡に一寺を開き、恵月庵から薬師如来を移して本尊とし、医王山林松寺と名付けて弟子の天続をして守らせた。						
遺構	—						
遺物	石塔台座（天文二（1533）年瑞璃光寺銘）、五輪塔、宝篋印塔						
有形文化財等	—						
参考文献	岐阜県恵那郡山岡町 1977『山岡町史』文化財図録編、岐阜県恵那郡山岡町 1984『山岡町史』通史編						
備考	—						

調査所見 恵那市中央にある山岡町久保原に位置し、東西を尾根に囲まれた山麓の南向き洞地形の緩斜面に立地する。周辺は宅地造成されているが、中央には南北に延びる舗装道路の両側に階段状の平坦面が続き、参道や坊院の名残が確認できる。参道の突き当たりは樹形状になっており、以前の仁王門の位置に当たる。その先の平坦面が林昌寺であり、参道の延びる方向や仁王門の位置から、瑞璃光寺の主要施設があったと考えられる。林昌寺が所有する江戸期の古文書には、「大聖院（地蔵尊の西）、正身坊（林昌寺の西・今畑と成る）、大泉坊（林昌寺の下・今田園と成る）、恵月坊（恵月庵の上）、多門院（地蔵尊の東）」と、瑞璃光寺時代の詳細位置が記され、参道に接する形で坊院があつたことや、爪切り地蔵尊周辺にも坊院が広がっていたことが分かる。また林昌寺では「天文二年瑞璃光寺」の銘がある石塔台座を所有しているが、参道東側中央の平坦面から出土したという。本堂裏山の平坦面には墓があり宝篋印塔と五輪塔を確認したが、瑞璃光寺及び林昌寺に関わるものか不明である。東の山の南面と東面の緩斜面は、山頂部を閉むように平坦面が続き、山頂部にあたる平坦面には鐘楼堂があつたとされるが、鐘楼堂の存在が明確になるような痕跡は確認できなかった。東面の平坦面へのアクセスは、尾根に土星状の道が続き、鐘楼堂があつたとされる山頂付近へと続く。

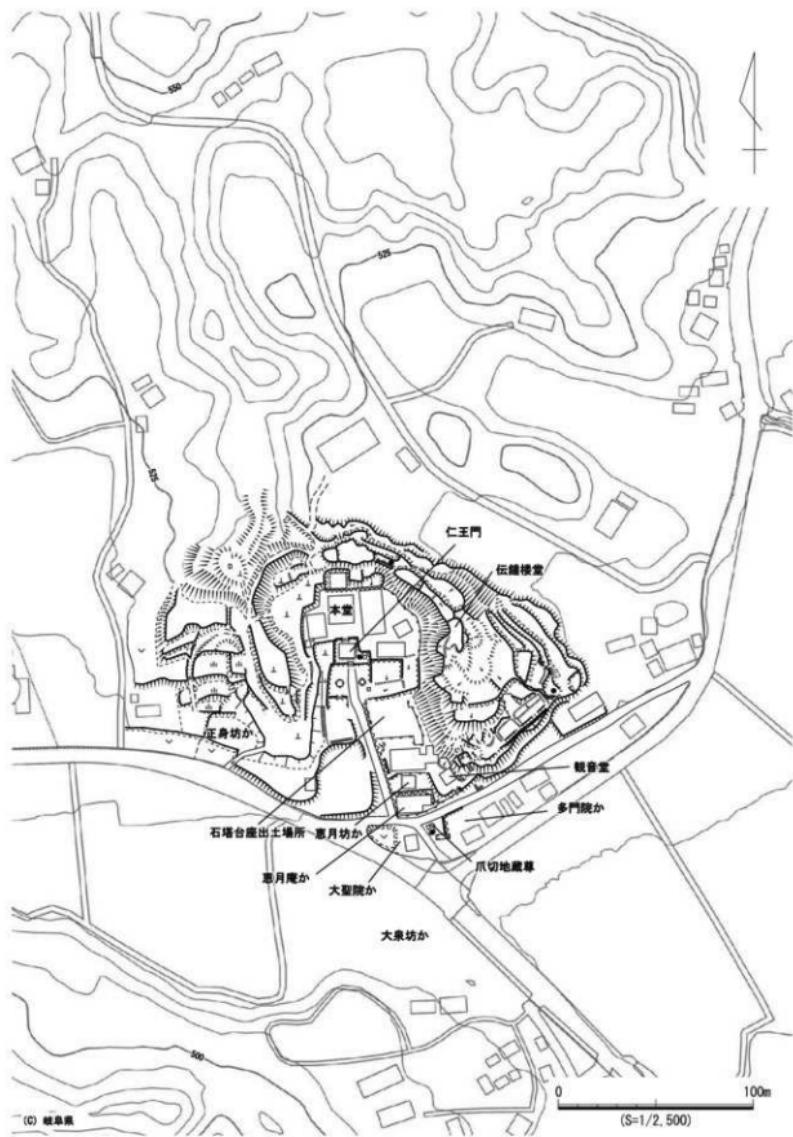


図23 医王山林昌寺（瑠璃光寺跡） 地形観察図

地区	東濃	寺院番号	10057	県遺跡番号	21210-5656	分布図番号	N10
ふりがな	みょうかくざんだいえんじ(だいえんじあと)	所在地	恵那市岩村町富田大円寺				
寺院名	明覚山大円寺						
(史跡・遺跡名)	(大円寺跡)						
時代区分	中世	宗派		臨済宗			
立地	山麓	現状(植生)		山林・荒蕪地・その他(コナラ)			
東西規模	800m	南北規模	750m	標高(比高差)	626(0)m	平坦面面類	不明
沿革	明覚山大円寺は遠山莊地頭遠山氏の菩提寺で、建武年間(1334~38)に臨済宗の高僧峰翁祖一によつて開創された。ときの岩村城主は遠山三郎と推定される。東濃臨済三名刹(虎渓山永保寺・大智山愚溪寺)の一つであり、常時100人余の修行がいた修行道場でもあった。大円寺は一時や衰微したが、城主遠山景前が天文3(1534)年に札をつくして高僧明寂慶春を迎えて再興した。明寂のあとは大本山妙心寺の管長職をつとめた希菴玄密を迎えたが、武田信玄の意に逆らったため、信玄は秋山信友に命じて大円寺を焼き払い、元亀3(1572)年11月26日希菴を飯羽間の橋上で殺害した。七堂伽藍をそなえ15ha(150,000 m ²)余りの面積を持つ大円寺は消滅した。江戸時代になって臨済宗の竺源は再興を願い出たが藩主の松平氏に許されず、東光院を開創した。武田勢による炎上後の寺領は江戸期には藩領、明治時代からは皇室林、太平洋戦争後は国有林となつたが、西方の一部は開放されて民有地となつてゐる(現在は8ha)。亭保6(1721)年の藩の文書によると、縱8町(981m)、横1町30間(163m)と記されており約15haにあたる。明治24(1891)年からの開墾で建物跡は苗圃となつた。当時の出土品の記録はなく、五輪塔の一部、陶器、瓦片などが知られるが多くは散逸したといふ。						
遺構	礎石、石積み、井戸跡、敷地跡、道路跡						
遺物	古瀬戸系の棒手骨壺、無軸の印花陶器、天目釉の茶碗や徳利、常滑系壺、瓦器、須恵器皿、山茶碗、おろし皿、五輪塔、古鏡、木箸等						
有形文化財等	大円寺井戸園(中世・市指定)						
参考文献	岩村町教育委員会 1994『岩村町文化財図録』、岐阜県岩村町役場 1956『岩村町史』全、東濃教育事務所学校教育課 1982『東濃の古寺』、横山住雄 2011『臨済宗五山派・美濃大円寺の興亡史』『花園大学国際禅学研究所論叢』6						
備考	塔頭寺院または関連寺院として、東光院、山岡町円徳寺(前身大円寺坊中の隠居所通玄院もしくは円通院)、武並町大円坊教寺跡(大円坊遺跡)がある。						

調査所見 大円寺の境内は、富田川右岸の山麓段丘上に展開していたと考えられる。市指定史跡碑がある平坦面には、五輪塔、礎石、石積みが確認できる。大円寺本尊を引き継ぐ東光院ご寺族によると、石塔は約50m東の現宮林事務所から移したもので、本堂はそこではないかとのことである。さらに東方約500mに石積みを伴う小平坦面に比丘尼屋敷跡がある。伝承によると、称木戸といいう推定門前からの裏道として通称尼坂が大円寺跡の北側尾根を走っており、尼僧は境内を通らず往来したという。大円寺は南西に位置する岩村城の北東鬼門の鎮守としての役割を担っていたとされ、称木戸の十字路を南下して富田川を渡河する城からの参道が想定される。



図24 明覚山大円寺（大円寺跡） 地形観察図（1）



図25 明覚山大円寺（大円寺跡）地形観察図（2）

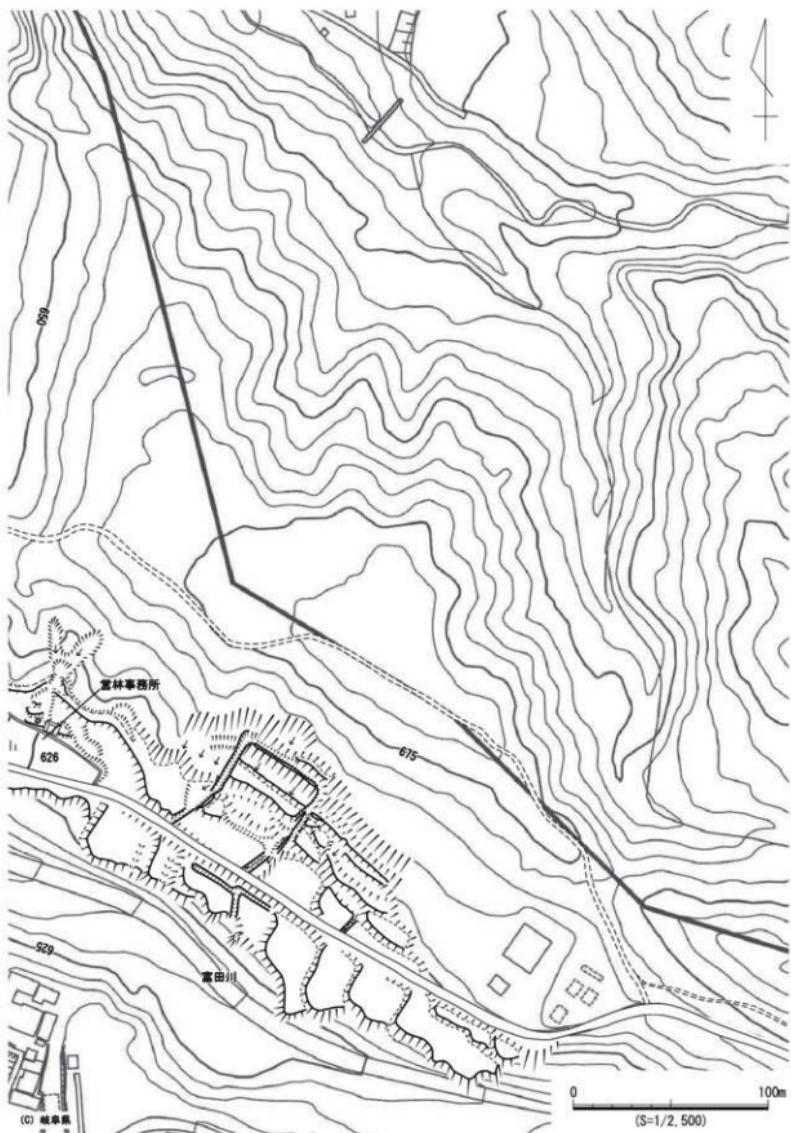


図26 明覚山大円寺（大円寺跡） 地形観察図（3）

地区	東濃	寺院番号	10085b	県遺跡番号	21210-10099	分布図番号	011
ふりがな	だいせんじきゅうけいだい（だいせんじあと）	所在地	恵那市上矢作町横道宇竹ノ上元屋敷				
寺院名 (史跡・遺跡名)	大船寺旧境内 (大船寺跡)						
時代区分	中世～近世	宗派		真言宗			
立地	山腹	現状(植生)		山林(スギ)			
東西規模	360m	南北規模	260m	標高(比高差) (530m)	1010m	平坦面分類	Eか
沿革	大船山に伝わる伝説によると、天平宝字年間(757～65)または天平神護年間(765～67)良弁の勅請で覚林坊を建立され、天長年間(826～34)小野篁が東山道鎮撫使として、当所を通り本堂および宝塔を建て、上村に100戸を勅付した。延喜3(903)年に山城醍醐寺の聖宝が密法を灌頂し、大船寺と命名、直賜額を掲げ、弟子宥賢に社務をとらせた。すなわち、修驗道(真言密教)の行者によって開かれた寺院で、盛んなときは、宿坊(多聞坊など)が30を超えたとされる。その後衰退に向かい、元亀～天正(1570～1592)の上村合戦など武田・織田抗争期に社人も散じたとされる。遠州浜松から来た山伏権大僧都明実が、寛文11(1671)年から僧坊・神社の改修を進め、山麓に庵を結び勝岳山大船寺と称し、宗門改などの社務を執るようになった。明治維新の神仏分離で、大船神社を村社とし、大船寺は廃寺となつた。『北設楽郡史』では、戦時には砦として使用された可能性はあるとしているが、柵切等の防衛施設は認められず、城郭遺構とは考え難い。						
遺構	—						
遺物	灰釉陶器、山茶碗、擂鉢						
有形文化財等	—						
参考文献	恵那市教育委員会 2008『上矢作町史』通史編、恵那市教育委員会 2008『上矢作町史』民俗編、北設楽郡史編纂委員会 1970『北設楽郡史』、岐阜県教育委員会 2004『岐阜県中世城館跡総合調査』第3集(可茂地区・東濃地区)、東濃教育事務所学校教育課 1982『東濃の古寺』						
備考	—						

調査所見 恵那市南部、愛知県豊田市との境にある上矢作町横道に位置し、大船山山頂から南西へ約400m下った南西向き斜面に立地している。規模が最も大きい30m×55mの平坦面には大船神社本殿があり、大船寺はこの場所にあったと推測できる。更に大船山方向へ約60m進むと奥宮が鎮座し、北東にある大船山山頂を背にしている。本殿の北には国指定天然記念物の樹齢2500年とされる弁慶杉がある。本殿のある平坦面へのアクセスは西の尾根と南の谷地形の緩斜面の2か所が確認でき、本殿のある平坦面付近の参道には灰釉陶器、山茶碗の破片が所々に散在している。山麓からのアクセスは、仁王門林道と称される尾根上の道である。本殿から西の参道を約180m下ると、尾根上の広い平坦面があり近年造成された駐車場が確認できるが、駐車場の西側に、仁王門林道が続き、中腹で南北方向に折れ、山麓まで続く。なお、仁王門の位置は不明である。

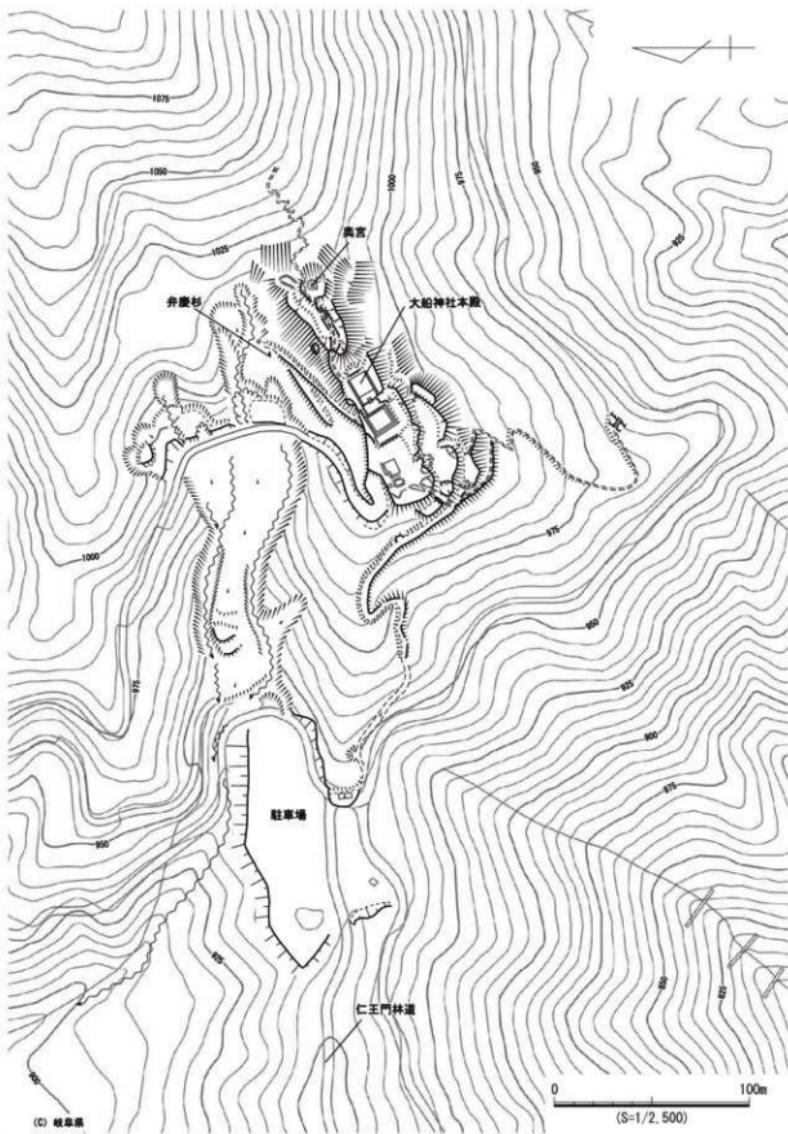


図27 大船寺旧境内（大船寺跡） 地形観察図

地区	東濃	寺院番号	10101	県遺跡番号	21210-8031	分布図番号	M9
ふりがな	まつおうじ（てらやしきあと）	所在地	恵那市笠置町姫栗木本				
寺院名	松王寺						
(史跡・遺跡名)	(寺屋敷跡)						
時代区分	中世～近世（江戸）	宗派		不明			
立地	山腹	現状(植生)		山林（アカマツ）			
東西規模	約 95m	南北規模	約 75m	標高(比高差)	660m (125m)	平坦面面類	E
沿革	成立時期や詳細な沿革は不明であるが、毛呂座に伝わる伝説の中に尹良親王にかかるものがある。信州から密かに美濃の地へのがれてきた親王は大井の里に足を留め、北にそびえる山は笠置山であると聞き、こここそが自分の住む場所であると、毛呂母（毛呂座）に入った。里人はこの方は常人ではないと想ろにもてなし、笠置山の山奥に松尾寺を建立して迎えたとされる。笠置山麓一帯の中世木曾西古道に沿った各村には、官方の遺跡と伝説されている所が多い。官方伝説の中心となっている人物は、尹良親王親子とその家臣である。時期は14世紀末から15世紀中頃（元中頃から嘉吉頃まで）であると思われる。						
遺構	石積み、井戸跡、岩窟、無銘塔（メンヒル）						
遺物	一石五輪塔						
有形文化財等	一						
参考文献	恵那市 1983『恵那市史』通史編第1巻、中津川市 1968『中津川市史』通史上巻						
備考	伝説に出てくる「松尾寺」が「松王寺」のことだと推測される。						

調査所見 笠置山の山麓に尹良親王伝説の本拠地である松王寺の遺構が展開する。本堂があったと考えられるのが①の平坦面である。幅 18×奥行 14m の広さがあり、中央部分に礎石の可能性がある石材を 2 点確認した。①の北西端には直径 4 m 程の池があり、中心部分が中島状になっている。その中島には室町時代に作成されたと考えられる一石五輪塔が一基置かれている。池の北側斜面には石積みを確認することができる。①から西側に向かって道が伸びており、突き当たりが岩窟になっている。岩窟の中を覗くと水が流れているのを確認できるが、どの方向から流れてきてどの方向へ流れているかは不明である。また岩窟の横には無銘塔（メンヒル）を確認できる。伝承では尹良親王の供養塔ではないかと言われている。その南側は斜面になっており巨石が散在する。①の南側には帶状の平坦面が 2 段あり、東側へと続いている。①の東側は西から続く平坦面を含め複数の平坦面が段々状に残っているが、遺構の性格は不明である。平坦面の東部に通路があるが、平坦面に伴った通路なのか平坦面を破壊して後の時代に作られたものかは判断できなかった。①の一段上にも平坦面が残っているが性格は不明である。

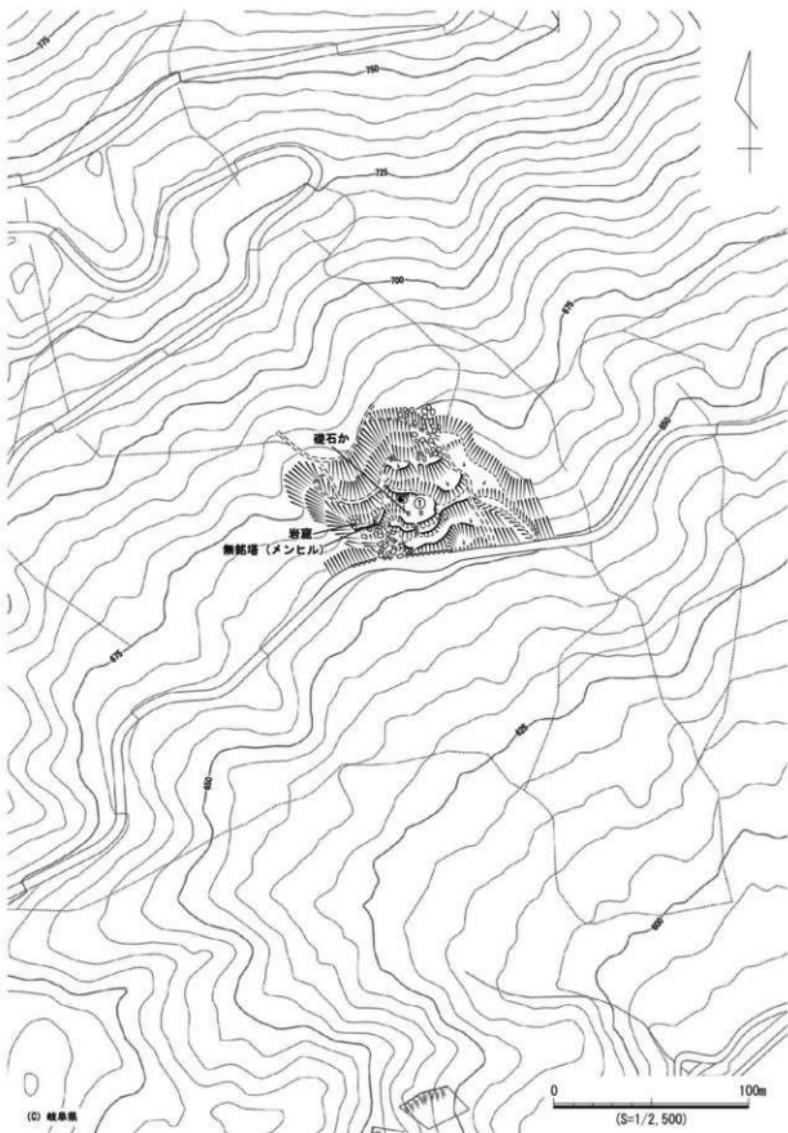


図 28 松王寺（寺屋敷跡） 地形観察図

地区	東濃	寺院番号	10102	県遺跡番号	21210-12010	分布図番号	L9
ふりがな		(はくうんじいせき)		所在地	恵那市笠置町姫栗市木		
寺院名 (史跡・遺跡名)		(白雲寺遺跡)					
時代区分		中世		宗派	不明		
立地		山腹		現状(植生)	山林(コナラ)		
東西規模	約40m	南北規模	約60m	標高(比高差)	975m (475m)	平坦面面積	E
沿革	成立時期や詳細な沿革は不明である。『恵那市史』によると、「濃飛古蹟史」に「笠置山の南原頂上より數丁下りたる所に小字寺屋敷とて、周囲丈余の大樹森々と茂りたる中に、五歛歩程平坦をなし、井戸あり又烟と覺しき跡あり。古來俗人此に入れば鐘の音ありとて恐るる者多し…」と記されている。その門前には、暗がり門、付近に門口・掛岩・札掛・城の木戸・矢平等の地名が伝えられている。口碑によると、寺の門前に、鎌倉杉と呼ばれる杉の巨木があつて、もし山内に食糧等がなくなると、杉の頂辺に旗をあげて、麓の村落から食糧を運ばせたものであるといわれている。この遺跡は宗良親王と関連があるのではないかと『笠置村誌』は類推している。						
遺構	—						
遺物	—						
有形文化財等	—						
参考文献	恵那市 1983『恵那市史』通史編第1巻、笠置村教育委員会 1938『笠置村誌』、安江赳夫 1968『生きている村—中野方町史—』、中野方町史刊行委員会						
備考	『生きている村—中野方町史—』によると、御借社(笠置神社)境内の西にある弘法堂の石弘法台座に「笠木山白雲寺」とある。この石弘法はもともと笠木山山頂本社境内に建っていたもので、笠木山白雲寺とあるのは、加茂郡小原村室松寺の秀算が西国八十八か所をまわめた札所を作った時に名づけた名前で、天保3(1832)年3月出版の冊子には、西国三十二番の札所、土佐国源師峰寺になぞらえて「笠木山白雲寺」と名づけたとされる。						

調査所見 笠置山の山頂から姫栗の集落を結ぶ道筋に位置する。「濃飛古蹟史」では五歛(約500平方メートル)の平坦地に井戸や煙があったとされるが、現状ではそのような遺構は確認できなかった。確認できる平坦面は3面あり、一番大きな平坦面は幅18m×奥行14mほどの広さである。平坦面の中央部から東部にかけて高まりがあり、お堂若しくは社がここに建っていた可能性が考えられる。北西端に湧水を確認でき、平坦面西部は湿地となっている。この平坦面の東側には巨石が南北に並んでいる。巨石は上方へと続いている。現地に設置された看板には上方にピラミッド型の岩石が見られるとの記述があるが、どれがそれにあたるのかは不明である。水の流れは見えないが、流れる音が聞こえ、暗渠のようになっている可能性がある。この巨石群に沿って登山道があり笠置山山頂に続いている。巨石群の東側には性格不明の平坦面が上下に2面並ぶ。下側の平坦面には石積みを伴う。

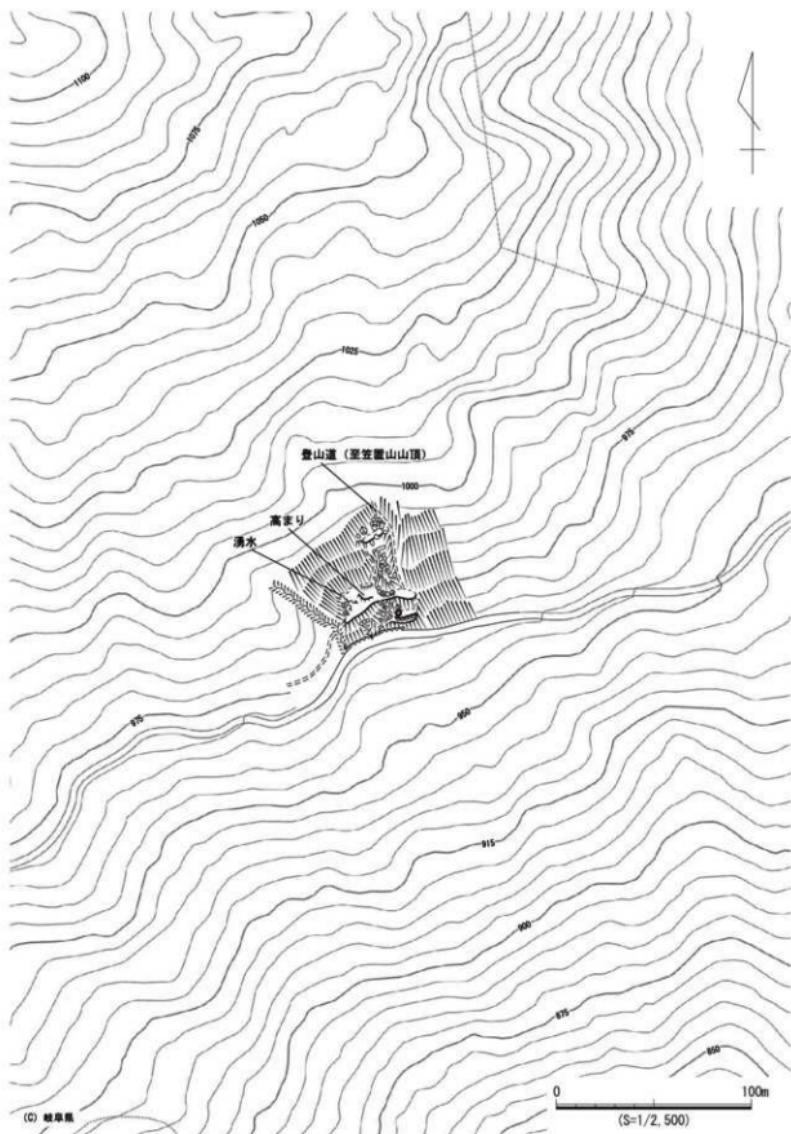


図29 白雲寺遺跡 地形観察図

地区	東濃	寺院番号	10055	県遺跡番号	21210-5346	分布図番号	L9
ふりがな		(かんじょうじいせき)		所在地		惠那市中野方町観定寺	
寺院名 (史跡・遺跡名)		(観定寺遺跡)					
時代区分		中世		宗派		不明	
立地		段丘		現状(植生)		水田	
東西規模	一	南北規模	一	標高(比高差)	535 (43) m	平坦面類	不明
沿革		『生きている村—中野方町史—』によると、「安弘見伝記」に、旧心鏡寺の末寺で、戦国時代のはじめ（長禄・文明のころ）本寺心鏡寺の衰微にともなって廃絶した。とある。成立時期は不明であるが、出土遺物から存続期間はおよそ 13 世紀中頃から 16 世紀前半と推定されている。					
遺構	堂宇跡（基壇・礎石・参道）、溝、石垣						
遺物	山茶碗、古瀬戸、土器（土師器、瓦質土器）、陶磁器、木製品、石製品、金属製品						
有形文化財等	一						
参考文献	惠那市教育委員会 1991『観定寺遺跡発掘調査報告書』、安江赳夫 1968『生きている村—中野方町史—』、中野方町史刊行委員会						
備考	平成 2 (1990) 年に土地基盤整備事業に伴い惠那市教育委員会により発掘調査が行われた。						

遺構の概要 平成 2 年度に惠那市教育委員会によって行われた発掘調査で堂宇跡と溝数条が確認された。堂宇跡は高さ 1 m 程の基壇を有し周囲には石垣がある。基壇は一辺 13 m の正方形で、平面積約 169 m² の規模をもつ。基壇の東側には基壇上より約 50 cm 下がって 1.8 m × 4.4 m の長方形の造り出し部分があるが、用途は不明である。礎石は 8 個残っていたが、本来は 12 個あったと考えられている。これらは正方形に各辺 4 個ずつ配置され、礎石間の距離は一边の端から端までは四辺とも約 8.8 m、四隅とその両隣の間は約 2.6 m、各辺の中間部は約 3.6 m である。堂宇跡の南東側には階段状施設が認められ、階段からまっすぐ南東に幅 4 m の参道が伸びている。

遺物の概要 調査地全域から土器、陶磁器、木製品、石製品、金属製品等が出土した。中でも土器、陶器、木製品は、全体の出土量に占める割合が多く、「寺」と墨書きされた山茶碗、古瀬戸の各種陶器類、京都系の技術をもって作られた土師器皿と瓦質土器が出土した。山茶碗は、14 世紀以降徐々に出土量が増加し、14 世紀後半の大烟大洞 4 号窯式期から大洞東 1 号窯式期が出土量のピークである。古瀬戸は古瀬戸後期段階の天目茶碗、直線皿、灰釉平碗、大型仏花瓶、擂鉢といった、15 世紀後半の遺物が多く出土する。土師器皿は 13 世紀中頃から後半に比定される手づくね成形で底部が平らなタイプと 14 世紀中頃から 15 世紀中頃に比定される型押し成形の「へそ皿」が出土している。瓦質土器は 15 世紀代と比定されている。これらの出土遺物から遺跡の存続期間はおよそ 13 世紀中頃から 16 世紀前半と推定されている。

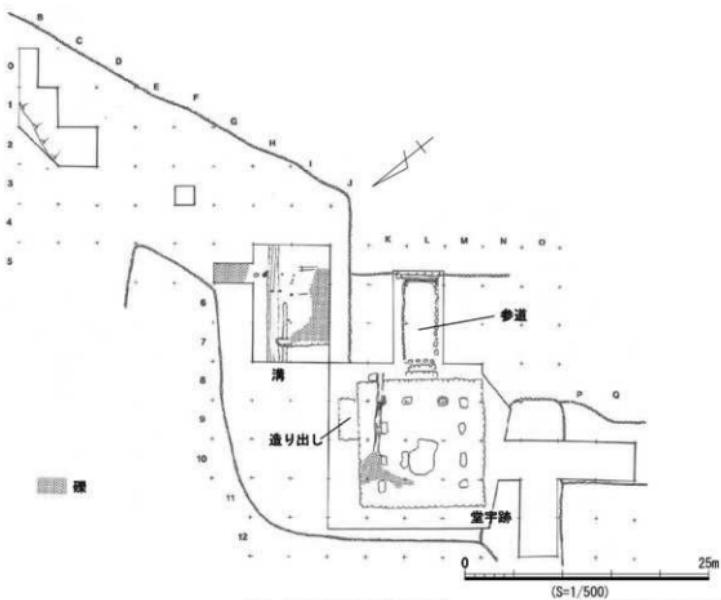


図30 観定寺遺跡遺構位置図

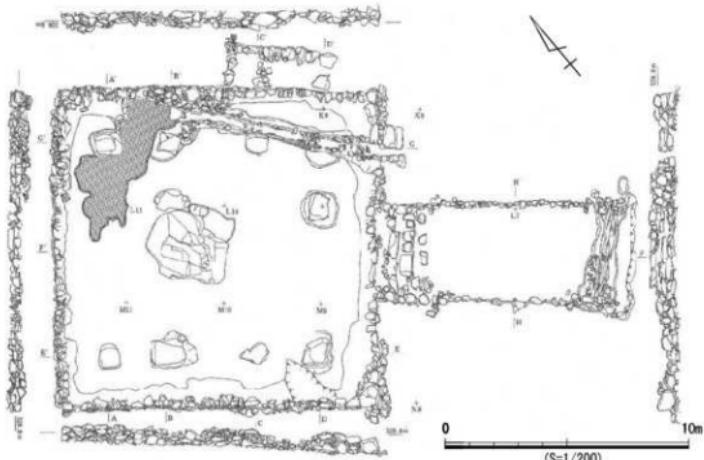


図31 観定寺遺跡 堂宇跡及び参道

地区	東濃	寺院番号	10060	県遺跡番号	21210-6219	分布図番号	N10
ふりがな		(とうげはいじあと)		所在地	恵那市山岡町上手向		
寺院名 (史跡・遺跡名)		(手向廃寺跡)					
時代区分		古代(奈良)		宗派		不明	
立地		丘陵		現状(植生)		畠地	
東西規模	約 60m	南北規模	約 50m	標高(比高差)	480 (20) m	平坦面分類	不明
沿革	昭和 41(1966) 年、上手向・上市場の旧道の拡幅工事が行われた時に大量の布目瓦が出土し、古代寺院の存在が明らかとなった。しかし、寺の存在について記した文献はなく沿革は不明である。						
遺構	礎石、基壇、掘立柱建物、堅穴状遺構、土坑、構、性格不明の遺構						
遺物	軒丸瓦、平瓦、丸瓦、土師器(甕、瓶)、須恵器(杯)、山茶碗、陶器(すり鉢、おろし皿)						
有形文化財等	一						
参考文献	恵那市 1983『恵那市史』通史編第1巻、岐阜県恵那郡山岡町 1984『山岡町史』通史編、山岡町教育委員会 1988『山岡廃寺跡(手向廃寺跡)』						
備考	農村総合整備事業に伴い、昭和 62(1987) 年度に山岡町教育委員会により発掘調査が行われた。創建の時期は出土した軒丸瓦等から奈良時代中葉に創建されたと考えられる。また、軒丸瓦が一形式しか出土していないことから存在した期間は短かったのではないかと推測される。						

遺構の概要 昭和 62(1987) 年度に山岡町教育委員会により行われた発掘調査で検出された遺構は、礎石 1 基、基壇 2 基、掘立柱建物 1 棟、堅穴状遺構 1 基、土坑 3 基、溝 6 条、性格不明の遺構 2 基（落ち込み、溝状）である。覆土の状態・出土遺物・遺物出土状況・形態・立地等から、礎石、第 1・2 号基壇、掘立柱建物、堅穴状遺構、第 2・3・5・6 号溝は、奈良時代の遺構であり、手向廃寺跡と関連が推測される。また、これらの遺構は寺城の北辺付近と考えられている。

遺物の概要 出土した瓦には軒丸瓦、平瓦、丸瓦がある。軒丸瓦は一型式のみで、單弁と複弁を交互に配するという特殊な瓦当文を有する。平瓦凸面のタタキ目痕は、奈良時代後期以降の繩帯文の他に、奈良時代前期に盛行した細格子目文のものも若干みられる。丸瓦は行基式のものである。

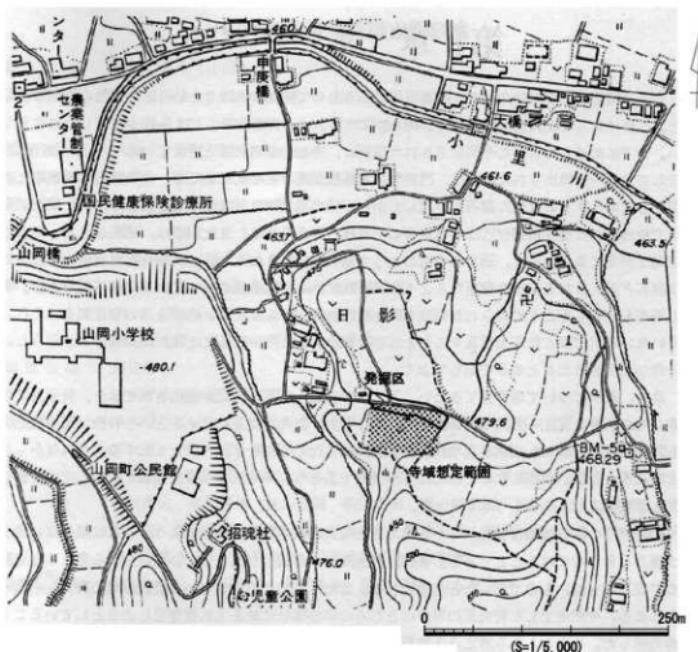


図32 手向庵寺跡 遺跡位置図

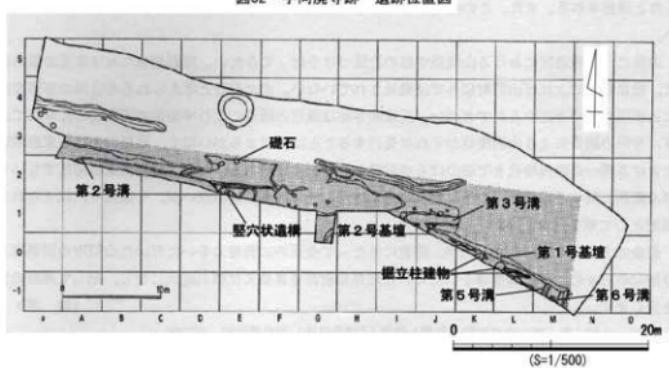


図33 手向庵寺跡 発掘区全体図

地区	東濃	寺院番号	10061	県遺跡番号	21210-8185	分布図番号	M10
ふりがな	たけなみじんじやじんぐうじ (たけなみじん じやいせき)			所在地		恵那市大井町神徳	
寺院名 (史跡・遺跡名)	武並神社神供寺 (武並神社遺跡)						
時代区分	古代(奈良)～近世(江戸)			宗派		不明	
立地	低地			現状(植生)		境内地	
東西規模	一	南北規模	一	標高(比高差)	295 (17) m	平坦面類	不明
沿革	伝承によれば、武並神社は承久2(1220)年、新田義綱により創建された。永正年間(1504～21)に戦火により荒廃し、永禄7(1564)年に再建され、寛文12(1672)年の大修理を経て現在に至っている。仏教色が強く、境内には神供寺があった。『武並神社之縁起』(市川家文書)によれば、永禄再建時に神供寺も造営されたこと、単に仏堂があるのみでなく僧坊等も備えた寺院であったことがわかっている。しかし、詳しい沿革は不明である。						
遺構	石垣、土塁、礎石建物、基壇、構						
遺物	須恵器、山茶碗、古瀬戸、金属製品(銅鏡物、鉄製鏡物、鉄釘、かすがい)、板状製品)						
有形文化財等	武並神社本殿(国重要文化財)、十一面觀音坐像(東禪寺所在)、武並神社縁起(市川家文書)						
参考文献	恵那市 1990『恵那市史』通史編第2巻、恵那市教育委員会 2001『武並神社遺跡』						
備考	現在東禪寺にある十一面觀音坐像が本地仏であると伝えられている。 平成12(2000)年、一般国道19号道路改良工事に伴い恵那市教育委員会により発掘調査が行われた。検出された礎石建物は神社と深く結びついた寺院、すなわち神供寺に関連する施設の可能性が高いと考えられている。						

遺構の概要 平成12(2000)年に恵那市教育委員会によって行われた発掘調査で、調査地北半で北西(武並神社)－南東(国道19号側)方向に延びる土塁、礎石建物、基壇、南端で石垣および区画溝が確認された。土塁は神社本殿背後の山林から続いているもので、南東方向(国道19号)にさらに続いていたと推定される。礎石建物、基壇は大半が国道19号バイパス造成時に破壊されており、検出されたのは西辺と北辺の一部である。基壇の規模は10.8mと推定されており、向きは真北から東へ34度で、全体の形状を正方形あるいは長方形と考えると北辺は土塁とほぼ平行すると考えられる。高さは南西コーナーで0.28m、北辺で0.48mである。

遺物の概要 基壇上およびその周囲から金属製品(銅鏡物、鉄製鏡物、鉄製鍛造品)が出土している。銅鏡物は9点出土しており、うち4点は形状から仏像の光背頭光外周の一部ではないかと考えられる。ほかに板状の小片と滴状の小片が出土した。鉄製鏡物は、梵音具或いは莊嚴具の一部と思われる破片と大型の容器状の破片が出土した。鉄製鍛造品には釘、かすがいの一種と厚さ0.2cmほどの薄い板状製品がある。これらの遺物はこの遺跡が神供寺に関連する施設であった根拠になっている。遺構外からは須恵器、山茶碗、古瀬戸等が出土した。

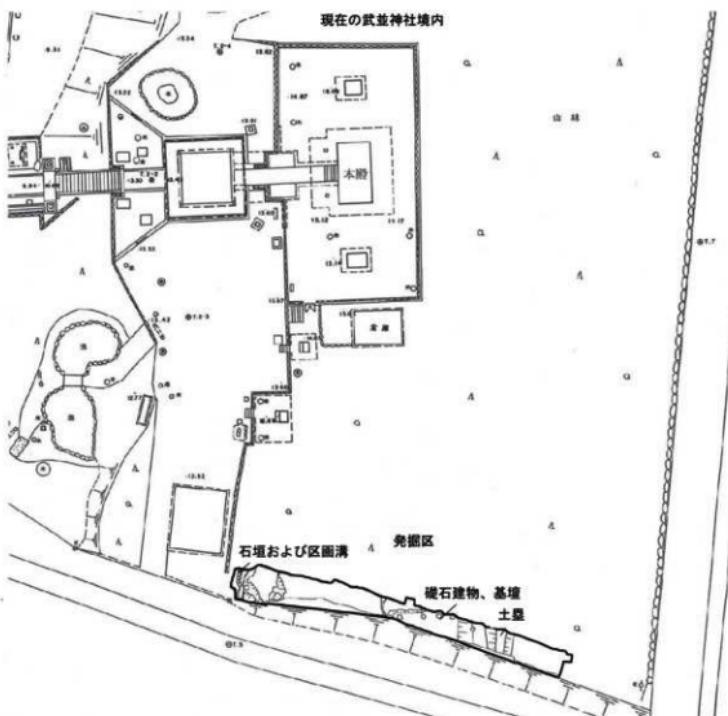


図34 遺跡と武並神社の位置関係

※恵那市教育委員会2001に加筆

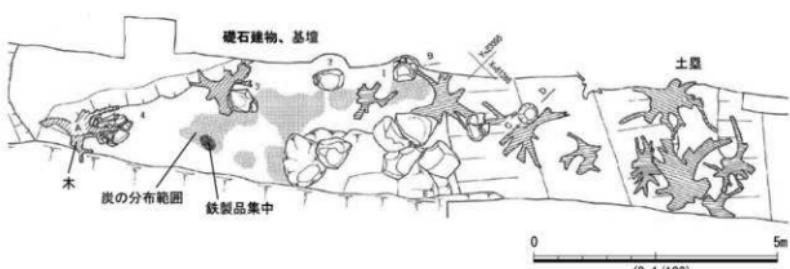


図35 武並神社神供寺 土塁・礎石建物、基壇

※恵那市教育委員会2001に加筆

地区	東濃	寺院番号	10086	県遺跡番号	21210-5523	分布図番号	M10
ふりがな		(しょうげはいじあと)		所在地	恵那市長島町正家		
寺院名 (史跡・遺跡名)	(正家庵寺跡)						
時代区分	古代(奈良・平安)			宗派	真言宗か		
立地	台地			現状(植生)	その他		
東西規模	約 110m	南北規模	約 70m	標高(比高差)	330 (35) m	平坦面面類	一
沿革	寺院をめぐる記録・伝承等はほとんど残っておらず、沿革の詳細は不明である。発掘調査から8世紀前半に造営に着手され、9世紀後半に主要伽藍の火災を契機として廃絶したと考えられている。						
遺構	塔、金堂、講堂、回廊、築地、堅穴建物、掘立柱建物等						
遺物	土師器、須恵器、灰釉陶器、彩釉陶器(奈良三彩、二彩)、鉄釘等、風鐸、鉄製円盤						
有形文化財等	一						
参考文献	恵那市 1983『恵那市史』通史編第1巻、恵那市教育委員会 1993『正家庵寺発掘調査報告書』、恵那市教育委員会 2000『正家庵寺跡II・寺平遺跡』、恵那市教育委員会 2012『史跡正家庵寺跡保存管理計画』、恵那市教育委員会 2018『正家庵寺跡III・寺平遺跡』、恵那市教育委員会・南山大学人類学博物館 1979『恵那市正家庵寺跡』						
備考	昭和 51~55(1976~80)年、南山大学により発掘調査が行われた。平成 4(1992)年度、資源センター建設に伴い恵那市教育委員会により発掘調査が行われた。平成 5~10(1993~98)年度、市内遺跡発掘調査事業として恵那市教育委員会により発掘調査が行われた。平成 25~28(2013~16)年度、国史跡指定に伴い恵那市教育委員会により内容確認の発掘調査が行われた。						

遺構の概要 主要遺構は築地で囲まれた二つの区画(西側の「伽藍地」と東側の「東区」)から構成されている。伽藍地は東に塔、西に金堂、北に講堂を配置する法隆寺式である。諸堂の西側には基壇を伴う掘立柱建物がある。回廊は金堂、塔を包み、北辺は講堂に取り付き、築地に先行する。金堂、塔、講堂、回廊は同一の主軸方向で建てられており、座標北に対して西へ6度傾いている。築地は伽藍地東辺と東区西辺を共有し、南辺も直線的につながる。基本的には主要伽藍と同一の主軸方向で設定されているが、伽藍地西辺は西へ7度、東区東辺は同じく9度傾いており、平面プランは正確な長方形ではない。

遺物の概要 出土した遺物のうち量的にまとまっているのは、土師器・須恵器・灰釉陶器である。これらは、伽藍地ではほとんどが遺構に伴うものであり、遺構以外の遺物はごくわずかである。東区でまとまって出土しているのは、築地側溝を構成する溝や土坑である。彩釉陶器は、金堂跡で三彩短頸壺、東区の堅穴建物で二彩淨瓶が出土しており、このほかに伽藍地包含層で器種不明の三彩小片、綠釉香炉、東区で器種不明の三彩小片が出土している。金属製品は鉄釘のほか、風鐸、鉄製円盤などが出土している。大半は、金堂、塔、講堂、掘立柱建物の火災堆積層からの出土である。これらの出土土器から見て創建時期は8世紀前半から中葉と考えられる。後半期への変化は8世紀末ごろと考えられ、9世紀後半に火災によって衰退し、10世紀前半ごろに完全に廃絶したと考えられる。

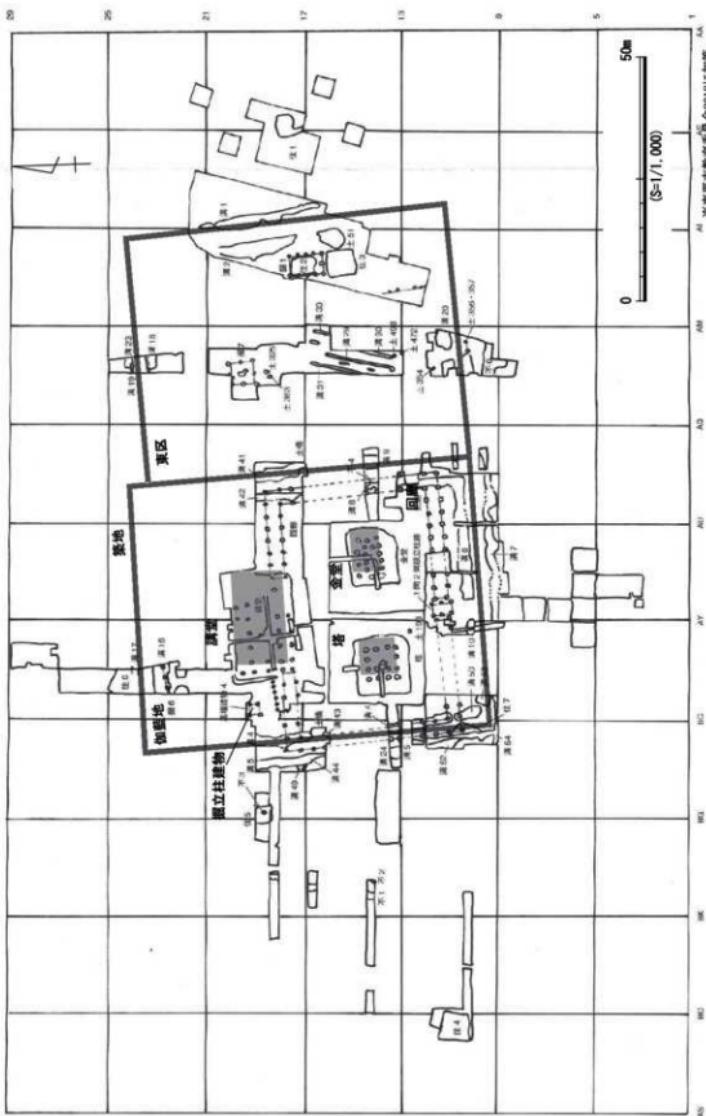


图36 正家庵寺跡

[土岐市]

地区	東濃	寺院番号	21012	県遺跡番号	一	分布図番号	08
ふりがな	こううんざんそうぜんじ	所在地		土岐市妻木町			
寺院名 (史跡・遺跡名)	光雲山崇禪寺						
時代区分	中世～	宗派		臨済宗			
立地	山麓	現状(植生)		境内地			
東西規模	320m	南北規模	200m	標高(比高差)	208(8)m	平坦面面類	B+D
沿革	正平9(1354)年、妻木城を築いた妻木一族の明智彦九郎頼重は、虎渓山水保寺の開山弘徳禅師(元翁本元)の弟子果山正位を招いて臨済宗妙心寺派の光雲山崇禪寺を開いた。この寺は修養の道場であり、また妻木氏の菩提寺としてこれより290年間有名な禪僧が往住して大いに仏道を鼓吹し善導につくした。頼重の弟頼高が亡くなったとき、その菩提を弔うため、境内に正持院が造営された。最盛期には11の塔頭が立ち並び寺額は69石であった。						
遺構	石積み、基壇、石列、池、土塁						
遺物	宝鏡印塔						
有形文化財等	木造釈迦如来立像(県指定、鎌倉)、崇禪寺總門(市指定、室町)、絹本着色釈迦三尊仏画像(市指定、伝吳道子作)、絹本着色十六善神像(市指定、室町)、夢窓国師筆果山条幅(県指定、南北朝)、紙本墨書き山妙在筆跡(県指定、南北朝)						
参考文献	土岐郡教育會事務所 1933『土岐郡地誌』、土岐市史編纂委員会 1970『土岐市史(一)』原始時代～開ヶ原合戦						
備考	かつての崇禪寺の様子は『土岐市史』掲載の「崇禪寺の地図」や境内の看板(濃州土岐郡光雲山崇禪寺境内古絵図)からわかる。境内南には妻木川にかかる大橋を渡って妻木城の土屋敷・御殿跡に続き、北側には氏神八幡神社と社僧の円光山大鏡寺八幡院(天台宗・廃寺)がある。また『土岐郡地誌』によると、観音堂は八幡院大鏡寺が廢寺になり移築、唐門は妻木城土屋敷から移築とされる。						

調査所見 標高 247m の寺山の南山麓には本堂や、塔頭があったと思われる石積みを伴う平坦面が東西方向に広がっている。現境内には本堂の他に大鏡寺から移築した観音堂、開山堂、鐘楼門、勅使門、池、開山塔等がある。本堂裏の南向き斜面には多数の平坦面を確認できる。寺での聴き取りで本堂の建て直しはあったが、ほぼ原位置を保っており、往古は多数の塔頭があったとのことである。聴き取りや『土岐市史(一)』掲載の「崇禪寺の地図」からその位置を推測する。塔は本堂の北東の尾根上付近に描かれている。周辺を踏査した結果、①に平坦面を確認したが、建物跡を確認することはできず、位置を特定するに至らなかった。その他、②には慈德院、③には長寿院、④には瑞光院、⑤付近には瑞松院、正持院、長松院等があったと推測される。⑥の北東側の平坦面には2 m × 1 m の石積み基壇や石列が残る。八幡神社宮司からの聴き取りにより妻木川との間の用水は江戸時代に作られているが、妻木平遺跡との関連がある可能性があり古い時期の運河かもしれないとのことであった。寺山には大正15(1926)年にたてた弘法大師の石仏が88番まで並んでいる。



図37 光雲山崇禪寺 地形観察図

東濃圏域参考文献

- 明智町教育委員会 1976『明智町の文化財』(一)
明智町役場 1960『明智町誌』
池田小学校育友会 1952『池田郷土史』
池田町屋公民館 2006『池田町屋郷土史』
石田彌三郎 1943『三郷村史』
岩村町教育委員会 1994『岩村町文化財図録』
卯月会 2007『萩原郷土誌 水穴』
恵那郡福岡町 1986『福岡町史』通史編上巻
恵那郡福岡町 1992『福岡町史』通史編下巻
恵那郡東野村立東野小学校 1941『郷土東野村』
恵那市 1976『恵那市史』史料編
恵那市 1980『恵那市史』史料編考古・文化財
恵那市 1981『恵那市史』石ぼとけと道しるべ
恵那市 1983『恵那市史』通史編第1巻
恵那市 1990『恵那市史』通史編第2巻
恵那市 1991『恵那市史』通史編第3巻(2)生活・民俗・信仰
恵那市 1985『恵那市史』恵那市の地名
恵那市教育委員会 1971『横か根経塚・旧長国寺跡』
恵那市教育委員会 1980『恵那市の文化財』改訂版
恵那市教育委員会 1984『正家積石塚—第3・4号積石塚発掘調査報告—』
恵那市教育委員会 1991『規定寺遺跡発掘調査報告書』
恵那市教育委員会 1993『正家庵寺発掘調査報告書』
恵那市教育委員会 2000『正家庵寺跡II・寺平遺跡』
恵那市教育委員会 2001『武並神社遺跡』
恵那市教育委員会 2006『岩村の石造物』
恵那市教育委員会 2008『上矢作町史』通史編
恵那市教育委員会 2008『上矢作町史』民俗編
恵那市教育委員会 2010『岩村城跡基礎調査報告書』1
恵那市教育委員会 2012『史跡正家庵寺跡保存管理計画』
恵那市教育委員会 2013『岩村城跡基礎調査報告書』2
恵那市教育委員会 2018『正家庵寺跡III・寺平遺跡』
恵那市教育委員会 2019『恵那市遺跡詳細分布調査報告書』
恵那市教育委員会・南山大学人類学博物館 1979『恵那市正家庵寺跡』
大山元輔 1989『郷土細久手探求記録』
落合郷土誌編纂委員会 1970『落合郷土誌』

- 笠置町文化遺産を守る会 2008『笠置歴史探訪写真集』I・II編 史跡・石造物編
- 笠置村教育會 1938『笠置村誌』
- 笠原町 1993『笠原町史』その五 かさはらの歴史
- 加下母村誌編纂委員会 1972『加下母村誌』、岐阜県恵那郡加子母村
- 片山惣次郎・西尾鎧造 2002『並松地誌』、上・下並松区
- 「かみむら」編纂委員会 1963『かみむら』
- 河合青年支會 1915『河合郷土史』全
- 川上村史編集委員会 1983『川上村史』通史編 資料編、川上村
- 北設楽郡史編さん委員会 1970『北設楽郡史』
- 旭王寺 2018『旭王寺と下山田の歴史』
- 岐阜県 1966「小里家譜」「岐阜県史」史料編 近世二
- 岐阜県岩村町役場 1956『岩村町史』全
- 岐阜県恵那郡串原村役場 1968『串原村誌』
- 岐阜県恵那郡山岡町 1977『山岡町史』文化財図録編
- 岐阜県恵那郡山岡町 1984『山岡町史』通史編
- 岐阜県教育委員会 2004『岐阜県中世城館跡総合調査報告書』第3集（加茂地区・東濃地区）
- 岐阜県教育委員会 2007『改訂版岐阜県遺跡地図』
- 久須見の歴史委員会編 2019『久須見の歴史』
- 久保智康 2013「上平観音堂の金銅装簾について」『瑞浪市歴史資料集』第2集 瑞浪市陶磁資料館
- 熊谷博幸 1976『ふるり探訪山岡町文化財図録』
- 坂下町史編纂委員会 1963『坂下町史』、岐阜県恵那郡坂下町役場
- 坂下町史編纂委員会 2005『坂下町史』
- 佐藤実 1969「高松山馬頭大悲由来略縁起」「土岐川上郷」第三部 伝説
- 下石町誌編纂委員会 1984『下石町誌 ろくろの里』
- 信光寺 1985『信光寺』
- 瀬戸市 2005「覚源禪師偈頌」「瀬戸市史」資料編3 原始・古代・中世
- 瀬戸市 2005『瀬戸市史』資料編3 原始・古代・中世
- 武並町史編纂委員会 1993『武並町史』
- 多治見市 1980『多治見市史』通史編 上
- 多治見市 1987『多治見市史』通史編 下
- 多治見市教育委員会 2007『永保寺庫裡跡発掘調査報告書』
- 多治見市教育委員会 2011『永保寺本堂跡発掘調査報告書』
- 多治見市教育委員会 2017『多治見の文化財』
- 多治見町役場 1932『大多治見』
- 田中静夫 1958『六刹 崇禪寺史』
- 付知町 1974『付知町史』通史編 史料編
- 鶴里町誌編纂委員会 1983『やまなみみ道か祈りの道 一中馬の里一』

天歟寺 1996『龍吟山天歟寺』

東濃教育事務所学校教育課 1982『東濃の古寺』、ききょう出版

土岐郡市之倉村役場 1929『市之倉村誌』

土岐郡教育會事務所 1933『土岐郡地誌』

土岐市教育委員会 2003『土岐市遺跡詳細分布調査報告書』

土岐市史編纂委員会 1970『土岐市史』(一)原始時代～閑ヶ原合戦

土岐市史編纂委員会 1971『土岐市史』(二)江戸時代～幕末

土岐市肥田町道徳教育推進協議会 1992『ひだのあかり』

土岐津町誌編纂委員会 1997『土岐津町誌』上

土岐津町誌編纂委員会 1997『土岐津町誌』下

豊田市教育委員会 2016『名勝 龍性院庭園総合調査報告書』

中津川市 1968『中津川市史』上巻

中津川市 1979『中津川市史』中巻別冊

中津川市 1988『中津川市史』中巻 I

中津川市 1988『中津川市史』中巻 II

中津川市 1995『中津川の中山道』

中津川市 2006『中津川市史』下巻 近代編 I

中津川市 2012『中津川市史』下巻 現代編 II

肥田町史編纂委員会 1996『肥田町史』

蛭川村史編纂委員会 1974『蛭川村史』、岐阜県恵那郡蛭川村

蛭川村文化財審議会 1978『蛭川村地名考』、蛭川村教育委員会

福岡町教育委員会 2001『ふるさとの遺跡探訪』

福島金治 2021『多治見長福寺所蔵「美濃国池田御厨某寺奉加帳」「鎌倉遺文研究 47」

松原正明 1987『岐阜県百寺』

瑞浪市 1974『瑞浪市史』歴史編

瑞浪市教育委員会 2014『瑞浪市遺跡詳細分布調査報告書』

瑞浪市教育委員会 2014『瑞浪市遺跡地図』

瑞浪市教育委員会 2014『笠山遺跡』瑞浪市埋蔵文化財調査報告書 7

瑞浪市陶磁資料館 2011『瑞浪市歴史資料集』第1集

瑞浪市陶磁資料館 2012『特別展櫻堂菜師 1200年展』

瑞浪市陶磁資料館 2020『特別展 美濃源氏 土岐一族の時代』

瑞浪市民図書館 2007『渡辺家覚書』

もくよう会 1975『福岡町文化遺産図録』下野編

安江赳夫 1968『生きている村—中野方町史—』

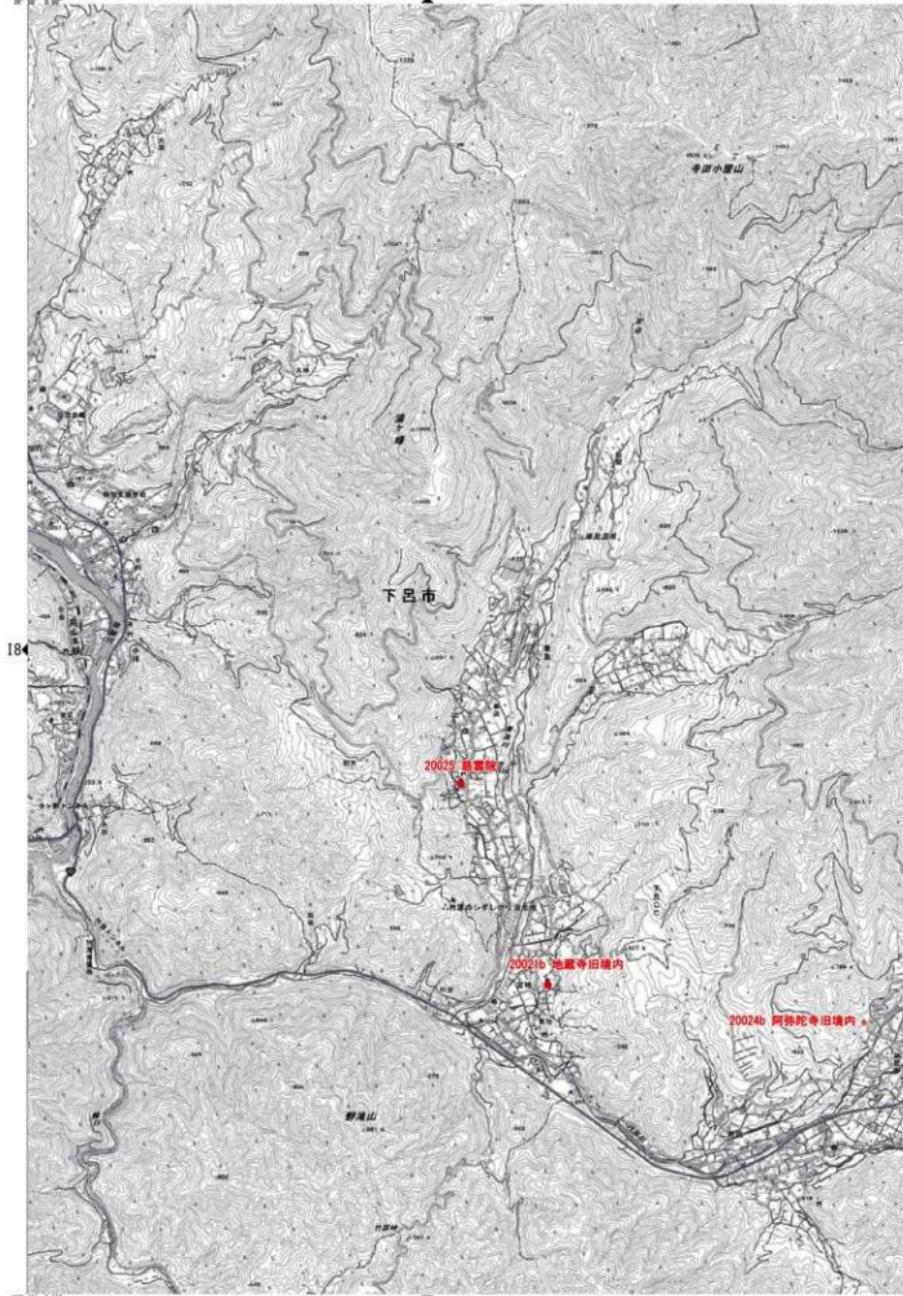
山岡町教育委員会 1988『山岡廃寺跡（手向廃寺跡）』

山口村誌編纂委員会 1995『山口村誌』下巻

横山住雄 2015「臨濟宗五山派・美濃如意臨寺と天福寺」『論叢』第10号、花園大学国際禅学研究所

吉岡勲 1987 『岐阜県百寺』、株式会社郷土出版社

第 4 節 寺 院 分 布 図



I9 宮地

91

中津川市

06106 多聞坊

下呂市

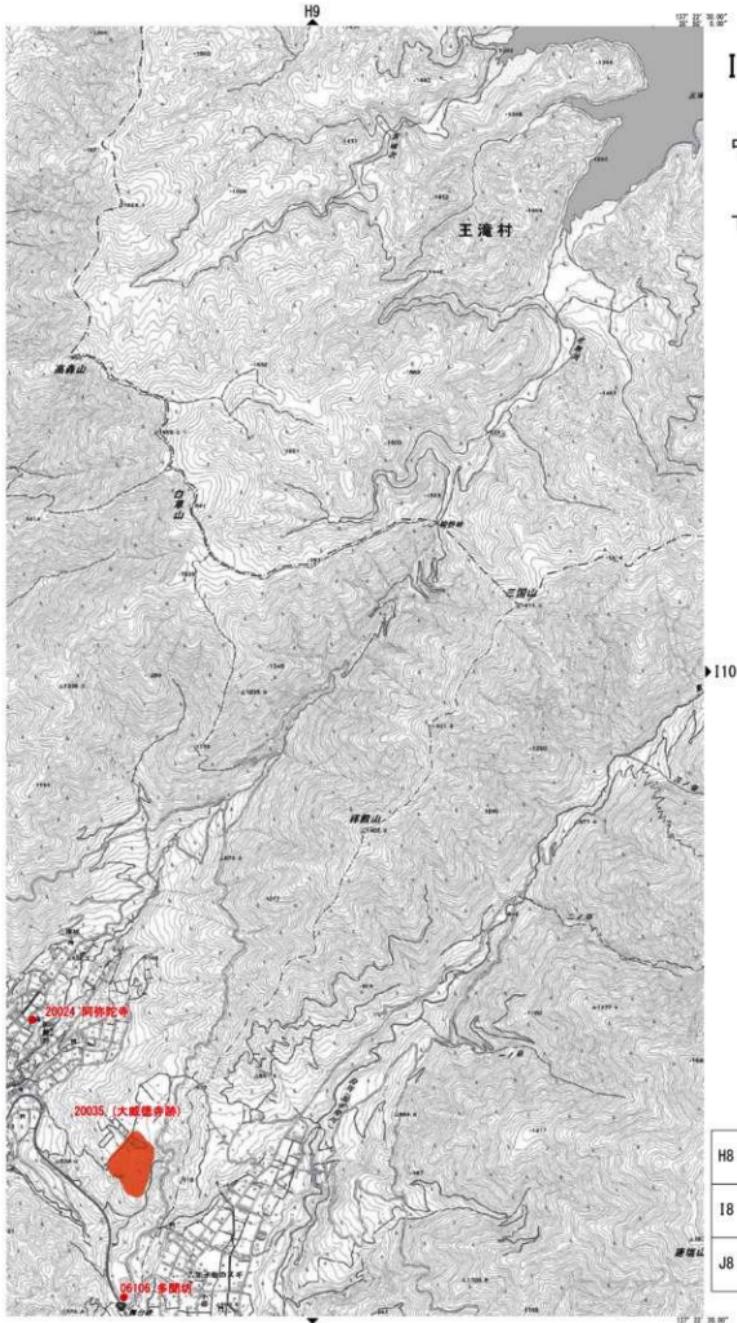
20021b 地藏寺旧境内

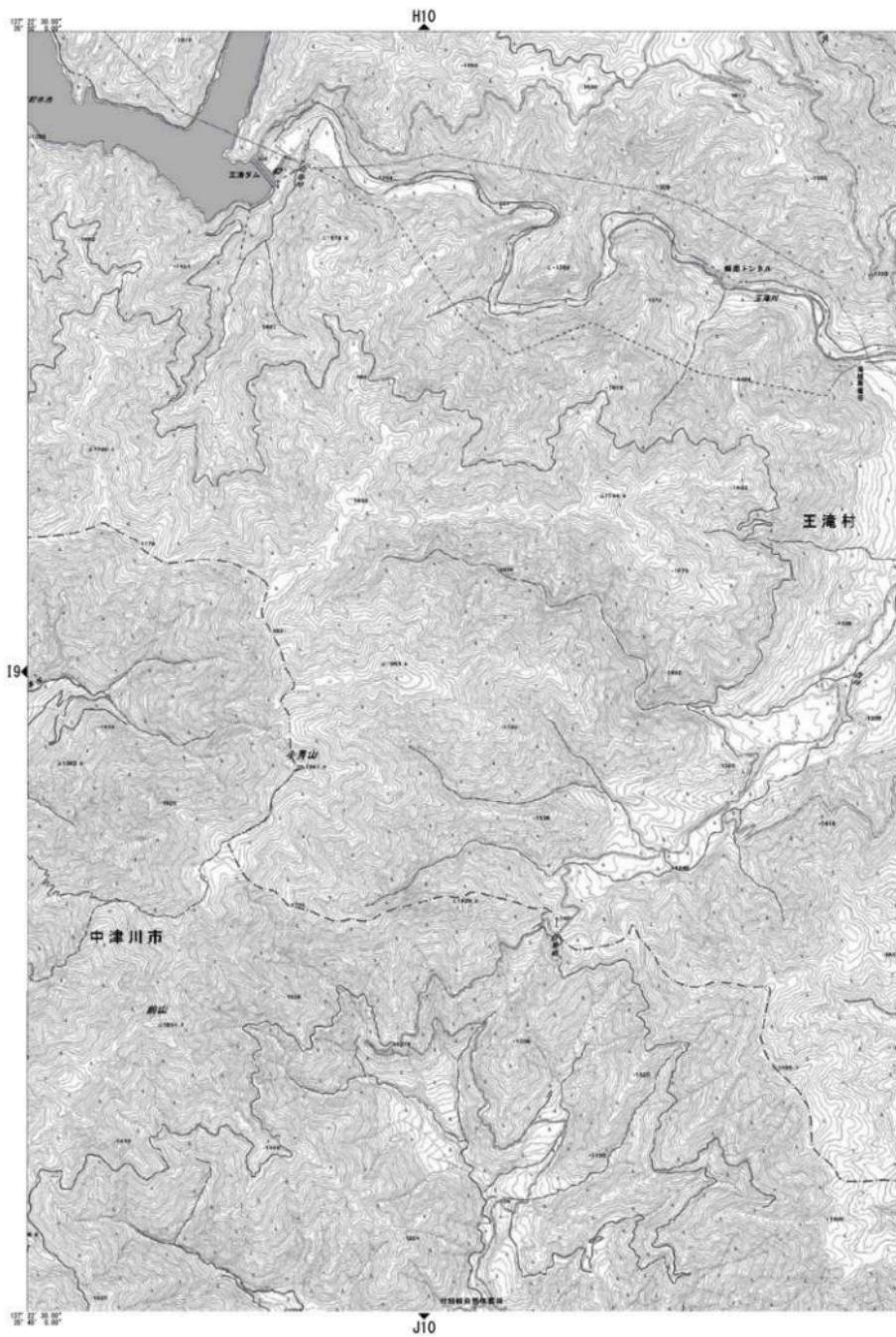
20024 阿弥陀寺

20024b 阿弥陀寺旧境内

20025 慶雲院

20035 (大藏經寺跡)

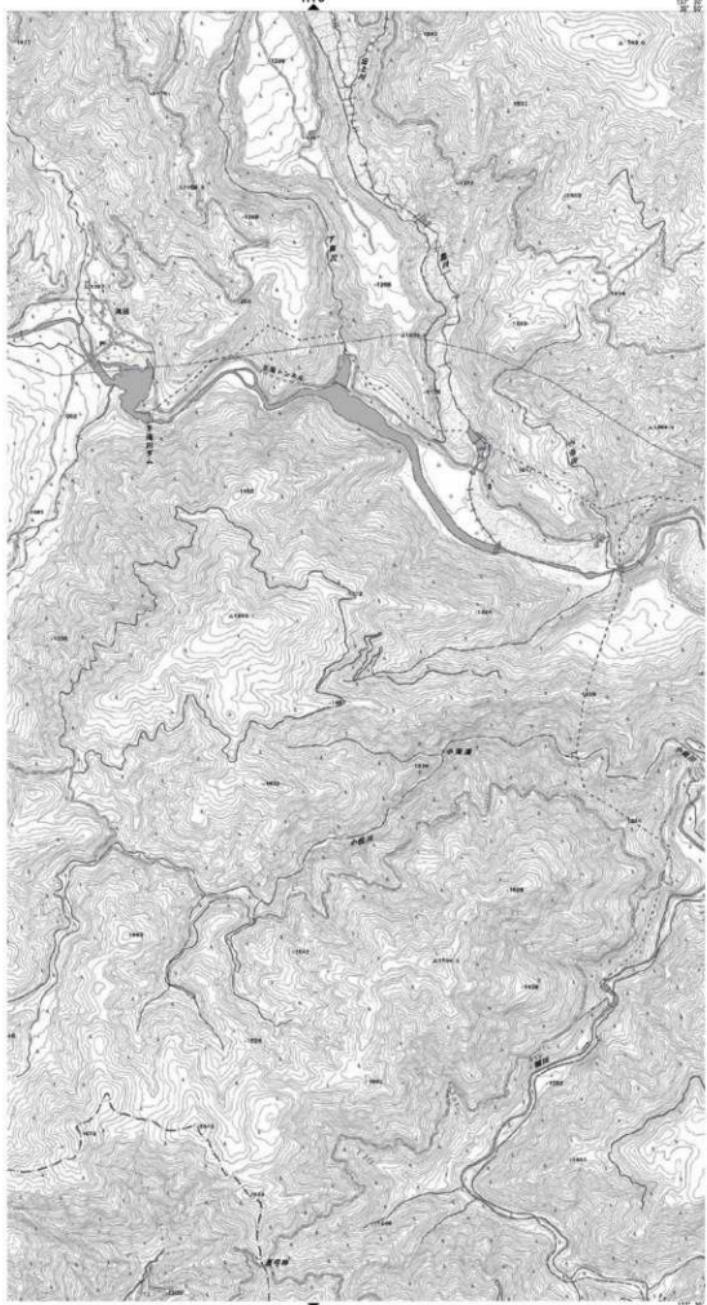




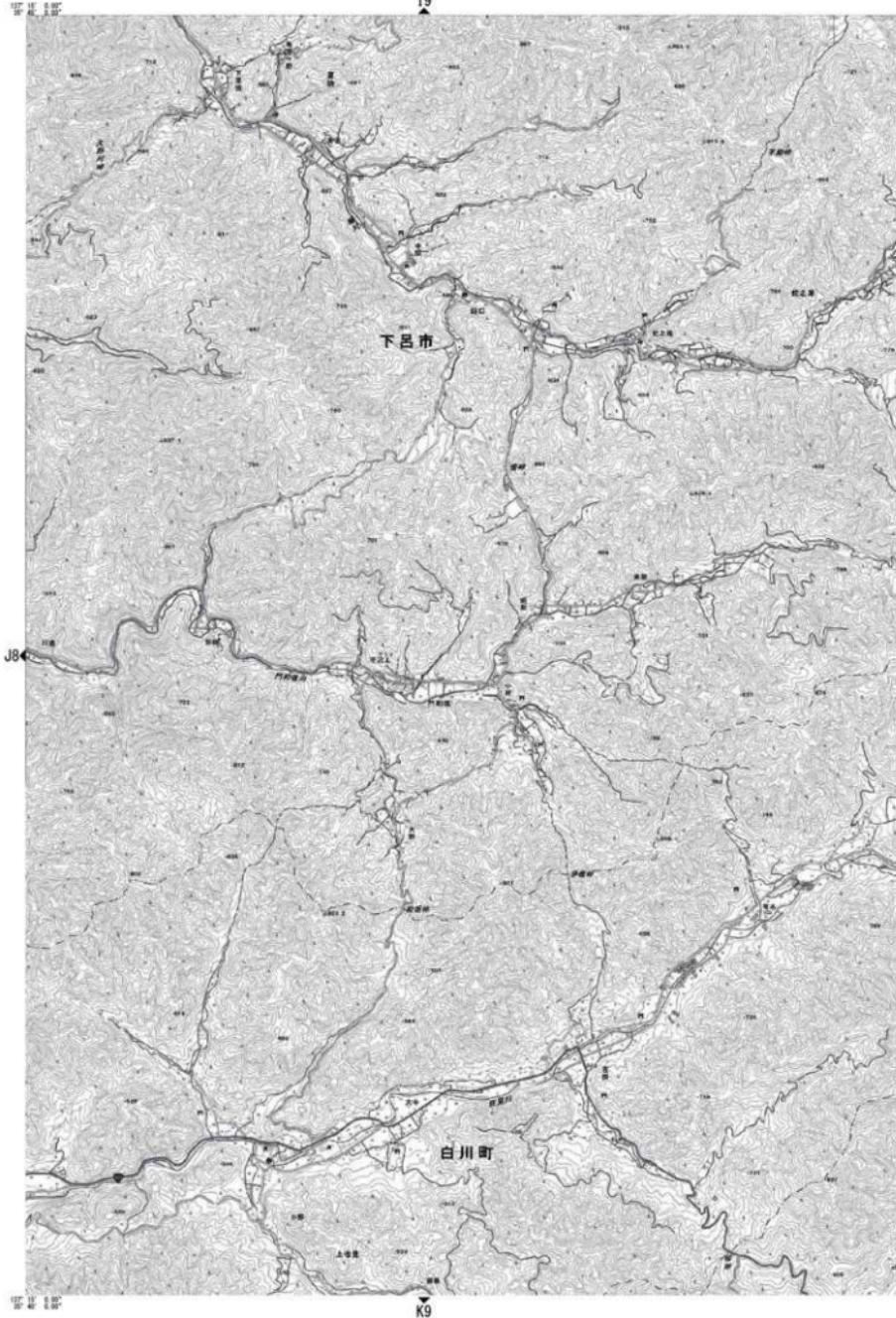
H10

I10 滝越

93



H9 湯屋	H10 利根山	
I9 宮地	I10 滝越	
J9 小和知	J10 加子母	J11 奥三界岳



J9 小和知

東白川村

40012 岩舟千棘堂

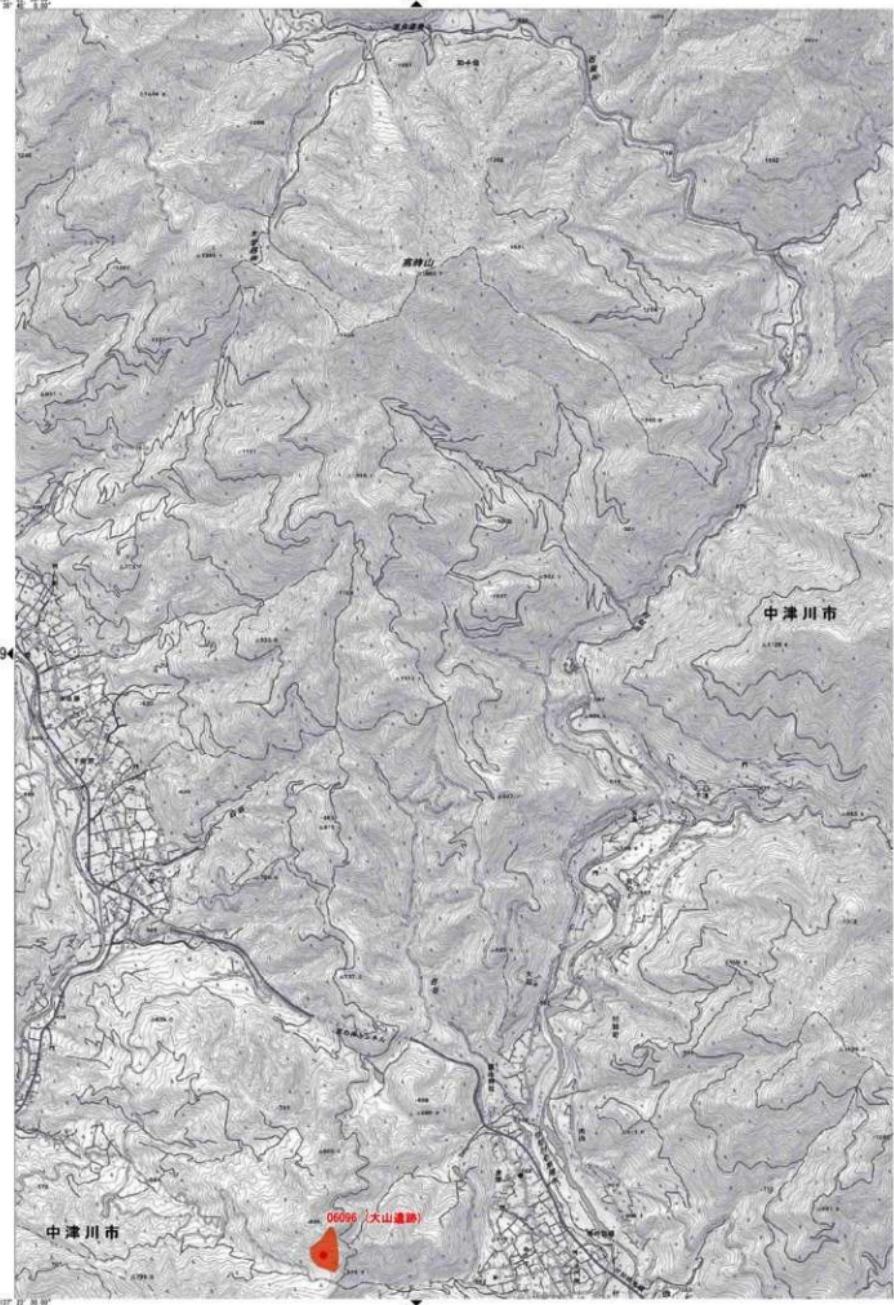
中津川市

J10

東白川村

40012 岩舟千棘堂

I8 下呂	I9 宮地	I10 滝越
J8 烧石	J9 小和知	J10 加子母
K8 金山	K9 土神	K10 付知

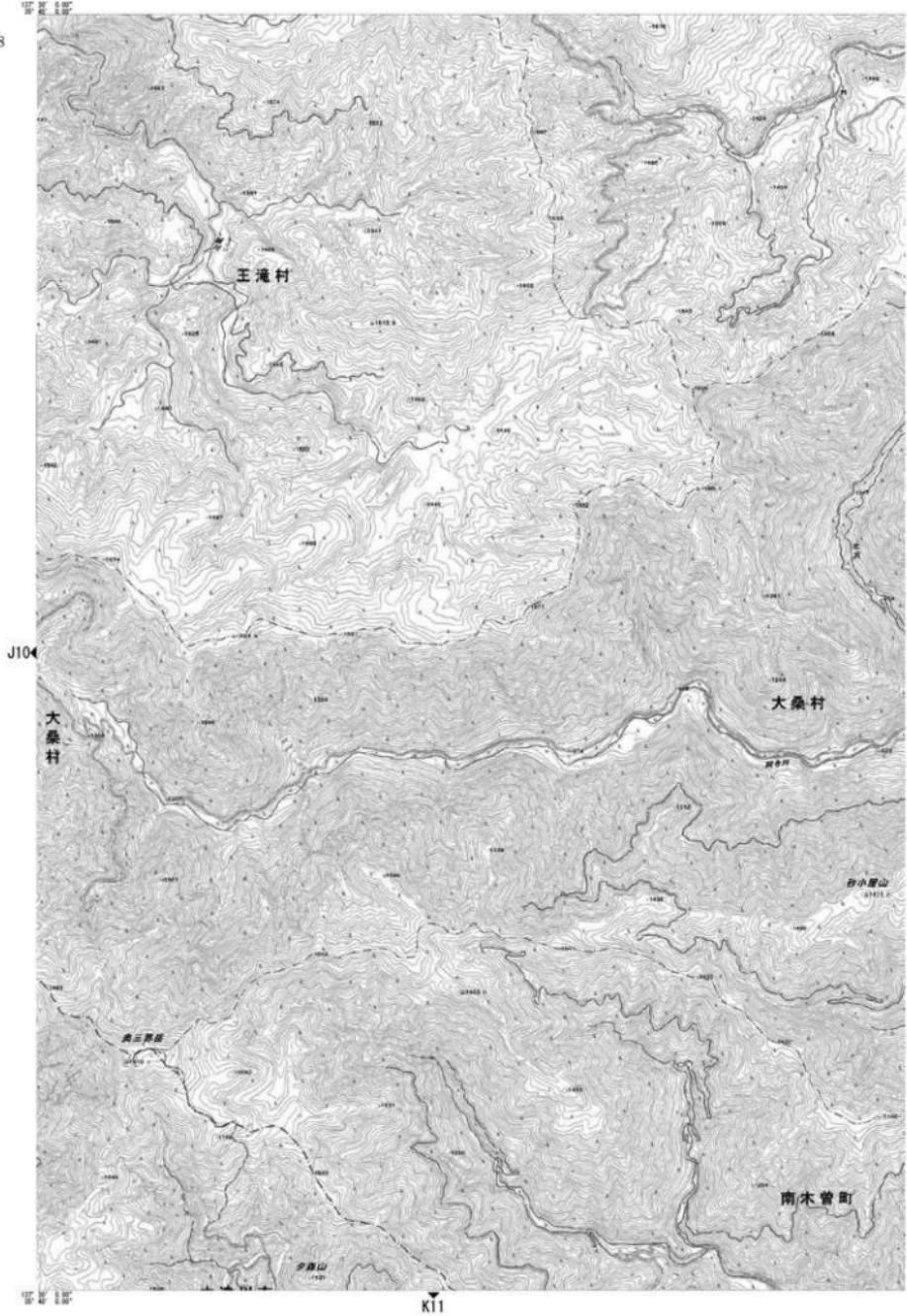


中津川市

06096 (大山遺跡)

J11

I9 宮地	I10 滝越	
J9 小和知	J10 加子母	J11 奥三界岳
K9 神土	K10 付知	K11 三箇野



J11 奥三界岳 99



I10 滝越		
J10 加子母	J11 奥三界岳	
K10 付知	K11 三重野	

白川村

100

J10

白川村

東白川村

06014b: 京敷寺旧境内(寺伝遺跡)

06004b: 實心寺(寺山遺跡)

K9

東白川村

高神山

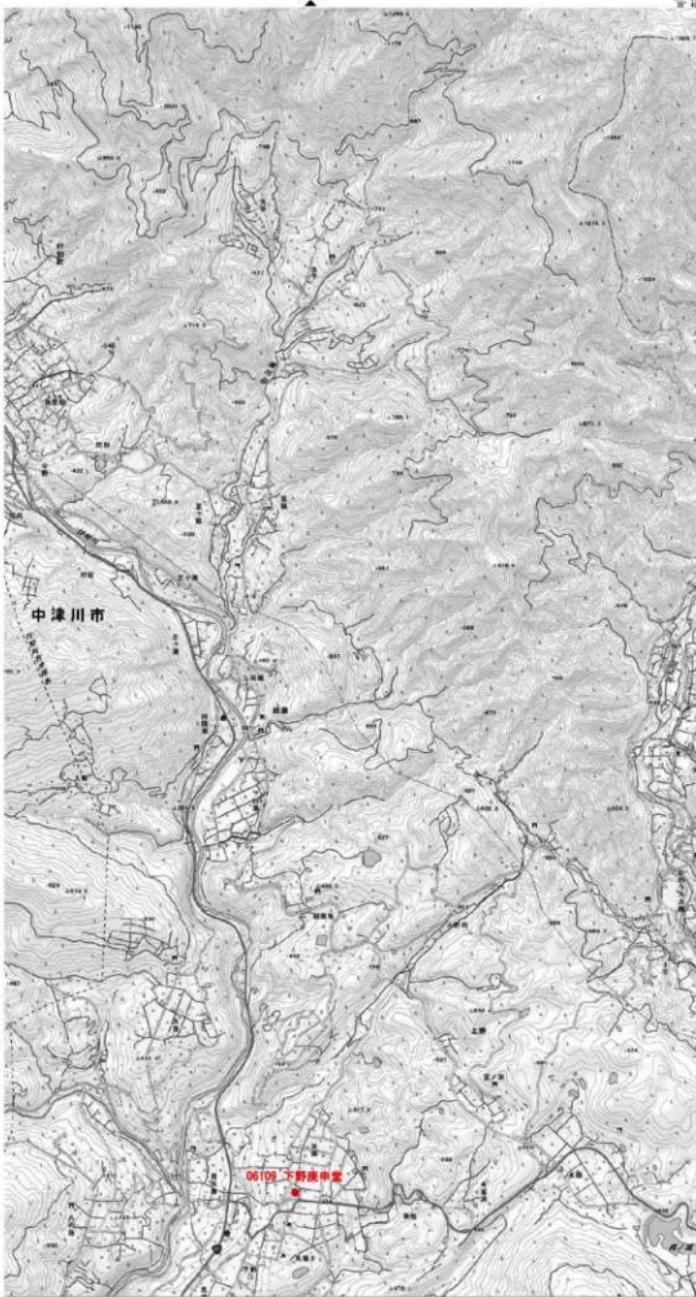
白川町

L10

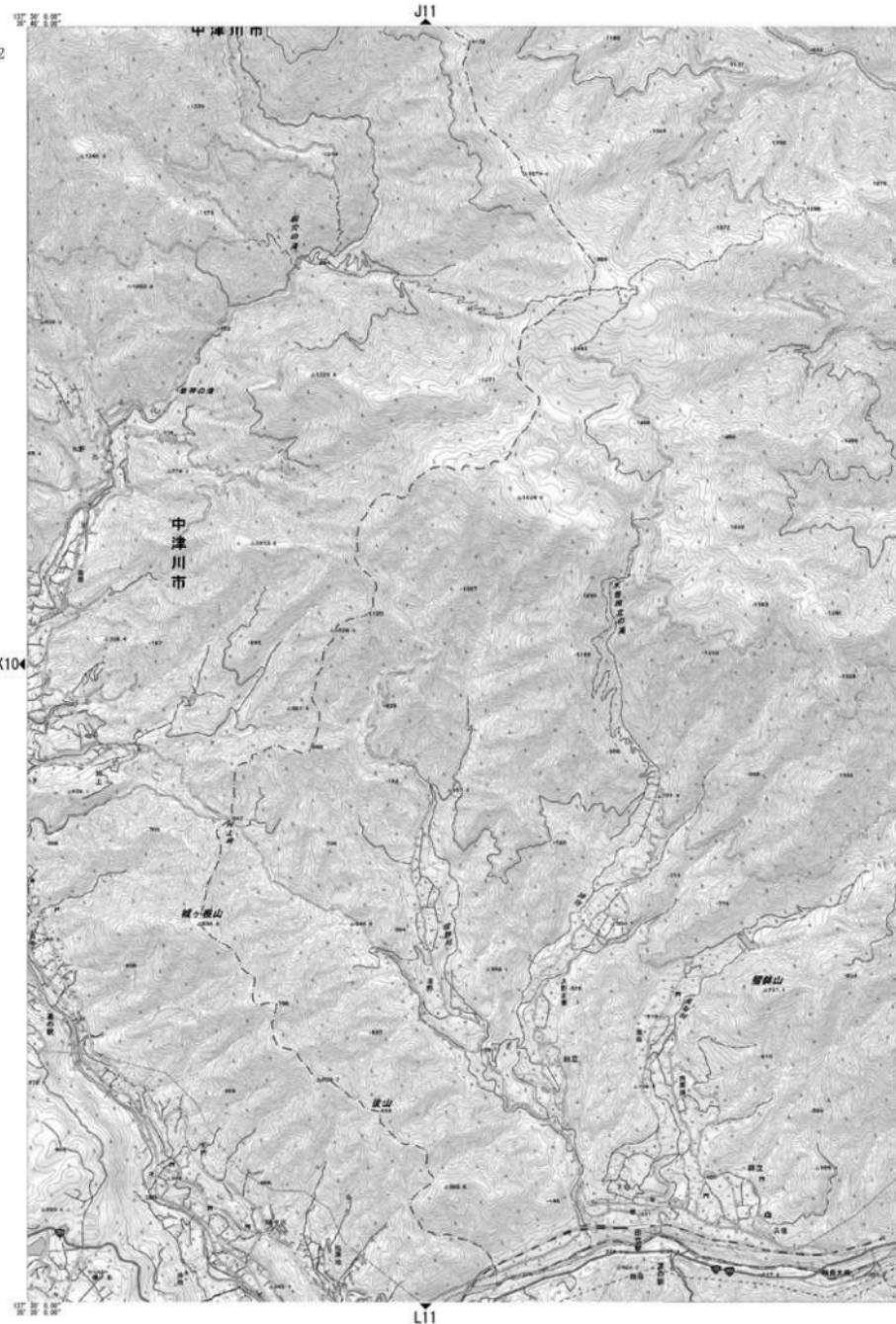
K10 付知

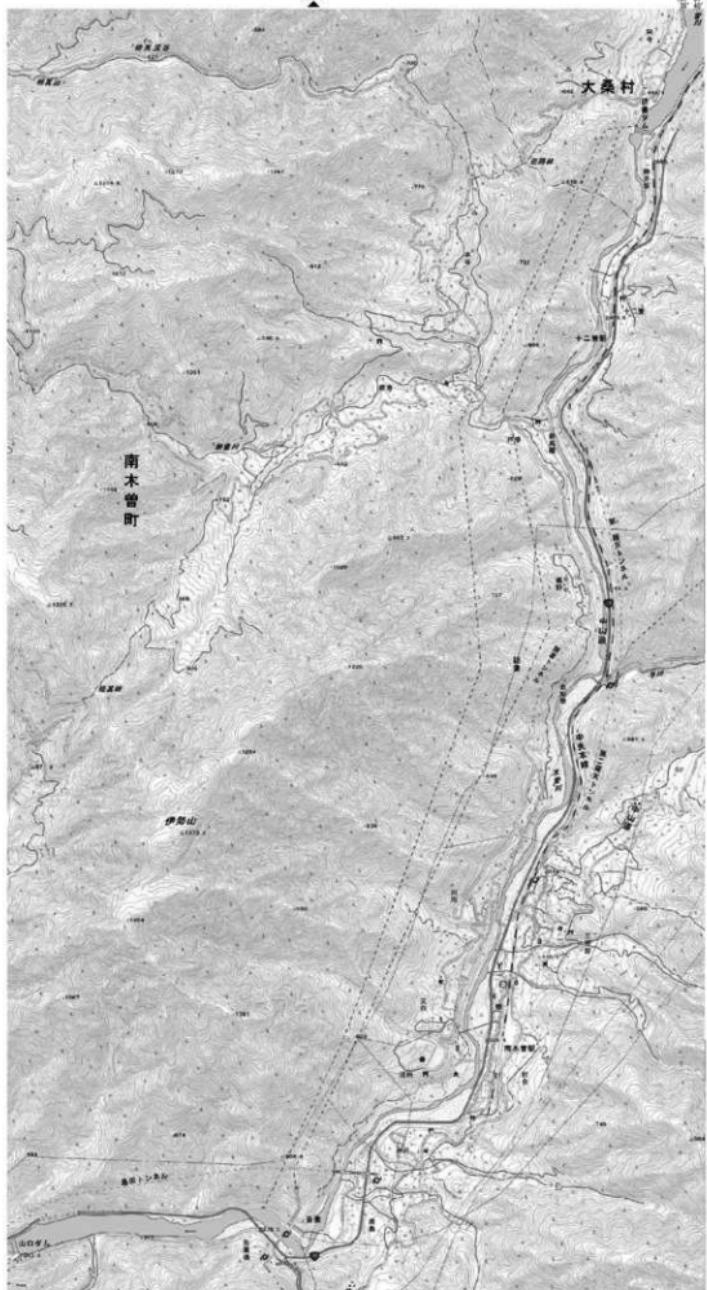
中津川市

060046 貴心寺(寺山遺跡)
060146 宗教寺旧境内(寺塔遺跡)
06109 下野庚申堂

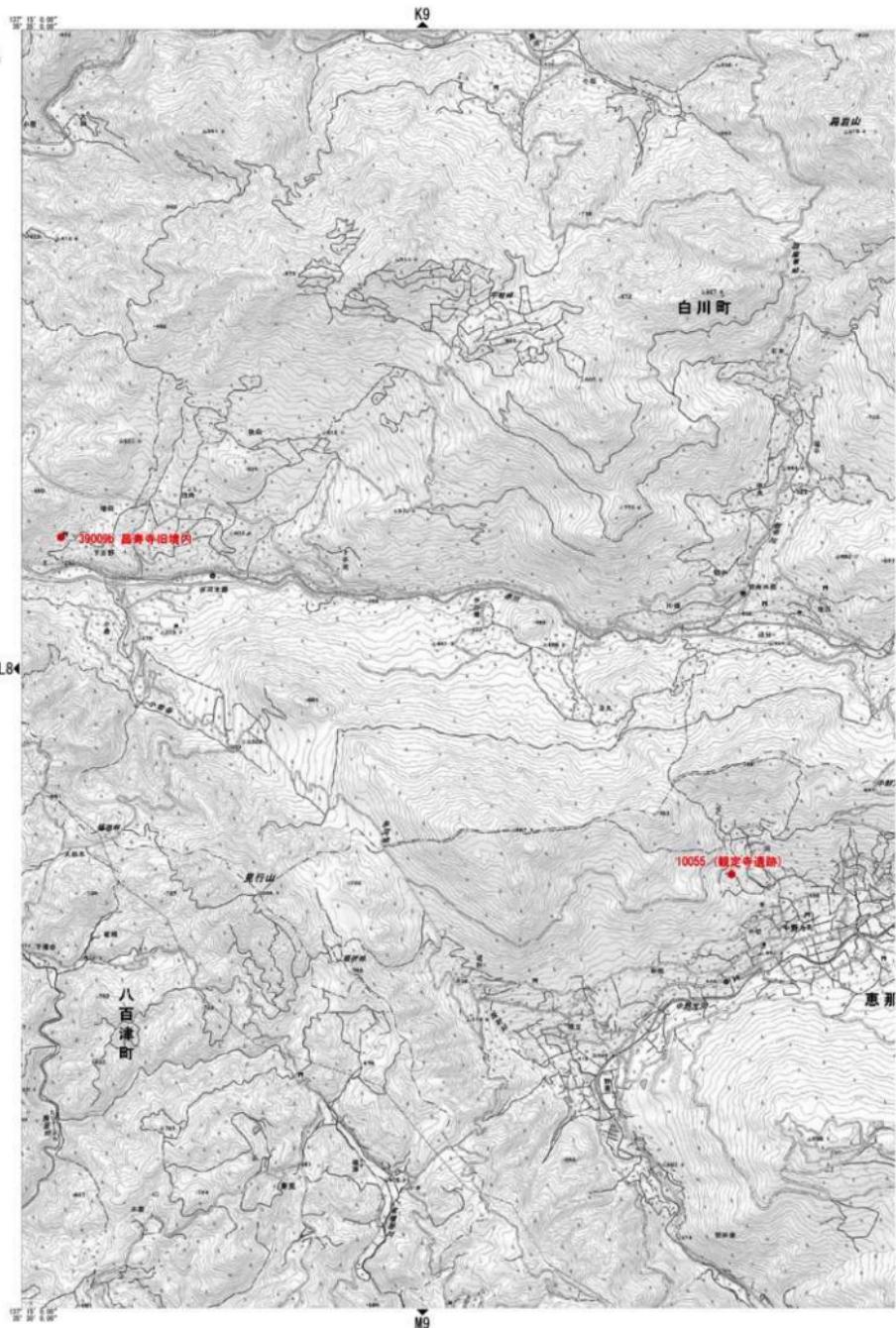


J9 小和知	J10 加子母	J11 奥三界岳
K9 神土	K10 付知	K11 三畠野
L9 切井	L10 美濃福岡	L11 妻籠





J10 加子母	J11 奥三界岳	
K10 付知	K11 三留野	
L10 美濃福岡	L11 妻籠	L12 児岳



K9

105

L9 切井

中津川市

06045 宝林寺（金剛山宝林寺遺跡）
06107 墓塚光堂

恵那市

10055 (規定寺遺跡)
10102 (白雲寺遺跡)
10104 笠置神社奥社

白川町

39000b 品森寺旧境内

L10

中津川市

06045 宝林寺（金剛山宝林寺遺跡）

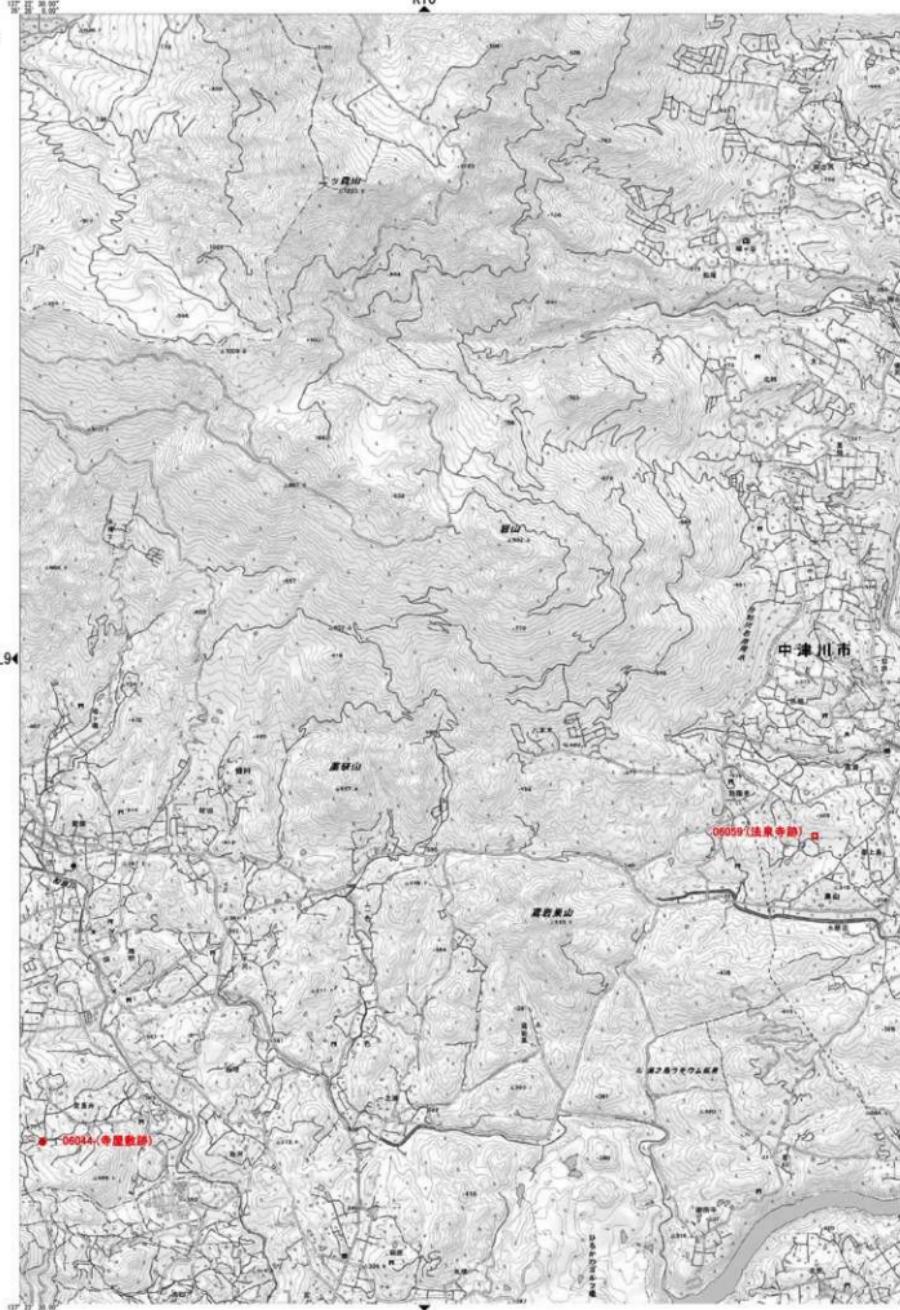
06107 墓塚光堂

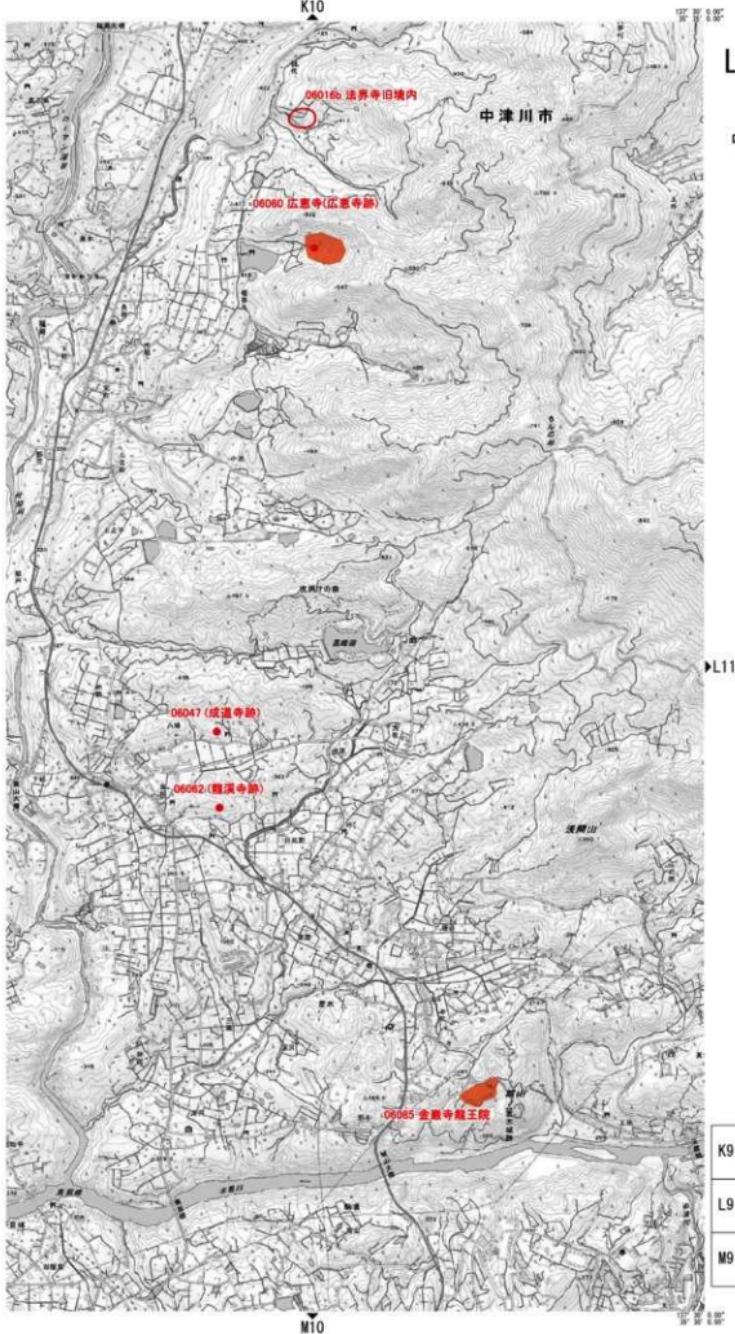
10104 笠置神社奥社

10102 (白雲寺遺跡)

K8 金山	K9 神土	K10 付知
L8 河岐	L9 切井	L10 美濃福岡
M8 御嵩	M9 武並	M10 恵那

M9



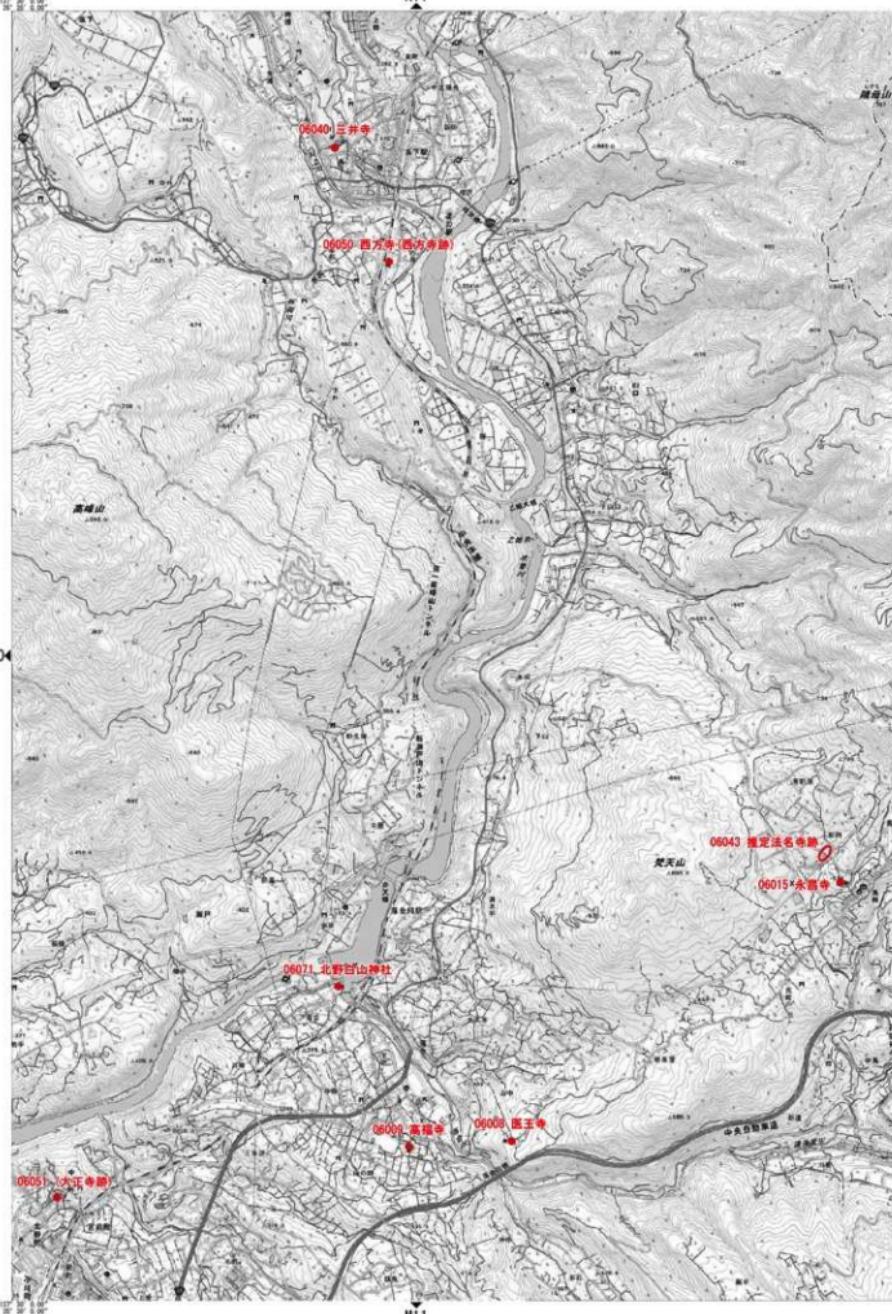


中津川市

- 06016 法界寺旧境内
- 06044 (寺量敷跡)
- 06047 (成道寺跡)
- 06059 (法舟寺跡)
- 06060 広惠寺(広惠寺跡)
- 06062 (龍溪寺跡)
- 06085 金剛寺般若院

▶L11

K9 神土	K10 付知	K11 三宿野
L9 切井	L10 美濃福岡	L11 妻籠
M9 武並	M10 恵那	M11 中津川



K11

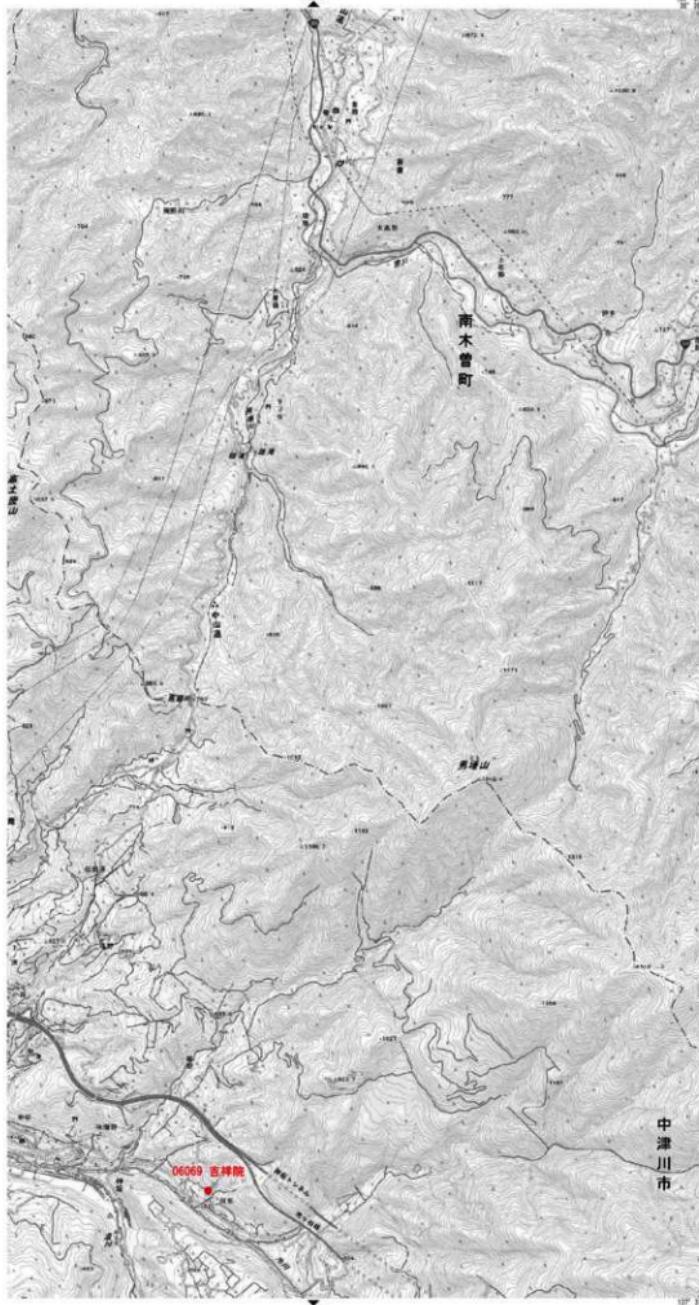
11°30' E
36°30' N

L11 妻籠

109

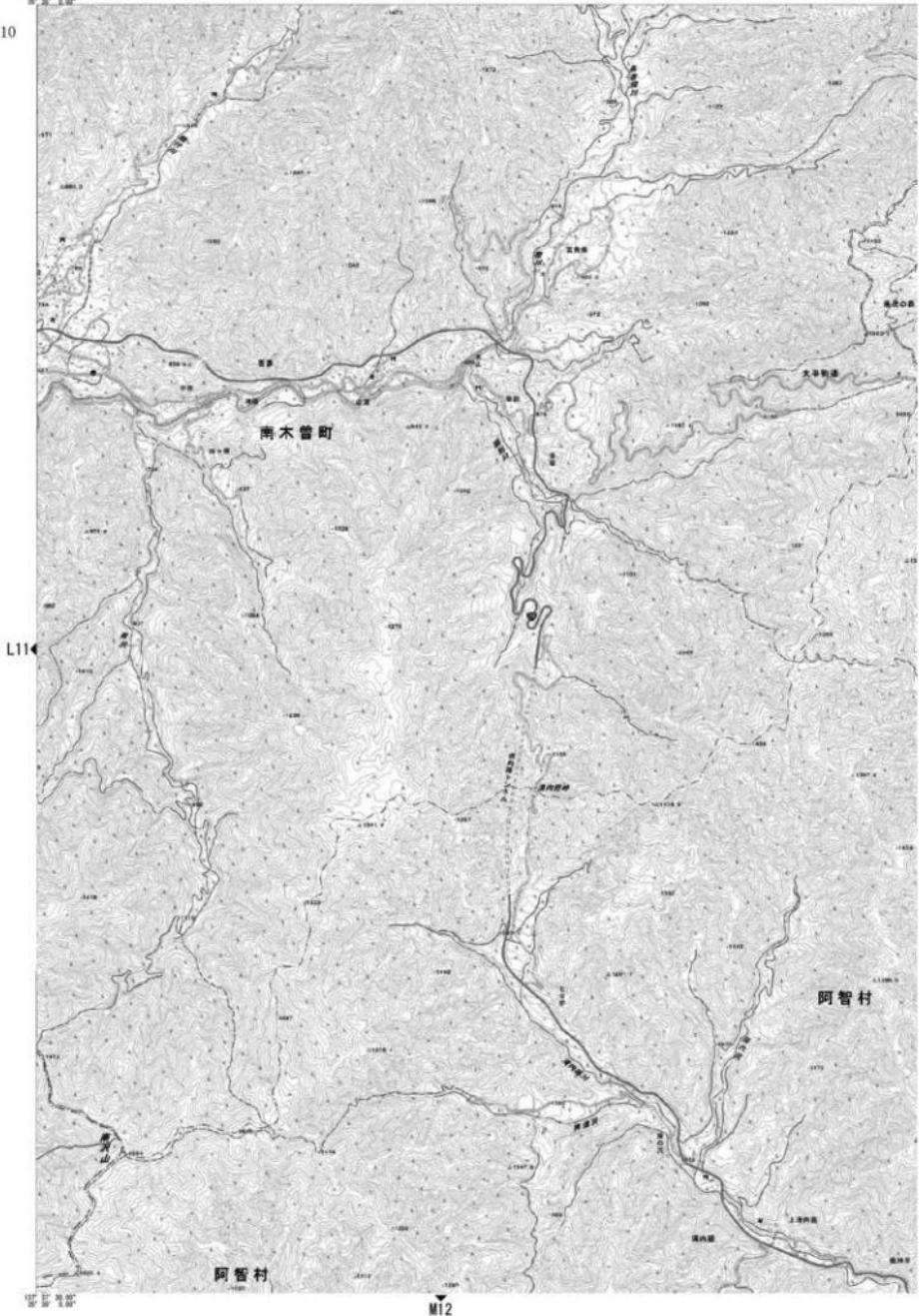
中津川市

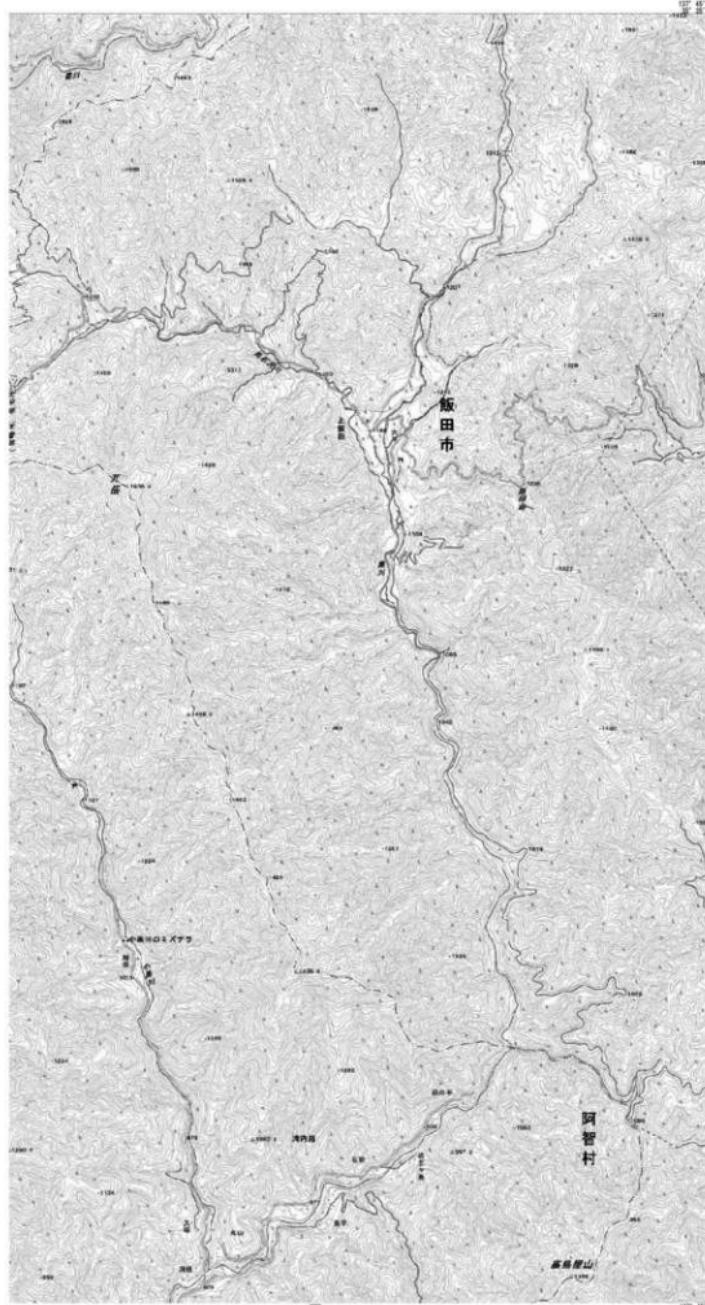
- 06008 瑞王寺
06009 美福寺
06015 永昌寺
06040 三井寺
06043 運定法名寺跡
06050 西方寺(西方寺跡)
06051 (大正寺跡)
06069 吉祥院
06071 北野白山神社



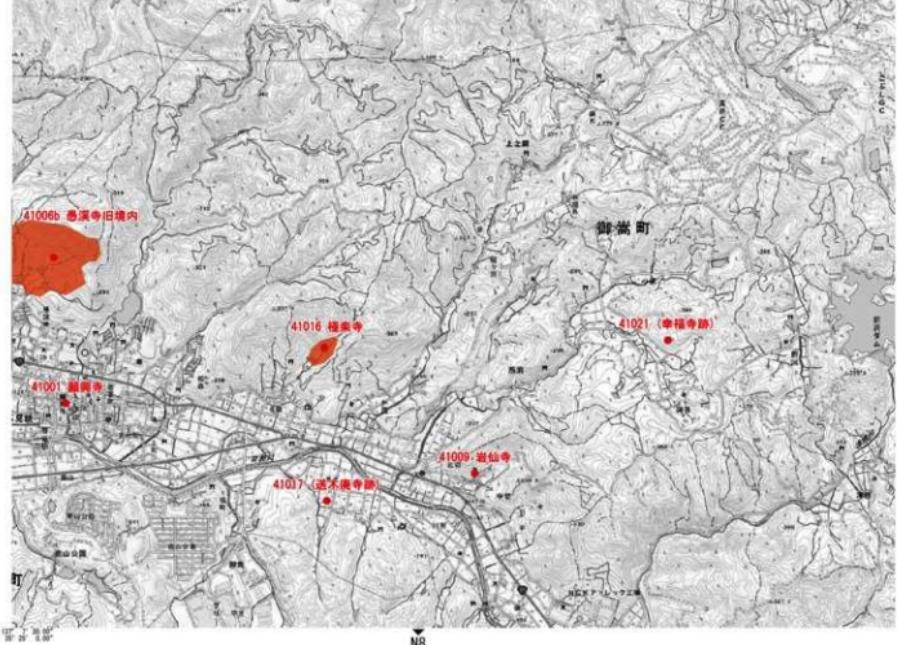
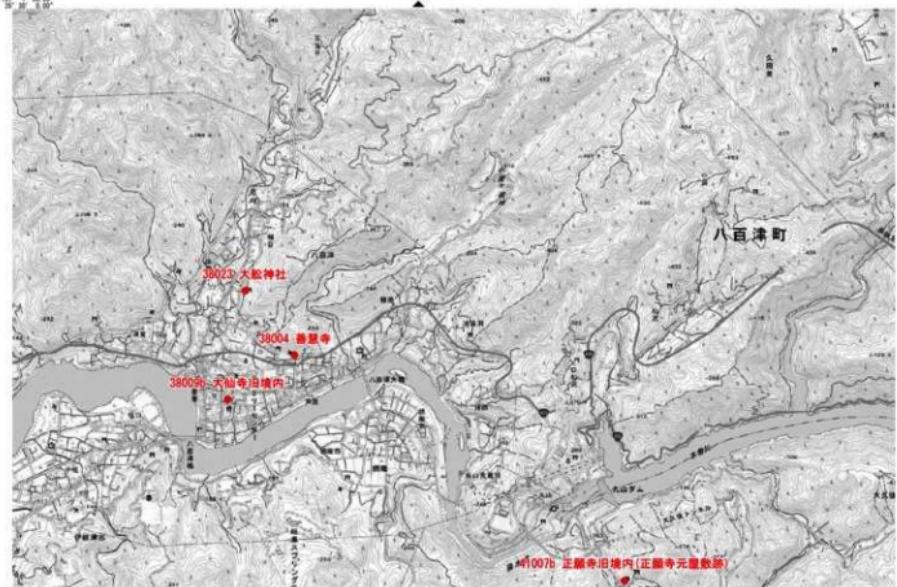
中津川市

K10 付知	K11 三重野	
L10 美濃福岡	L11 妻籠	L12 児岳
M10 恵那	M11 中津川	M12 伊那駒場





K11 三留野		
L11 妻籠	L12 元岳	
M11 中津川	M12 伊那原橋	



瑞浪市

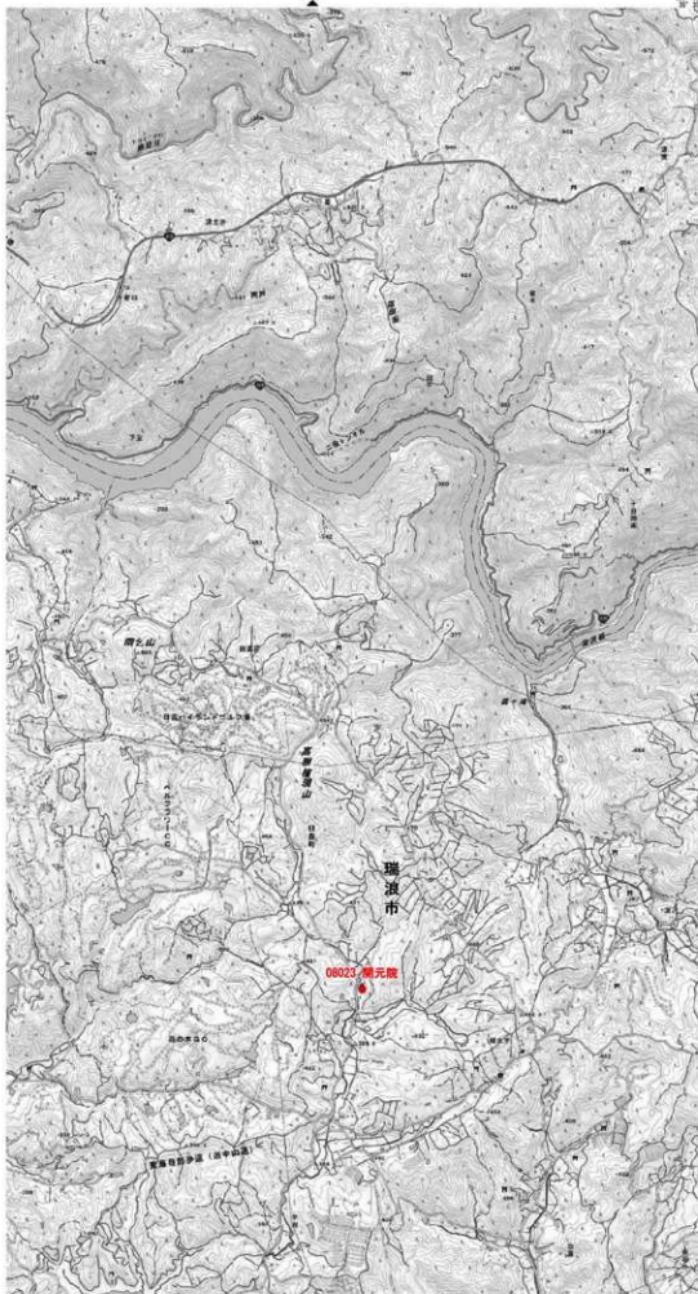
08023 開元院

八百津町

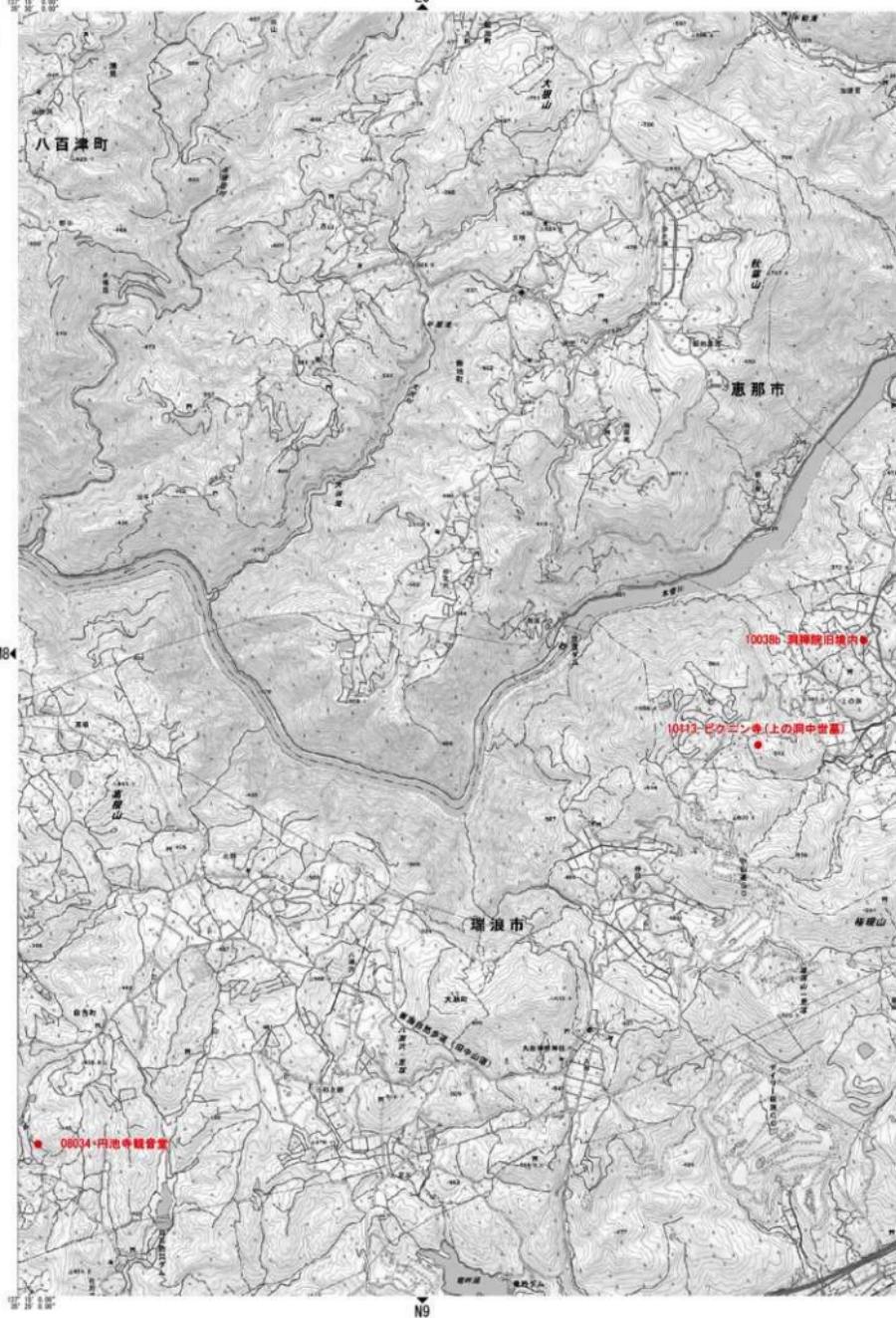
38004 善慧寺
 38006 大船寺旧境内
 38023 大船神社

御嵩町

41001 順興寺
 41006 惠溪寺旧境内
 41007 正願寺旧境内
 (正願寺元堂敷跡)
 41009 岩仙寺
 41016 穂楽寺
 41017 (送木奥寺跡)
 41021 (幸福寺跡)



L7 上麻生	L8 河岐	L9 切井
M7 美濃加茂	M8 御嵩	M9 武並
N7 小泉	N8 土岐	N9 瑞浪



10101 松王寺（幸賀敷跡）

M9 武並**瑞浪市**

08034 円池寺報音堂

恵那市

- 10024 琴鏡寺
- 10035b 河神院旧境内
- 10075 大円坊舊寺（大円坊遺跡）
- 10077 東作中世墓
- 10092 若林庵（若林報音堂跡）
- 10101 松王寺（幸賀敷跡）
- 10103 (伝金昌寺跡)
- 10113 ピクニン寺（上の洞中世墓）

10077 (東作中世墓)

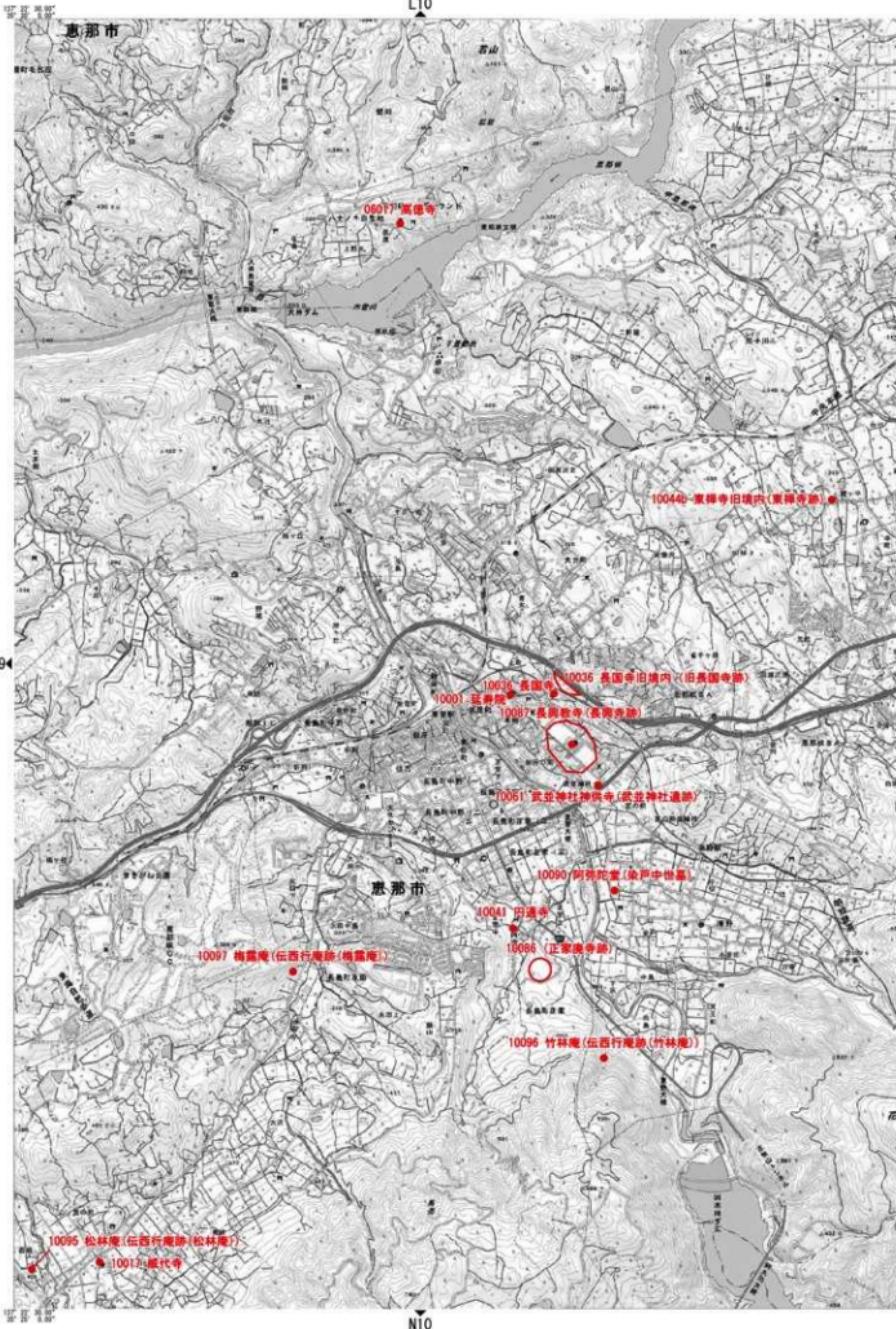
M10

10092 若林庵（若林報音堂跡）

10024 鹿須寺

10075 大円坊舊寺（大円坊遺跡）

L8 河岐	L9 切井	L10 美濃福岡
M8 御嵩	M9 武並	M10 恵那
N8 土岐	N9 瑞浪	N10 岩村





中津川市

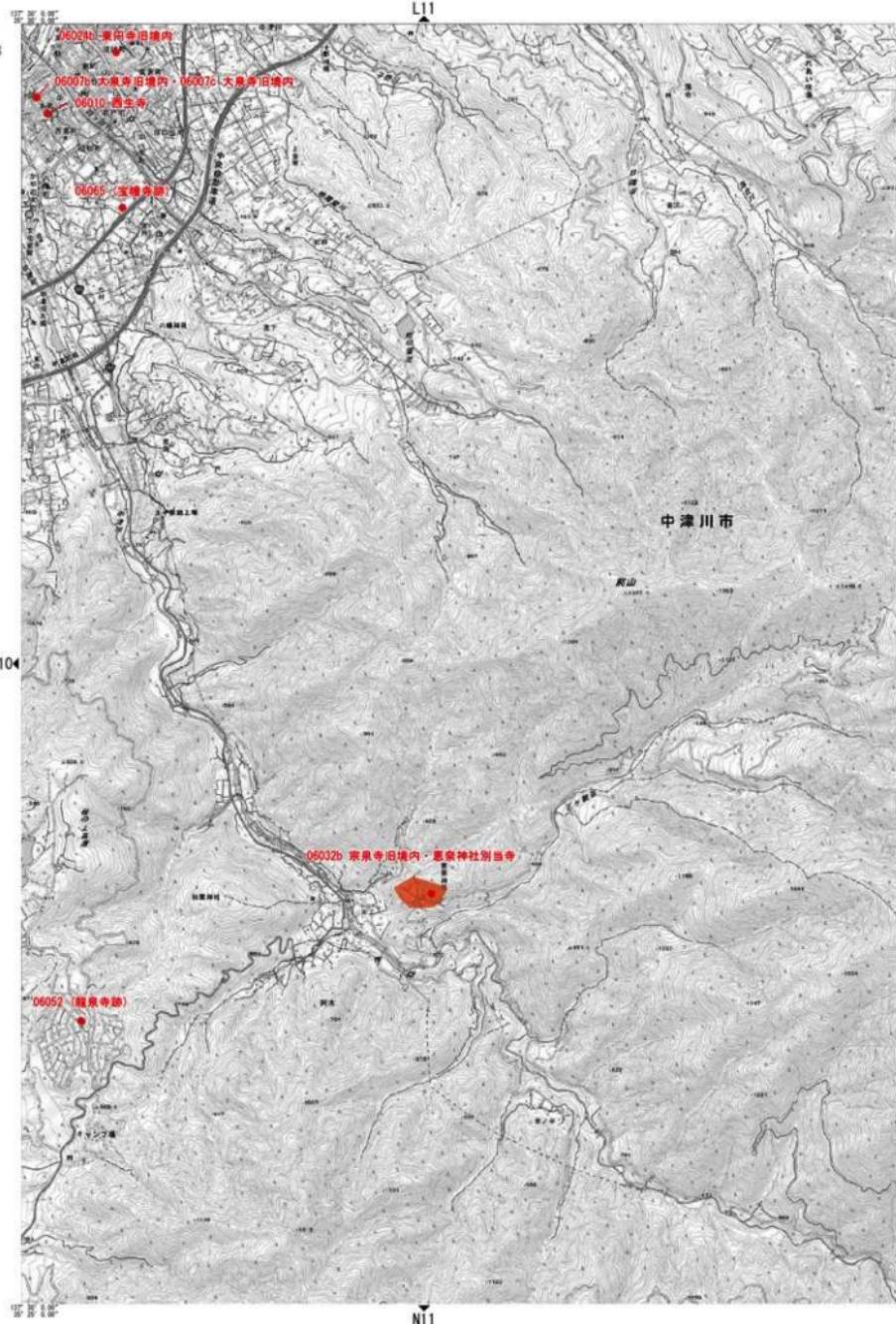
- 1004b 東禪寺旧境内(東禪寺跡)
- 06017 高德寺
- 06027 大林寺
- 06035 墓昌寺
- 06053 (宝能寺跡)
- 06054 (高通寺跡)
- 06055 (大京寺跡)
- 06056 順成寺(順成寺跡)
- 06057 (長善坊跡)
- 06058 (長善寺跡)
- 06064 勝門院

恵那市

- 10001 藍寿院
- 10017 成代寺
- 10036 美國寺
- 10036b 長慶寺旧境内(旧長慶寺跡)
- 10041 内道寺
- 10056 (正暦寺跡)
- 10061 武益神社神供寺(武益神社遺跡)
- 10086 (正家院寺跡)
- 10087 長興教寺(長興寺跡)
- 10090 阿弥陀堂(染戸中出墓)
- 10095 松林庵(伝西行庵跡(松林庵))
- 10096 竹林庵(伝西行庵跡(竹林庵))
- 10097 梅露庵(伝西行庵跡(梅露庵))

▶M11

L9 切井	L10 美濃福岡	L11 妻籠
M9 武並	M10 恵那	M11 中津川
N9 瑞浪	N10 岩村	N11 美濃後山



M11 中津川

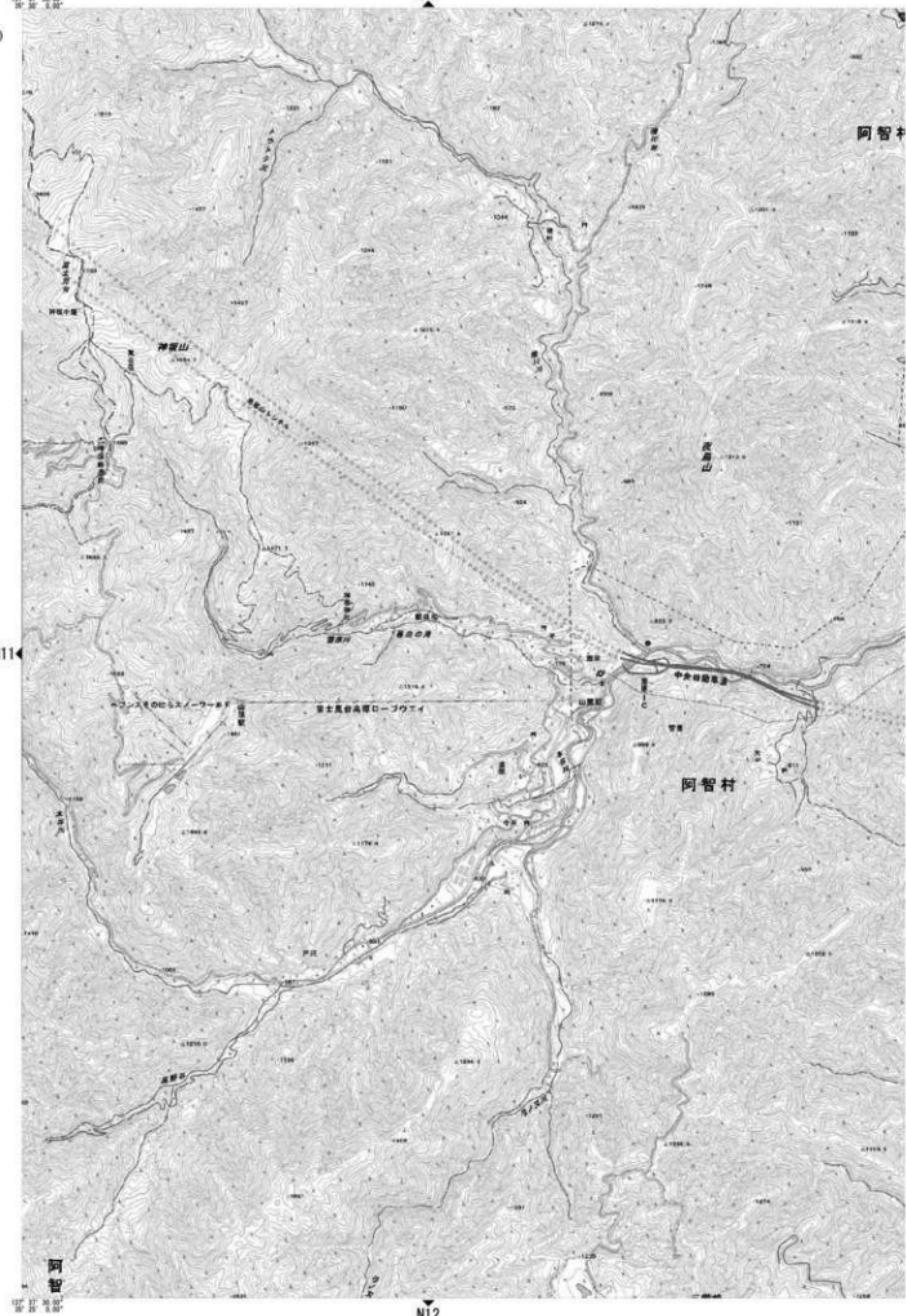
中津川市

- 06007 大乗寺旧境内・06007c 大乗寺旧境内
 06010 西生寺
 06024 長円寺旧境内
 06025 真乗寺旧境内・真乘神社社当寺
 06057 (圓承寺跡)
 06065 (宝幢寺跡)

►M12

阿智村

L10 美濃福岡	L11 妻籠	L12 児岳
M10 恵那	M11 中津川	M12 伊那駒場
N10 岩村	N11 美濃挂山	N12 浪合



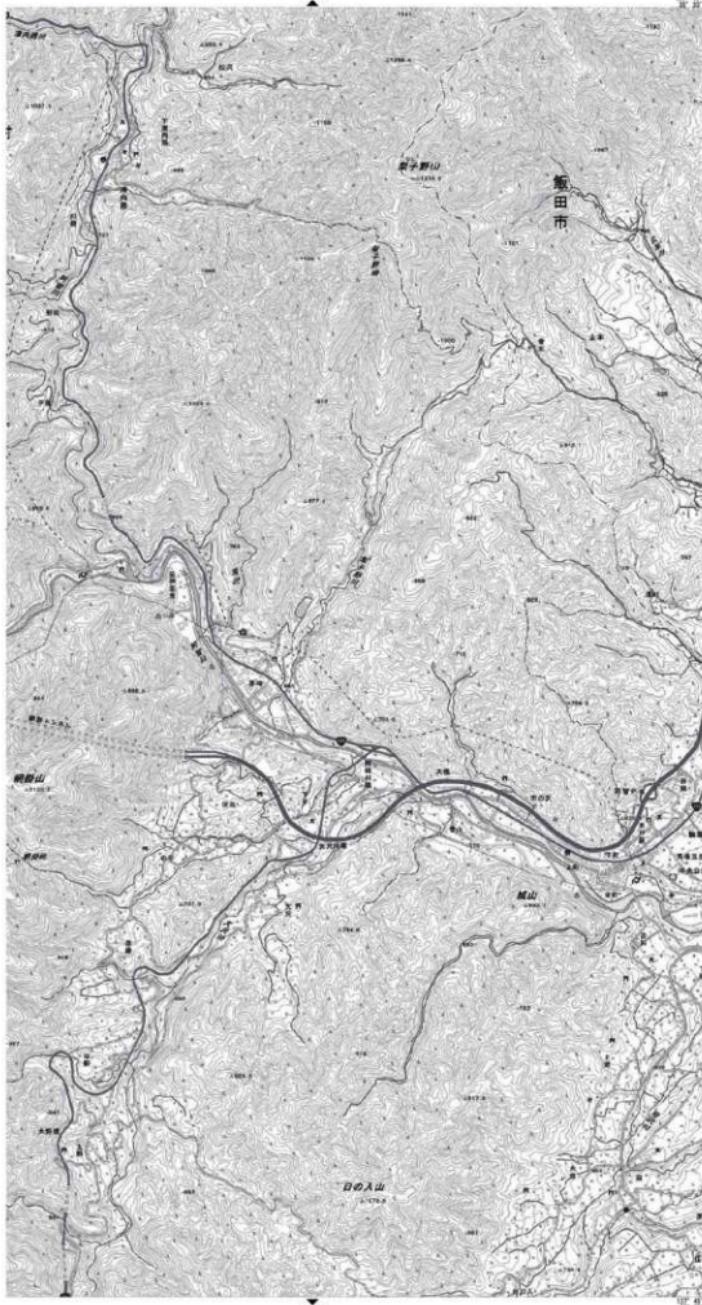
阿智村

L12

137° 45' E

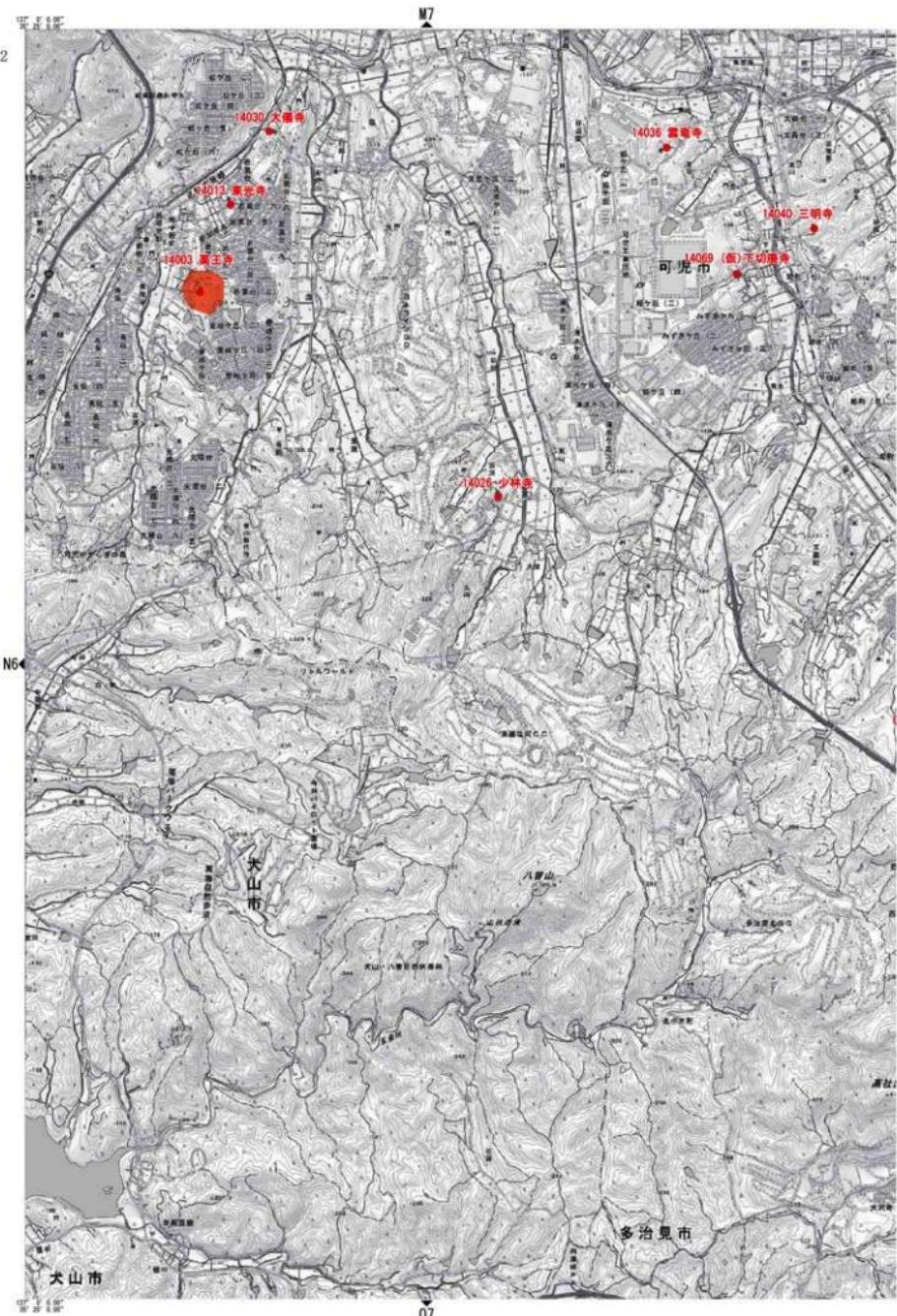
8.90° N

M12 伊那駒場¹²¹



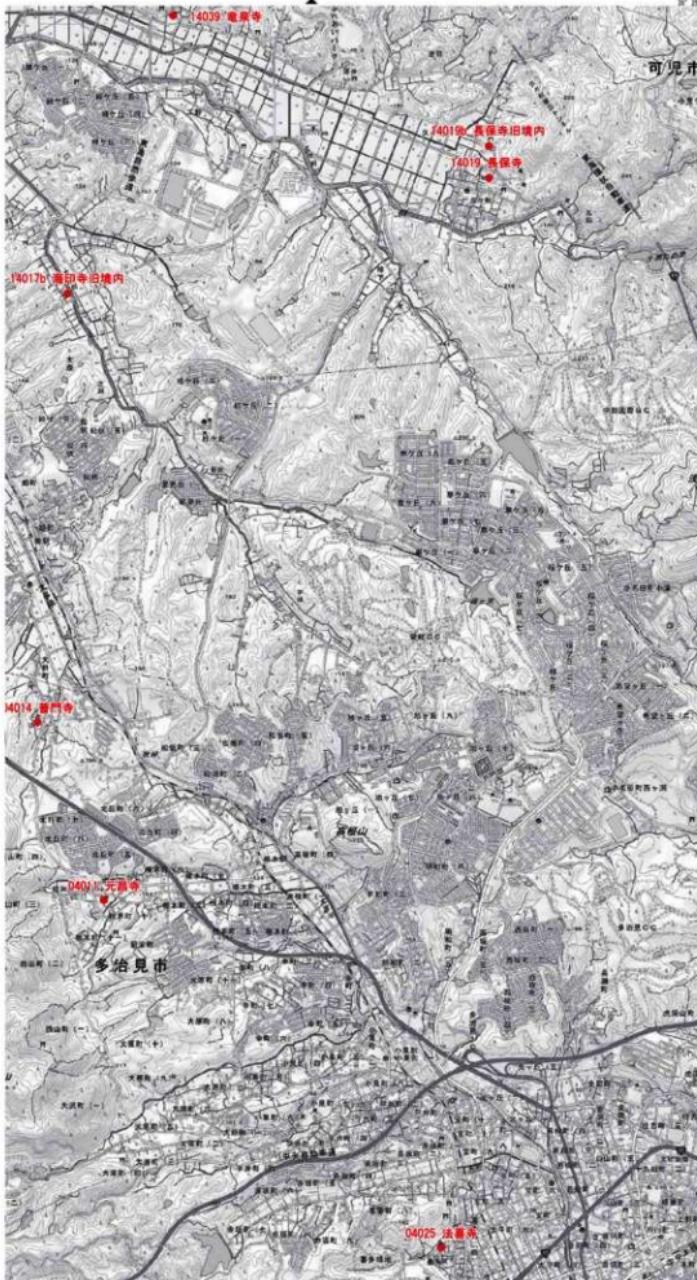
L11 妻籠	L12 元岳	
M11 中津川	M12 伊那駒場	
N11 美濃桃山	N12 浪合	

N12



M7

13° 36' 30"



N7 小泉

123

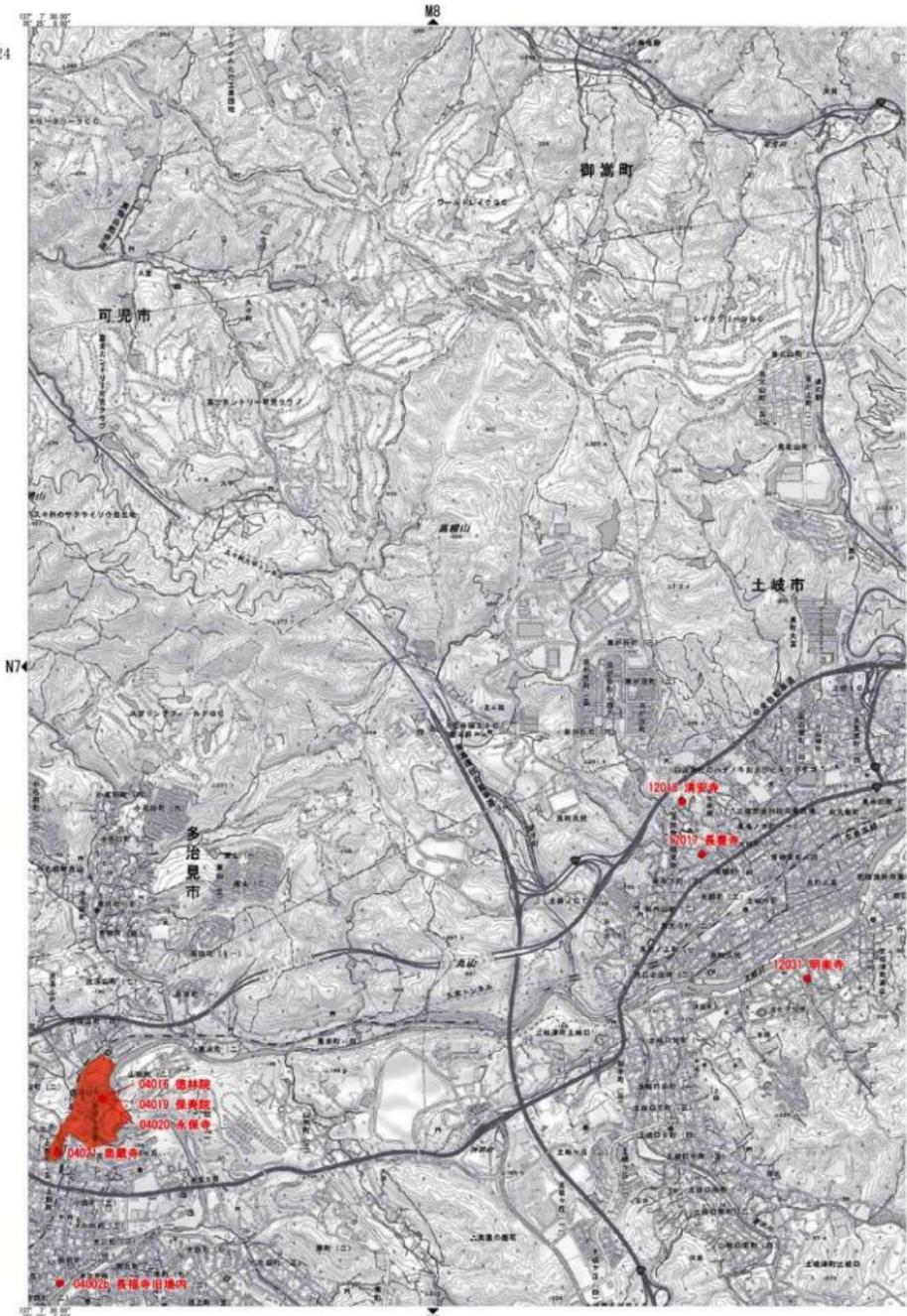
多治見市

- 04011 元昌寺
- 04014 菩門寺
- 04025 法善寺

可兒市

- 14003 墓王寺
- 14013 東光寺
- 14017b 海印寺旧境内
- 14019 長保寺
- 14019 長保寺旧境内
- 14026 少林寺
- 14030 大徳寺
- 14036 霊巌寺
- 14039 宝泉寺
- 14040 三胡寺
- 14069 (仮) 下切廻寺

M6 美濃關	M7 美濃加茂	M8 御嵩
N6 犬山	N7 小泉	N8 土岐
07 高麗寺	08 多治見	



多治見市

- 04002b 長福寺旧境内
04015 桜林院
04019 保壽院
04020 永保寺
04021 真藏寺

瑞浪市

- 08001 清光院
08003 正宗寺
08013 墓王寺
08024 増福寺旧境内
08025 明白寺
08030 清来寺
08041 菩薩寺

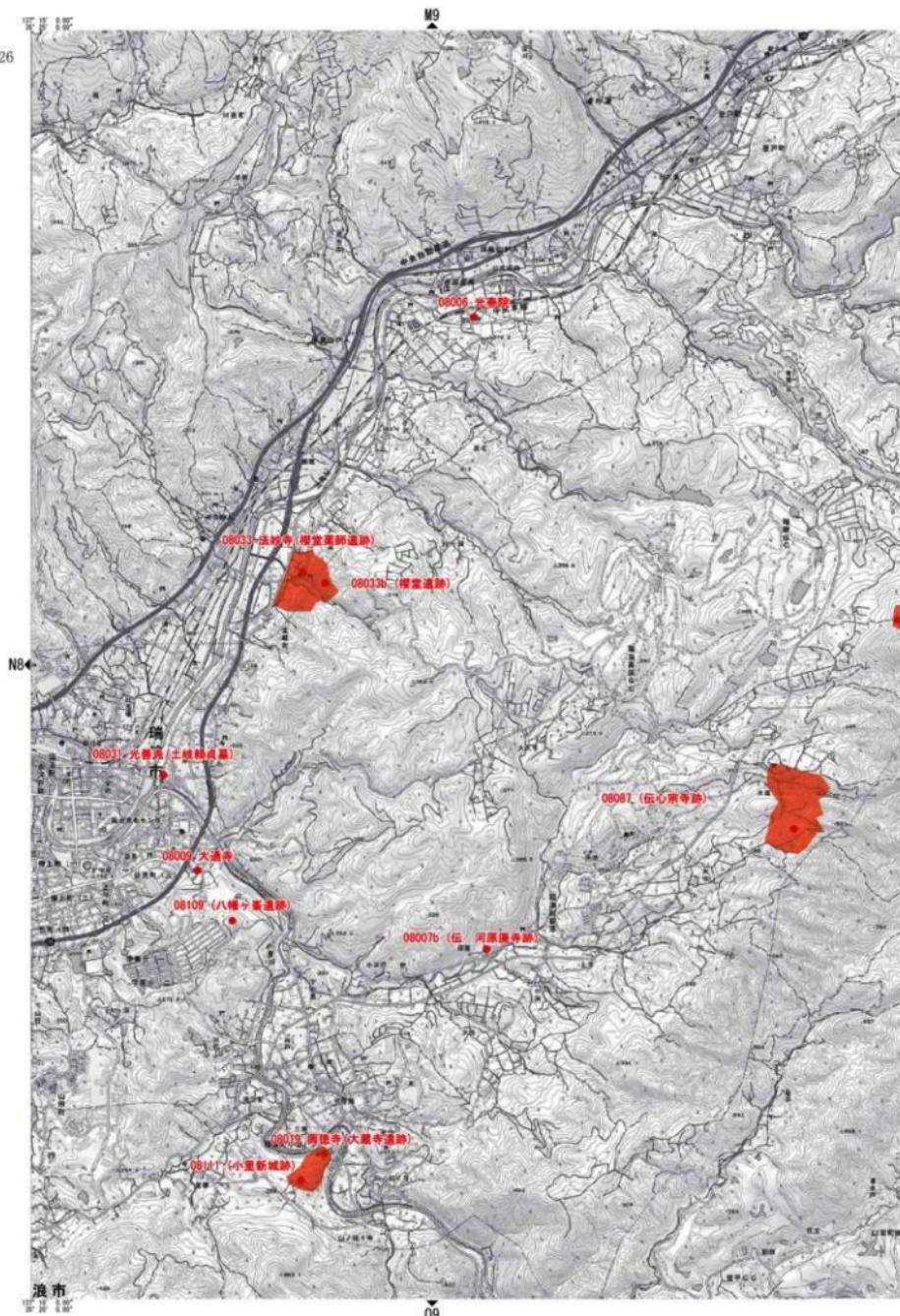
土岐市

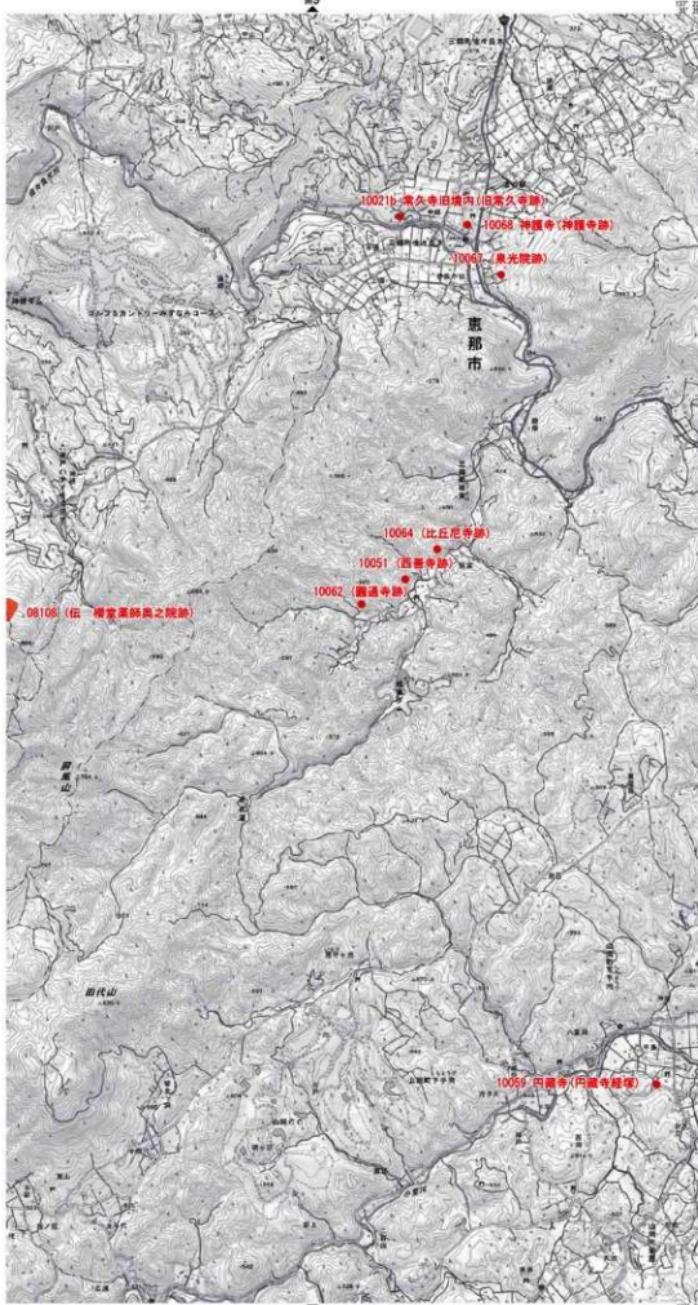
- 12016 (天福寺跡)
12017 長善寺
12018 清安寺
12031 朝慶寺
12032 (名清寺跡)
12166 (天福寺跡)

12032 (名清寺跡)

12016 (天福寺跡)

N7 美濃加茂	M8 御嵩	M9 武並
N7 小泉	N8 土岐	N9 瑞浪
07 高藏寺	08 多治見	09 猿爪





瑞浪市

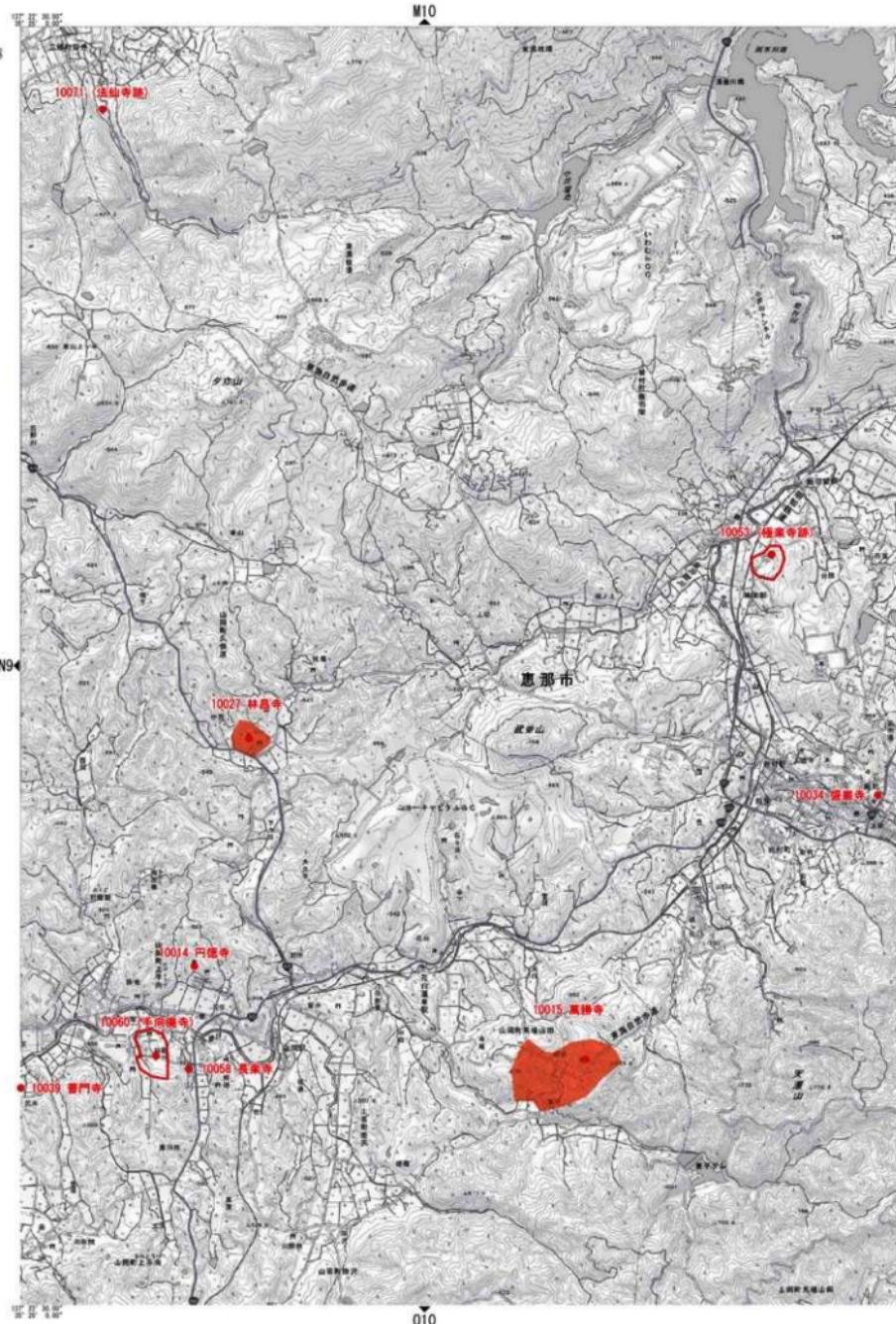
- 08006 光春院
- 08007 (伝)河原廣寺跡
- 08009 大通寺
- 08019 興徳寺 (大藏寺遺跡)
- 08003 光善寺 (土岐朝貢墓)
- 08032 法妙寺 (櫻堂裏跡)
- 08033b (櫻堂跡)
- 08087 (伝心宗寺跡)
- 08108 (伝 櫻堂裏跡)
- 08109 (八幡ヶ峯遺跡)
- 08111 (小重新城跡)

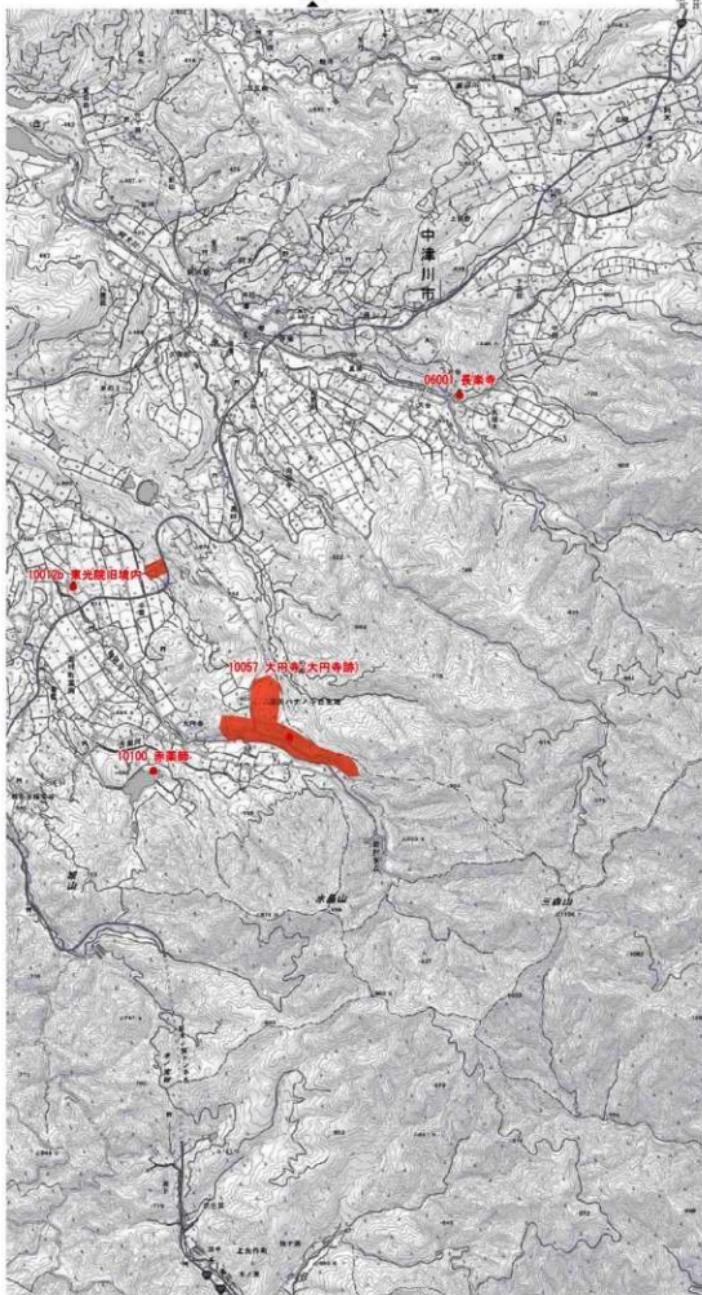
恵那市

- 10021b 常久寺旧境内 (旧常久寺跡)
- 10051 (西善寺跡)
- 10059 円融寺 (円融寺跡)
- 10062 (圓通寺跡)
- 10064 (比丘尼寺跡)
- 10067 (乗光院跡)
- 10068 神護寺 (神護寺跡)

▶ N10

M8 御嵩	M9 武並	M10 恵那
N8 土岐	N9 瑞浪	N10 岩村
08 多治見	09 猿爪	010 明智





中津川市

06001 長樂寺

恵那市

10012b 東光院旧境内

10014 円徳寺

10015 真勝寺

10027 林昌寺

10034 安慶寺

10039 菩門寺

10053 (極楽寺跡)

10057 大円寺 (Dairyūji跡)

10058 長樂寺

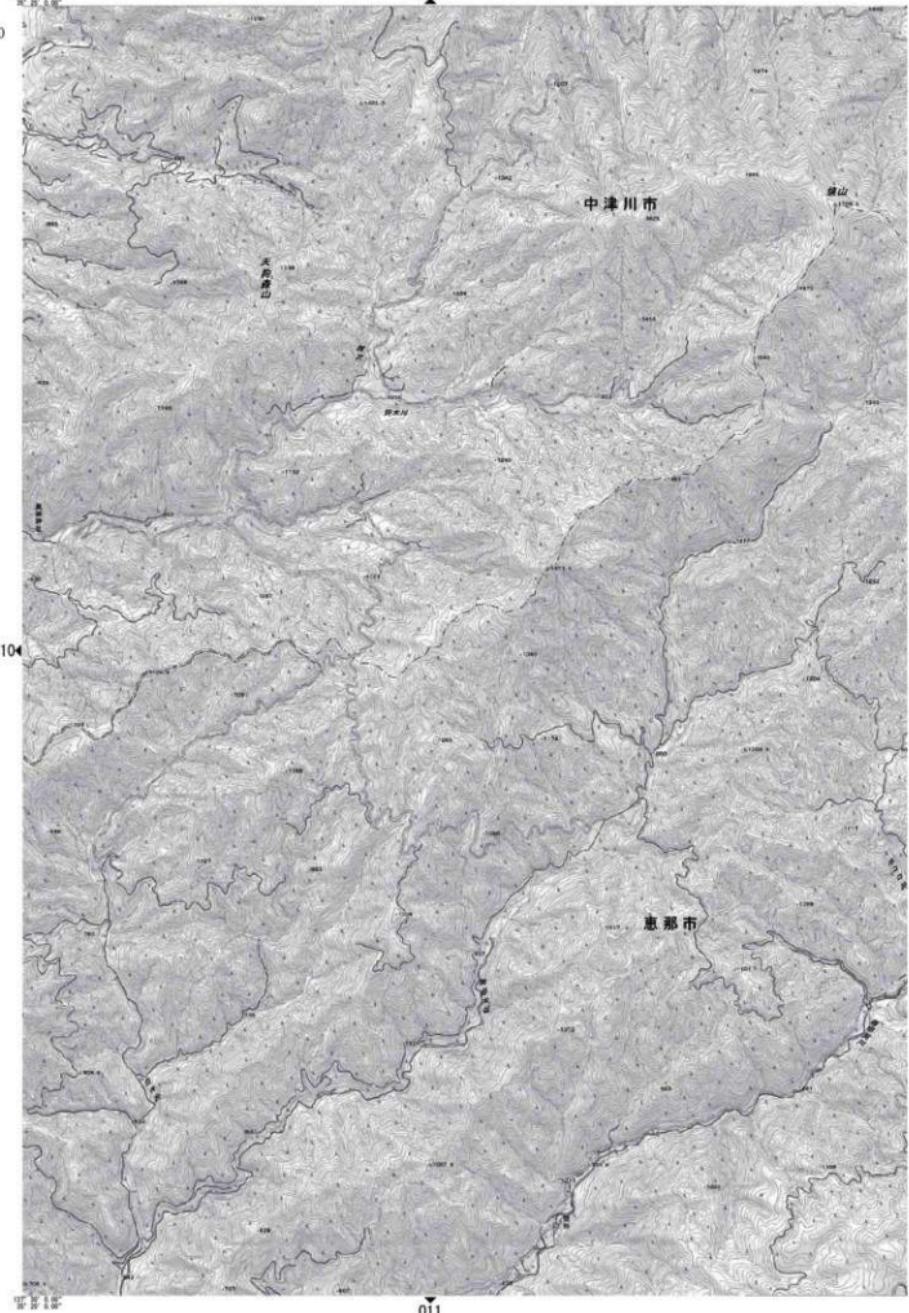
10060 (手向庵跡)

10071 (法仙寺跡)

10100 赤坂跡

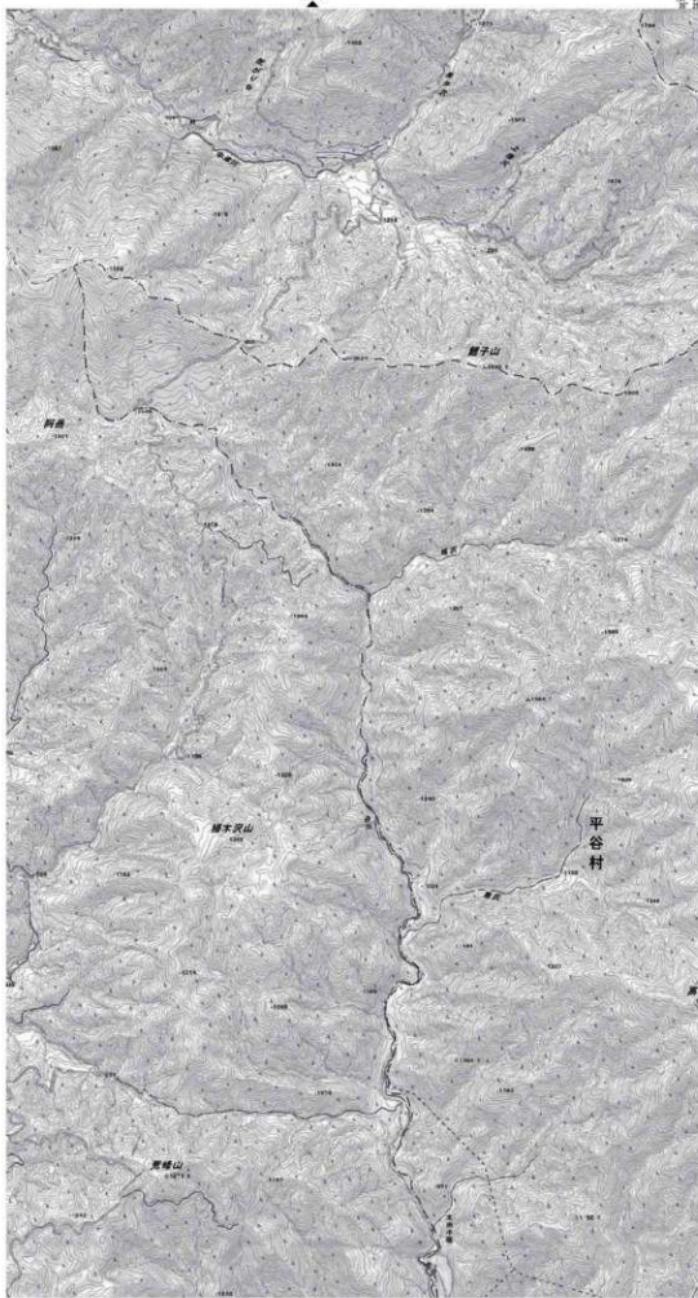
▶N11

M9 武並	M10 恵那	M11 中津川
N9 瑞浪	N10 岩村	N11 美濃後山
09 猿爪	010 明智	011 横道



M11

13° 17' 36.95"

N11 美濃燒山¹³¹

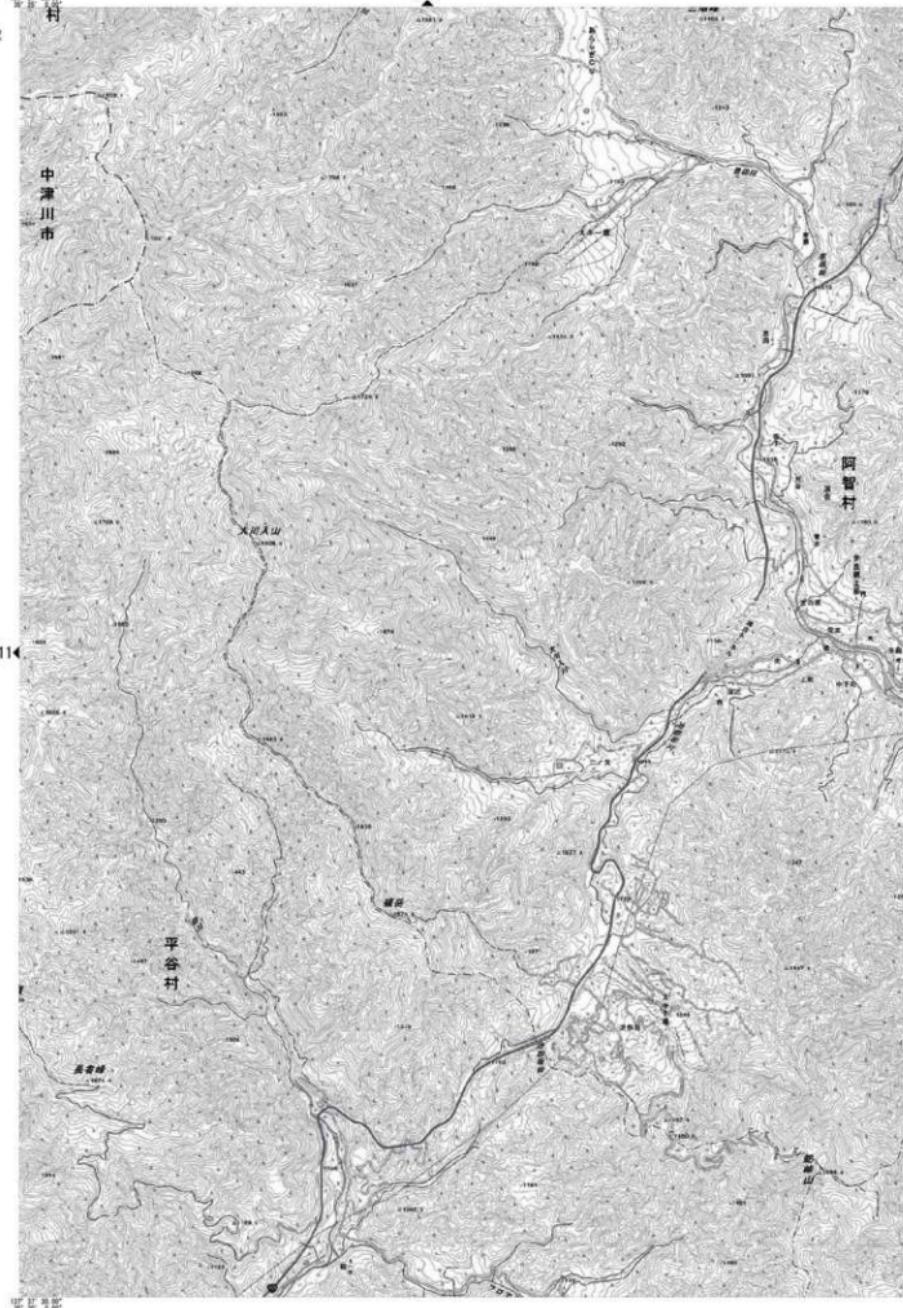
►N12

011

M10 恵那	M11 中津川	M12 伊那駒場
N10 岩村	N11 美濃燒山	N12 浪合
O10 明智	O11 横道	

13° 17' 36.95"

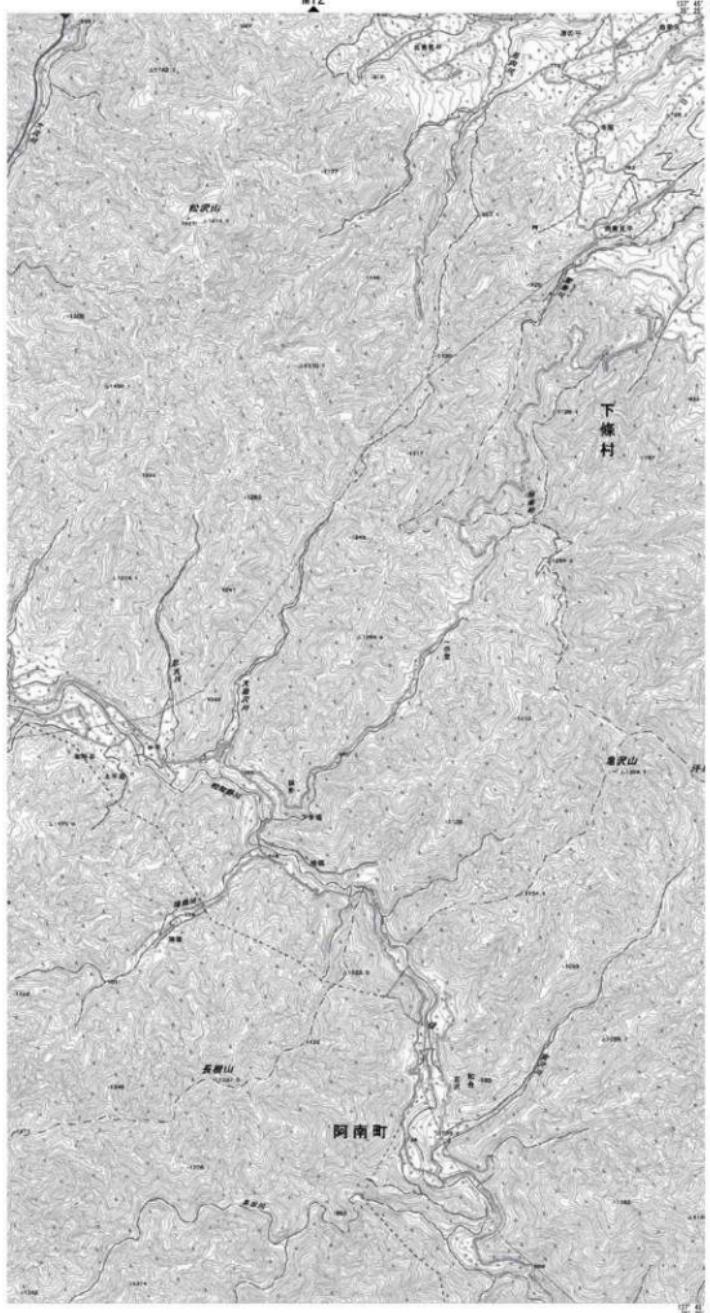
36.95"



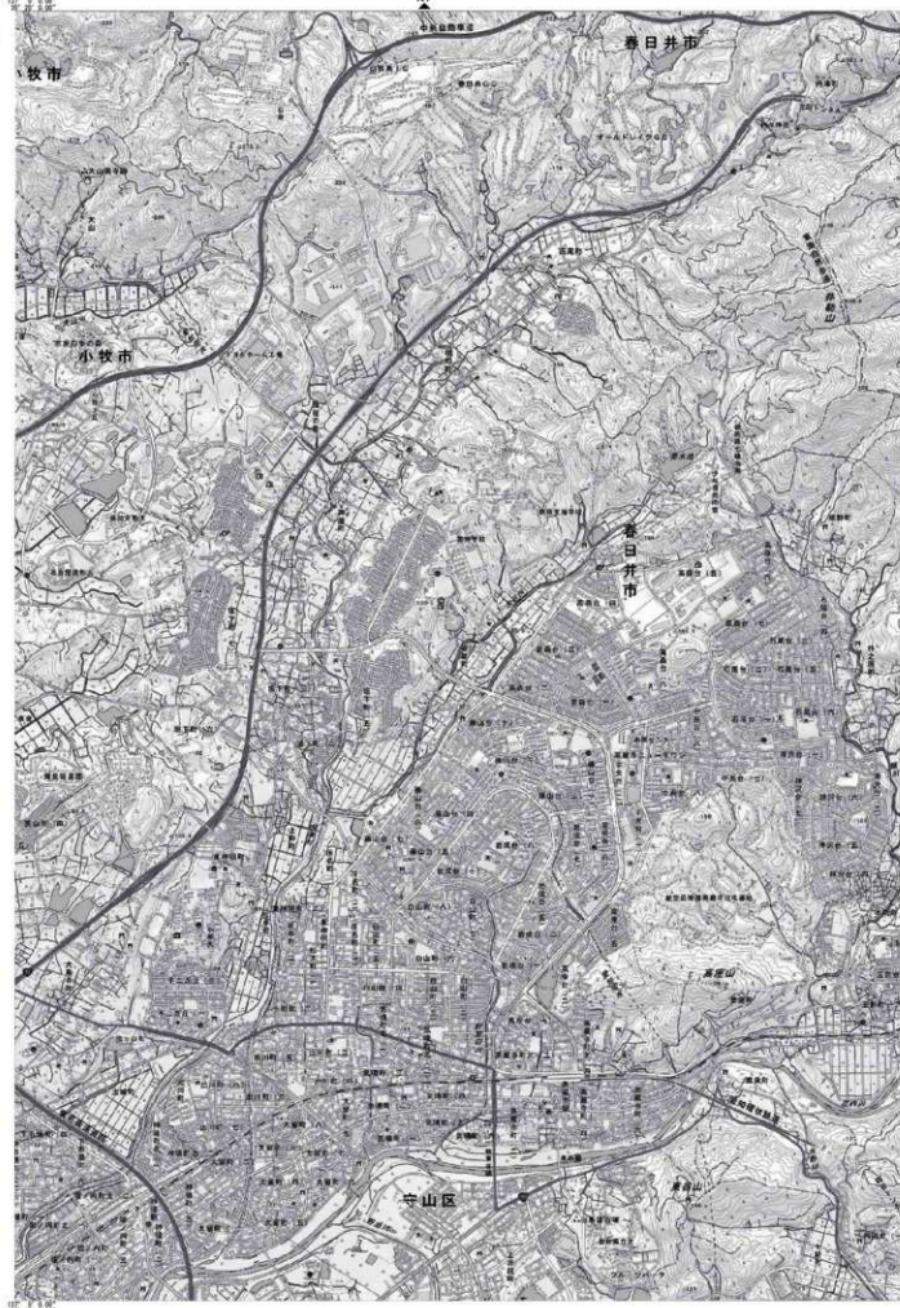
M12

N12 浪合

133



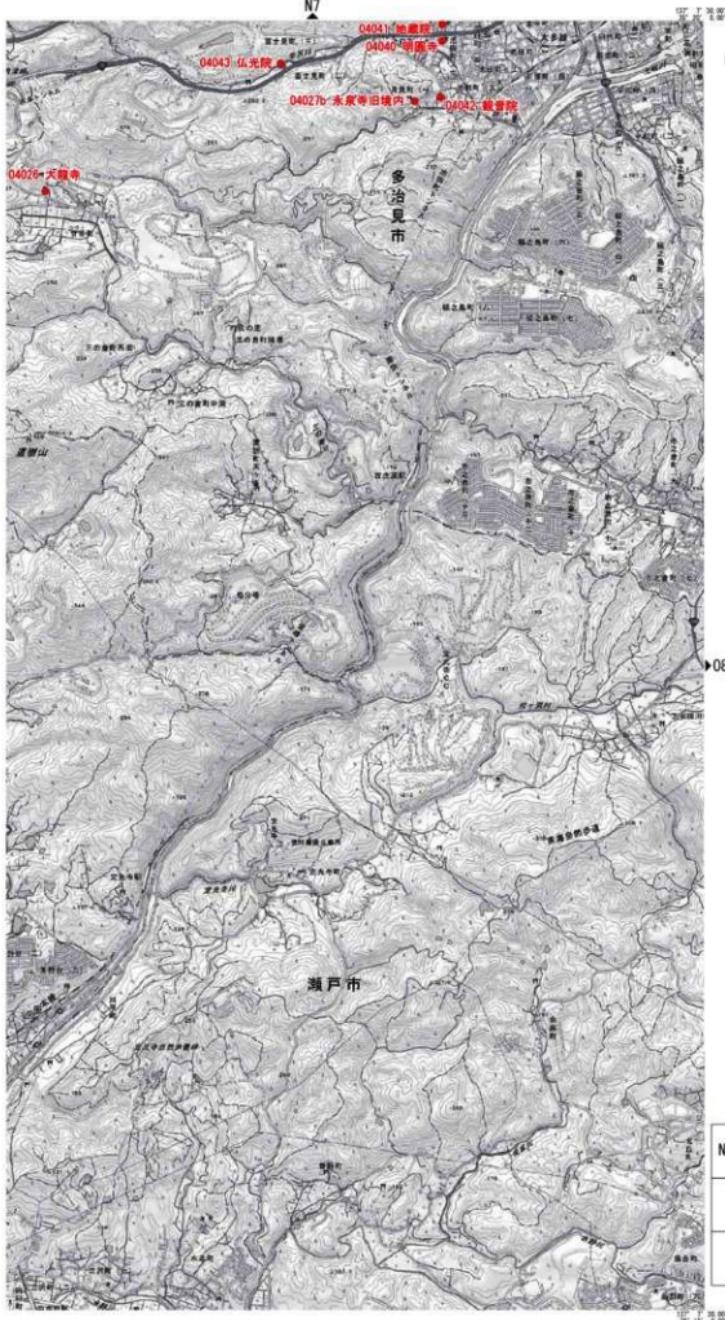
M11 中津川	M12 伊那駒場	
N11 美濃猿山	N12 浪合	
O11 横道		



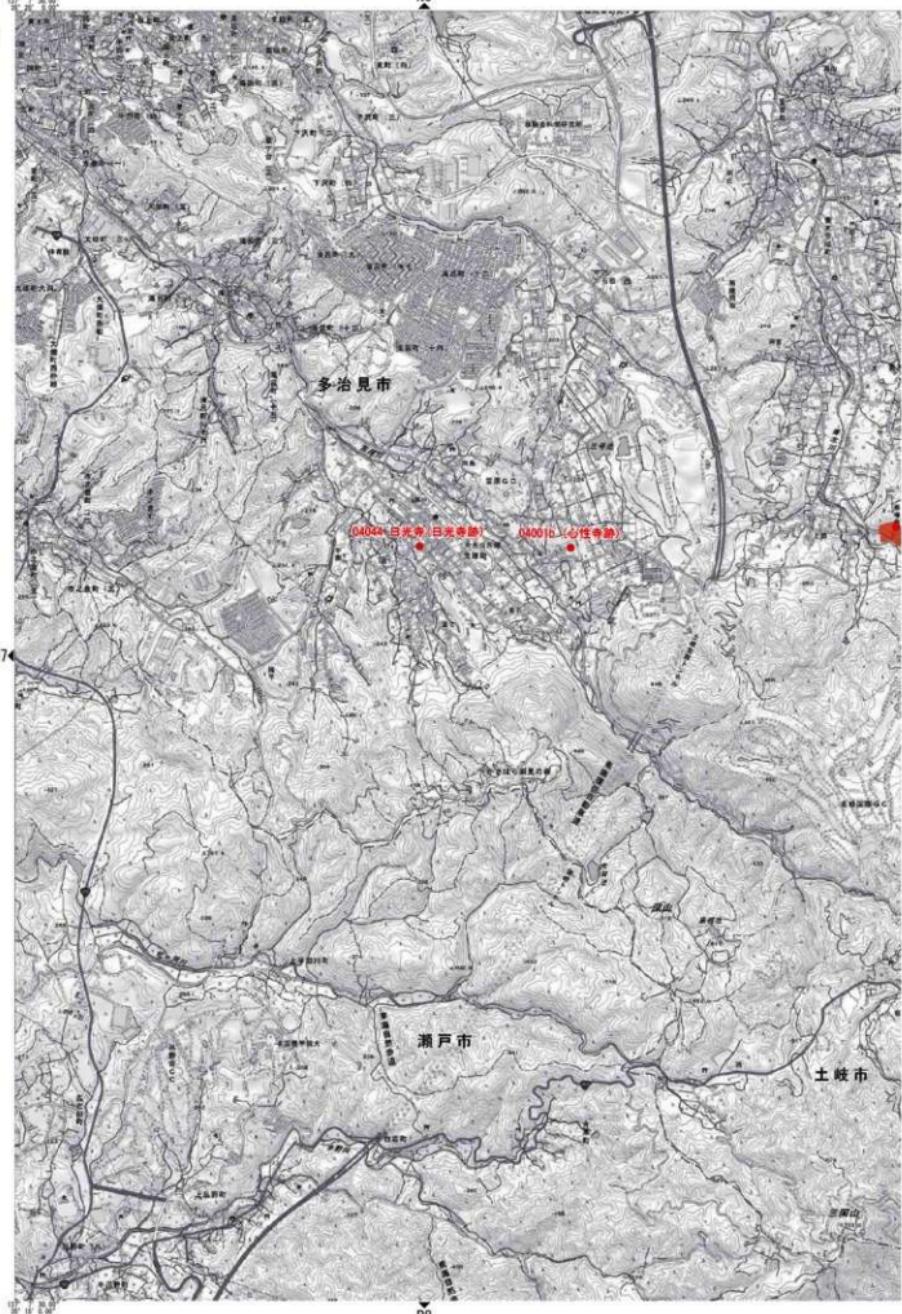
07 高蔵寺

多治見市

- 04026 大龍寺
04027b 永乗寺旧境内
04040 明國寺
04041 地蔵院
04042 総音院
04043 仏光院
04026 天龍寺
04041 地蔵院
04040 明國寺
04042 総音院
04043 仏光院
04027b 永乗寺旧境内
04041 地蔵院
04042 総音院
04043 仏光院



N6 犬山	N7 小泉	N8 土岐
07 高蔵寺	08 多治見	
		P8 猿投山



08 多治見

多治見市

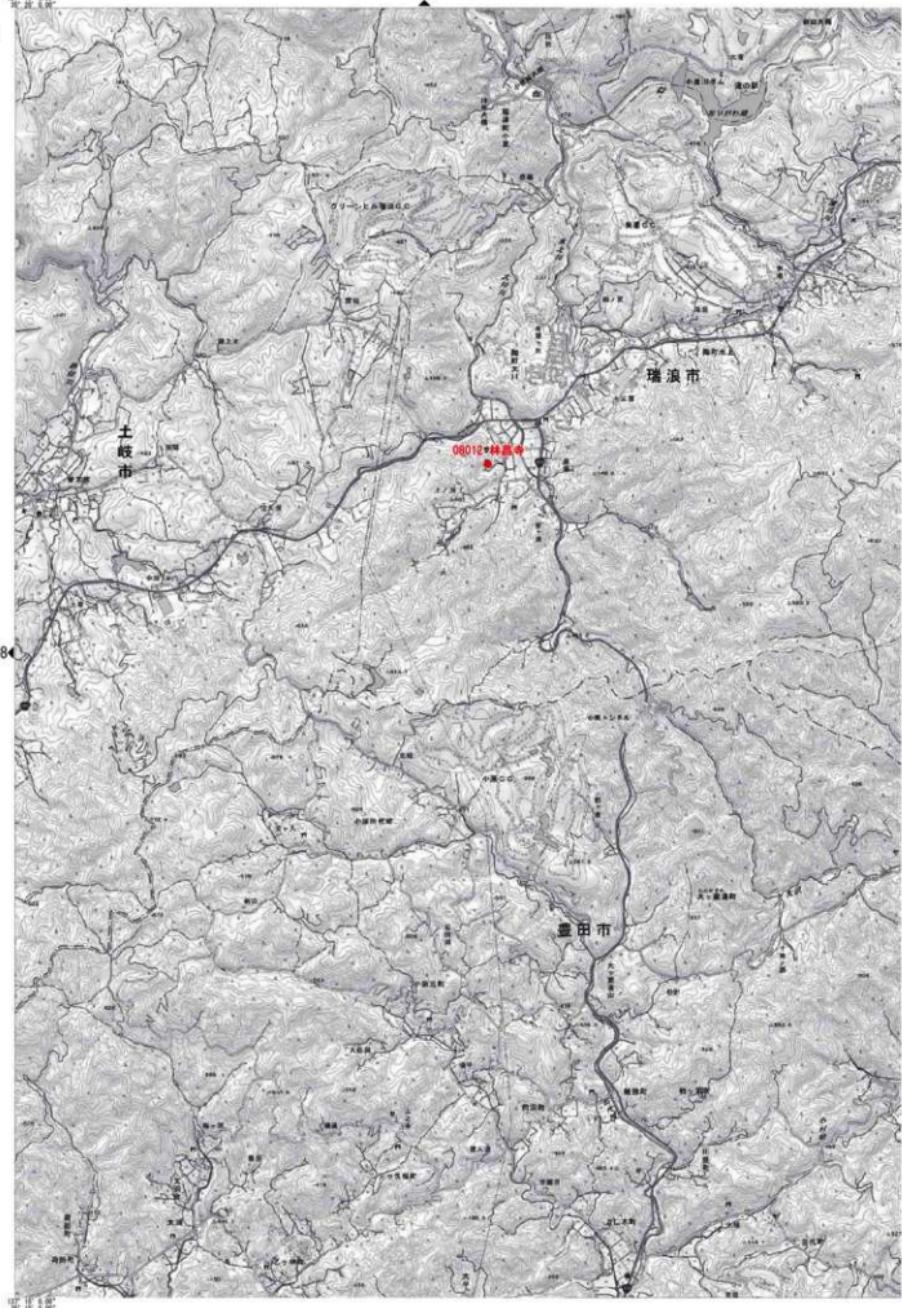
04001b (心性寺跡)
04044 日光寺 (日光寺跡)

土岐市

12012 東禅寺
12013 美久寺
12020 在祇寺
12034 (奥山寺遺跡)
12035 (但唱寺跡)
12036 (東山寺跡)
12012 霊搏寺

09

N7 小泉	N8 土岐	N9 瑞浪
07 高藏寺	08 多治見	09 猿爪
	P8 猿投山	



N9

137° 13' E
36° 55' N

09 猿爪

139

瑞浪市

08012 林昌寺

恵那市

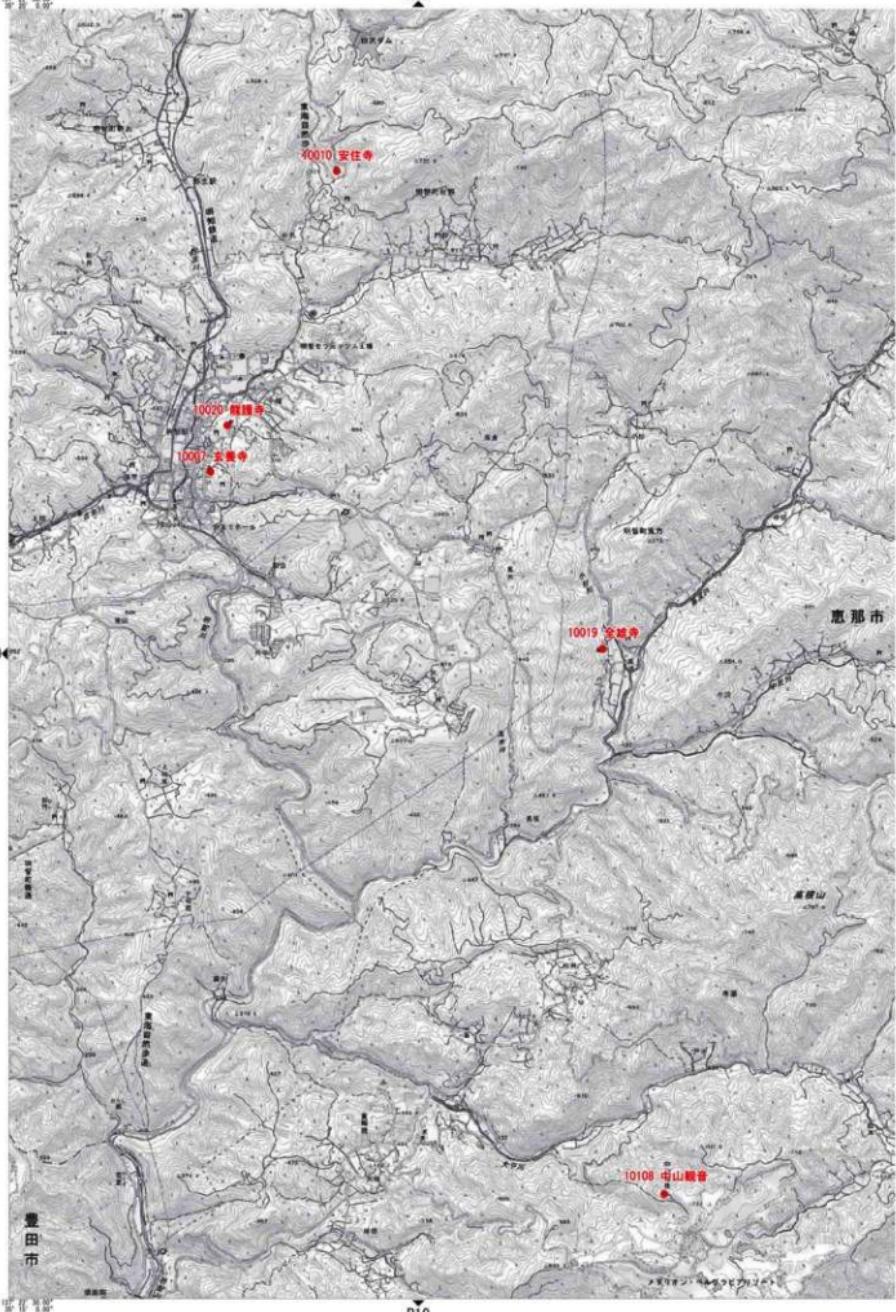
10011 雲林寺

10011 雲林寺、瑞浪市立道場

恵那市

→010

N8 土岐	N9 瑞浪	N10 岩村
08 多治見	09 猿爪	010 明智
P8 猿投山		P10 川ヶ渡



N10

117° 11' E
36° 20' N

010 明智

141

恵那市

- 10007 玄葉寺
10010 安住寺
10019 全雄寺
10020 震勝寺
10108 中山觀音

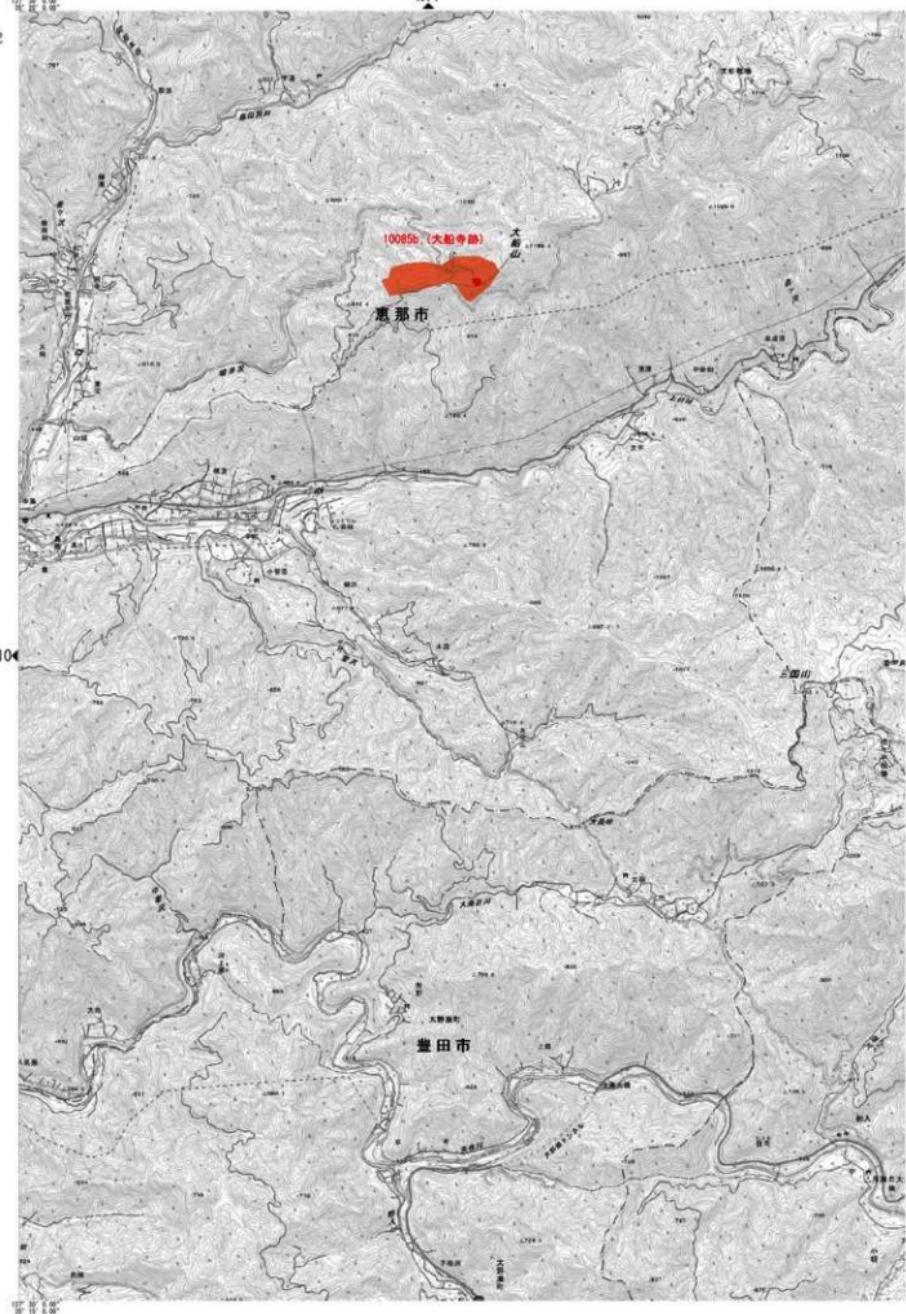
011

N9 瑞浪	N10 岩村	N11 美濃掛山
09 猿爪	010 明智	011 横道
P10 川ヶ瀬		

豊田市

P10

117° 11' E
36° 20' N



011 横道

恵那市

10055b (大船寺跡)

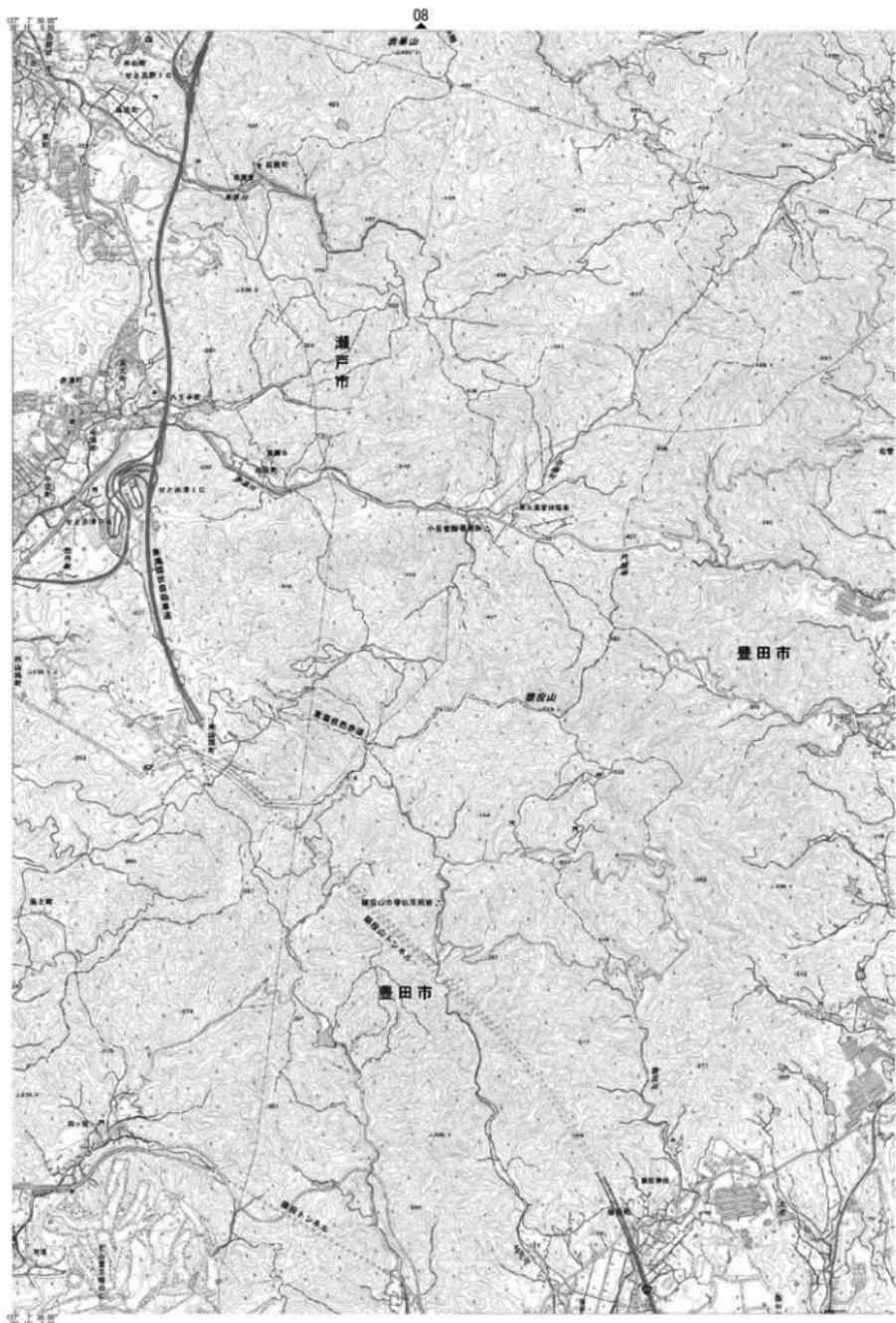
平谷村

根羽村

林原山

御原山

N10 岩村	N11 美濃猿山	N12 浪合
010 明智	011 横道	
P10 川ヶ渡		





07 高藏寺	08 多治見	09 猿爪
P8 猿投山		



010

北緯 36° 30' 00"

東経 137° 30' 00"

P10 川ヶ渡

147



09 猿爪	010 明智	011 横道
P10 川ヶ渡		

第5節 東濃圏域のまとめ

本節では、東濃圏域の寺院数を旧郡単位で集計し、時代・時期ごとの創建数や立地を検討した上で、古代と中世の寺院について整理する。

1 概説

(1) 東濃圏域の旧郡

東濃圏域は、延喜式における土岐郡・恵奈郡と可児郡の一部が含まれ^①、本節では、これらの旧郡をもとに寺院（以下、寺院跡を含む。）の分布等を検討する。なお、近世以前の詳細な郡域は明らかでないため、戦前に作成された五万分の一地形図や『改正美濃国明細全図』（明治17年作成、岐阜県図書館蔵）を参照した。

(2) 寺院数(表30)

436か寺を対象として調査した結果、古代成立寺院25か寺、中世成立寺院146か寺、合計171か寺を確認した^②。古代において成立した寺院のほとんどは東濃圏域の中央部、恵奈郡の限られた地域である。一方、中世には寺院数がかなり増え、特に東山道沿いや中津川と下呂を結ぶ南北街道沿い、岩村・妻木など領主層の拠点となる場所、屏風山などの山裾に多くの寺院が成立する。

(3) 時期毎の成立時期等の検討(表31)

ここでは、市町村史等の文献に成立年代等の記載がある寺院を選択し、成立、移転、転宗、廃絶等を50年単位で集計し、寺院の消長やその関連性を検討する^③。なお、詳細な時期比定は、本来ならば発掘調査等によって明らかとなつた年代観で検討すべきであるが、現状では寺院の発掘調査等がほとんど進んでおらず、ここは寺社縁起などを含む文献における記載を参考に検討した。しかし、その取扱いについては十分に考慮すべきである。なお、発掘調査等により成立年代が推定できるものについては発掘調査成果を参考にした。

① 成立時期の記録

寺院の成立記録は、7世紀から9世紀後半までは一定数認められるが、10世紀前半から11世紀後半までは1か寺しか認められない。しかし、12世紀前半以降は成立数が一定数認められ、16世紀後半になると急激に増加し、17世紀後半まで多い状態が続いている。

② 転宗時期の記録

寺院の転宗記録は、13世紀前半までみられず^④、13世紀後半、14世紀前半、16世紀以降に数か寺ある。中世に転宗したことが確認できる13か寺の内訳は、真言宗への転宗5か寺、臨済宗への転宗3か寺、曹洞宗への転宗3か寺、16世紀に浄土宗への転宗1か寺、16世紀に浄土真宗への転宗1か寺ある。真言宗への転宗は多治見市可児道場（池田五山）の寺院が13世紀にすべて転宗したことによるものであり、それ以外では17世紀に禅宗への転宗した寺院が多い。

③ 移転・廃絶時期の記録

寺院の移転の記録^⑤は、16世紀前半までは3か寺しか認められないが、16世紀後半から17世紀後半にかけて34か寺の移転が認められる。一方、寺院の廃絶の記録^⑥も16世紀前半までは4か寺しか見られないが、16世紀後半から17世紀後半にかけて21か寺認められる。廃絶の多くは戦火によるも

のであり、その後に再建されている寺院が多くある。16世紀後半から17世紀後半にかけての移転が多く認められるのはそのためである。

(4) 寺院の立地(表32、図67・68)

ここでは、所在地及び成立時期が明らかな寺院について、低地から高地まで分布する寺院の立地を、およそ平地、山麓、山腹に分けて記載する。①平地に位置する寺院は全体の約39%、②山麓に位置する寺院は全体の約45%、③山腹に位置する寺院は全体の約16%である。高原や盆地が多いといった地勢を反映して、台地上の平地や丘陵の山裾といった場所に多くの寺院が立地していると考えられる。

時期別の立地状況を概観すると、7、8世紀に成立した寺院では、正家庵寺跡(恵那市)や長興教寺(恵那市)が平地に立地し、手向庵寺跡(恵那市)が山麓に立地している。山腹・山頂に立地する寺院は確認できていない。9世紀以降に成立した寺院では、平地、山麓、山腹に位置する寺院をそれぞれ確認できるが、13世紀までは数が少ないため立地の傾向を見出すことは難しい。14世紀前半から16世紀前半には平地や山麓に多くの寺院が成立する。平地の代表的な寺院としては、長福寺(多治見市)や定林寺(土岐市)などが挙げられる。山麓の代表的な寺院としては、永保寺(多治見市)や広惠寺(中津川市)、大円寺(恵那市)、崇禪寺(土岐市)などが挙げられる。山腹に建立された寺院はあまり確認することができない。16世紀後半から17世紀前半にかけては山麓の寺院が増加する。宗泉寺(中津川市)、東光院(恵那市)などがその代表的なものである。山腹・山頂の寺院もそれまでの時期に比べると多く成立している。17世紀になると、平地の寺院が増加する。

以下、立地ごとの詳細について記載する。

① 平地に位置する寺院

丘陵・山地裾部と寺域が接していない、氾濫原、河岸段丘、扇状地上などに位置する寺院である。この地域の寺院は木曾川・土岐川などの河川沿いの河岸段丘上に立地することが多い。正家庵寺(図67-1)は、市街地のある低地と山塊の接する部分に形成された、市街地を一望する河岸段丘上に立地する。また定林寺や光善寺も河岸段丘上に立地する。長福寺は土岐川沿いの低地に立地する。

② 山麓に位置する寺院

丘陵・山地裾部と寺域が接している寺院であり、丘陵・山地との境付近の地形が谷部や河川沿いの狭小地と見晴らしの良い平地などに分かれる。これらの寺院の多くは、美濃高原の周縁部の山地・丘陵帯の裾部に位置する。永保寺(図67-2-1・2)は市街を南に臨む標高190m前後の丘陵地山麓に立地する。明白寺(瑞浪市、図67-3)は土岐川左岸(北側)に位置する丘陵南向き斜面に立地する。伝心宗寺跡(瑞浪市、図67-4)は標高794mの屏風山西側の丘陵緩斜面に立地する。崇禪寺(図68-5)は、妻木川北側にある標高247mの寺山南山麓に立地する。寺山北山麓には妻木氏の氏神八幡神社やその神宮寺である大鏡寺八幡院(廃寺)が立地した。増福寺(瑞浪市、図68-6)は、山地の谷部に位置する寺院であり、尾根等に囲まれている。西侧尾根の南端部には酒波神社が立地し、元々増福寺もこの境内にあったとされている。広惠寺(図68-7)は、城か根山の尾根先端にある広惠寺城の南東麓谷部に立地する。

③ 山腹・山頂(尾根上)に位置する寺院

山腹に位置する寺院、山腹から山頂(尾根上)付近の鞍部に位置する寺院、山頂や尾根上に位置する寺院に分かれる。満昌寺^⑤(恵那市、図68-8-1・2)は周囲を小丘陵と尾根に囲まれた位置に

立地する。櫻堂薬師⁷⁾（瑞浪市、図68-9）は、山腹に位置する寺院であるが、伝承によれば現在集落となっている山麓まで坊院が広がっていたとされる。清来寺（瑞浪市、図68-10）は土岐川北側にある山の南北方向の長い尾根上に立地する。大山遺跡は山腹から山頂付近の鞍部に位置する寺院である。

2 古代寺院の様相（図69）

図63の分布図を見ると、恵那郡・土岐郡の中央部を東西に東山道が通る⁸⁾。古代に成立した寺院はこの東山道沿いやその南側に分布する。特に恵那郡の中央部に分布する寺院が多い。飛鳥・奈良時代に成立したことがわかっている寺院の中で、発掘調査から伽藍の様相がわかっているのは正家庵寺と手向庵寺跡である。正家庵寺は東西110m、南北70mの広さを有し、主要堂宇を法隆寺式に配置する本格的な古代寺院である。8世紀前半に造営が着手されその後9世紀後半に主要伽藍の火災を契機として廃絶するまで1世紀余り存続した（恵那市教育委員会2000）。東山道を見渡せる台地に立地するが、寺院の正面は北側の東山道ではなく南の山側を向いており、南面を意識した寺院である。手向庵寺跡は東濃圏域で唯一奈良時代の瓦が見つかった遺跡である。検出されている瓦は軒丸瓦・平瓦・丸瓦で、軒平瓦は見つかっていない。単弁と複弁を交互に配するという特殊な瓦当文を有し、県内及び近隣でも類例を見ない。成立時期は軒丸瓦等から考えると奈良時代中葉以降である。また、軒丸瓦が一型式しか出土していない点から考えると寺院の存続期間も短いものであったと推察される（山岡町教育委員会1988）。

その他に飛鳥・奈良時代に成立したとされている寺院としては長国寺（恵那市）や長興教寺（恵那市）、大船寺（恵那市）、可児道場（多治見市）があげられる。可児道場は天平13（741）年、聖武天皇の勅宣により、行基によって建立された華厳宗の一大道場であった。現在の多治見市池田町のあたりに一山四か寺（石動山明圓寺・地藏院・觀音院・仏光寺・蓮華寺）が建立され、池田五山と称された。

遺物などからその存在がわかる平安時代の寺院としては、極楽寺跡（恵那市）や八幡か峯遺跡（瑞浪市）があげられる。極楽寺跡では、灰釉陶器や須恵器が出土し、平安時代末期には存在していたと考えられる（岐阜県岩村町役場1956）。八幡か峯遺跡は過去に須恵器や灰釉陶器が出土し、遺物の中には綠釉陶器の花瓶や多口瓶があったことから9～10世紀の寺院跡の可能性がある。

平安時代には天台宗や真言宗の寺院が存在したことがわかっている。天台宗の寺院としては櫻堂薬師や広済院（中津川市）、医王寺（中津川市）、満昌寺がある。櫻堂薬師は弘仁3（812）年、天台宗の開祖である最澄の開基と伝わる。また最澄は、弘仁6（815）年8月東國巡化の際、東山道の難所に広済院を設けて旅人の休憩所にしたとされるが、その位置は不明である。医王寺の成立年代は不明であるが、行基作とされる薬師如来が現存し、天台宗の古刹とされる。満昌寺は天安2（858）年頃に比叡山延暦寺の3代座主の円仁が開基とされる。真言宗の寺院としては、大船寺があげられる。修驗道（真言密教）の寺院として平安時代に栄えたとされる。

3 中世寺院の様相

（1）寺院の分布（図70・71）

東濃圏域において、中世に成立する寺院は平地・山麓に立地することが多い。山腹に立地する寺院

も一定数あり、隔絶した山奥に立地する寺院も確認することができる。また図70を見ると中世に成立した寺院は東山道沿いに多いことが分かる。屏風山の北側山裾・南側山裾にも多く分布する。その他にも恵那市山岡町周辺や遠山氏の拠点となった恵那市岩村町周辺、妻木氏の拠点であった土岐市妻木町周辺などにも多くの寺院を確認できる。恵那郡の坂本駅から益田郡の下留駅の間を通る南北街道沿いにも寺院の成立が見られる。

ここでは、郡域ごとに代表的な寺院について記述する。

恵那郡では南東部の山地を除く広い地域で寺院が確認できる。南北街道沿いに立地する寺院としては、多聞坊（中津川市）や寶心寺（中津川市、寺山遺跡）、広恵寺、大山遺跡などがあげられる。多聞坊や寶心寺（寺山遺跡）は下呂市大威徳寺の塔頭や末寺であった。広恵寺は遠山氏や夢窓国師との関係が深い寺院である。大山遺跡は比高差300mを超える山奥に立地する。恵那市北部にある笠置山周辺の寺院として松王寺や白雲寺遺跡などがあげられる。この地域には後醍醐天皇の皇子宗良親王とその子とされる伊良親王父子に関する毛呂崖伝説があり、その伝説と関わりのある寺院が分布し、隔絶した山奥に立地する。恵那山の西側山麓には宗泉寺旧境内がある。この寺は恵那神社別当寺であった。東山道沿いにある平地の寺院としては長興教寺や武並神社神供寺（恵那市、武並神社遺跡）があげられる。長興教寺は古代成立の寺院であるが、中世に天台宗から西大寺末の律宗系寺院に転宗したことかっている。武並神社神供寺は発掘調査が行われ礎石建物の基壇が検出されている。また、僧坊等も備えた寺院であったと考えられている。岩村城周辺の山麓に立地する寺院としては、満昌寺、大円寺、東光院旧境内（恵那市）などがあげられる。満昌寺は古代成立の寺院であるが、中世に明智遠山氏と岩村遠山氏の庇護を受け堂々たる大寺となった。大円寺も美濃遠山氏が一族の総力をあげて建立した寺であり、東光院はその属寺であった。民衆寺院として注目すべきは、恵那市山岡町にある瑠璃光寺である。東西を尾根に囲まれた南向き山麓に立地する。

土岐郡では東山道から東山道別路にかけての街道沿いや屏風山の北側山麓、土岐川流域などに多くの寺院を確認できる。街道沿いの寺院としては、櫻堂薬師や光善寺、定林寺、清来寺、明白寺などがあげられる。櫻堂薬師は古代成立の伝承がある寺院だが、発掘調査の結果から中世の遺構や遺物が多く見つかり、南にある椎山遺跡からも経塚群と中世墓群が確認され12世紀後半から15世紀後半にかけて栄えた寺院であると考えられる。光善寺、定林寺は土岐氏ゆかりの寺院である。清来寺も土岐氏ゆかりの寺院とされ、尾根上の先端に立地する。現在は巖谷不動と呼ばれ不動明王が祀られている場所には岩窟や懸造の柱痕跡が残っている。明白寺は丘陵上に立地する黄檗宗の寺院であるが、元は臨済宗の寺院で夢窓国師ゆかりの寺である。屏風山北側山麓の寺院としては、伝桜堂薬師奥之院（瑞浪市）や伝心宗寺跡などがあげられる。伝桜堂薬師奥之院は丘陵上に堂跡が残る小さな寺院跡である。伝心宗寺跡は夢窓国師の創建と伝えられ、丘陵上に心字池などが残る。土岐川流域の寺院としては小里新城跡（瑞浪市）や天福寺（土岐市）、崇禪寺、永保寺などがあげられる。小里新城跡は土岐川支流の小里川沿いに立地し、鎌倉期の城館跡とされているが、大藏寺という寺院の跡地の可能性がある。同じく土岐川支流の肥田川近くの山麓にある天福寺跡は土岐肥田氏の保護のもとで室町時代に栄えた寺院である。現在の天福寺は戦火で焼失後、江戸時代に移転されたものである。崇禪寺は妻木川の北側に立地する寺院で妻木氏の菩提寺であった。永保寺は土岐川の西側、長瀬山の山麓に位置する寺院で夢窓国師が創建した寺院である。

(2) 平坦面の配置(図 72~74)

ここでは、山麓、山腹に位置する寺院の堂塔や門・通路・その他の平坦面などの配置と、それらが位置する地形などについて記載する。

① 地形の詳細

山麓に位置する寺院は、堂塔背面に山地を背負うもの（崇禪寺（図 72-1）、大円寺など）、堂塔背面が緩やかな丘陵になっているもの（明白寺、伝心宗寺跡（図 72-2）など）、堂跡背面と側面の二方向若しくは三方向を尾根等で囲まれるもの（永保寺（図 73-5）、広恵寺（図 74-6）など）、山麓の谷間に位置するもの（増福寺など）、河川沿いの狭小地にあるもの（崇禪寺、大円寺など）がある。

山腹に位置する寺院は、谷状の崖地内に位置する寺院（大山遺跡など）、谷状の崖地周辺の平坦地や尾根などに位置する寺院（桜堂薬師（図 72-3）など）、堂塔背面と側面の二方向若しくは三方向を尾根等で囲まれるもの（満昌寺（図 72-4）など）、尾根上に配置された寺院（清来寺など）がある。ただし、清来寺は前身の天徳寺が谷を挟んだ北側にあった可能性があり、その当時に現在の清来寺境内付近がどのように使われていたかは不明である。

平地に位置する寺院として、正家庵寺跡（図 74-7）は主要伽藍を法隆寺式に配置する古代寺院である。特徴的なのは、河岸段丘上に位置する主要伽藍が南側の市街地のある低地を背にし、北側の標高が高くなっていく方向を正面に配置されているということである。

② 堂跡とその周辺

堂跡とその周辺のパターンとして、平坦面群の最奥の高所に堂跡が位置する寺院としては桜堂薬師、伝心宗寺跡、瑠璃光寺跡などがある。主要堂宇のある平坦面が広く、その周りに塔頭など平坦面が展開する寺院としては、永保寺や崇禪寺があげられる。平坦面が堂跡の1か所のみ、若しくはその周りに小さな平坦面が少しあるだけという寺院も多くある。代表的なものは伝桜堂薬師奥之院、松王寺、白雲寺遺跡などである。城郭に隣接する形で主要堂宇が展開する寺院としては、龍王院や広恵寺などがあげられる。神社の境内の中に別当寺として堂宇が建っていたと推測できるのは恵那神社別当寺の宗泉寺旧境内である。堂跡において礎石が確認できた寺院としては、大円寺や松王寺がある。

堂跡と塔跡の位置が絵図から推定できる寺院は永保寺と崇禪寺である。永保寺は本堂から見て右側の山上に塔跡が位置したと推定され、崇禪寺は本堂から見て左後ろの本堂より高い位置に塔跡が位置したと推定される。ただし、両寺とも具体的な位置を特定することはできなかったため堂から池と塔が一望できたかどうかはわからない⁹⁾。

堂跡とその周辺の関係性で特筆すべきは、夢窓国師によって創建された寺院である。この地域には、夢窓国師ゆかりの寺院が多くある。最も有名なのは永保寺であるが、それ以外にも伝心宗寺跡や光善寺、伝河原魔寺跡（瑞浪市）、広恵寺などがあげられる。その中で、夢窓国師が実際に造営に関わった可能性が高い寺院は永保寺である。永保寺は「臥龍池」と呼ばれる池の東に観音堂を配置し、その横が滝になっている。滝の上には盡揮殿と呼ばれる六角のお堂がある。盡揮殿からは周囲の山々と庭園のほぼ全貌が一望できる。これと平坦面の配置が似ているのは伝心宗寺跡である。伝心宗寺跡も心字池が平坦面群の中央付近にあり、池のある平坦面の東側が崖になっている。崖の上からは池を含め周辺を見渡すことができる。

③ 門・通路・平坦面

門跡の礎石が遺存するような寺院は確認できなかったが、絵図から門跡を推定できる寺院は永保寺である。土岐川に接するところに惣門があったとされ、やや左に曲がりながら主要堂宇に向かって通路が伸びる。また永保寺には庫裏背後に黒門がある。土岐川の対岸にある瑞雲岩の付近からこの黒門にかけて橋が架かっていたとされる。通常はこちらの黒門を使用し、高貴な客人を迎えるときのみ惣門を使ったようである。

堂跡へ参道が直進する寺院としては、瑠璃光寺跡、明白寺などが挙げられる。瑠璃光寺跡は参道の両側に方形の平坦面が階段状に並ぶ。寺が保有する江戸期の古文書から坊院が広がっていたことがわかる。明白寺は現在山門のある付近に主要堂宇があったとされ、街道から主要堂宇に向かって直線的に参道が伸びていたと推測できる。それ以外には堂跡への参道が屈曲している寺院がある。広恵寺の参道は堂跡と考えられる平坦面の南側を東西に通っている。堂跡の出入口は西側にあるため、一旦西へ通路が10m程伸び、そこから南へ通路が屈曲して10m程南へ伸びて参道に接続している。

④堂跡と墓域

東濃圏域で確実に中世の墓域¹⁰⁾と言えるのは櫻堂薬師のみである。櫻堂薬師の墓域は本堂北側の斜面に位置している。伝心宗寺跡も本堂北側斜面に集石を確認でき、墓域の可能性がある。ただし中世石塔は確認できない。また、広恵寺では中世石塔を確認できるが、集石は確認できない。

(3)宗派

中世の東濃圏域は、禅宗の寺院が非常に多い。真言宗や天台宗は一定数確認できるが、浄土真宗や浄土宗、日蓮宗の寺院は非常に少ない。また真言律宗の寺院を確認できる。時宗の寺院は確認できない。

天台宗を信仰する寺院は古代以来続いている場合が多く、中世に成立した寺院は少ない。14世紀になると、禅宗へ転宗する寺院も多く出てくる。

真言宗の寺院としては可児道場（石動山明圓寺・地蔵院・觀音院・仏光寺・蓮華寺）があげられる。古代の様相でもふれたが、元は華嚴宗の一大道場であったが、5か寺とも永仁年間（1293～99）に中興開山し、真言宗に転宗した。それ以外ではあまり真言宗の寺院は確認できない。

禅宗が入ってくるのは、14世紀になって、北条得宗家と縁戚関係を結んだ土岐氏が美濃守護土岐頼貞の時代に臨済宗に帰依してからである。土岐氏はもともと天台宗を信仰していたが、頼貞が定林寺、光善寺などを創建した（岐阜県2002）。臨済宗は頼貞が臨済宗円覚寺派を保護したことから広がっていく。正和3（1314）年には仏国国師の高弟夢窓国師、仏徳禪師が土岐氏のもとを訪れ、永保寺を創建した。崇禪寺、永明寺（多治見市）、奥藏寺（多治見市）などもこのあとこの法系の人物たちによって創建されている。その後、土岐氏の衰退とともに妙心寺派が広がっていくことになる。現存の臨済宗寺院もほとんどが妙心寺派である。

曹洞宗の寺院は15世紀以降にその数を増やしている。きっかけは嘉吉3（1443）年に月泉正印に深く帰依した土岐頼元の開基で開元院（瑞浪市）が成立したことである。土岐氏の保護と月泉正印以後の人物により洞禪院（恵那市）、盛久寺（恵那市）などが成立し、長国寺が曹洞宗に転宗している。

美濃国における真言律宗の拠点寺院の一つとして長国寺の前身とされる長康寺（長興寺）があげられる。長国寺の境内からは律宗系の五輪塔が見つかっている。また、同市東野の染戸五輪塔や土岐市曾木町のお君か塔も律宗系五輪塔である。鎌倉時代末から室町時代期の大井盆地には、東山道渡河点

の阿木川右岸の広い範囲に律宗とそれに関連する施設が展開していた（三宅 2011）。

(4) 菩提寺

中世後半以降、有力な領主層の本拠地周辺には土岐氏や遠山氏などの菩提寺となっている寺院が多く存在する。光善寺は土岐一族の菩提寺とされる。成立や廃絶の時期は不明であるが、現在その跡地には土岐頼貞の墓とされる宝篋印塔がある。ただし、頼貞の墓所については、その戒名「定林寺殿」から定林寺に納められたとする見解もある（瑞浪市陶磁資料館 2020）。開元院は土岐頼元が、土岐氏中興の祖である土岐頼貞、また累代の菩提を弔うために建立したとされ、土岐頼貞の位牌が安置されている。崇禪寺も土岐氏の庶流である妻木氏の菩提寺である。大円寺は建武年間（1334～38）に建立された寺院であるが、岩村城主である遠山氏の菩提寺であった。また恵那市龍護寺は、慶長元（1596）年に遠山利景が建立した寺院であり、以来代々遠山氏の菩提寺となった。また、苗木城周辺にも遠山氏の菩提寺がいくつも存在したが、おそらく近世段階の寺院だと考えられる。

注

- 1) 「角川日本地名大辞典」編纂委員会編 1980『角川日本地名辞典 21 岐阜県』、角川書店
- 2) 基礎資料調査や現地調査により把握した寺院の沿革を基に、寺院の成立時期を整理した。現在の所在地へ移転している場合は、移転後の所在地の旧郡に含めた。なお、2つの時代に跨る場合（慶長年間等）には、古い方に帰属させた。
- 3) 「行基が創建」と記載のある場合は8世紀前半、「蓮如の時代に創建・転宗」と記載のある場合は15世紀後半に位置付けた。
- 4) 移転の記録は、沿革から移転したことが確認できるものをカウントした。ここには廃絶後に移転して再興している寺院数も含まれる。また、複数回移転している場合は、最初の移転のみカウントしている。
- 5) 廃絶（火）は、沿革から兵火により焼失したことが確認できるものをカウントした。なお、廃絶後に再建されたものもここに含まれている。廃絶（他）は、廃絶後に再興していない寺院の数を表している。
- 6) 現在の寺院名は萬勝寺であるが、第5章第5節では成立時の寺号である圓昌寺という名称を使った。
- 7) 「櫻」の字は、史料中で「櫻」と表記される場合、並びに「櫻堂薬師」や「瑞櫻山」という固有名詞を表記される場合に限って旧字体を使用し、遺跡名や地区名等については「桜」の字を使用した。また寺院名は法妙寺であるが、第5章第5節では一般的に知られた櫻堂薬師という名称を使った。
- 8) 旧東山道等については既存の資料（島方洗一 2012）を参考にした。また、地理情報システム QGIS3.10 を用いて、地理院タイルの背景地図上に米国スタンフォード大学が公開している戦前の五万分の一地形図をジオリファレンサーで読み込み、測図時点の都界をトレースしている。
- 9) 図37で示した崇禪寺の推定塔跡は『土岐市史』掲載の「第78回崇禪寺の地図」（土岐市史編纂委員会 1970）から推測したものである。また、図38で示した永保寺の推定塔跡は江戸時代前期の寺景を描いたとされる今泉家所蔵（可児市寄託文書）の「虎渓山水保寺繪図」（多治見市教育委員会 2011）から推測したものである。
- 10) ここでは、主に集石を伴う中世石塔を確認した範囲を墓域として取り扱う。

【引用文献】

- 恵那市教育委員会 2000『正家廃寺跡II・寺平遺跡』
岐阜県 2001『わかりやすい岐阜県史』

岐阜県岩村町役場 1956『岩村町史』全

島方洸一 2012『地図で見る東日本の古代 律令制下の陸海交通・条理・史跡』、株式会社平凡社

多治見市教育委員会 2011『永保寺本堂跡発掘調査報告書』

土岐市史編纂委員会 1970『土岐市史(一)』原始時代～閔ヶ原合戦

中津川市 1968『中津川市史』通史上巻

林正憲 2021「美濃地域における古墳から寺院への変遷過程」『昼飯の丘に集うー中井正幸さん還暦記念論集ー』、中井正幸さんの還暦をお祝いする会 事務局

瑞浪市 1974『瑞浪市史』歴史編

瑞浪市陶磁資料館 2020『特別展 美濃源氏 土岐一族の時代』

三宅唯美 2011「6. 東濃地方の律宗系五輪塔」『瑞浪市歴史資料集 第1集』、瑞浪市陶磁資料館

山岡町教育委員会 1988『山岡廃寺跡（手向廃寺跡）』

表30 寺院の成立状況

群名 時代	可 児 郡	土 岐 郡	恵 那 郡	小 計
飛鳥	0	0	2	2
奈良	0	0	3	3
平安	0	4	8	12
古代(細分不能)	0	6	2	8
古代・寺院小計	0	10	15	25
鎌倉	0	6	5	11
室町	2	29	19	50
安土桃山	1	5	28	34
中世(細分不能)	0	14	37	51
中世・寺院小計	3	54	89	146
古代・中世寺院合計	3	64	104	171
参考寺院等				
近世(江戸)	4	64	56	124
時期不明	5	42	59	106
近代以降等	2	15	18	35
近世以降等寺院小計	11	121	133	265
対象寺院合計	14	185	237	436

注) 時代・時期は次のとおりとした。飛鳥(592年～)、奈良(710年～)、平安(794年～)、鎌倉(1185年～)、室町(1333年～)、安土桃山(1573年～)、江戸(1603年～)。なお、飛鳥時代から平安時代を古代、鎌倉時代から安土桃山時代を中心とし、明治時代以降は寺院以外のものを含めて近代以降等とした。

表31 時期別の成立数等

西暦 内訳	700	800	900	1000	1100	1200	1300	1400	1500	1600	1700
成立	1	3	2	2	2	1	3	3	5	1	3
転化							8	1		2	3
移転							1	1		6	14
廢絶(火)							1	1	18		1
廢絶(他)							1	2		1	

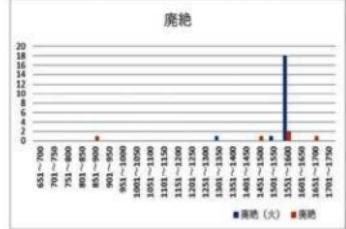
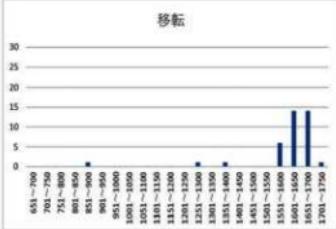
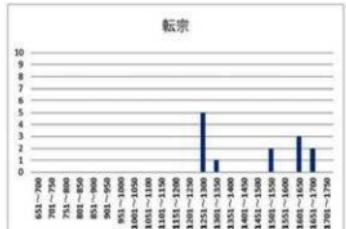
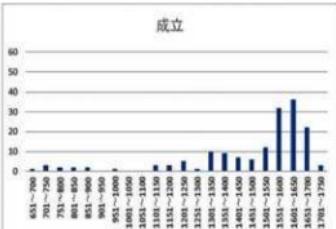


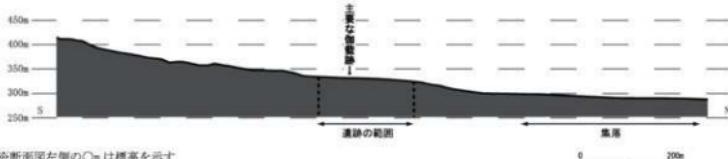
表32 時期別の立地数

西側 内容	700	800	900	1000	1100	1200	1300	1400	1500	1600	1700	合計				
平地	11	1		1	2	2	4	2	3	1	3	8	13	2	49	
山麓			1	1	1		1	3	6	3	4	11	17	8	1	57
山腹・山頂			1		1	1	1	2		5	6	2		20		
その他															0	

※山麓から山腹にかけて存在する寺院は山腹に含めた。

平地の寺院

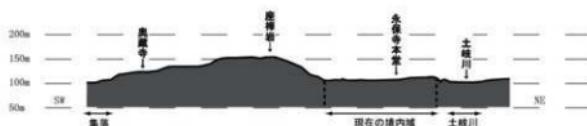
1 正家寺廃寺跡（恵那市）



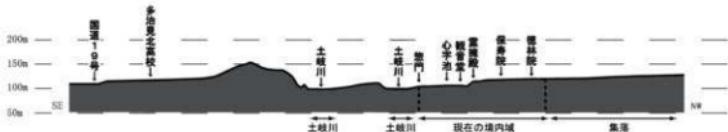
※断面図左側の○mは標高を示す

山麓の寺院

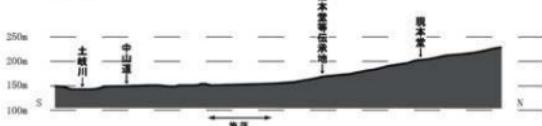
2-1 永保寺（多治見市）・・・南西～北東



2-2 永保寺（多治見市）・・・南東～北西



3 明白寺（瑞浪市）



4 伝心宗寺跡（瑞浪市）

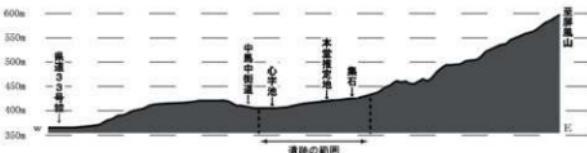
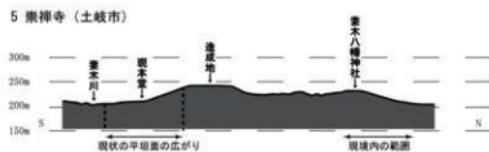
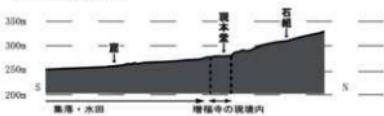


図 67 東濃圏域地形断面図（1）

5 善導寺（土岐市）



6 増福寺（瑞浪市）

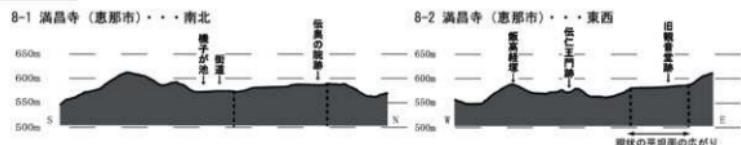


7 広恵寺（中津川市）

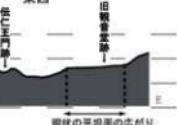


山腹の寺院

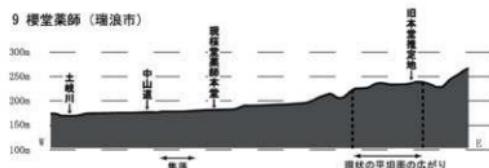
8-1 満昌寺（恵那市）・南北



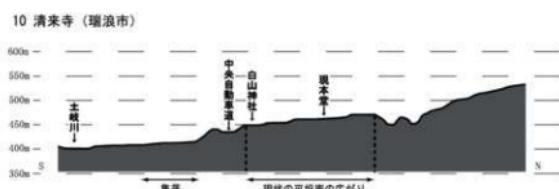
8-2 満昌寺（恵那市）・東西



9 櫻堂薬師（瑞浪市）



10 清来寺（瑞浪市）



※断面図左側の○mは標高を示す

0 200m

図 68 東濃圏域地形断面図（2）

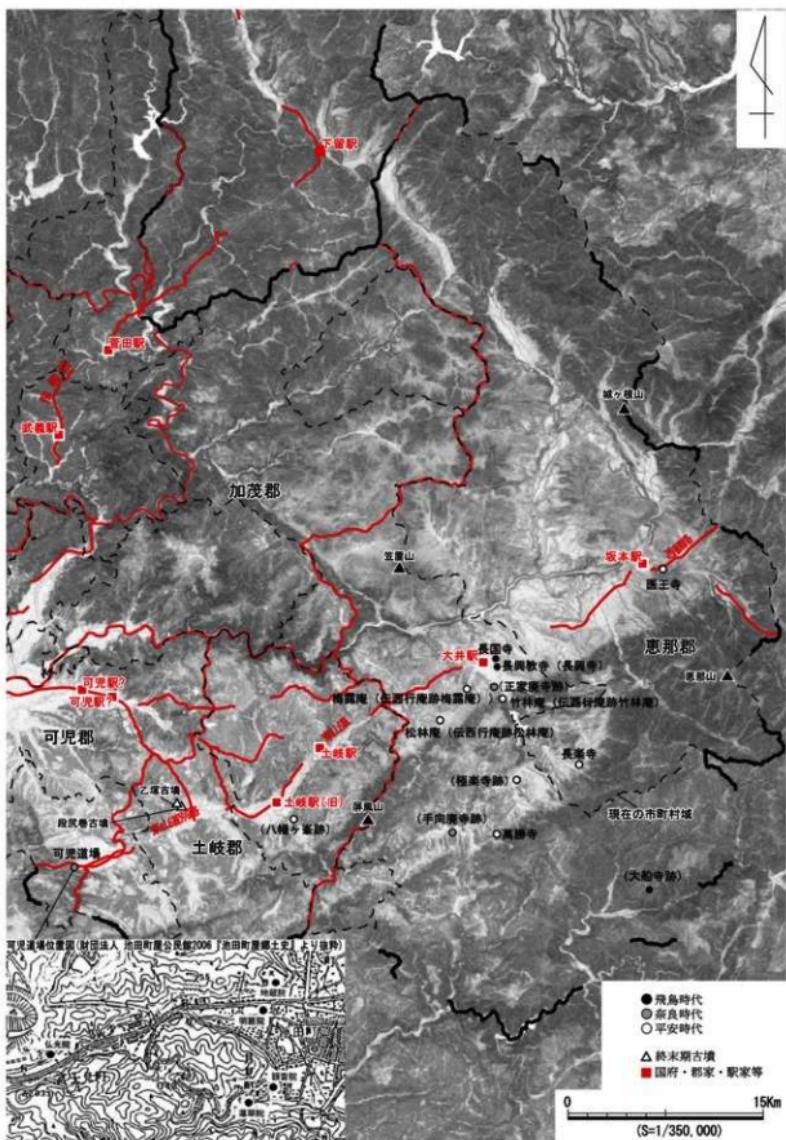


図69 東濃圏域の主な古代寺院分布図

※背景地図に国土地理院のタイル様式図を使用

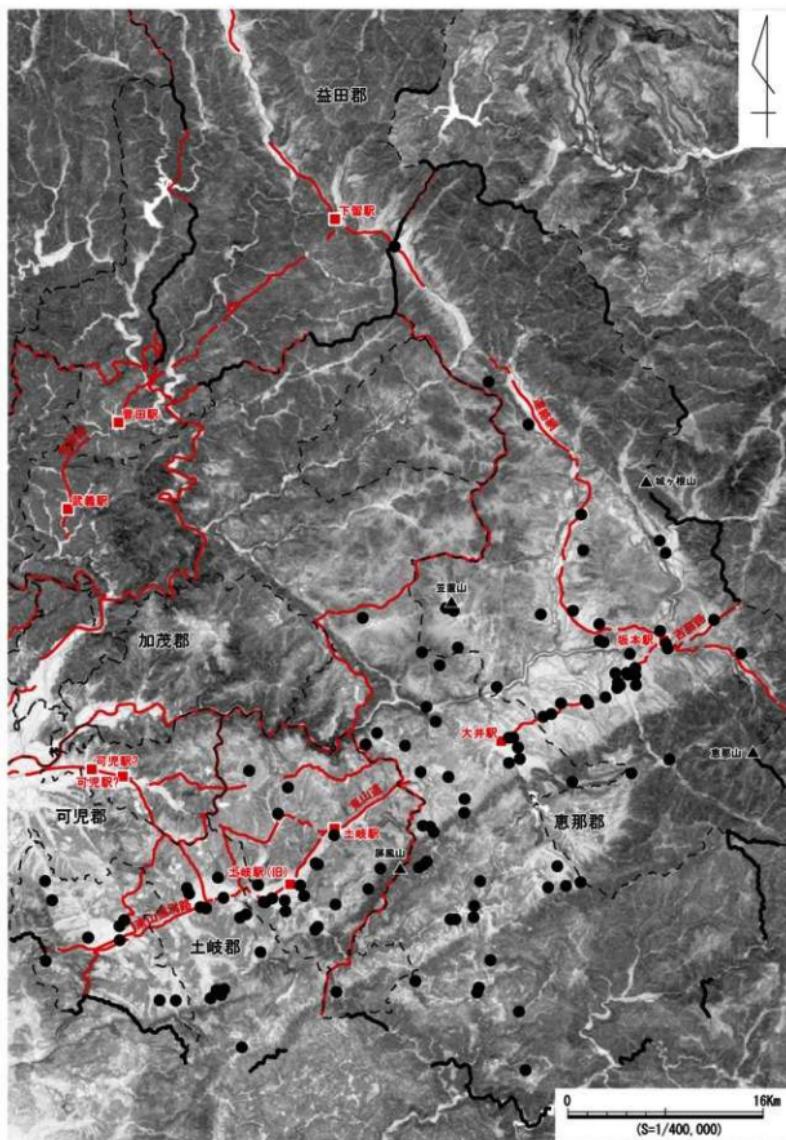


図70 東濃圏域の中世建立寺院分布図

※背景地図に国土地理院のタイル傾斜量図を使用

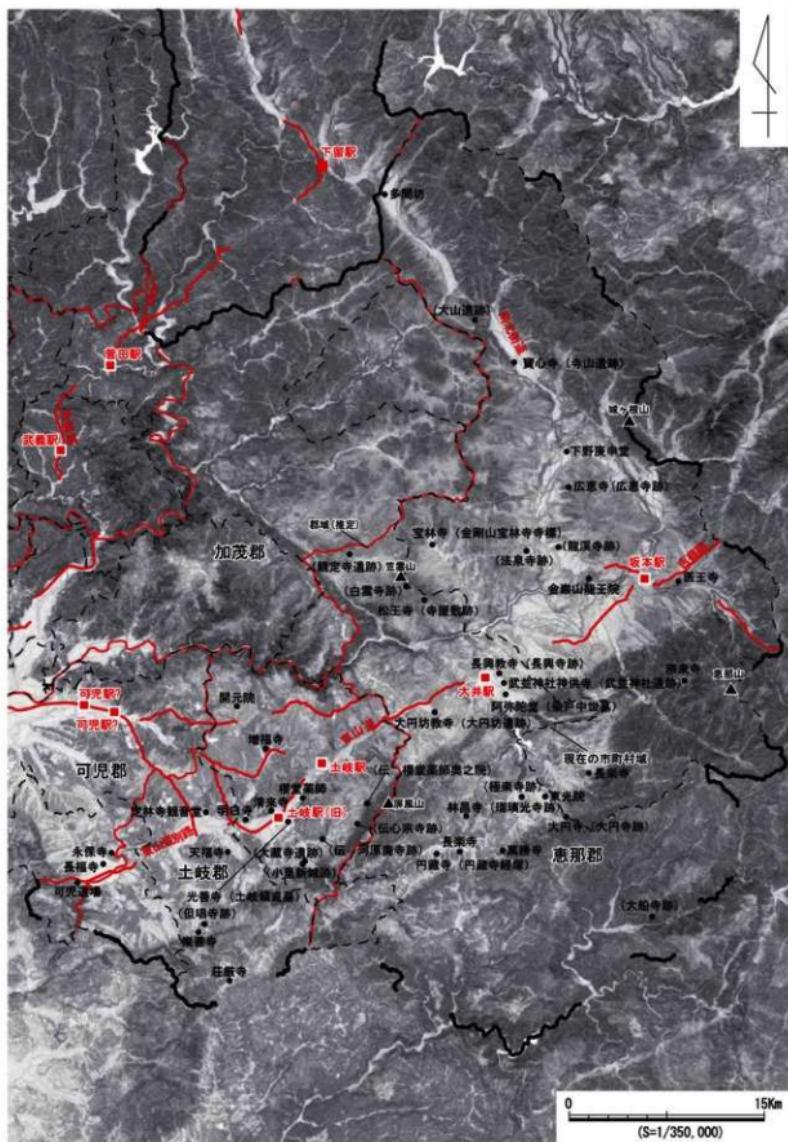


図71 東濃圏域の主な中世寺院分布図

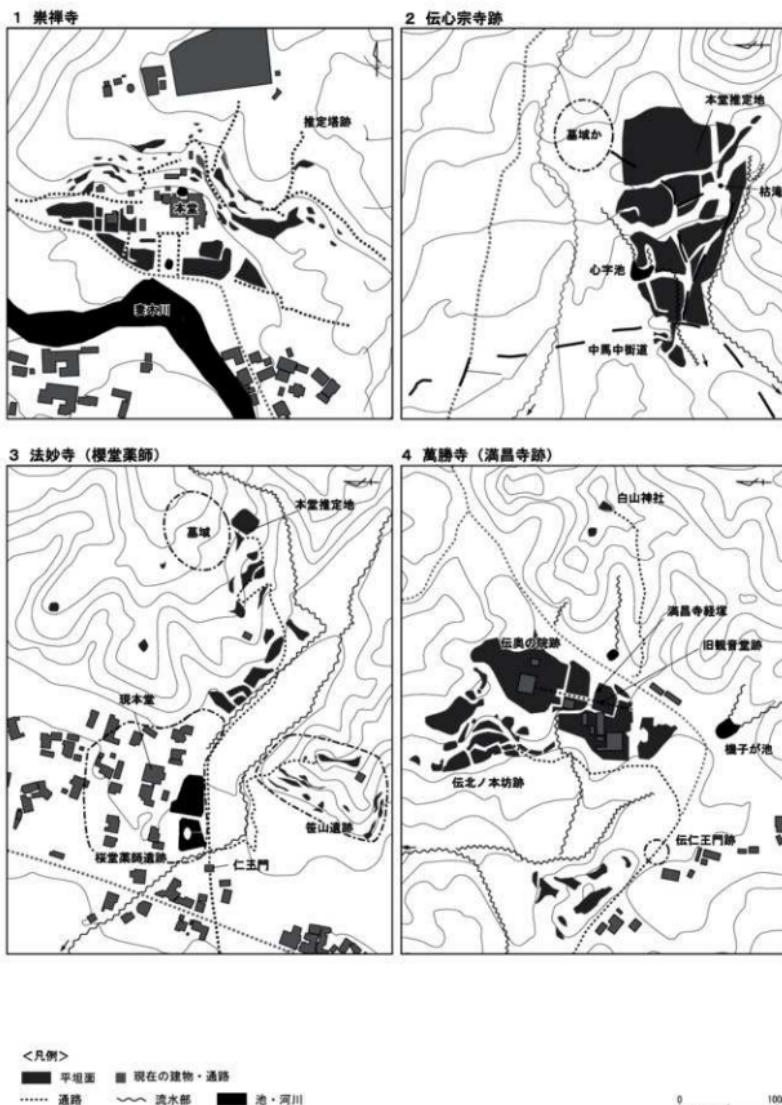


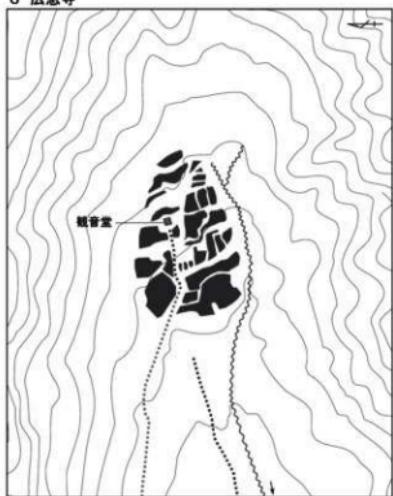
図 72 東濃圏域 地形観察図模式図（1）

5 永保寺（永保寺寺院跡）

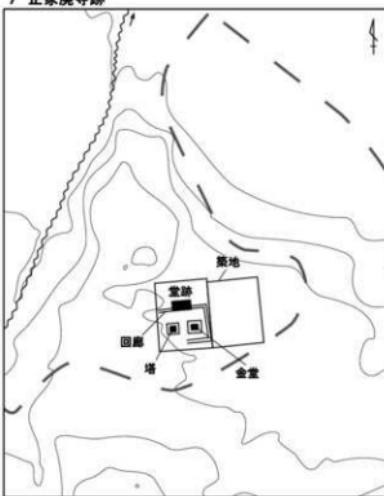


図 73 東濃圏域 地形観察図模式図（2）

6 広恵寺



7 正家庵寺跡



<凡例>

■ 平坦面 ■ 確石から推定できる建物 □ 基壇状の高まり

····· 通路 ~~~ 流水部 ■ 現在の建物・通路

0 100m

図 74 東濃圏域 地形観察図模式図(3)

岐阜県文化財保護センター調査報告書 第162集
岐阜県古代・中世寺院跡総合調査報告書
(第4分冊)

2023年3月17日

編集・発行 岐阜県文化財保護センター

岐阜市三田洞東1-26-1

印 刷 株式会社もとすいんさつ